

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.14(日)	東葛城	発言者A	<p>校区の人口が少ないことに若干疑問はあり、統廃合については反対・賛成双方わかるという立場。</p> <p>ただ本日の資料はメリットしか書いておらず、信用できない。デメリットはないのかという点について聞きたい。</p>	<p>メリットは説明をさせていただいたとおりだが、課題と思われる点について、例えば適正化の取組により、通学が遠距離になる児童もいるように、通学距離の延伸がまず挙げられる。ただこの点については教育委員会として、子どもたちの安心安全を必ず守るという考えのもと、安心安全の確保が困難な地域においては、地域との協議の上、他地域との均衡にも配慮しながらスクールバスの導入等を考えていく。</p> <p>また、これまで小学校区で培われた地域コミュニティについても、小学校が閉校となれば影響が生じると考えている。ただし、学校の再編により、必ず地域コミュニティの組織もそれに合わせて再編するというのではなく、その後のあり方については市もサポートしながら、地域の方が主体的に決定していくものと考えている。</p> <p>小中一貫教育の課題について、小・中の授業時間が異なることによるチャイムの課題、小・中相互の乗り入れ指導がどこまで可能なのか等、様々な懸念点は想定される。その中で、先行事例等を十分に研究するとともに、教職員代表や学識経験者で構成される小中一貫教育推進会議において、利点と課題を審議しているところ。またご意見をいただければありがたい。</p>
2	11.14(日)	東葛城	発言者A	<p>大阪市内まで通勤し、東岸和田駅に夜遅くに帰ってくる。朝は6時台に出勤するが、普段から駅前の荒れている状況を見ている。教育委員会もその状況は把握していると思う。大規模な中学校が正しいと考えているのか、規模が大きくなることでそういった荒れた環境にならないのか、考えを聞きたい。</p>	<p>駅前の状況については把握している。その点については小中一貫教育とは別に、平日頃から地域の方々と一緒になって指導に取り組む必要があると考えている。</p> <p>どこの小学校も、どこの中学校もそのようにならないよう取り組んでいくことが最も大切だと考えている。</p> <p>なお、今回の取組については、現状案において中学校区を変更することは基本的に考えていない。</p>
3	11.14(日)	東葛城	発言者B	<p>自身も、子どもも当校区で育ち、良い教育環境だと思いながら安心して子どもを任せている。日頃地域の子どもたちも素直に挨拶してくれるような環境。</p> <p>一方、人数が少なすぎると教育環境が適正でなく、もっと人数がいた方がより良い教育環境だと説明であったが、果たして本当にそうなのか。客観的な根拠（エビデンス）、具体例や数字といったことが必要になるのではないかと。</p>	<p>小規模校におけるメリットについては、教育委員会としても認識している。しかしながら、一定の集団規模の中で学習を受けることがより望ましいと考えている。その根拠として、国の手引きというものがあり、策定にあたって学識経験者も交え、どの程度の学校規模が望ましいのかということ議論してきたが、その中でも小・中学校ともに12～18学級が望ましい学校規模だとしている。必ずその規模に合わせなくてはならないという規定はないが、子どもたちが集団活動の中で様々なことを学ぶ上で、その程度の学校規模が好ましいと示されている。</p> <p>また、国の手引きだけでなく、市においても平成30年度から1年間、学識経験者を交えて審議会を設け、どのくらいの学校規模が望ましいのかという点について検討いただき、国と同じく12～18学級が望ましいという答申をいただいたところ。</p> <p>更に、学識経験者だけでなく、学校の教職員や保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を行い、その中でも12～18学級程度の学校規模が、学習環境も良く、クラス替えもでき、人間関係を築く上で望ましい規模であるという回答を多くいただいた。</p> <p>それらが、より良い教育環境を考える上での根拠となると考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
4	11.14(日)	東葛城	発言者B	<p>個人的な感覚として、身近に学校がなければ、この地域に住んでいなかったかもしれない。そのような中、学校がなくなった場合、地域が破綻してしまう危惧がある。日本経済最大の課題である少子化もより進むと思われる中、こういった取組が少子化を止めることになるのかという点も疑問。どのように考えているのか。</p>	<p>市全体の教育環境を整えることにより、子育て世代の方に岸和田市の教育の魅力を感じていただき、岸和田市を選んでいただくことをめざしていかなければならないと考えている。</p> <p>市全体のまちづくりについては、市長部局において様々な対策、施策を進めているところだが、今後も引き続いて取り組んでいくことになると考えている。</p>
5	11.14(日)	東葛城	発言者C	<p>子どもが特認校制度を利用して東葛城小に通学している。</p> <p>特認校のメリットの説明があったが、確かにその通りだと思う。その中で、なぜ特認校制度を導入したにも関わらず、僅か3年で集約するという話が出てくるのか理解できない。3年前に特認校制度導入を決めた時点で少子化もあり、再編の話も出ていたはず。</p>	<p>教育委員会としては、これからの社会で子どもたちがたくましく生きていく上で、一定の集団規模の確保とバランスの取れた学校配置が大切だと考えている。</p> <p>東葛城小学校においては平成28年度に、今後数年のうちに複式学級が発生する見込みであった中、教育委員会としても、地域の子どもたちに、より多くの友だちを作ってもらうためにも、特認校制度を導入し、特色ある教育活動を実施していくことを決定した。</p> <p>しかしながら、この間の児童数の状況を見ても、大幅な児童数増加には至っておらず、教育委員会がめざす、一定の集団規模には到達していない状況。</p> <p>元来から一定の集団規模の確保が必要と考えていたところ、複式学級が迫る中で地域から特認校制度導入の要望を受けたこともあり、特認校としてのスタートを切った。</p> <p>なお、その時点では適正規模及び適正配置に関する議論が始まったところであったため、当時地域の方々にその内容を説明できる段階ではなかった。</p>
6	11.14(日)	東葛城	発言者C	<p>今後中学校に進学する際に、葛城中学校と山滝中学校に分かれる中、また特認校制度を利用して他校区から来ている人もいると思うが、スクールバスはすべての地区を回るのか。自転車通学になるのか、今のように路線バスで通うことになるのかという説明が物足りない。</p>	<p>現在特認児童として東葛城小学校へ通学している児童については、基本的に保護者送迎等により通学している。</p> <p>適正化の取組により、通学距離が現在より延びる児童生徒については、必要に応じてスクールバスの導入をしていきたいと考えているが、今後特認校制度を新たに設ける予定の（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校までの通学については、現在と同じように保護者の責任において通学していただくことを現状では考えている。</p>
7	11.14(日)	東葛城	発言者C	<p>東葛城小は学力面、環境面でとても良いという評判の中、校区外からも通学させたいという声も聞く。こういう学校を大切にしたいほうがいいのではないかと。</p>	<p>学校により学力の高低は存在するが、市内全体で見ると学校規模が小さいから高い、大きいから低いという結果はみられない。</p> <p>一方、国が小学校における35人学級を導入したように、学校規模でなく、学級単位でいえば少人数の方が望ましいと考えている。</p> <p>小規模校の場合、例えばある教職員が体調を崩した際に、中学校では教科担当が1人しかいない状況もある中、代替りの教職員がいないということも考えられる。様々なことが学力に関わってくる。</p> <p>岸和田市の学力が厳しい状況にある中、小規模校大規模校に関わらず、よりよい学習環境を児童生徒に提供していきたいという想いで、小中一貫教育推進会議でも様々な討議を重ねていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	11.14(日)	東葛城	発言者D	<p>この地域説明会が設けられた意味について、「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画の案を策定したので、皆さんどう思いますか」という会なのか、「このやり方で進めていくので、皆さん納得してください」という一方的な会なのか、姿勢を明確に聞かせてほしい。</p>	<p>地域説明会の趣旨について、以前策定した「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」に基づき、市民の方々からいただいた様々な案も鑑みながら「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画（第1期）（案）」をお示したところ。</p> <p>この実施計画（案）は、「現在教育委員会ではこうした考え方のもと適正化の取組を進めていきたいと考えている」ということを示した叩き台として提示したものであり、これについて、地域の皆様からご意見をいただいた上で、成案化を図っていきたい。</p> <p>よって、この計画（案）は変更の予定がない確定したものであるというわけではない。一方、計画（案）は、子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実を最優先に、地域コミュニティ等も鑑みて策定し、責任を持って提示している。</p> <p>一方的に地域の声を聴かずに進めていく姿勢ではなく、こうした地域説明会等を通じて様々なご意見を伺いながら、より良い計画にしていきたいと考えている。</p>
9	11.14(日)	東葛城	発言者D	<p>反対を押し切ってまで進めるものではないということも視野に入っているということでもよいかな。</p> <p>関連予算についても地域住民の税金が元となっている中、地域住民が納得できるものを作り上げてもらわなければ、賛成はできない。</p>	<p>反対を受けたからといって簡単に取り下げる、白紙にするというものでもない。教育委員会の考え方と、地域の方々のご意見を交換しながら、課題については改善に向けて全力を尽くしていきたい。</p> <p>どうしても互いの考え方がそぐわない、合意に至らない場合、計画（案）の成案化にあたっては様々な予算が伴うことから、市議会に双方の考え方を報告の上、最終的には市議会の議決として総合的に判断していただくこととなる。</p> <p>一部の地域の意見だけを聴くのではなく、市全体の公教育に責任を持つ教育委員会の立場として、総合的に対応していきたい。</p>
10	11.14(日)	東葛城	発言者E	<p>東葛城小学校がなくなることには反対。子どもから「お父さん、学校がなくならないためになにかしたらいいことある？」と聞かれたので教えてほしい。</p> <p>この計画（案）が、成案化されて議会に提出されなくするためにはどうすればよいか。</p>	<p>お答えは難しいが、例えば学校が適正規模に近づくくらい、出生数が増えてくるといった状況が見えてくるのであれば、考え方も変わってくると思われる。</p> <p>ただ、現状の推計においては児童数の増加が見込めない中、一定の集団規模の確保に至ることは困難だとも考えている。</p>
11	11.14(日)	東葛城	発言者F	<p>地域の過疎化といった問題と、教育は異なると話があったが、地域として人数を増やしたいが、市街化調整区域内である。特認校としても、すごく良い学校なので、もっと来てほしい。</p>	<p>市街化調整区域に関しては、市長部局との協議の中で、子どもが特認校に通学している方であれば、特例的に当校区に家を建てるのが可能となった旨を把握している。</p>
12	11.14(日)	東葛城	発言者F	<p>地域の方が目をかけてくれたり、一人ひとりの個性を活かしあったり、人数が少なくても、皆が子どもらしく生き生きと学校生活を送っている東葛城小学校に通いたいと思った人たちが、なぜ転入できなかったのかを考えたときに、周りからも「行かせたいが、保護者での送迎が難しくして…」といった意見も結構あった。もう少しそこに予算をかけてほしい。</p>	<p>特認校における送迎環境を含む予算拡充については、議会の判断を伴う事項でもあるが、予算的に厳しい状況にある。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
13	11.14(日)	東葛城	発言者F	<p>この学校は存続し続けるべきだと、我が子を通わせている立場としても思う。東葛城小学校の子どもたちは、まさに「めざす子ども像」だと思う。</p> <p>小学校で人数が少なく、中学校に進学したときにびっくりして学校に行きにくくなった子どもも確かにいる。しかし、小学校のときに先生がこう言ってくれた、地域の方が励ましてくれた、といったことが卒業生の心の中にはいつもある。高校進学の際も、少し不便だな、と親に反抗するときも出てくるが、やはりこの地域・小学校が大好きだという想いがある。</p> <p>この地域の人々は優しい人が多いので、大きな声で「小学校をなくさないで」と言うことは少ないと思うが、子どもたちのことを考えると、やはりこの小学校が必要だと思う。</p> <p>今後、2つの谷の小中一貫校に分かれたとしたら、これから先の子どもたちは心細い気持ちで小学校に通うのではないかと思う。</p>	<p>地域の方が、これまで東葛城校区の子どもたちを温かく見守ってこられたことは、教育委員会としても認識している。</p> <p>「めざす子ども像」という点について、子どもたちが中学校、高校、大学、社会に出たときにも小規模集団の中で育っていく、活動していくということならば理解するが、この校区の子どもたちも今後、中規模・大規模の集団の中に出ていく。その中でたくましく活躍していくためには、小学生のうちから、学習面・学校活動面の両面において集団の中で、様々なことを経験し、多様な考えに触れることがより重要だと考えている。</p> <p>小規模校がダメだと言っているわけではなく、地域の方々からも多大なご協力をいただく中でもあるが、教育委員会としては、子どもたちの将来を考えたときに、適正化の取組を優先的に進めていく必要があると考えている。</p> <p>小規模だからこそ特認校制度を利用したいという保護者がいることも理解はしているが、教育委員会としては繰り返しになるものの、子どもたちがこれからの社会でたくましく生きていくことを考えると、少人数の環境で学校生活を送ることは好ましいことではないと考えている。</p>
14	11.14(日)	東葛城	発言者G	<p>過去、特認校検討に係る市民協議会の作業部会において、意見を聞くとはいうが、聞いてくれる部分と聞いてくれない部分があった。保護者を中心に何度も会議の場を持つなど、準備していたが、目に見える教育委員会からの協力はなかったと感じている。</p> <p>当地域は解決すべき課題が多くある。少ない人数から更に中学校が2つに分かれていることなど、いじめ問題にもつながることもあると思う。他にも細かいことを言い出すとキリがないくらいの課題がある。</p> <p>地域説明会など、今後どのように進めるかはわからないが、もっと意見を聞いてほしいという想いは常々持っているので、聞き入れてほしい。</p>	<p>1つの小学校から2つの中学校に分かれているという点について、東葛城小学校以外にもそのような校区が存在する。小学校で仲良くなった児童同士が中学校で分かれてしまうなど、教育委員会としても好ましいことではないと考えている。この点を解消することも、適正化の取組を機に実施していきたいと考えている。</p> <p>現状は中学校区を単位に、河合町、塔原町、相川町の児童は（仮称）葛城小中一貫校に、上白原町、神於町の児童は（仮称）山滝小中一貫校に通学する案を示しており、小学校のうちから、現状分かれている中学校に通っていただくという内容になっている。東葛城小学校のすべての児童が皆どちらかの学校に行くべき、という希望があれば、地域の方々々と十分に協議していきたい。</p> <p>いじめ問題や子どもたちのトラブルについて、各校から報告を聞いており、様々な課題があることは把握している。</p> <p>1つの小学校から2つの中学校に分かれることは非常に大きな課題であり、例えば生徒指導上、A中学校とB中学校の校則が異なる場合、同じ小学校から進学して違う校則で過ごすという状況もある。</p> <p>現在も小学校と中学校で常に連携を取るが、同じ1つの学校で進む方が望ましいと考えている。</p>
15	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>ある保護者から「説明会の駐車場はありますか」と聞かれた。当地域の状況を理解していると思う。説明会の開催にあたって駐車場の確保が必要な地域になるが、そのあたりいかかがか。駐車場は確保していたか。</p> <p>地域のことなので、そのあたりしっかり協議の上、説明会実施にあたっての姿勢をきちんとしておくべきだった。</p>	<p>市内全域で、地域説明会の開催にあたっては「駐車場はありません」とアナウンスしている。地域ごとに、地域にある学校で開催するにあたって、車でお越しいただくことは避けていただくことをお願いしている。よって今回は駐車場の確保はしていなかった。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>特認校制度について、複式学級の回避が目的と書いていたが、先代の方からは修斉小学校との統廃合の話もあったと聞いているが、実際は複式学級と統廃合を回避、という理解でよいか。統廃合の話については当時地域から「No」と意思表示したということでしょうか。</p>	<p>過去の資料によると、校区への提案として、現状のまま変化に期待する、小規模特認校への移行、複式学級を受け入れる、隣接する小学校への通学という内容を示している。結果的に、地域として小規模特認校への移行を選択されたということで把握している。</p>
17	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>資料において、地域での児童数増加が見込みにくいということを記載しており、その下に「未来を生き抜く子どもたちの教育を最優先」と書いているが、特認校へ移行した時点で、岸和田市の子どもたちにとって東葛城小学校は財産であると考えているので、岸和田市の子どもたち全体のために、この学校を残してほしい。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
18	11.14(日)	東葛城	発言者I	<p>この話はコロナ禍以前に出た話だと思うが、コロナ禍以降で考え方を考える必要があったのではないかなと思う。</p> <p>わざわざ集約するという事は、わざわざ感染拡大させることにつながり、今後こうしたことは考えられる。子どもの安全を考えると、逆の方向性ではないか。児童生徒数が多い地域から分散していく方が時代に合っているのではないかな。児童生徒数が多い学校では時間をずらしてカリキュラムを組んだりしていたと思うが、この学校ではそのようなことはなかったで助かった。</p> <p>時間をずらした登校など、保護者は大変だったと聞く。人数が少ないからこそ安全が確保されていたと考えるがどうか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組と、コロナウイルス等による不測の緊急時において三密を避けることはまったく別のことであると考えている。</p> <p>感染症対策が重要なことは言うまでもないが、学校規模に関わらず、市内小中学校では国や府のガイドラインに基づき、しっかりと感染対策を取っているところ。これは学校生活を安全に行うために必ず必要なことなので、今後も必要な対策を行っていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
19	11.14(日)	山滝	発言者A	<p>現在、私の住む地域から通学する山滝中学校の生徒はほとんど自転車で通学している。以前ホームページから質問したことがあるが、当時、スクールバスの導入についてはまだ何も決められていないという答えをもらった。今の計画（案）においても、具体的なことは書いていない。</p> <p>今くらいの時期だと、17～18時には真っ暗な中、自転車で山道を走って帰ってくる。その点に関してどういう風に考えているのか。現在もバス通学に際して一部補助はあるが、一部だけになる上、部活動も考えると自転車の方が便利だから、と自転車通学を続けているのだと思う。</p> <p>自動車で横を通り抜けるのも危ないと感じるし、また、過去災害のあったあたり、夕方どのような状況か把握しているか。一度自転車で見に行ってほしい。普段の通学状況がよくわかると思う。</p> <p>人数が少なくなる中、統合されていくということはわかるが、現在の中学校に学校の場所が移ることで通学の距離が延びること等を考えると、保護者も不安に思う。仕事をしている保護者も多い中、送迎も負担があると思うがどうか。</p>	<p>スクールバスについては、実施計画（案）の中にもあるように、児童生徒が通学にあたって安心安全が保てない状況であれば、他地域との均衡にも配慮しながら導入していくことを考えている。</p> <p>具体的にどの地域までスクールバスを運行するのかという点については未確定だが、今後、地域の方々と協議を重ねる中で、安心安全に通学できるためにはどのくらいの距離や地理的条件で導入し、どのルートを走るといった詳細を決定していきたい。</p> <p>特に低学年の児童が長い距離を、また早くに暗くなるような時期において、歩いて通学することは好ましくないと考えているため、やはり安心安全が保てない状況と判断すれば、スクールバスを導入していきたいと考えている。</p> <p>なお、国による基準では小学生で4km以内、中学生で6km以内という目安はあるが、それを画一的に当てはめるのではなく、市の教育委員会として、岸和田市の子どもたちの安全を守る姿勢で対応していく。</p> <p>中学生の自転車通学もそうだが、現状の通学が適正化を進めるにあたり、危険を伴う状況にあるということであれば、見直しについて対応する。</p>
20	11.14(日)	山滝	発言者A	<p>防犯カメラの設置といったことも考えているのか。この地域は設置台数が少ない。そういった現状も踏まえて、事が起きてからでは遅いという視点で考えてほしい。</p>	<p>スクールバス導入を含む安全対策については、（仮称）学校開校準備委員会において、地域の方々からいただくご意見を参照しながらしっかりと取り組んでいきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
21	11.14(日)	山滝	発言者B	<p>適正規模について述べているが、それ以外の規模ではダメだということはない。教育学から見て、適正規模というものに意味はない。小規模校は教育的効果が低いという実証された根拠はない。抽象的な言葉で示されているだけだ。</p> <p>岩手県において、所謂へき地校と県の平均学力の分析を実施しているが、複式学級のへき地校の方が学力が高いと発表している。文科省の調査においても、全学年単学級の中学校の方が、国語・数学で全国学力テストにおける全国平均を上回っており、とりわけ応用的なB問題で顕著な成績だったと発表している。</p> <p>小規模校には様々なデメリットがあるという説明だったが、小規模校のメリットについてもよく見ておく必要がある。1988年に国立教育政策研究所がへき地校とそれ以外の学校の実態調査を行い、へき地校には①教員1人あたりの児童数が少ない②不登校児が少ない③授業中に質問や発表の機会、役割や責任を果たす機会が多く、自主的・協力的な態度の育成が容易④教師と児童の緊密度が高いこと⑤きめ細かな指導が容易であることを挙げている。現在でも通用する内容である。</p> <p>2019年に朝日新聞に奈良県の中学1年生の投書が掲載されていたが、その中学生が卒業した小学校は非常に小規模で、児童数は54人と1学年の人数も少なく、他学年ともよく遊ぶ、一人ひとりの名前も知っている。挨拶日本一をめざす学校で、やらされている挨拶ではない。恥ずかしがりな子どもでも遊びに誘ってもらえるなど、小規模校で良いところがある。そのような母校を誇りに思う、といった内容であった。</p> <p>このように、小規模校ではいけない、ということはない。</p>	<p>小規模校においても、小規模校としてのメリットがあると認識している。例えば、学校全体で児童生徒の顔が見える教育ができる、関係が築けるといったメリットがある。</p> <p>一方、小規模校であるが故の課題も大きいと考えており、例としてクラス替えができないため人間関係が固定されやすいということが挙げられる。</p> <p>これからの将来を担う岸和田市の子どもたちが、一定の集団規模の中で社会性や協調性を育んでいくこと、多様な考えに触れることは非常に重要だと考えており、学習面においても、学校全体の集団活動が幅広く実施できるというメリットもあり、取組が必要であると考えている。</p> <p>そうした考え方の根拠については、様々な研究者がそれぞれの考えを述べているところ、国においても手引きを策定する際に、学識経験者を含む審議会の中で十分に議論を重ね、12～18学級程度の規模が望ましいと表している。</p> <p>国の考え方だけではなく、教育委員会としても審議会を設置し、そこにおいても12～18学級が望ましいという答申をいただいたところ。</p> <p>更に、児童生徒や保護者、教職員を対象にアンケート調査を実施したところ、小中学校いずれも12～18学級程度が総合的に好ましいという結果であった。これらが根拠足り得るものだと考えている。</p> <p>へき地、過疎地と言われる地域においては、本市と比較して面積当たりの学校数が非常に少なく、通学区域も格段に広いなど、学校の統合・再編が非常に困難な地域だと考えている。そうした地域と本市の状況を比較すると、同じように並べて議論することは難しいと考えている。</p> <p>全国学力テストの結果について、本市においては規模の大小による影響は一概に表れていない。テストの結果による学力だけではなく、学習指導要領に示される、主体的・対話的で深い学びに向け、グループ学習等を通じて学力をつけていく取組を行っている中、コミュニケーション能力を高めていく上では、やはり様々な人との対話が必要だと考えている。</p> <p>また、学校規模と学級規模は異なると考えており、学級規模については少人数学級が望ましいという考えである。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
22	11.14(日)	山滝	発言者B	<p>施設一体型の小中一貫校をめざす計画（案）ということだが、この点について、和光大学の山本由美教授が研究しており、著書の中で示すには、全校が小中一貫校である茨城県つくば市における小中一貫教育の検証結果の一つが「中1ギャップは存在しない」というものであった。また国立教育政策研究所が2014年にレポートを出しており、中1ギャップは存在しないとしている。</p> <p>中1ギャップがなくなるというが、逆に小6問題が生じるとも言われている。これまでであれば6年生が最高学年であり、自覚・責任が育まれてきたが、小中一貫校ではそれらが育たない。中学生になっても小学生らしさが残るといった問題が生じる。</p> <p>小中一貫校と、そうでない学校との同規模における比較調査は全国的に実施されていないため、小中一貫校が良いか、悪いかという根拠がない。</p> <p>山本教授の調査によれば、メリットよりもデメリットの方が多いとされる。子どもにとっても、教職員にとっても、地域にとってもそうであり、また防災面でも課題があるということである。子どもにとっての具体的なデメリットとしては、授業時間が45分、50分と異なることにより、小学生が休憩に入っても中学生は授業中ということで、静かに遊ばなければならない、逆も有り得る。学校行事においても、発達段階が異なる中、一緒に実施する上で制約が生じると言われている。</p> <p>特に認定子ども園も併設するとなればより困難である。お互いに遠慮しながら過ごすことになる。</p> <p>小中一貫校における教職員が忙しくなるということも指摘される。学校内での調整、会議が増えることとされており、小中一貫校4校で実施された教職員のアンケートにおいて、「小中一貫校を増やすべきか」という項目で賛成した人はゼロ人だったという。それだけデメリットが大きいのだと思われる。</p> <p>小中一貫校の設置における最大の狙いは学校施設を削減することではないのか、というようにも思う。</p>	<p>中1ギャップについての国立教育政策研究所のレポート内容も承知しているが、本市の状況を見ると、中学1年生で不登校が大きく増加する調査結果もあり、中学校進学後に学校に馴染めないという相談も聞く。また施設一体型小中一貫校というものを考えると、チャイム問題といった課題があることは認識している。ただ、小学6年生から中学1年生の接続をスムーズにする小中連携の取組は10年、20年前から大切にできてきている。</p> <p>今回の小中一貫教育基本方針は、これまで取り組んできた連携教育を一度整理してみようというものでもある。</p> <p>中学校現場で指導していた際も、小学校の教職員とは様々な面で連携を図ってきた。実際に、中学校において非常にスムーズな受け入れができたというケースもあるため、小学校と中学校の連携は大切なことだと考えている。</p> <p>また、発達段階に応じて、グラウンド等の学校施設における危険性というものは確かに存在すると考えている。安全安心な学校生活に向け、今後も検討を重ねていく。他市の事例においては、学校の階段を低学年仕様に統一したり、放課後の活動場所を分けたりなど、様々な対応策を取っている。本市においても安全面には十分に配慮していく。</p> <p>小中一貫校において教職員が忙しくなるということについても、そういった意見があることは認識している。教職員ができる限り負担のないように進めていけるよう、負担軽減のための加配についても検討していきたい。</p>
23	11.14(日)	山滝	発言者B	<p>地域にとっても、小学校がコミュニティの中心であった中、それが崩れるということとは地域の連帯が崩れることにつながる。</p> <p>災害対策にとっても、避難所がなくなる可能性があることからデメリットが生じると懸念される。</p>	<p>今回の取組について、子どもたちの教育を最優先に考えるべきだと捉えており、これから担う子どもたちのために、学習面だけではなく、情報化やグローバル化が進展する中、たくましく生きる力を育む上で適正規模及び適正配置の取組が必要だと考えている。</p> <p>地域コミュニティや防災面の課題については、現在も市長部局と十分に協議をしているところであり、今後、地域の方々とも様々な議論を重ねる中で、課題が生じる点についてはしっかりと解決を図っていきたい。</p>
24	11.14(日)	山滝	発言者B	<p>意見として。学力世界一とされるフィンランドにおいては、ほとんどの学校が小規模であり、小規模だから教育的効果がないということは全くないということ述べておく。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
25	11.14(日)	山滝	発言者C	<p>ゆめみヶ丘の子どもたちは山直南小学校に通い、中学校は山滝中学校に通うと聞いているが、もし学校統廃合となればどうなるのか。包近・山直中町においては山直中学校の方へ行くと聞いているが。</p>	<p>岸の丘町ゆめみヶ丘や、稲葉町、積川町の方は、現在山直南小学校に通学しているが、今回の計画（案）においては、小学校から（仮称）山滝小中一貫校に通学していただくという内容となっている。また山直南小学校区においても説明会を実施していくが、現状はそういった学校配置を検討している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
26	11.18(木)	常盤	発言者A	市民協として学校支援の活動を実施している。 通学区域の見直し検討対象地域において、今後、開発等で児童生徒数が増加した場合、また校区が変更となるのか。	住宅開発等の影響については、見えない部分もあるが、市長部局のまちづくり等ハード部門担当からも、開発予定等を聞きながら進めていく。仮に急な開発行為により住宅戸数が増加し、その地域の児童生徒数が増加するなど、現状の基本方針及び実施計画（案）の内容とそぐわない状況になれば、見直しが必要だと考えている。
27	11.18(木)	常盤	発言者B	開催時刻が18：30となっているが、幼稚園・保育所の再編に係る説明会は19：00開会であった。現役世代にとっては特に参加しにくい時間設定である。考慮願いたい。せめて19：00か、19：30、20：00といった時間設定を要望する。	【ご意見として承る】
28	11.18(木)	常盤	発言者B	地域コミュニティ云々の話について、本日は市長部局の職員は参加しておらず、全員が教育委員会からの参加のようだが、今後の地域コミュニティのあり方について、市長部局とどのような連携をしていくのが不安。	市長部局の地域コミュニティ担当課、防災担当課といったところと事前に連携・協議をした上で、計画（案）を策定した。 本日は市長部局の職員は参加していないが、今後、地域コミュニティや防災といったテーマで、より具体的な説明が必要な場面が当然出てくると想定しているため、その際は市長部局の職員も参加・説明することを考えている。
29	11.18(木)	常盤	発言者B	通学路について、水道みち（包近流木線）に信号をつけてくれるのか。そういった具体的対策が出てきていない。具体的対策を明確に示されれば、納得できる部分もあるが。	子どもたちの安心・安全を守ることを最優先に考える上で、ソフト面だけでなく、ハード面の整備についてもしっかりと対応していく。
30	11.18(木)	常盤	発言者C	小中一貫教育基本方針の説明の中で、通学区域を同じ小学校から同じ中学校に進学できるようにしていきたいとあり、また、計画（案）説明中に、常盤小学校5年生時に再編が為された場合、卒業まで通えるようにしたいとあったが、常盤小学校からはほとんどの児童が桜台中学校に進学する。それを考慮の上、門前町の児童も桜台中学校に進学できるのか聞きたい。	学校の適正規模・適正配置のことを考えると、中学校から新たな学校（通学区域）ということも想定されるが、小学校で培った友人関係が、中学校が分かれることにより受ける影響も懸念されるため、その取り扱いについても、地域や保護者の方々と協議を進めていきたい。
31	11.18(木)	常盤	発言者D	岸和田市の学力が芳しくない状況の中、それを改善することも今回の取組における目的の一つだと思うが、実際はどれくらい状況なのか。また原因はどう考えているのか。 一人ひとりの児童生徒をみていくことが望ましいと思うが、規模を大きくすると、余計やりにくくなるのではないかと。多様な考えに触れる、コミュニケーション能力を養う、といったことも理解はできるが、はじき出されてしまう子どもも出てくるのではないかと危惧する。今あるような小規模な学校においても、一人ひとりをみていけるのではないかと。	学力について、全国の中でも、大阪府の中でも芳しくない結果となっており、力を入れていかなければならないと認識している。詳細な結果及び分析については、市ホームページに掲載しているので、またご覧いただければ幸い。 一人ひとりに丁寧な指導を実施することも、学力向上に向けた方策のひとつと考えている。一方、市全体の結果を分析したところ、小規模校だから学力が高い、大規模校だから低いといった傾向はみられなかった。 理想は、学校規模に関わらず、すべての学校において学力向上をめざすこと。 また、学校全体の規模を示す「学校規模」と、1学級あたりの人数を示す「学級規模」は異なる。文科省においても35人学級を進める中、学級規模の縮小は一定の効果が見込めると認識しており、少人数学級に係る要望はこれまでも実施している。今後も継続していく。今回の取組は、学校規模の適正化を進めていくものであることにご理解願いたい。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
32	11.18(木)	常盤	発言者A	小中一貫教育基本方針というものは、市全体の方針なのか。	<p>市全体の施策として進めていくもの。</p> <p>今後、施設一体型の学校と、これまでの分離型の学校で、形態は異なるが、全体として、今できるところからスタートし、現状の小・中学校の連携から小・中学校の一貫教育に発展させていきたい。</p>
33	11.18(木)	常盤	発言者A	<p>適正規模・適正配置の取組を進めるから、小中一貫教育をやりやすくなるということなのか。今回の説明会で小中一貫教育の説明を合わせて実施する理由がわかりにくい。</p> <p>今でも、常盤小学校と光明小学校から揃って桜台中学校に進学するので、小中一貫した教育になっているように思う。通学区域見直して、そうではなくなること、適正規模・適正配置の取組と小中一貫教育の兼ね合いがよくわからない。</p>	<p>小中一貫教育基本方針の説明も、合わせて行っている理由は、実施計画（案）に、小中一貫校というものが出てきており、それがどういうものなのかを説明するため。</p> <p>岸和田市の11中学校区すべてで小中一貫教育を進めていくという方針である。例えば生徒指導上、学力の関係などで合同会議を実施するといったことは、10年、20年以上前から小中の連携として、各中学校区で行ってきたところ。小中一貫教育としてめざすべき像を掲げて、小学校も、中学校も、同じ中学校区内で、より一層充実させていくものとなっている。</p> <p>また、説明の中で、小・中学校の教員が相互乗り入れをしていくとあった。例えば中学校数学科の教員が、小学校で算数を教える、小学校の音楽の指導に長けた教員が、中学校で音楽を教える、競技に長けた教員が、部活動を指導するといった相互乗り入れをする際に、施設が一体であれば、より効率的に移動・実施できる。また小・中学校間の教員同士の意見交換も容易など、優位性が高いと認識しており、今回の計画（案）において小・中学校を一体的に整備することで、より効率的かつ有効に小中一貫教育を進めていきたいという考えについて説明させていただいた次第。</p>
34	11.18(木)	常盤	発言者E	<p>門前町は、葛城、修斉校区と隣接こそしているものの、町会連合会としての区割りは異なり、門前町は常盤連合にて活動している。それは、私の父親の時代から現在まで引き継がれてきている。その中で、（仮称）葛城小中一貫校の校区に含まれた理由がよくわからない。</p> <p>常盤校区の地域で育ててもらった立場としても、そこから離れることは非常に難しい。町内でアンケート調査も実施し、教育委員会にも示したが、町会員に限る結果ではあるが、現状の常盤・桜台校区を望む声が多い。中でも、お子さんのいる家庭では8割近くが現状の校区を希望している。それらについても教育委員会はどのように考えているのか説明願う。</p>	<p>教育委員会としては、市全体の子どもたちの教育環境を最優先に進めていきたいと考えているところ。今回の計画（案）策定にあたっては、各校の規模及び配置バランスを踏まえつつ、通学距離や地域コミュニティ等に配慮した上で総合的に判断したもの。</p> <p>地域コミュニティの関わりについて、同じ町内から、違う学校に通うことは好ましいことではないという判断も含め、門前町1～3丁目の通学区域を一体的に見直す案をお示したところ。学校再編に伴い、地域コミュニティのあり方も再編後の形に合わせていくよう、市や教育委員会から強制する意図はない。再編後の地域コミュニティのあり方については、地域の皆様の判断となるが、市からのサポート、関わり方についても、地域の皆様と一緒に話合いを重ねていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
35	11.18(木)	常盤	発言者F	<p>現状の説明では「バラ色の教育方針」のように思う。また、「数字合わせ」の面も感じ取られる。</p> <p>教育は、学校教育だけでなく、地域コミュニティも重要。学校教育は9年間で終わるが、それ以降も、地域とつながりながら生活していく必要がある。その中で、単なる数字合わせ、学校教育のことだけを考えた方針を出すのはいかがなものか。</p> <p>例えば門前町隣接の星和台では、皆が常盤小学校から桜台中学校という形で生活してきており、子ども会活動、地区運動会といった行事を通じて地域コミュニティを培いながら、学校教育を終える。そこから地域で連携を取っていくことが大切であって、学校教育だけを取り上げるような考え方はいかかかと思う。</p>	<p>地域の皆様も一緒になって、小学校・中学校の児童生徒を育てていただいていること、お世話になっていることは十分に認識している。</p> <p>一方、学校教育をとらえた際に、9年間のより良い教育を提供していくということについては、教育委員会として最優先に考えていく必要があることだと認識している。</p> <p>そのような中、小・中学校卒業後もそれぞれの地域コミュニティとのつながりはあるため、通学区域が変更となることについて、地域の方々との関係が希薄化してしまうのではないよう、市全体として子どもたちのため、卒業後の対応やあり方についても十分に検討していきたい。</p>
36	11.18(木)	常盤	発言者F	<p>地域コミュニティも教育の一環である。学校教育のことだけを優先することはおかしいと思う。</p>	<p>先ほどの説明で学力に関するものがあつたが、詳細に述べると、全国平均に比べて10～15ポイント低いという状況がある。</p> <p>学力問題については、学校だけ、地域だけ、家庭だけ、ということではなく、三者が一体となって取り組まなければならない課題だと認識している。</p> <p>皆様には平素から学校を支えていただき、また地域としての教育力を発揮していただいていること、心から感謝申し上げます。</p> <p>今回は、教育委員会の立場から、より良いものと考えられる案をお示ししたもののだが、あくまでも「案」である。例えば、それぞれの地域において、連合町会が異なることで、学校を支えていけないというご意見もあるかもしれない。そのあたり、これからも地域の皆様にお話を伺い、話し合いながらより望ましい計画をつくりあげていきたい。引き続き、お知恵をいただきながら取り組んでいきたい。</p>
37	11.18(木)	常盤	発言者E	<p>地域コミュニティに関する説明を受けたが、なかなか理解しがたい。やはり学校教育と地域は連携し、一体となって子どもたちを育て、見守っていくのが本来の形だと思う。</p> <p>特認校制度の説明があつたが、その人数が計画の推計表には入っていないが、カウントするのか。特認校制度により、（仮称）葛城小中一貫校において一定の集団規模を確保できないか。</p> <p>それが困難だという話であれば、地域ごとの特性をみながら勘案していく必要があるのでは。よって、門前町は、現在の常盤・桜台校区のままでよいと考える。</p>	<p>特認校制度について、現在の計画（案）において（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校で検討する考えを示している。</p> <p>特認校制度を利用する人数については、現状読めないため、推計表には含んでいない。</p> <p>特認校制度の利点として、各校の地域の皆様に支えていただきながら、分野に特化した、特色ある教育活動を実施できることが一つ挙げられる。そういった学校の設置を検討するという考えである。</p>
38	11.18(木)	常盤	発言者G	<p>不安を取り除くために説明会を実施したのだと思うが、正直、除ききれなかったと思う。</p> <p>自分自身、常盤・桜台校区で子どもを育てたいと考え、自宅を購入した。そういった人生設計・計画を立てているため、子どもの減少で今回の取組が出てくることは理解するが、配慮を望みたい。</p> <p>全国学力テストやチャレンジテストの結果において岸和田市が全国平均を下回っていることも含めて、桜台中学校が良いな、と思っていた。小中一貫教育基本方針による取組を進めるより、現状の各学校において、対策していくほうが望ましいのでは。</p>	<p>各ご家庭で子どもの成長を考え、また人生設計を描いた上で住まいを考えられていることは認識している。</p> <p>教育委員会として、子どもたちの教育を最優先として取り組んでいる一方、家庭の考えにも配慮が必要ということは十分に理解しているので、引き続き、地域の皆様と協議を重ねていきたい。実施計画（案）はたたき台であり、決定事項ではない。今後も、教育委員会として、市として検討していく。</p> <p>現在も、各学校において学力向上に向けた取組は実施しており、引き続き、教育委員会と学校が一緒になって取り組んでいく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
39	11.18(木)	常盤	発言者G	<p>小中一貫校になると、中1ギャップが解消されるということだが、中学校に進学するタイミングで、新たに頑張ろうという気持ちを持つ児童も出てくると思う。 小中一貫校ではそういったきっかけがなくなってしまう懸念がある。</p>	<p>施設一体型小中一貫校については、実施形態が「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」とある。 義務教育学校では、9年間を見通した一つの学校、1年生から9年生、という形態になる。 小中一貫型小学校・中学校では、小学校は6年生で終わり、次は新たに中学1年生という形態になる。 どちらの形態が適しているかについては今後の検討だが、子どもたちが1年生から9年生までずっと続くことによってモチベーションが下がってしまうことのないような形を検討していきたい。</p>
40	11.18(木)	常盤	発言者G	<p>特認校制度について、現在東葛城小学校が指定されているということだが、東葛城小学校におけるメリット、効果はあったのか。 また、地域特性を活かした特色ある教育について、実際はどのような取組をしているのかも含め、詳しく教えてほしい。</p>	<p>特認校制度によるメリットや効果について、東葛城小学校では稲刈り体験等、他地域では地域の方と一緒に取り組むことが難しいことも、地域と一体になって実施できていることが一点挙げられる。 また、英語学習等、分野ごとの教育についても、特色ある教育ができていると認識している。 また、平成31年度から制度がスタートする中、現在は特認校制度利用児童が23名在籍している。</p>
41	11.18(木)	常盤	発言者G	<p>小中一貫教育基本方針の中で、「新たな科」の設置や、相互乗り入れ指導といったものが良い話として出てきているが、学校の現状でいえば、教員の負担が大きい中、さらに新しい取組が可能なのか、現実味があるのかといった不安を感じる。</p>	<p>教員の負担について、現状においても重要な課題であると認識しており、今後取組を実施するにあたり、負担面をしっかりと考えて行っていく。教職員加配の点についても、可能な限りサポートしていきたいと考えている。 「新たな科」について、現状のイメージを説明すると、岸和田市は海があり、山があり、歴史や文化といった社会的財産があるなど、地域で学べる教材が豊富に存在する。そういったものを大切にする、岸和田を愛する子どもたちを育てるという意味で、岸和田のことを教材にし、岸和田に住む自分たちが岸和田のことについて、岸和田の未来について考える、それを小学3年生から中学3年生にかけて発達段階に応じた学習を進めていく。最終的に、中学3年生では「岸和田の未来を、自分たちはこういう風にしていきたい」といったことを研究の中から生み出していく、探究的な学習内容を検討している。 これは、現在の総合的な学習の時間に実施するイメージを持っており、そのための教材を作成し、提供することになるが、新たな取組のため、負担については当然考えられる。具体的な取組み方については、負担の部分も含めて小中一貫教育推進会議の中で検討を進めていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
42	11.18(木)	常盤	発言者H	<p>自身も常盤小学校・桜台中学校を卒業し、自身の子どもも常盤小学校・桜台中学校に通わせたいと考えていたところにごういった話が出てきて、青天の霹靂のように感じている。</p> <p>説明の中で、地域コミュニティの話と、現状の通学距離が長いという話があったが、通学距離が長いことはデメリットではないと考えている。例えば通学路の長い時間の中で友だちと話をしたり、コミュニティの面でも地域の方々とあいさつを交わしたりといったメリットもあるということをご理解願いたい。</p> <p>地域コミュニティは長い時間をかけて醸成されてきたものであり、一朝一夕でできるものではない。今回門前町だけが切り離されて別の地域に編成されるとなれば、また何十年、何百年という時間をかけて地域コミュニティを作っていくのかといえば、それは困難なことだと思う。その間に育っていく子どもたちも、元のコミュニティから環境が変わっていくということは大変なように思う。</p>	<p>通学距離が長いことは悪いことだけではない、という点については、仰る通りだと考える。</p> <p>教育委員会の立場としては、繰り返しになるが、子どもたちの教育環境を最優先ということになる。地域コミュニティについては、学校再編に合わせて変更していかねばならないとは考えていない。ただ、小学校区が変更となることによって、保護者の集会等にも影響が生じることは事実。そのことについても、今回の計画（案）をたたき台に、地域の皆様と十分に協議を重ねていく。</p>
43	11.18(木)	常盤	発言者H	<p>門前町が常盤校区から切り離されるという案になっているが、そうではなく、例えば、土生中学校区と葛城中学校区を統合することは検討できるのか。</p> <p>アンケートにもあったが、常盤小学校・桜台中学校に子どもを通わせたいから門前町に家を購入した方もいる。自分自身もそのように思ったため、実家へ戻ってきた。一方、中には、新しい小中一貫校に魅力を感じる人もいるかもしれない。門前町としては、元の南掃守地区、常盤・桜台校区のままとして、新しい学校も選択できるという風にするのはどうか。</p>	<p>土生中学校は元々、葛城中学校が非常に大規模な学校であったため、分離新設した学校という経緯はあるが、今回の取組については、現在の各学校の規模及び配置バランス、また地域コミュニティ等を踏まえて総合的に判断してお示ししている中、中学校区を超える再編は影響が大きいだらうと考え、中学校区を単位に再編を検討したところ。</p> <p>門前町会によるアンケート結果についてはありがたく頂戴した。学校選択制について、地域の皆様によるご意見、ご要望を踏まえて、今後検討していきたい。</p>
44	11.18(木)	常盤	発言者H	<p>計画（案）はたたき台だという話があったが、実際どれくらいのスケジュール感なのか、また実施に向けた動きはどうかを教えてください。</p>	<p>教育委員会として、子どもたちの教育環境を最優先に、市全体の状況を総合的に鑑みたくて議論を重ね、ベターなものと思われる計画（案）としてお示しをしている。</p> <p>地域や保護者の皆様のご意見をまったく反映させないまま成案化することは考えていない。その一方で、現在も各地域に説明に回っているところだが、反対が多いからといって、簡単に取り下げるというものではなく、子どもたちの教育に対してより良いご意見をいただく中で、取り入れられるものであれば計画（案）を適宜更新していくというイメージである。</p> <p>様々な課題も考えられる中、課題も含めて皆様に説明した上で、一定程度了承していただいた時点ではじめて（仮称）学校開校準備委員会を設置できると考えている。そこから早くも5年程度で開校、という想定である。例えば今回の説明会以降も地域や保護者の皆様との話し合いを重ねていくが、その中で了承を得られたとして、早くても令和10年の開校となる見込み。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
45	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>教育長の冒頭あいさつにもあったが、児童生徒数がピーク時の半数に減少しているという説明があった。少子化が原因なのであれば、それは行政の不作为によるものではないか。それを市民に押し付ける形で、適正規模・適正配置の取組を実施することは一方的なやり方であると考えているが、いかがか。</p>	<p>少子化の進行において、行政が為すべきことは多数ある。例えば、企業誘致により、圏域の経済力を高めること、また教育・子育て環境を整備していくということも必要。</p> <p>この間、市長部局も、教育委員会も取組を進めてきたところだが、至らぬ点があった部分については、お詫び申し上げます。</p> <p>一方、人口減少は全国的な課題であり、人口維持には2.03が必要とされる合計特殊出生率が非常に減少しており、1.3～1.4という状況である。亡くなられる方がいる一方で生まれてくる方が少ない中、地域で努力をしても、日本全体の人口において自然減が進んでくる。行政の責任による点もあり、努力していく必要があるが、そういった大きな流れがある。</p> <p>行政でできることは、社会減から社会増につなげるということで、経済活性化、住環境整備、教育・保育の充実が主となってくる。</p> <p>市において社会減の要因を探ったところ、30代の子育て世代を中心に市外への転出がみられた。社会減を減らし、社会増へつなげていくためには、教育・保育環境の充実が必要であると考えている。</p> <p>今回の取組についても賛否があると思うが、我々がすべきことは、待機児童・未入所児童をなくしていくことにより、子育て世代が安心して子育てできる環境をつくるため、別に幼保再編の取組を進めている。</p> <p>もう一点が今回の適正規模・適正配置の取組である。小規模化に伴う様々な課題があり、学校自身での解決は困難なため、枠組み自体を新しいものに変えていく必要があるということで取組を進めている。</p> <p>これらの取組は、子どもたちを安心して保育できる、教育としてしっかり受け止められる体制を築く上で必要不可欠であると考えている。</p>
46	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>岸和田市における児童生徒数の減少理由は、少子化だけでなく、学力による問題もあると考える。毎年実施される全国学力テストにおいて、大阪府が全国ワースト1であり、その中で岸和田市はワースト1に近いと聞いている。</p> <p>就学時期が近づくと、近隣市町へ転出する世帯もあると聞いている。よって、適正規模・適正配置の取組を実施する前に、学力向上を図ることが先決だと考えるが、いかがか。</p>	<p>岸和田市における、全国学力テストの結果をみると、全国の正答率を100とした場合、教科や学年にもよるが、10～15ポイント低いという、非常に厳しい実態がある。</p> <p>この間、教員自らが、子どもたちが興味関心を持ち、しっかりと理解できる授業を行うための力量をつけるよう、授業改善の取組、教育の送り手側からの取組を進めてきた。</p> <p>しかしながら、なかなか効果が表れなかったため、今年度より、子どもたちがしっかりと教員の授業を聞き取り、吸収する力をつけられるよう、「コグトレ(Cognitive Training)」という取組を市内の幼稚園、小・中学校で新たにモデル導入した。</p> <p>「同じ図形を探そう」「図形の違うところをみつけよう」「線と線をつないで図形しよう」といった、基本的な認知機能を高めることにより、子どもたちが学習を吸収していく基本的な力をつけていこうという取組である。効果が表れれば、来年度以降はさらに対象校を拡大し、市内全域に拡げていくことを考えている。</p> <p>これまで取組が不十分で、全国学力テストの結果が芳しくないことについてはお詫び申し上げます。今後も学力向上について努めていく。</p> <p>また、学力向上は学校だけではできない。地域の皆様のお支えが必要であり、最重要点として、家庭の教育力を高めていくことが必要だと考えており、家庭・学校間での連携、家庭への協力をお願いがどういった形で可能なのか、という点について研究を進めている。方針が定まれば、順次実施していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
47	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>適正規模・適正配置の取組をやむを得なく実施する場合には、その地域の状況、歴史を鑑み、地域住民と十分に話し合い、行政の一方向的な押し付けではなく、地域住民との合意を以って行う用意があるか伺いたい。</p>	<p>この計画（案）は、あくまでも「案」である。今後、地域や保護者の皆様と、十分に議論を尽くし、その上で、市長とともに最終案をまとめ、議会での審議に臨んでいきたい。今回の説明会を実施して、それで終わりだということは一切考えていない。様々なご意見を伺い、より良い案を作っていきたいと考えている。</p>
48	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>京都市は財政破綻に近いと報道されているが、教育に対するレベルを高めていくと京都市長が述べていた。 教育、子どもというものは市の宝であるため、教育は最も大切なものだと考える。京都市を見習い、岸和田市の教育レベルを高めるために頑張ってもらいたい。</p>	<p>予算編成については、教育委員会だけで実施することができない。予算編成権は市長にあるが、今回の取組を進めるにあたって生じる改革効果については、子育て・教育分野に優先的に投資することを市長と約束できているため、しっかりと取り組んでいく。</p>
49	11.20(土)	浜中央	発言者B	<p>小中一貫教育推進会議はどういったメンバーで構成されているのか。地域の方や、現場の教員の意見もくみ上げられるような会議になっているのか。 また、今後意見を聞いて検討するということが、「推進会議」という名前は進めるための会議であって、検討するための会議でないのではないか。検討するための会議であれば、我々の意見も聞いてもらえるのでは、と思うが。</p>	<p>まず、小中一貫教育を推進していく会議であって、小中一貫校をつくっていくという会議ではないということをご理解願いたい。 これまで、小中連携教育というものは、従来から各学校において取り組んできており、例えば岸城中学校の教員が中央・浜小学校の児童へ授業をしたり、集会へ参加したり、ということを実施してきた。どの校区においても小中連携は実施してきたところ。 従来の小中連携教育から、より一層発展する形で「めざす子ども像」を中学校区で一つ定めようというのが、小中一貫教育と考えている。 小中一貫教育が小・中学校において大切であり、そういった教育内容を推進していく、というのが小中一貫教育推進会議となっている。 メンバーは、教育委員会事務局、小・中学校の校長代表、教頭代表、教職員代表が入っており、例えば小・中学校において、同じ生徒指導目標を定めることができるかどうか、といったものを検討している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
50	11.20(土)	浜中央	発言者B	<p>人口流出の話があったが、先ほども話があったように、保育所と幼稚園を統合するか、市立の幼稚園・保育所を減らしていくということで、広い範囲から保育所や幼稚園に通うことになるような計画を出しているところ、保護者からみれば通う負担が大きくなる。今ならば自宅から近いところで保育所があって通いやすい。</p> <p>以前、岸和田市内で保育所がたくさんできたときに、それを魅力に思って人口が増えた。保育行政の充実は人口増加の要因になり得る。そういう点も含めて、子どもを守っていく、働く人たちを大切にしていく市政を願っているが、現在のやり方は逆方向に向かっているのではないか。</p> <p>これは幼稚園・保育所再編に係る説明会が別にあるので、そこで聞きたいと思っているが、そういう風に考えている。</p>	<p>幼稚園・保育所の話であったが、小学校の統合にも関わる話なので、説明させていただきたい。</p> <p>保育所・幼稚園の再編に係る取組について、待機児童・未入所児童が年間300人いるという現状を解消しなければ、子どもを預けられないという保護者の大きな不満があり、それが子育て世代転出の大きな要因となっているため、まず今回の再編及び民間園誘致を以て、待機児童・未入所児童の解消を図ることが主眼である。</p> <p>身近にある幼稚園・保育所が統合されるということにもなり得る。ただ、幼稚園の実態について説明すると、5年間にわたり定員を半分に縮小したにも関わらず、今年度申込者数では、縮小した定員からさらに3割の空きが生じている状況。</p> <p>保育所は待機児童が生じている一方、幼稚園には空きが生じているアンバランスな状況となっている中、新たに保育所・幼稚園の良いところを取り入れ、認定こども園に一体化することで、保育所の子どもたちにも幼児教育を受けてもらう、というように再編を進めていくところ。</p> <p>この取組により、身近な施設が統合され、通園距離が長くなる、また小・中学校適正化の取組により、学校が遠くなる、といったことは生じる。その点は、現状の課題解決とどちらを優先するかという、選択の問題になってくる。</p> <p>現状放置できない課題をまず優先して解決する、その上で生じる課題について、確かに負担は増えるが、それが受忍限度を超えているのかどうか。これを議論し、判断していただくほかない。</p> <p>課題や弊害をなくすため、例えば幼稚園は基本的に保護者送迎だが、小学校の距離が遠くなる点について、他校区とのバランスを踏まえる必要はあるが、国が示す「小学生は4km以内、中学生は6km以内」という通学基準を一概に適用するのではなく、児童生徒の負担があまりにも増大する場合は、教育委員会の責任としてスクールバスの導入が必要だと考えており、保護者負担なし、市費で導入する。</p>
51	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>幼稚園が定員に満たない旨説明があったが、その理由はどう考えているのか。</p> <p>浜小学校に隣接している浜幼稚園においても、給食が出ない、小学校から持っていくことができない、屋根がないので運べない、これを受け、幼稚園には行かせない、という声も多い。</p> <p>安易に認定こども園をつくる、ということではなしに、そういう課題を改善し、まず幼稚園の入園者を増やすことを考えなければならないのでは。</p> <p>先ほど選択云々の話があったが、市も負担して選択する必要があるのではないか。</p>	<p>幼稚園給食については議会でも審議をいただき、議員からも要望を受けているところ。現状、様々な立地環境があり、例えば運搬にあたり外を通る必要がある場合に、衛生面をどう確保していくのか、また小学校で自校調理をしているが、現状に加えて幼稚園給食をつくるとなればボリュームが増える中、施設上不十分な点等があるため、導入に踏み切れていない状況にある。</p> <p>また3歳児保育を実施している幼稚園においては、園児の誤嚥リスクがあるため、細かく調理することが必要であり、また使用食材も気を付ける必要があるなど、小学生の給食とは異なる調理・メニューが必要という課題がある。</p> <p>加えて、岸城幼稚園のように、小学校併設でない独立園もある中、併設園を優先し、独立園を放置してよいのか、という課題もあり、悩ましい状況にあるが、現在も議論を重ねている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
52	11.20(土)	浜中央	発言者A	<p>適正化に向けた基本的な考え方として、（仮称）学校開校準備委員会の設置とあるが、この委員会は浜校区から何名、中央校区から何名、という形になるのか。どのようなメンバー構成を検討しているのか。</p> <p>校区としても態勢を整えておく必要があるので、聞いておきたい。</p>	<p>（仮称）学校開校準備委員会について、立ち上げスケジュールから説明させていただく。</p> <p>現在は第1期計画として計画（案）を示しているところ。浜・中央校区においても小規模化が進行しているため、第2期計画において、たたき台としての計画（案）を示すつもりだが、仮に2期計画の案を示した際は、今回のように説明会を実施するなど、ご意見を伺うことになる。その中で、地域の皆様と十分に話し合い、課題解決を図りながら、地域の皆様による一定の合意を得られる段階になって、初めて準備委員会を立ち上げるという流れになる。</p> <p>その際に、地域の学校が対象となっている場合、当該地域の皆様に、準備委員会に参画していただくことを考えている。どういったメンバー構成が望ましいのかは校区によっても異なると思うが、例えばPTAの代表、町会長や市民協代表といった地域代表、学校長といったメンバーの選出についても、地域の皆様と十分に話し合い、決定していきたい。</p>
53	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>幼稚園について、23園のうち10園だけが3歳児保育を実施しており、残る13園では実施されていないため、定員を下回る状況なのは当然だと思う。</p> <p>幼稚園の小規模化を人口減少だけのせいにするのではなく、やるべきことがあるのではないか。</p> <p>給食に関しては隣接する貝塚市が既に小学校で作った給食を幼稚園に届ける取組を実施している。このこともみてほしいと思う。保護者からの要望も多い。</p> <p>岸和田市でも天神山幼稚園は小学校の中に設置されているため、給食が実施されている。関係者いわく、良いことづくめだという。幼稚園の小規模化を挙げるなら、天神山のように小学校の中に設置することにならないのか。</p> <p>どちらかを選択、というのであれば、市で努力し選択肢を作るべき。市民に押し付けるのはいかがなものか。</p> <p>天神山の幼小一貫教育が良いものであれば、全校で取り入れれば幼稚園小規模化の問題も起こらず、2クラス確保できるのでは。</p>	<p>貝塚市が給食を一部制限の上、導入していることは承知している。3歳児は未対応、アレルギーも未対応ということであるが、岸和田市としては導入する以上、アレルギー対応もしっかりと取っていききたい。また3歳児にも対応していききたい、そのためにどうすればよいかを検討しているため、貝塚市が始めたからすぐに岸和田市も導入するということではなく、しっかりと議論・検討を進めていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
54	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>この問題はコロナ禍以前に出たものだと思うが、コロナ禍で延期が続いている間に状況も変わった。子どもたちはコロナ禍で大変辛い思いをしている。学校に行けばテストばかり、学校が嫌だ、という不登校児童生徒が大阪でも全国でも増えている。</p> <p>また今はタブレットが全児童生徒に配布されたが、Web環境のあるなしで取組も異なるし、シングルマザーの家庭ではスマホを子ども専用にはできないといった声もある。もっと選択肢を広げて、市民に実態のことを知らせてほしい。</p> <p>コロナ禍では分散登校が実施されたが、その間には不登校だった児童生徒も通学できていた。教員の目がいき届いてよかった、ということだったが、その後はまた40人学級に戻り、現在40人を超える学級が市内に60も存在する。こういうことも言うべき。</p> <p>国もコロナ禍で密になることを避けようと35人学級を決定した。岸和田独自の少人数数学級を進めるなら賛成するが、行政側の努力をせず、家庭の問題、子どもの問題、教員の問題と言っていないか。</p> <p>少人数学級にすれば学年2クラスの学校も出てくる。小規模化の課題も解決できる。高いお金をかけて小中一貫校、小中一貫教育を推進しなくてもいい。今も現場の教員は頑張っている中、中学校の教員が小学校まで行く、としているのもいかがなものか。</p>	<p>学校が一斉に休校になるということは、少なくともこの60年間で初めての経験であった。現在は皆様の努力により、コロナウイルスの感染は一定鎮静化したが、今後再拡大する恐れもある。これからも感染対策には留意する必要があるが、こうした状況が未来永劫続くことを前提に社会構造を変えてしまうことについては疑問を持っている。</p> <p>学級規模を小規模化することについても、国が責任を持って全国一律に実施するべきであり、財政面で有利な自治体は教員を加配して30人、25人というように学級規模を小さくしていく一方、財政面で厳しい自治体はそれができない、ということが公教育上望ましいのか。それは地域間格差を生むであろうことから、国が基準を設定し、手当てをしていく必要がある。</p> <p>よって、市単独での少人数学級導入はすべきではないと考えている。</p> <p>小中一貫教育において教員負担が増える、という懸念について、教員の働き方改革が必要とされる中、様々な労働面での課題を軽減していかなければならないと考えている。ただ、教育上やるべきことを削るというわけにはいかないの、その分、教員の労働の中で無駄・無理を強いられないかという点はしっかり点検をする一方で、小中一貫教育についてはしっかり取り組んでいただきたいと考えており、理解を求めています。</p>
55	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>学校の統廃合により、現在の校区がなくなり、祭も町別ではできない。校区がなくなるということは、これまでよりさらにコミュニケーションが取りにくくなる。子どもたちも遠い学校へバスでの通学が必要、歩いて友だちと遊べない、という懸念がある。</p>	<p>学校は教育の場だけでなく、地域コミュニティの核として機能し、地域の皆様に支えていただけてきたものだということは十分に認識している。</p> <p>一方、教育は非常に疲弊している。物事は放置して解決するものもあれば、放置すれば悪化するものもある。学校規模の小規模化は放置すれば悪化する一方である課題と考えていることから、手当てをさせていただきたい。</p> <p>その上で、地域に及ぼす影響については、例えば跡地をどう活用するのかという点について、教育委員会が無関係だというつもりはまったくない。これは市長部局とともに、地域の皆様と一生懸命考えて、望ましい方策を検討していく。</p>
56	11.20(土)	浜中央	発言者C	<p>学校を統廃合する、また公立保育所と幼稚園をゼロにして、たった6つの認定こども園にすることや、公共施設、スポーツ施設、プールもなくなるとなれば、これまでは伝統のあるだんじり祭があって、頑張ろうとしていた岸和田市がぐちゃぐちゃになってしまう。</p> <p>教育長は1～2年で去るだろうが、我々はずっとここに住む必要があるという想いである。</p>	<p>確かに、社会教育施設、社会体育施設についても、これから基本方針を定めたものについて、地域の皆様との議論をスタートしたいと考えている。</p> <p>しかしながら、仰るような、施設をすべてなくしていくという乱暴なことは、基本方針に記していない。</p> <p>現状、非常に老朽化しており、財源も限られる中で、今のままの状況で安全を確保し、良好な環境で提供していくことが難しくなっているため、どうすればよいか、お知恵を借りながら一緒に方向性を考えていきたい、というものである。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
57	11.20(土)	浜中央	発言者D	<p>自分は児童生徒数がピーク時の年代だと思う。</p> <p>比較的児童数が多い校区から浜校区に移ってきたのだが、浜小学校は全学年単学級、その中で1～6年生がほぼ顔を知っている。その中で、1つの学校で12クラスになることが「適正」なのかどうか、誰が適正だと言っているのか。やろうとしていることが適正だと言うが、自分が育ってきた大規模な環境と、今小規模な学校で過ごす子どもを見たときに、自分の子どもは浜小学校でよかったな、と思う。</p> <p>それが中央小学校と一緒にになったら何が適正なのか。それが子どもたちにとって本当に良いのかどうか。この点、説明を受けても納得できない。</p>	<p>教育委員会としては、義務教育9年間において、全学年単学級、クラス替えができない状態であることは、人間関係の固定化等、教育上の諸課題があると考えている。</p> <p>どの程度の学校規模が望ましいのか、という点については、国において学識経験者も交えての審議を経て手引きを策定しており、その中では、多様な考えに触れること、学習面での多様な活動等を考えた際に、学校あたり12～18学級が望ましい、ということも明記している。</p> <p>市においても、国の考え方を参照するだけでなく、基本方針を定めるにあたり、学識経験者、PTA代表、民児協代表といった方々に参画いただき、審議会を設置した。その中で議論を経た上でも、学校あたり12～18学級が望ましいという答申をいただいた。</p> <p>また、基本方針策定前に、各校の教職員、保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を実施し、その結果によれば、やはり12～18学級程度が人間関係や教育上のことも含めて望ましいとした回答が多数であった。</p> <p>それらを総合的に鑑み、適正規模の基本的な考え方を取りまとめ、基本方針を策定した。</p> <p>小規模校は小規模によるメリットが存在することは認識している。一方、子どもたちが将来、小・中学校、高校・大学、そしてグローバル化する社会に出ていく中で、たくましく生き抜く力を育むためには、小・中学校のうちから一定の集団規模を確保していくことが必要だと考えている。</p>
58	11.20(土)	浜中央	発言者D	<p>丘陵地区の開発を進めているが、あの中に「住居地域」を設けていると思う。行政が進めているのかどうかはわからないが。</p> <p>住居地域を設定したにもかかわらず、当該地域の小・中学校を減らすということに納得がいかない。</p>	<p>様々な経緯を経て、丘陵地区のまちづくりが整いつつあり、企業誘致や、住居エリアの整備といったまちづくりが進んでいるところ。</p> <p>丘陵地区周辺の小・中学校は、以前から小規模化が非常に進行している学校であり、義務教育9年間を通じて、クラス替えのない全学年単学級という状況。それによる良い面もあるが、課題の方が多いと考えている。</p> <p>まちづくりを進めながらも、より良い教育環境の整備、学校教育の充実を第一に考えた際に、小規模であり続ける学校に対して何の手立てもしなくてよいのか、ということを考え、責任を持って公教育を実施する立場として、学校再編ということを示した。</p> <p>一方、丘陵地区において住居整備が進む中、一時期は児童生徒数が増加することも想定しているが、その時期を過ぎると、再び減少となり、また全学年単学級となることを見込んでいる。推計等を確認した上で、現段階の判断としては、適正化が必要と考えている。</p>
59	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>自治体間の均衡を崩すとして、自治体独自での少人数学級に否定的な発言を聞いて、怒りを感じる。</p> <p>大阪市内では塾代助成を実施しており、正しいかどうかは別として、税金を投入している。</p> <p>岸和田市における子どもの学力低下を課題と認識する中で、レベルを他の自治体と同じ程度まで高めることが教育委員会の責務だと思う。その方策として、特認校に関する資料にも「少人数教育」と書いているのに、否定的な発言をすることに驚く。</p>	<p>学級編制については、自治体の財政力によって左右されることは公教育としておかしいことではないか、国がしっかりと対応すべき、という考えであり、教育委員会としても国による少人数学級を積極的に要望してきた。また今後も続けていく。</p> <p>一方で、家庭学習の環境に恵まれない子どもたちに対しては、岸和田市においても、放課後学習支援事業を実施しており、学ぶ機会を提供していくことは既に進めている。</p> <p>いただいたご意見については、ご意見として承る。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
60	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>予算云々は教育委員会の管轄ではないということだが、スクールバスの導入にも予算が必要ははず。</p> <p>葛城校区と山滝校区両方に走らせるということにしても、バスの本数等を確定させなければ予算面の答えは出せないと思うし、スクールバスの具体的導入を約束してからでなければ、学校統合はできない。</p>	<p>子どもたちの公教育に責任を持つ立場として、通学中の事故が全国各地で発生する中、安心安全を確保する対応についてはしっかりと実施していく。</p> <p>スクールバスの運行範囲・ルートについては、教育委員会が一方的に定めるのではなく、地域や保護者の皆様と十分に話し合いながら、（仮称）学校開校準備委員会において決定していきたい。</p>
61	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>小中一貫教育基本方針の具体的な取組として、「新たな科」をスタートするとあるが、何か。</p> <p>教員が足りないと言いながら、新しい科目を作って子どもたちに詰め込んでいくという考えなのか。現状での教育をしっかりと実施してからすべき話だと思う。</p>	<p>現在も小・中学校において「総合的な学習の時間」を設けており、その中での取組は学校で計画を立てて、実施している。</p> <p>これを、小・中学校で一貫した内容で取り組んでいこうというものであり、国語・算数といった科目としての「新しい科」ではない。</p> <p>ただ、教員の負担にならないように、教育委員会で教材を作成する等のサポートに努めていく。</p> <p>内容については、小中一貫教育推進会議等で検討しているところ。</p>
62	11.20(土)	浜中央	発言者E	<p>クラブ云々という話があったが、例えば城内小学校でのソフトボールクラブはあちこちの小学校から人が集まって活動している。児童生徒数が少ない中でも、それぞれがしっかり取り組んでいる状況なので、統合していく必要はない。</p>	<p>部活動における課題については、小規模な中学校において、例えば野球がやりたいが野球部がない、といった意味であり、それは教員や児童生徒が少ないため設置できないことが主な理由である、という説明内容である。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
63	11.21(日)	天神山	発言者A	<p>意見も交えて質問する。</p> <p>10ヶ月ほど前、天神山小学校がなくなる計画（案）をみて大変驚き、あり得ない話だと思った。月日がたち、本日説明を聞いても気持ちは変わらない。</p> <p>天神山小学校は天神山町内にある学校のため、通学距離が近く、地下道もあるなど、児童にとって非常に安全。3丁目からも歩道を通って通学できる。岸和田市内で最も安全な通学路ではないか。</p> <p>小規模の良さは、保護者アンケートをみてもよくわかる。その学校をなぜなくさなければならぬのか、理解できない。私の知る限り、天神山小学校をなくしてほしいと願う人は一人もいない。</p> <p>4月に天神山校区の全世帯を対象にアンケート調査を実施したところ、小学校を残してほしいと回答した割合が約87%。相当な高数値である。良い学校だから残してほしい、その気持ちをどうしてわかってもらえないのか。</p> <p>質問として、保護者、児童生徒、地域住民の声をどのように聞いてきたのか。</p> <p>また、なぜ学校をなくさなければならないのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の基本方針を策定した後、市民説明会を実施した際や、実施計画（案）をホームページに掲載した際にも、地域の皆様から様々なご意見をお伺いした。</p> <p>その中で、天神山小学校は良い学校であり、このまま存続してほしいという声もいただいている。地域の皆様が小学校を大切に考え、地域子どもたちを見守ってきていただいたことは十分に認識している。存続を願うご意見も、当然のことだと思う。</p> <p>一方、今後少子化が進む中、今より更に学校の小規模化が進展していく状況が見込まれている。</p> <p>小規模校にも良さがあることは認識しているが、小規模であるが故の課題が生じているのも事実である。</p> <p>文科省において、子どもたちが将来にわたってたくましく生き抜く力を育むため、主体的・対話的で深い学びをめざしている中、小規模校においては、学習形態に制限が生じてしまう。</p> <p>そのような状況のまま、責任を持って適した公教育を提供していくことは困難であり、公教育を担う教育委員会として、一定の集団規模が確保された教育環境を整備していく必要があると考えている。</p> <p>地域の皆様の中には、それでも小規模校の方が望ましい、というお考えの方も当然いらっしゃると思う。これについては、市民から選任を受けた市長、そして議会の同意を得て市長から任命を受けた教育長が、岸和田市の将来を担う子どもたちのことを考え、責任を持って判断させていただくことになるが、最終的に、どちらを選択していくことになるのかは議会の決定によると考えている。</p> <p>なお、安全安心な通学環境の確保は最優先事項だと考えており、地域の皆様のご意見を伺いながら、しっかりと対応していく。</p>
64	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>質問の前に上から目線で申し訳ないが、プレゼンテーションが長すぎる。適正化については27分、小中一貫教育については10分。後者については、昨日開催の浜中央校区地域説明会で質問があった内容に係る追加発言もあり、昨日9分のものが10分になるのは仕方ないし、許容範囲だと思うが、27分ということは民間では考えられない。</p> <p>大学の卒論発表会ではおおよそ7～8分。15,000字の卒論だとA4用紙40枚、今回はA4用紙29枚なので、7分程度でまとめられると思う。ぜひ次回の天神山校区地域説明会では短くしていただきたい。</p>	<p>教育委員会として、動画配信による計画（案）の説明を視聴いただいた後にお越しの方もいる一方、本日初めて説明を聞かれる方もいるため、詳しい説明が必要と判断し、実施している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
65	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>以前、この計画（案）をどのような背景で出したのか質問したところ、文書で回答いただき、国の公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き及び、岸和田市の審議会による令和元年10月の答申を踏まえ、適正化（案）を策定した旨記載されている。</p> <p>答申においては、確かに適正規模は12～18学級とある。1点異なるのは、適正人数は300人ないし600人とある。本日の資料（グラフ）では350人のところに線を引いており、50人増やしていることについてはおかしいと思うが。</p> <p>また学級編制については実人数で25～35人が望ましいと記載がある。答申を踏まえ、ということなので、無視してもよいものではあるが、なぜ学校編制については答申を踏まえたのに、学級編制については考慮していないのか。</p> <p>今回の資料はすべて35人学級編制の前提で作られた資料であり、実人数ではない。岸和田市教職員組合によれば、実人数で学級編制すると、59学級増加すると聞いている。天神山小学校で増加するかはわからないが、なぜ35人学級に拘っているのかがわからない。文科省は30人学級をめざすとしている。</p>	<p>学校あたりの人数である「学校規模」と、学級あたりの人数である「学級規模」の考え方があって、今回の適正規模・適正配置の取組については、子どもたちのより良い教育環境の充実のために、前者の、学校全体の児童生徒数について、一定の規模を確保するための取組である。</p> <p>学級規模の少人数化は、自治体が独自で判断するのではなく、義務教育として、国が一律に判断すべきだと考えている。引き続き、国や府に少人数学級の導入を要望していく。</p> <p>なお、今後、国による35人学級が順次導入され、令和7年度には小学校全学年が35人学級編制となる。</p>
66	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>適正化の基本方針については、国が定めた学級規模の標準や、審議会答申等を踏まえ、岸和田市の小・中学校の適正な学校規模を次のとおりとする、とあるが、小中一貫校の設置に関する指針はない。なのに、なぜ施設一体型の（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校を設置するのか。</p> <p>小中一貫教育の指針はあるが、小中一貫校の指針がない中、小中一貫校を設置しようとするについて、モデル校だと聞いた記憶はあるが、我々は小中一貫校を求めている。なぜ小中一貫校を2校区に設置するのか教えてほしい。</p>	<p>小中一貫教育基本方針を策定し、小中一貫教育を推進することは、教育委員会として決定した事項である。</p> <p>これまでの小学校と中学校の連携から、さらに発展した形で、児童生徒の交流、教職員相互の連携を取って、義務教育9年間を通じた指導を行っていく。</p> <p>岸和田市では学校を新設できるような大きな敷地の確保が難しい中ではあるが、小中一貫教育をより効果的に進めるにあたって、小・中学校が遠く離れているよりも、同じ敷地で教育を受けることが望ましいものと考えている。</p> <p>なお、適正化の方策を総合的に検討した結果、（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校については、施設一体型での整備の方が、教育環境上望ましいという判断のもと、今回の計画（案）をお示ししたところ。</p>
67	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>小中一貫教育基本方針の6ページの下部に、学校運営について、義務教育学校では一人の校長、一つの教員組織とあり、これはその通りだが、小中一貫型小・中学校ではそれぞれの学校に校長、教員組織とある。そういった形態の学校もあるが、2つの学校に、1人の校長という形態の学校もある。校長がそれぞれに存在することは悪いことではないが、小規模の学校では1人の校長での運営も可能かと思う。訂正を願う。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組により、岸和田市に小中一貫校が設置された場合の、管理職教員の配置について、現段階では小・中学校が別々に設置されている中で、施設一体型義務教育学校であれば校長が1人、などといった具体的な配置については、様々な可能性を検討していきたい。</p> <p>小中連携は岸和田市に限らず、必ずなければならないもの。これまで、学力や生徒指導に関して、小・中学校の教員が連携して対応してきた。</p> <p>小中連携と小中一貫の違いについては、「めざす子ども像」を中学校区でしっかり定めようとする部分になる。教員や子どもたちへの負担ができるだけないように、今できること、今実施していること、それらをどのように小中一貫につなげ、発展させていけるかについて、現在、小中一貫教育推進会議で議論しているところ。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
68	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>現在、小中一貫教育推進会議でどのような小中一貫教育を実施するのか検討している最中なのに、なぜ小中一貫校を設置するという計画が出てくるのか。</p>	<p>小中一貫教育基本方針をもとに、市として小中一貫教育を進めるということ、また、各学校の規模や配置バランスを踏まえつつ、児童生徒の通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑み、今回の計画（案）をお示した。</p> <p>葛城校区と山滝校区は、小学校と中学校を、小規模のまま、別々に設置するよりも、同じ敷地で小中一貫校として設置するほうが、より良い教育の観点から望ましいと考えている。</p>
69	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>学級編制が35人学級だから8学級以下の適正化対象校になるのであって、例えば修斉小学校や山直南小学校のように、25人学級なら8学級以下の規模にならない学校もある。天神山小学校はそれでも8学級以下の規模になる可能性が高いが。</p> <p>学級編制を考えた上で、学校の統廃合を考えるべきだと思うが、いかがか。</p>	<p>審議会答申において、学級あたり25～35人が望ましいとあるのは、35人学級編制を踏まえた上での、「実人数」ということである。</p> <p>実人数での学級編制について、仮に1学年40人であれば、20人学級で2クラス、50人であれば、25人学級の2クラスということになる。審議会で行われていたのは、あくまでも最大35人という学級編制基準において、学級を運営する実人数は25～35人が望ましい、といった議論である。</p>
70	11.21(日)	天神山	発言者C	<p>学校跡地のあり方について懸念している。地域の方々の意見を踏まえ、幅広い視点から利活用を検討したい、と資料に記載があるが、役人の答弁だと感じる。</p> <p>大阪府内各地で、学校再編や小中一貫校設置計画が立ち上がる中、その地域の知人に聞いたところ、枚方市や高槻市では跡地は売却するとされている。</p> <p>天神山小学校の立地は、住宅地として良いので、売却といったことを考えているのでは、と気にしている。</p> <p>また、東葛城小学校や修斉小学校は、教育委員会ではなく、自分たちの力で校舎を建て、学校を開設した経緯がある。これを同じように売却という考えでは困るので、この場ではっきりと売却しない旨明言いただきたい。</p>	<p>学校は、教育の場であると同時に、地域コミュニティの場であり、防災面では避難所にもなるなど、有効に活用されてきた。そういったことを含め、地域の意向をまったく無視し、一方的に跡地を売却するということは、教育委員会として考えていない。</p> <p>今後、仮に計画が進んだ場合の跡地活用については、地域の皆様のご意見を十分に伺い、より良い方向性を定めていく。</p> <p>一方で、市民全体の貴重な財産でもある学校の跡地については、市全体で方向性を定めていく必要があるため、売却する・しないということは、現状約束できることではない。</p>
71	11.21(日)	天神山	発言者C	<p>岸和田市における教育課題は、小規模化や小中一貫ではないのでは、と考えている。</p> <p>教育委員会の評価委員会を2回傍聴し、資料を確認したところ、いじめの件数が令和元年で小・中合わせて148件だったものが、令和2年には627件になっていた。4.2倍に増加しており、中学校においては5倍に増加している。</p> <p>委員からも、解消率についての質問があった。解消率は90%とあるが、これは高い数字と思わない。残る10%はまだいじめの状況が未解決だという深刻な状況である。</p> <p>暴力の件数も、中学校では令和元年から令和2年で3倍に増加している。</p> <p>令和2年は、コロナウイルスの影響で学校の休校があったにもかかわらず増加している。また不登校についても、令和元年から令和2年で少しではあるが増加している。</p> <p>安心安全な学校とは言うが、こういった課題がある中、制度を変えるのではなく、まず子どもたちが安心安全な学校に通えるような教育をめざすべき。</p>	<p>いじめや問題行動の件数は、大きな課題であると認識している。</p> <p>岸和田市の学力が、全国平均を10～15ポイント下回るということで、学力向上に向けた課題もある一方、いじめや不登校といったように、様々な課題を抱えている状況。</p> <p>いじめの件数が急増した理由としては、教員が、積極的にいじめ事象の認知を高め、積極的に教育委員会へ報告するという方針にもよるが、それだけ母数は多かったということ。</p> <p>教育委員会の努力が足りないというご指摘については、謙虚に受け止め、引き続き、教育課題解決に向けて取り組んでいく。</p> <p>その一方で、子どもたちのより良い教育環境を整えるため、適正規模・適正配置の取組についても並行して取り組んでいくべきと考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
72	11.21(日)	天神山	発言者D	<p>冒頭、説明が長いという指摘があったが、自分は動画配信を知らなかったし、この計画（案）が出てからずっと不安に思っていたので、説明が長いとは思わなかった。</p> <p>保護者として、天神山小学校は児童数が少なく、適正じゃないと言われているような気がして、子どもが入学するときに不安もあった。しかし、入学後は、小規模だからこそ、教員が児童みんなを知っていて、気にかけてもらっていて、良い環境だと思っている。</p> <p>人間関係で何かがあった際に、クラス替えがないことの不安もあったが、今思えば、クラス替えができることが本当に解決なのか、とも思う。ただ、今2年生で、まだこれからのので、もっと上の学年になったときに、小規模による心配ごとがあれば、他の保護者の方からぜひ教えてほしい。</p> <p>一方、児童数が多い学校のことが気になる。予算がつくならば、先に大規模校において、1クラスの人数を少なくする等、予算を投入したほうがいいのでは、とも思う。</p> <p>なぜかと言えば、通信制高校で働く中、小・中学生時代に学校へ行けなかった子どもや、通学しても教室に入れなかった子どもの多くが、大規模な学校を卒業した子どもであり、小規模校の卒業生は少ない。それは単に人数によると思うかもしれないが、実感としてはそうではないと感じている。大規模校でよかったらかしにされていた子どもも多いのではないか。</p> <p>大規模校の子どもたちは、今後人数が減少していくので、それを待っているようにも思うが、まずはそちらに予算を投入した方がいいのではないか。</p> <p>また、小規模校では切磋琢磨が難しい等あったが、比較的大きい学校での成功例等も教えてほしい。</p>	<p>小規模校には、小規模だからこそその良さもあると認識している。教員が、学級内の児童生徒だけでなく、学校全体の児童生徒と、互いの顔が見えやすい関係でいることや、きめ細かな教育が可能といったことが挙げられる。</p> <p>子どもたちは、小規模の集団でずっと暮らしていくのではなく、小・中学校から高校、大学、そしてグローバル化する社会に出ていく。そういった中で生き抜く力を育むことが必要であり、そのためには、小・中学校のうちから、一定の集団規模で過ごすことが、多様な考えに触れ、社会性を培う上で重要なことだと考えている。</p> <p>また、基本方針にて適正化が必要な大規模校を25学級以上の学校規模と定めているが、対象となる学校は現在の岸和田市には存在しない。</p> <p>一部、適正な学校規模とする12～18学級を上回る学校もあるが、計画（案）における通学区域の見直しによって、そういった学校の規模を、適正規模に近づけることも示している。</p> <p>また、不登校については、どの学校でも起こり得る事象である。子どもたちに対するカウンセリング等の丁寧な対応に努めていく。</p> <p>大規模校における切磋琢磨の例として、学級対抗の合唱コンクールといった、学校行事で競い合いながら、力をつけていくということがある。大規模校においても、小規模校と同じく、利点と課題の両面が存在すると認識している。</p>
73	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>小中一貫教育と小中一貫校の問題、葛城中学校の校舎老朽化問題、クラブ数が少なくなっているという問題を、小学校の問題と混同しているように思う。</p> <p>小規模な小学校のメリットはたくさんある。例えば、仕事で昨年10月に訪問した石垣島の小学校は児童数が非常に少ないが、きめ細かな教育で、学力が沖縄本島と比べて非常に高いと、どの方も自信を持っていた。</p> <p>また10年ほど前には同じく宮古島を訪問したが、そこでも、児童数が非常に少なくなり、普通ならば廃校になるところを、学校を存続させ、手厚い指導を実施しており、やはり学力は高いということであった。</p> <p>データの、少人数での教育がいけなくて、大人数で切磋琢磨することが望ましい、というものがあるのかどうか。</p> <p>また、日本は長年6-3-3制で各発達段階に応じて実施してきたところだが、小中一貫教育における、学力としてのメリットが数字として存在するのか。</p>	<p>岸和田市における、学校規模の大小による学力テストの結果について、一概に大規模校では低い、小規模校では高い、といった傾向はみられない。</p> <p>学力向上については、市全体の小・中学校における課題であり、今後も引き続き、向上に向けて取り組んでいく。</p> <p>小中一貫校と、小中一貫教育は異なる。従来、欠かさず取り組んできた小中連携教育を発展させ、小中一貫教育につなげていくことは大切だということを取りまとめたものが、小中一貫教育基本方針である。</p> <p>中学校の部活動について、現状で様々な課題があることから、うまく運営していくにはどうすればいいのか、といった点も現在検討しているところ。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
74	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>天神山小学校から葛城中学校まで約1.5kmの距離だというのが、他の小学校でも1.5kmの通学について、どこの小学校で、どれくらい的人数が毎日そのような距離を歩いているのか。</p> <p>天神山小学校の児童は、もし現在の葛城中学校まで通学するとなれば、ほとんどの児童が1.5km程度の通学距離になってしまうと思うが。</p> <p>もし何かがあって、スクールバスでなく、徒歩で通学する、遅れて通学するということに、個々の対応が可能なかどうか。現在の天神山小学校では、そのあたりは手厚い対応をさせていただいている。</p>	<p>現状で1.5km以上の距離を通学している児童がいる小学校は、9校存在する。</p> <p>岸和田市内では、一部山間部を除き、おおよその児童が2km以内の距離で通学している。国においては、小学校は4km以内、中学校は6km以内という通学距離の基準があるが、これを一律に適用するのではなく、地域の皆様のご意見を伺いながら、（仮称）学校開校準備委員会において、スクールバスに乗り遅れた場合の具体的な対応を含む、通学上の様々な事項を議論していきたい。</p>
75	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>本日、中1ギャップについて説明があり、定例教育委員会会議を傍聴した際には、教育長もその場で同様の旨を発言していた。</p> <p>長い間、中学校で教員として勤めていたが、中1ギャップをあまり感じたことがない。小学校から中学校に進学する際には、希望に胸を膨らませて、教科別の教員に変わることや、部活動、勉強を頑張ろう、といったことなど、新しい気持ちで進学してくる。</p> <p>中1ギャップのような事象がまったくないとは言わないが、取り立てて言うようなことでもないと考えている。</p>	<p>平成27年に、国立教育政策研究所が中1ギャップに関するリーフレットを発出しているが、それ以降も文科省では「中1ギャップ」という用語を継続して使用している状況。</p> <p>中学校現場において、中1ギャップという言葉はあまり使われないが、実際、小学校から中学校に進学する際の変化に適応できないという事象も存在する。</p> <p>小中一貫教育基本方針を踏まえ、こうした課題点に対する取組を検討していきたい。</p>
76	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>教育長が「岸和田市の学力レベルが低い」と言っていたと思う。だから小中一貫校にするようなことも言われたように思う。</p> <p>現役の非常勤講師として、まだ学校で勤めており、校長と話す機会もある。校長と話した際に、この内容をどう思うか尋ねたところ、「小中一貫校にしても成績は上がらない、一番良いのは少人数学級だ」と言っていた。どの校長も口をそろえてそう話す。</p> <p>この取組に着手する前に、まずは少人数学級に取り組むべきではないか。国が国がと言うが、国がいつ少人数学級を実施するのかという気持ちである。</p> <p>また、孫が今小学2年生と4年生。今後の少人数学級化から外れてしまう。加えて、学年の人数が2クラスになるか、3クラスになるか、という人数であり、毎年ドキドキしている。やはり3クラスで、学級あたりの人数が少ない中で、目の行き届く指導を受けたい。ぜひ岸和田市において独自の少人数学級を取り入れるべき。</p>	<p>学力向上は小中一貫校の設置や、小中一貫教育の実施だけで解決するものではなく、様々な面から取り組む必要がある。</p> <p>教員の授業改善や、今年度から取り入れた、認知機能を高めるための「コグトレ（Cognitive Training）」という取組を進めており、それらに加え、小中一貫教育も有効な取組の一つだと考えている。</p> <p>学力向上のために、小中一貫の取組だけが唯一絶対の方式だとは申し上げていない。総合的に展開すべきことである。</p> <p>少人数学級については、実現していくべきことだと認識しているので、国や府への要望を行っている。</p> <p>ただし、自治体ごとの経済力によって、学級編制基準にバラつきがあつていいのか、という点については疑問。</p> <p>経済的に豊かな自治体でも、そうでない自治体でも、公の義務教育では等しく教育機会を提供し、教育内容を保障しなければならない。</p> <p>経済的に豊かな自治体では、35人学級を下回る、独自の少人数学級も可能だとは思いますが、そうでない自治体は35人のままというのが、公教育としてよいのか。国が、国の責任において必要な教員を配置し、学級規模を少人数化していくことが必要であると考えているので、市独自の国基準を下回る少人数学級化を進める考えはない。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
77	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>35人学級と言うが、実態は40人を超える学級もある。支援学級の児童が学級編制上の人数に入っていないからである。</p> <p>支援学級の児童も学級編制上の人数に含める、ダブルカウントも考えてほしい。</p>	<p>支援学級の児童生徒が、通常学級に戻って共に学ぶ際に、1学級あたりの人数が40人を超えることについては、教育委員会としても大きな課題として認識している。</p> <p>スペースに限りがある中、教育環境としても好ましくないため、昨年度も市に対して解消に向けた予算要求を実施した。今後も要求を継続していく。</p>
78	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>校長に、校長会で、この岸和田市を挙げた大事な問題が話に出ているのか、と尋ねたところ、出ていないと言っていたが、本当か。校長にしっかり話をすべきだと思う。</p> <p>また、こうした問題には校長の立場から意見を言えないとも聞く。校長会で教育長から話があった段階で、討議があるものと思っていたのに、一方的に聞いて終わりのようなので、思い違っていたようだ。</p>	<p>毎月開催される小学校・幼稚園の校園長会、中学校の校長会には必ず教育長が出席し、ざっくばらんに意見交換をできるような雰囲気づくりに努めており、また普段から、指導主事が学校を訪問し、学校での困りごとや意見を伺っているが、校長からそのような発言があったとすれば、マネジメント不足の致すところであるので、今後も心して取り組んでいきたい。</p> <p>一方、校長にも、今回の取組に関する意見があれば、積極的に聞かせてほしいと伝えてきた。今後も留意していく。</p>
79	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>今回の説明では、小規模校は悪い、としか聞かえない。</p> <p>小中一貫校におけるメリットは述べられているが、デメリットの記述がない。この取組によるデメリットの方がメリットより多いと思う。聞かせてほしい。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組における課題点として、小学校が閉校になれば、児童にとって、これまでよりも通学距離が遠くなるのが1点挙げられる。これに関しては、必要に応じてスクールバスを導入すべきと考えている。</p> <p>また、地域コミュニティにも配慮が必要になると考えている。小学校が閉校となることで、合わせてこれまで小学校区で培ってきた地域コミュニティを崩していくということではなく、新しい学校区を単位に地域コミュニティが形成されるのか、あるいは旧小学校区のコミュニティを維持していくのか、ということについては、地域で主体性をもって判断していただくことになると想定している。</p> <p>その点においても、市からのサポートに努めていく。</p>
80	11.21(日)	天神山	発言者G	<p>葛城中学校に、特認校をつくるというが、中身を見ていると、一部のエリートを育てるために、岸和田市各地から優秀な児童生徒を集めるように見え、これは教育に差別を持ち込む考え方だと思うが、いかがか。</p>	<p>特認校という制度は、エリート教育ということではなく、特色ある教育を導入することで、例えば地域における田植え活動に児童生徒が参加し、体験学習を実施するといったことや、小学校低学年からの英語教育を実施するといったことである。</p> <p>地域の皆様のご協力を得ながら、地域ごとの特色ある教育を実施していくというものがある。</p>
81	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>小規模校のことを、市も、教育委員会も、悪いとは思っていないという認識でよいか。</p>	<p>課題はある、と捉えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
82	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>課題があるのであれば、それを解決していくことが市や教育委員会の役目ではないかと考える。子どもの教育に影響を与える、廃校ということはとんでもないことだと思う。</p> <p>毎年、学校評価アンケートを実施しているが、内容を読んでいるのか。適正化対象校として挙げられた学校で、保護者が学校をどのように思っているのか、確認した上での提案なのか。</p> <p>令和2年度の天神山小学校の学校評価アンケートを読ませてもらう。昨年、コロナウィルスの影響で社会不安が広がった中での内容である。</p> <p>「子どもはいつも明るい表情で、いつも楽しそうにしている。担任の先生はもちろん、学校全体で一人の子どもに関わっていただいているのがとてもありがたい」</p> <p>「コロナで大変だったと思うが、思った以上に行事等ができて感謝。小規模校の良さですね。ホームページでの情報発信の多さにも驚く。担任だけでなく、すべての教員が子どものことを知ってくれてうれしい。安心できる。チビッコホームや、"てんてん"天神山教室との連携もあって、それも驚いた。いろいろな活動が中止になる中、それでもできることを活動していただき、本当に感謝。先が見えないこの事態であるので不安はあるが、こんなときだからこそできること、こんなときだから協力しあえる心を培っていかねばと思う。身体と身体は離れても、心と心はつながられるよう願っている」</p> <p>「我が子の手荒れがひどいので、手指の消毒ができない旨を相談したとき、すぐ学校中の先生、子どもたちに周知・対応してくれたこと、すごく助かり、嬉しかった。音楽会もしっかり感染対策をしながら開催されて、すごく良かった」</p> <p>このように、ありがたいという声がたくさんある。PTA行事に関しても、こんなに協力してもらって申し訳ないと思うぐらい、教員の協力が得られた、という声もある。</p> <p>こんなに良く思われている学校を、なぜ廃校にしなければならないのか。地域や保護者の声を聴いていない、ひどい計画だと思う。</p>	<p>学校評価アンケートについて、小規模校としてのメリットを地域や保護者の皆様にご理解いただき、評価していただいたものだと思う。教育委員会としても、挙げられたような内容はメリットとして認識しているところ。</p> <p>しかしながら、これからは地域の中だけで生活する時代、岸和田市内の経済だけで一人の人間が生きていく時代ではない。それは日本国内だけでなく、世界の中で、世界の人々とともに、様々な意見の中で、最善の答えを見出していくということが必要であり、そのような背景を踏まえ、国においても「主体的・対話的で深い学び」というものを提唱しているのだと解している。</p> <p>そうした方向での力をつけていく上では、やはり一定の集団規模を確保し、互いを高めあう教育が重要であると認識している。そのために、適正規模・適正配置の取組は必要不可欠であると考えている。</p> <p>それぞれの立場、学校との関係、地域との関係がある中で意見が分かれることは当然のこと。それは誰も間違っていない、皆が正しいと思われる中で、互いの意見交換を経て、より良い案をまとめていきたい。最終的には、市全体で、何が一番正しいかということについて判断をしていく必要がある。</p> <p>地域や保護者の皆様と十分に意見交換を実施した上で、市長と、教育を預かる教育長で案を固め、市議会に提案していきたい。</p>
83	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>特認校について、東葛城小学校だからこそ、特色ある教育が可能なのであって、（仮称）葛城小中一貫校において、これまでのような特認校制度が可能なのか。</p> <p>天神山町や土生町から現在特認校制度を利用し、東葛城小学校に通学している方がいる。その理由をきちんと受け止めているのか。（仮称）葛城小中一貫校ではそれはできないと思う。</p> <p>小規模校が残せないのなら、天神山小学校も特色のある特認校にしてほしいと思う。</p> <p>コミュニティを守るというが、学校がなくなればコミュニティも壊れる。市として援助していくというが、約束できるようなことではない。この計画（案）はまち壊してはいいか。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
84	11.21(日)	天神山	発言者I	<p>天神山小学校で子ども教室を実施している。今年で9年目になる。</p> <p>天神山小学校は、市内で唯一トンネルを通して安全に通学できる。トイレの改修も実施したほか、特別教室を含み、エアコンも設置した。</p> <p>小規模校といわれる中で、小規模だとダメなのか、と思い、授業参観に伺った。6年生がパソコンを使用し、修学旅行のまとめを一生懸命発表していた。</p> <p>小規模校だからこそ育まれるものがあるし、小中連携教育も実施できている。英語教育も教員が一生懸命面白い授業に取り組んでいる。小規模校の方が、発表の機会も増える。何かを発表するということは、これから子どもたちが中学校、高校、大学と進む上で非常に大切だと思う。</p>	<p>通学について、市内のどの学校でも、子どもたちの安心安全を確保するため、地域の皆様のご意見を伺いながら、あらゆる手立てを講じる必要があると考えている。</p> <p>小規模校のメリットと課題については、認識している。教育委員会では一定の集団規模を確保することが重要と考えており、例えば発表の場面においても、その中で多様な考えに触れる機会が、より増加すると考えている。</p>
85	11.21(日)	天神山	発言者I	<p>現在の中学生の体格が大きいことを知っているのか。</p> <p>孫は身長172cmあり、とても大きいと思っていたが、運動会を見に行ったら、背の順で真ん中より少し後ろというくらい。同級生には180cmを超える身長の子もいる。</p> <p>そんな中学生と、身体の小さな、小学校低学年の児童がともに学ぶことができるのか。</p>	<p>施設一体型小中一貫校では、小学生と中学生が同じ学び舎で過ごすことになる。先進事例も参考にしながら、必要な対応を行っていく。</p> <p>例えば、階段の仕様について、低学年児童向けに統一したり、運動場の使用について、低学年児童と中学生が、互いに危険のないような運用等、方策を講じていく。</p>
86	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>要望だが、地域によっては、こういった計画（案）が出ていることを知らない人が多い状況。</p> <p>広報きしわだにおいても、適正化計画、とあるだけで、内容をわかっていない方が多いので、市の責任として、取組内容を全市的に知らせてほしい。市全体の問題であると考えべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
87	11.21(日)	天神山	発言者J	<p>学校の規模が小さいから統合していくということが題目になっているが、特にヨーロッパでは非常に小さい規模の学校をめざしている。おおよそ100～200人程度の学校規模である。</p> <p>この程度の規模は、教員全員が児童生徒全員の顔と名前を認識できる範囲の規模。これ以上になると、全員を覚えることは難しい。</p> <p>フィンランドでは莫大なお金を使い、平均的な学校規模を100人程度にしようとしている。また教員の質を高めるため、大学院を出た教員を確保することもしている。</p> <p>小規模校は教員全員が児童生徒全員を見ていける、大事な環境である。それを簡単に放棄してほしくない。</p> <p>不登校やいじめといった問題が全国的に増えている。それは大規模校で起きている率が多い。そこで学校へ行けなくなった子どもたちが、小規模校に転校することで、再び学校へ通学できるようになるといった例も多い。そういった救済の役目も持っている小規模校は、岸和田市にとっても宝。</p> <p>教育政策が先行している明石市では、文科省が35人学級化を発表する前から独自の35人学級を実施していた。児童生徒にも様々な援助をし、市も、子育てするなら明石市という宣伝をしていたが、今や不動産会社が、明石市は子育てしやすいということを宣伝するようになった。転入超過になり、財源も増えたということである。そういったことも考えてほしい。</p> <p>子どもの数が減っているのは事実なので、実際は子どもの取り合いのような状況であり、どの自治体も様々な工夫をしている。今の岸和田市のやり方では、むしろ転出が増える。</p> <p>大規模校で学力が上がるとい研究はない。小規模で、わからないところを一つひとつ理解できるよう、丁寧に指導することが大切。テストを増やしても意味がない。</p> <p>そういった愚直なやり方が、学力向上における最大の手法だと考える。岸和田市の宝である、落ち着いた学校を大きな学校に統合してしまうという考え方は間違っていると思う。</p>	<p>フィンランドの例を挙げられ、諸外国では小規模校の流れができていないのではないか、ということであったが、北欧諸国は高福祉高負担の国であり、税率が非常に高い代わりに公共施設を無料にするといった政策をとっているところである。国の考えとして、小規模化を進めているものと捉えている。</p> <p>先ほど宮古島と石垣島の例もあったが、学校のあり方を考えるときには、例えば人口密度や、学校の配置状況、地理的条件、あるいは人口構成要件等を踏まえるべきである。</p> <p>例えば、離島の中に1校だけ学校がある場合、その学校がなくなると、子どもたちが親元を離れて寮住まいする必要も生じてくるため、容易に学校の統合はできないということで、小規模での教育を進めているのではないかと推測される。</p> <p>岸和田市は岸和田市の人口状況や学校の配置状況を踏まえて考えていく必要がある。</p> <p>国の教育方針のあり方について、日本では文科省が手引きをもとに、適正規模・適正配置の考え方を示しており、公教育である以上、岸和田市も国の方針に則って、物事を判断していくべきと考えている。</p> <p>明石市の例については、先ほど申し上げたとおり、個々の自治体で学級規模の少人数化を進めていくことは好ましくなく、国の基準のもとに、しっかりと少人数学級を導入していくことが必要と考えている。</p>
88	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>教育長は、市独自での少人数学級導入に慎重な旨を述べるが、これは教育長個人の意見であって5名の教育委員の意見が反映されたものではないのではないか。</p> <p>岸和田市は、独自での25～35人学級を導入しないという考えに変わったのか。</p>	<p>教育委員の皆様とは、月に1回開催される定例教育委員会において、また日常的にも意見交換を行っており、少人数学級についての考え方についても賛同をいただいている。</p> <p>説明の中で、「私」という言葉を使ったが、個人の立場ではなく、教育行政を預かる教育長の立場で説明会に出席しているので、個人的な見解ではないということをご理解願う。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
89	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>以前の資料では、天神山小学校の児童数推計は令和8年の113人を最低とし、令和13年にかけて132人に増えることがあったが、本日の資料をみると、ぐっと減ることになっている。なぜか。</p>	<p>令和8年度から令和13年度にかけて微増する推計は、令和2年度時点での推計値である。令和10年度以降の児童数推計が、昨年度作成のものより大きく減少している理由は、令和元年度における天神山校区内の出生数が23であったことに対し、令和2年度では12と急減しているからである。</p> <p>この推計は、各校区に在住する0歳児から小学生が、転居をせず、その校区で年齢を重ねると仮定したものであり、例えば令和3年度時点の推計は、令和2年度に出生した0歳児が小学校1年生になる令和9年度までは、校区に実在する未就学児の人口を順に当てはめたもの。令和10年度以降は、直近における校区ごとの出生率を当てはめて算出した推計である。</p> <p>要するに、その年に出生した赤ちゃんが小学1年生となる7年後の推計までは、校区外の転出入がない限り、ある程度実数に近い推計値となるが、8年後以降の推計については、小学校1年生が現時点で出生していない児童数を見込むことになるため、その算出方法として、直近の出生数を参酌している。よって、直近の出生数が極端に減少した場合、以降の推計に大きく影響が生じるということである。</p>
90	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>岸和田市は100周年記念事業として、「泉州山手 未来への懸け橋プロジェクト」というものに取り組んでおり、まちづくり推進部市街地整備課の資料によれば、山直北地区と光明地区の事業計画に着手している。また貝塚市では約2kmの道路事業に着手している。泉州山手線は9.5kmだが、岸和田市と貝塚市を合わせて約5km弱、残りは熊取町の約3km、修斉・天神山地区の2km余り。いつ着手になるかは不明だが、岸和田市は全部やると考えているようだ。事業主体は大阪府だが。</p> <p>平成28年12月策定の泉州山手線沿道のまちづくりの方針で、市街地整備課は、天神山地区、太田地区、修斉地区の目標を記載しており、水道みちより山手側を天神山地区としており、「天神山団地等の周辺の良い住環境に最大限配慮した幹線道路沿道の環境づくりを進めます」と具体的に記載がある。8割程度は農業やみどりの保全地区とされているが、残る2割は何も書いていない。</p> <p>まだ具体的に決まっていないということは、住宅地になる可能性もある。実際に岸の丘町では現在61世帯が住んでいる。市の適正化計画（案）には岸の丘町の児童について具体的な数字は書いていないが、かなり増えていると聞く。20～30人は増えているのではないか。既に1年目で児童数の推計プランが破綻している。</p> <p>山直南小学校は、このままいけば10年間くらいは全学年2学級になるような状況。天神山ではまだわからないが、泉州山手線が延伸すれば、面積を考えると100～200戸程度の住宅が建つと考える。</p> <p>まちができて10年くらいは児童数が急増する。天神山小学校もそうだった。学年あたり4クラスの時期もあった。住宅が増加すると、天神山小学校も一時的に全学年2学級になる。30年後はまた減少すると思うが。</p> <p>10～20年後には天神山校区において児童数が急増すると市のプランで決まっているのに、なぜ今廃校するのか。また減少した段階で考えればよい。40年後か50年後かわからないが。</p> <p>なぜ市街地整備課は人口が増加すると知っているのに、教育委員会は調整をしていないのか。しっかりと住宅増加について調整しているのか。</p>	<p>岸の丘町において児童生徒数が増えるため、適正化は必要ないのでは、という点について、確かに丘陵地区のまちづくりが進み、住宅が建ち並ぶ中で、一時的には児童生徒数が増加する見込みだが、数年後には再び減少していくと見込んでいる。</p> <p>現在の実施計画（案）の中では、岸の丘町の実数値は入っていないが、現在、山直南小学校も小規模化する中で、適正化の対象校となっている。</p> <p>市街地整備課をはじめ、庁内関係課との調整について、実施計画（案）を策定するにあたり、様々な部局と協議を重ねており、今後も適宜協議・調整を行っていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
91	11.21(日)	旭太田	発言者A	<p>太田小学校区の神須屋町に住む、未就学児の保護者なのだが、スライド資料18ページにある、通学区域が見直される6人の中に含まれるということか。</p> <p>適正規模・適正配置の取組方針、旭小学校と太田小学校と常盤小学校の一部の児童が合わさって、通学区が変わることは何となく理解できたが、本来土生中学校へ進学するはずの6人だけが、葛城中学校に進学するとすれば、人数の割合からして少なすぎる。</p> <p>当該地域に住む人は、賃貸ではなく持ち家が多く、自宅を購入する際にも、我が子が太田小学校、土生中学校へ通学することを想定した上で購入していると思う。</p> <p>太田小学校の児童全員が、新たに葛城中学校に進学しなければならないのであれば納得できるが、少ない人数だけが太田小学校から分かれて進学してしまうことで、中1ギャップに+aの悪影響が生じるのではないか。</p> <p>常盤、旭校区を含め、通学区域の見直し対象地域で、調整区域を設けてもらえるのか。強制的な変更なのか、調整余地があるのか教えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、太田小学校区の通学区域の見直し対象者数は非常に少ない。今回の適正化計画（案）について、神須屋町が現在4つの小学校区に分かれていることを踏まえつつ、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案し、策定したが、あくまでもたたき台としての「案」である。</p> <p>現在の通学区域にある小学校、中学校へ通うことを想定した上で住宅を購入された方もいらっしゃるということも、承知している。</p> <p>調整区域の設定については、地域の皆様の様々など意見を伺いながら、十分に協議していきたい。</p> <p>この計画（案）のまま確定して、変更ができないというものではない。一方、教育委員会として、総合的な検討を経て策定した計画（案）でもある。今後、様々など意見をいただく中で、より子どもたちの教育環境向上に資するような計画（案）にしていきたいと考えている。</p>
92	11.21(日)	旭太田	発言者A	<p>ぜひ調整区域設定の方向で考えてほしい。近所では、実家が太田小学校区の流木町や畑町にある方が多く、住民票を実家へ移動させ、元来の学校へ通わせたいという保護者もいるため、実際は6人よりも減ってしまうことを危惧している。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
93	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>旭小学校区の神須屋町に住んでおり、子どもが現在小学校へ通学中なのだが、旭小学校と土生中学校へ通学することを前提に自宅を建てており、そうでなければここには建てていなかった。</p> <p>地域コミュニティに関して、神須屋町は旧有真香村に属するとあるが、現在でも旧有真香村のコミュニティは強固なものなのか。神須屋町内で、小・中学校が分かれていることは随分前から話だと思ふ。そのような中で、旧有真香村という話を出してくるのはこじ付けのように感じる。</p> <p>先ほどの方と同じ意見になるが、調整区域の設定を考えてもらえないかと思う。</p> <p>地域の皆様のご意見を伺う、とあるが、それはこの説明会の場での意見なのか。それとも、町会等の団体から意見を述べなければ聞き入れてもらえないのか。通学区域の見直し地域に住む人々に意見を聞かず、各町会が了承したから進める、ということでは、話が異なると思うので、教えてほしい。</p>	<p>現在の計画（案）をたたき台に、町会といった特定の団体に限らず、今学校へ通学している児童生徒の保護者の方々、今後通うことになる未就学児の保護者の方々等からご意見を伺う機会について、本日と次回回の説明会のみとは考えていない。</p> <p>今後も引き続き、地域・保護者の皆様からご意見を伺いながら、課題についての解消を図っていく。</p> <p>町会だけの了承を以て、取組を進めていくという考えではない。</p>
94	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>スケジュールについて、現在は確定したことが言えないというが、教育委員会として、いつ頃を「n年度」と想定しているのか。市で議案を決議して云々、ということはあるだろうが、それをいつ提出しようと考えているというくらいは言えると思う。</p> <p>時期によって、ちょうど小学校入学時にあたるか、中学校入学を控えた小学校高学年にあたるか、保護者としては一番気になる点である。確定はできないだろうが、現状の考えを聞かせてほしい。</p>	<p>先ほど述べたように、今後、各地域に入って意見交換を行う。その中で、地域の皆様と一定の合意が早期に至れば、スケジュールは早まる可能性もあるが、十分な協議が必要だと考えている。</p> <p>地域の皆様から、一定のご了承を得られれば、そこで初めて（仮称）学校開校準備委員会を設置できると考えている。準備委員会の発足後5年程度で新たな学校が開校することになるため、仮にスムーズに進んだとしても、令和10年頃の開校になると想定している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
95	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小規模校を統合するメリットは理解するが、既に旭小学校や太田小学校に通学している子どもが、新たな学校に通うメリットもない。先ほどの方々と同様、調整区域の設定を希望する。</p> <p>説明の中で、新しい学校ができれば、在学中の児童生徒は転校せずに卒業まで在籍できるよう検討するとあり、それはありがたいのだが、仮に兄弟で、上の子どもが6年生、下の子どもが小学校に入学という場合に、兄弟で違う学校へ通学することになるのか、ということもあるし、本人たちの希望で学校を選べる余地があった方が、地域としても、学校としてもトラブルなく進むと思う。</p>	【ご意見として承る】
96	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小中一貫校のメリットは理解でき、中1ギャップのことも、一貫した指導のこともわかるのだが、旭小学校や太田小学校から土生中学校へ進学する子どもも、そういった指導を受けられるのか。先ほどは、一貫校以外でも連携教育をさらに充実していくといった説明だったと思うが、そうならば、やはり旭・太田・常盤校区においては調整区域の設定を望む。</p>	岸和田市の11中学校区すべてで、小中一貫教育を導入していく方針。これまでも長年、中学校区ごとの小中連携教育に取り組んできたところだが、それを整理し、一つの目標を定めていく方向性である。旭小学校、太田小学校、土生中学校においても、小中一貫教育を推進していく。
97	11.21(日)	旭太田	発言者D	<p>旭小学校在学中の児童は、そのまま卒業できるという配慮をしていただけると理解するが、卒業後も、元来の土生中学校に進学させたい。</p> <p>もし、そのタイミングで（仮称）葛城小中一貫校へ進学するとなれば、これまでともに学んできた多くの友だちと別れ、少数の友だちとしか一緒に進学できないので、独りで中学校に挑むような格好になってしまう。</p> <p>中1ギャップの解消の意味がなくなってしまうので、考慮していただきたい。そうでなければ、例えば「小学校中学年のときに新しい学校に移ればよかった」という後悔も出てしまう。</p>	保護者の皆様が不安に思われる点について、皆様にご納得いただけるよう、解消に努めていきたい。
98	11.21(日)	旭太田	発言者E	<p>スライド資料22ページに図を示しているが、旭・太田小学校区の神須屋町が、（仮称）葛城小中一貫校へ新たに通学するとなっている。真ん中のあたりは多くが田んぼだと思う。この区分けは、単に番地で分けたのか。</p>	神須屋町が4つの小学校区に分かれている課題を受け、町として、一つの学校へ通学することが望ましいのではないかと考え、町全域をエリアで捉えたもの。
99	11.21(日)	旭太田	発言者E	神須屋町から要望があったのか。	過去、通学区域に関してご要望を受けた経緯はあるが、それだけではなく、教育委員会として、各学校の規模や配置バランスを踏まえてお示した案である。
100	11.21(日)	旭太田	発言者E	<p>流水水源地線沿いにある、鍵のような形のエリアは、実質流木町である。周囲は土生中学校区だが、その神須屋町部分だけが通学区域変更となるのか、それとも調整区域を検討するのか。</p>	<p>当該地域の児童生徒は、（仮称）葛城小中一貫校を通学区域とする案を示したが、現時点でのたたき台であり、保護者の皆様のご意見も踏まえて検討していく。</p> <p>また、通学区域の見直し対象地域には、他町の飛び地が多くあり、それらを含む一体のエリアとして捉えているので、その飛び地に住む児童生徒も（仮称）葛城小中一貫校を通学区域とする案になっている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
101	11.21(日)	旭太田	発言者E	先ほど、神須屋町は旧有真香村であったが、今回線引きされた地域は多くが土生郷村に近い。町会としては、土生町、畑町、極楽寺町、流木町に入っている実態があるので、そのあたりも考慮して検討してほしい。	総合的に鑑みて策定した計画（案）ではあるが、ご意見をいただいた部分も踏まえ、検討していきたい。
102	11.21(日)	旭太田	発言者F	地元は天神山だが、孫がこの校区の学校へ通学している。 小中一貫校と小中一貫教育は異なるというが、ごまかされている気がする。	小中一貫教育と小中一貫校を混同されないような説明に努めているが、再度説明させていただくと、これまで小中連携教育を小・中学校で常に行ってきたところ、同じ目標を持って、小中連携教育から小中一貫教育に発展させようというものが、小中一貫教育基本方針であり、小中一貫校を推進するものとは異なる。
103	11.21(日)	旭太田	発言者F	施設一体型小中一貫校では、小学生と中学生が同じ敷地で生活することになる。孫の住んでいる場所は通学区の見直し対象地域から外れているので、ほっとしているが、もし孫が通うことになれば非常に不安。 身長170～180cmの中学生と、100cmちょっとの小学1年生が同じ敷地で過ごすことに不安がある。安全にするとはいうが、どこまで対策してもらえるのか。	全国の小中一貫校における好事例も参考にし、適宜視察も行いながら、良い所を採用していきたい。 例えば、小・中学生がグラウンドを安全に使う上での工夫や、階段の高さを小学校低学年向けに統一するといったハード面での整備等が、先進事例ではみられる。 学校の安全対策については、今後もしっかりと対応していく。
104	11.21(日)	旭太田	発言者F	新型コロナウイルス感染症がどのように収束していくか不明で、再度感染者数が増加する可能性もある状況において、なぜこんな話を進めていくのか、と大学の先生が仰っていた。そのあたりも聞かせてほしい。	適正規模・適正配置の取組については、子どもたちのより良い教育環境の整備や、学校教育の充実を最優先に進めるもの。 新型コロナウイルス感染症拡大といった不測の緊急時において、子どもたちの三密を避ける対策と、現在進めようとしている適正規模・適正配置の取組は、異なるものだとして認識している。 コロナウイルス対策については、国や府のガイドラインを遵守し、各学校で対応しているとともに、どのような規模の学校においても適切に対応しているところ。
105	11.21(日)	旭太田	発言者G	今回は小中一貫教育の基本方針であって、小中一貫校に係る基本方針ではないということとはよくわかる。 しかしながら、方針本編の7ページに、「本市の小中一貫教育の推進に向けて、施設一体型小中一貫校又は施設隣接型小中一貫校の整備を図り、モデル事例として実施」とある。（仮称）葛城・山滝小中一貫校はモデル事例なのだ。 モデル事業というものは、上手くいかなければ元に戻すということも含めて、モデルだと理解している。 ただ、読み進めると「モデル事例での取組みを評価・検証し、将来的にはすべての中学校区において、小中一貫の教育を推進していきます」と記載がある。 つまり、モデルが上手くいけば、土生中学校区においても小中一貫校にするということ。 モデル事業が上手くいって10年後ぐらいになると思う。今の子どもたちは既に土生中学校を卒業しているが、その段階で土生中学校区も小中一貫校になると書いているのに、なぜ説明しないのか。	小中一貫教育基本方針に基づき、市内の小・中学校において小中一貫教育を推進することについては、決定事項である。 小中一貫校については、小中一貫教育を進めるにあたり、小・中学校の児童生徒が交流するための活動や、教員相互の交流、相互乗り入れ指導のことを考えた際に、小・中学校の物理的距離が離れているよりも、より近い、もしくは一つの敷地内に設置されている方が好ましいため、取組を進めようとしている。 ただ、小・中学校間の物理的距離が一定程度あり、また一つの敷地に小・中学校を設置できないといった制約がある場合、施設一体型ではなく、施設分離型での小中一貫教育を実施していく。 また小中一貫教育基本方針7ページについての表現に関して、現在の計画（案）で示している（仮称）葛城小中一貫校と（仮称）山滝小中一貫校については、施設一体型小中一貫校としてのモデル校という意味である。 施設一体型小中一貫校が設置される、されないに関わらず、モデル校を定め、そこから推進していくということなので、今後、よりわかりやすい表現を検討する。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
106	11.21(日)	旭太田	発言者G	<p>何となく、今の回答は分離型一貫教育の方にウエイトを置いたような内容に感じる。</p> <p>小中一貫教育は、広島県呉市が全国で最初に始めた取組である。呉市に赴き調査したところ、施設一体型の小中一貫校が4つあり、残る十数校は現在も分離型である。取組開始から20年が経過するが、未だそういった状況。</p> <p>東京都品川区は二番目に取り組み始めたが、ここも多数は分離型。なかなか施設一体型は難しい。</p> <p>呉市の方も、一般的に、保護者も分離型の方が望ましく思っていると言っていた。</p>	<p>例に挙げていただいた各自自治体においては、それぞれの地理的条件、面積、学校の配置等、本市と異なる点もある。</p> <p>岸和田市においては、分離型として進めていく小・中学校が大半だと考えているが、施設一体型として整備可能な学校があれば、総合的に検討していくことになる。</p>
107	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>小中一貫校の中には、荒れている学校もあると聞く。中学生が荒れているのを見て、それが小学5・6年生に波及してしまうこともあるので、岸和田市も他人ごとではないと思う。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
108	11.21(日)	旭太田	発言者C	<p>特認校制度で、少人数教育やICT教育とあるが、単純に人数を割ると、令和10～12年度では1学年で76、80弱となり、2クラスで考えると38人程度、支援学級の子どもたちを入れると、40人を超えることも考えられる。</p> <p>そんなパンパンの2クラスで、果たして少人数教育ができるのか、どういう想定なのか聞かせてほしい。</p>	<p>少人数学級と、少人数での指導は異なる。少人数学級については、これまでも国や府へ要望を重ねているところ。</p> <p>少人数指導については、これまでも学校ごとに実施しており、適正規模・適正配置の取組に関わらず、全市的に取り組んでいく。</p>
109	11.21(日)	旭太田	発言者B	<p>スケジュールについて、資料の中で、通学区域の見直しを含めて適正化した場合、と令和8年度からの児童生徒数が示されているが、これは令和8年度開校をめざしているということなのか。</p>	<p>令和8年度開校をめざしているということではない。</p> <p>客観的な数値を示すため、出来る限り直近での推計もお示ししている。</p>
110	11.21(日)	旭太田	発言者H	<p>こういった取組は大阪府で初めてなのか。</p> <p>どうして岸和田市で取り組むことになったのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組について、大阪府内でも先進的に各市が実施している。どちらかといえば、岸和田市はこのような取組の着手が遅れていた方だと認識している。</p> <p>それは、小学校区単位でまちづくりを進めてきたことや、地域性、歴史等、様々な理由があったからだと考える。</p> <p>今後、少子化による、更なる児童生徒数の減少が見込まれる中で、今取組に着手したとしても、早く令和10年の4月開校になり、これ以上先延ばしにすることは難しい課題だと考えている。</p> <p>教育委員会として、責任を持った公教育を実施する上で、今の段階から取組を進めていかなければならないと考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
111	11.21(日)	修斉	発言者A	計画（案）の説明では、メリットしか挙げられていない。デメリットはどのようなものがあるのか。	<p>適正規模・適正配置の取組を進めることにより生じる課題として、一部の小学校が閉校となる案のため、閉校する学校に通学している児童の通学距離が長くなることが挙げられる。</p> <p>教育委員会として、そのような通学環境が変わる児童に対し、安心安全を確保する対策は、最優先で進めなければならないと認識している。</p> <p>また、小学校が閉校となれば、これまで小学校区単位で活動してこられた地域コミュニティへも影響が及ぶと考えている。</p> <p>当該地域における、市民協議会等の活動について、学校再編に合わせて、活動単位を変更するようなことは考えていない。活動のあり方については、地域の皆様が主体的に判断するものと認識しているが、活動場所の確保等の支援については、市長部局と一体的に対応していきたい。</p>
112	11.21(日)	修斉	発言者B	いじめの改善等は、この計画（案）で小中一貫校にした場合、どうなるのか。	<p>学力だけでなく、生徒指導面でも効果が得られる可能性がある。</p> <p>小学校からいじめを引きずり、中学校に持ち上がってしまった際に、中学校側が詳細な情報を得られていなかった、というケースもある。小学校と中学校が連携する中で、解決に向けて取り組んでいく。</p> <p>施設一体型小中一貫校であるか否かに関わらず、小中連携を発展させた小中一貫の態勢で対応していくことが、効果的だと考えている。</p>
113	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>修斉小学校や天神山小学校が統合するということだが、元々人口が多い山直北地区、光明地区においては、市の都市計画に入っている一方、修斉地区、天神山地区は入っていない。</p> <p>今後、泉州山手線が修斉・天神山地区まで延伸する際には、児童数の増加も考えられると思う。</p> <p>そこで、両校を統合するにあたって、学校の跡地はどのように運用するつもりなのか。</p>	<p>小学校は、地域の皆様に様々な形で利活用されてきたと認識している。</p> <p>仮に学校が閉校となった際の跡地活用についても、地域においては、例えば活動場所として必要だ、といった様々なご意見があるかと思う。しっかりと意見交換を重ねながら、教育委員会と市長部局が連携し、対応していく。</p>
114	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>開発等は未来の話なので予想は難しいところだが、修斉・天神山地区における今後の児童数は減少していく、という前提に立った教育委員会の考え方ということではどうか。</p> <p>道路の延伸による、児童数増加は考えていないのか。</p>	<p>教育委員会だけでなく、市長部局のまちづくり関係課とも協議しながら、実施計画（案）を策定している。</p> <p>仮に、大きな開発が急に進むことになり、児童生徒数が急激に増加するということが見込まれるれば、再検討が必要になる可能性はあるが、現時点では、そこまで児童生徒数が増加するというのではなく、逆に減少傾向が続くと見込んでいる。</p>
115	11.21(日)	修斉	発言者D	修斉小学校の耐震工事はいつ行われ、費用はどれくらいかかったのか。またトイレ工事においても、時期と費用を教えてください。	<p>手元に資料がなく、工事費については把握していないが、耐震改修は完了している。</p> <p>トイレについても、一部洋式化が進んでいる。今年度も、3基だけだが、洋式化を実施する。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
116	11.21(日)	修斉	発言者D	<p>費用がいくらかかったかを知りたかったが、恐らくたくさんかかったのだと思う。 100年以上の歴史がある修斉小学校が、きちんと修繕され、子どもたちが快適に過ごせる環境となっていることは、感謝する。 それなのに、なぜ突然閉校することになるのか。1クラスの人数が少なければ、子どもたちにより行き届いた教育ができると思う。 コロナ禍において、保護者も、子どもも、教員も不安でいっぱいである。不登校も増加していると聞く。そのようなときに、通い入れた学校をつぶすなんて考えられない。 統廃合をすれば、学校が遠くなり、中学生が怖くて学校へ行けなくなる子どもが増えると思う。良いことと思えない。一旦計画を凍結してほしい。</p>	<p>学校には歴史と伝統があり、地域の皆様に見守ってきていただいたということは十分に認識している。 しかしながら、教育委員会としては、学校に通う子どもたちが、最良の教育を受けられるよう、子どもたちの教育を最優先すべきだと考えている。 小規模化が進展する学校の児童生徒のことを考えると、教育環境のさらなる充実、持続可能な教育環境づくりのため、現段階から適正規模・適正配置の取組が必要だと考えている。 小規模校のすべてを否定するものではなく、メリットもあると認識しているが、児童生徒が今後、高校、大学、社会へ出ていく中で、たくましく生き抜く力を育むため、小・中学校のうちから一定の集団規模を確保することが、教育委員会の責務だと考えている。 また、費用をかけて施設を修繕したのに、という点について、この取組に関しては、地域の皆様の意見を十分お聞きし、例え（仮称）学校開校準備委員会が設置された場合でも、そこから5年程度かかる、長いスパンの取組だと認識している。 適正化対象校だから、在学中の児童生徒の教育環境を放置する、ということではなく、在学中の児童生徒のためにも、現状できる限りの環境整備が必要だと考え、これまで取り組んできている。 また、小中一貫校において、中学生が怖い、という児童が出てくる可能性は考えられる。設置にあたっては、児童生徒の安心安全を第一に考えるべきだと認識しており、小学1年生から中学3年生までが気持ちよく学校へ通えるよう、先行事例の研究を重ねていく。</p>
117	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>今回の説明会は、単独の校区が対象となっているが、今後、例えば修斉校区と天神山校区や、通学区域見直し対象の門前町等を含めた合同での説明会が必要だと思う。検討可能か。</p>	<p>今回の実施計画（案）地域説明会は、小学校区単位で2回開催しているが、この2回で終わりということではなく、今後、各地域に入って引き続き協議していく予定である。 その際に、校区単位で実施するのか、ご提案いただいたような形で実施するのかを含め、地域の皆様のご意見を伺いしながら検討していく。ただ、地域により協議の形も異なってくると考えているため、現時点では実施形式を確定させていない。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
118	11.21(日)	修斉	発言者E	<p>冒頭、教育長から、少子化により、小・中学生の数がピーク時から半減していると説明があった。そのことは自分も感じており、広報を見るたびに人口が減っていることを、危機的だと認識している。</p> <p>一方、都市計画があるのであれば、今後人口を増やしていくことも検討しているのだと思う。</p> <p>岸和田市では、地域で活発に、長い歴史の中で継続してきただんじり祭があり、それを支えてきたのは地域。</p> <p>ただ、今後2期計画、3期計画と続き、結局岸和田市で11の中学校を6校にして、24小学校を何校にするのか、ということがわからなくなってきた。そんな状況で、子育て世代が岸和田市で子育てをしようとは思えないのではないか。</p> <p>人口が減って子どもが減ってきたから統合するという、安易な考え方であり、計算は成り立つのかもわからないが、子育てしにくい岸和田市ということが浸透し、子育て世代が入ってこない、税収は伸びない、高齢者ばかりと、市がより過疎化していく、住みにくくなっていくのではないかと心配している。</p>	<p>岸和田市の人口減少状況を市長部局で分析したところ、大阪府内他地域に比べて、特に30代前後の子育て世代における社会減が目立つという結果であった。対策として、教育、子育て面に、より力をいれていく必要があると分析しており、教育委員会としても同じ考えである。</p> <p>その状況において、なぜ小・中学校の適正規模・適正配置の取組を進めるのか、それは逆ではないか、というご意見だと解するが、教育委員会としては、小・中学校の数を残し、小規模校における課題を放置することが、果たして教育の充実なのか、という点に重きを置いており、教育の充実に向けてには、やはりこの取組が必要だと考えている。</p> <p>国の方針にもある、主体的・対話的で深い学びを進める上で重要な、集団活動・学習ができなくなることへの危機意識を強く持っており、岸和田市の教育レベルを向上させる上でも、適正規模・適正配置の取組が不可欠であると認識している。今後も、地域や保護者の皆様と十分に話し合い、より良い方向性を見出していきたい。</p> <p>なお、中学校の数が6校に減るという話があったが、中学校区を超えて再編することは考えておらず、11校のままである。仮に現状の計画（案）どおり取組が進んだとすれば、小学校が6校閉校となるため、小学校の数は18校になる。</p>
119	11.21(日)	修斉	発言者E	<p>中1ギャップに関して、小中の連携の大切さはよくわかる。小学校でのいじめを中学校で引きずらないように、順調に教育が受けられるように、小・中学校の教員が協力・連携することは理解できるものの、小中一貫校にしていく意味はないのでは。</p> <p>イメージ図を見ても、1つの運動場を小・中学生で共有するとすれば、中学生が部活動をするから小学生は早く帰らなければいけない、ゆっくり遊ぶ時間も場所もない、というような、お金をかけない、付け焼き刃な印象を受ける。</p> <p>子どもは一人ひとりが大切にされることが求められる。小規模であることでのデメリットはあると思うので、そこに対して丁寧に話し合う中で、最終的に統合ということなら理解できるが、今の進め方は、上からすべて決めて、というもの。説明も進めていくことが前提のものにしか聞こえない。このまま岸和田市が子育てしにくいまちになるのではと不安。</p> <p>コロナ禍で小・中学校の課題も大きくなる中、今この時期にしなければならぬ取組とも思えない。白紙撤回を求める。</p>	<p>中1ギャップについて、「中1ギャップとして一括りにしていいのか」という意見もある。ただ、文科省において中1ギャップという言葉を否定しているわけではないため、岸和田市小中一貫教育基本方針内でも使用しているところ。</p> <p>小学校から中学校に進学する際の、様々な環境変化への対応が重要だと認識しており、少しでもスムーズに小・中学校の受け渡しをすることが望ましく、その上で、施設分離型、施設一体型という形態に関わらず、11中学校区すべてにおいて、小中一貫教育を推進することが大切だと考えている。</p> <p>なお、施設一体型の方が、児童生徒や教員の移動が容易といった、物理的なメリットがあり、効果は期待できると認識している。</p> <p>なお、小中一貫校における運動場等の施設について、資料で示したのはあくまでもイメージ図である。計画（案）どおり進めていくことになれば、設計段階において、校舎のレイアウト、小・中学生の活動場所確保についてもしっかりと検討していく。</p> <p>また、適正規模・適正配置の取組と、コロナウイルス等による不測の緊急時において三密を避けることはまったく別の取組であると考えている。</p> <p>感染症対策については、学校の規模に関わらず、国や府のガイドラインに基づき、適切に対応しているところ。今後も継続していく。</p>
120	11.21(日)	修斉	発言者F	<p>学校が統合された場合、自動的に児童数が増えるが、例えば災害が起きて、保護者が迎えに行かなければならない状況となった場合、現在の葛城中学校に保護者がすべて集まれば、パニックが起きる状況になると思うが、そのあたりは課題として挙がっているか。</p>	<p>岸和田市内の小・中学校は、現在すべて避難所に指定されている。このことを含め、実施計画（案）策定に際しては、危機管理部門をはじめとする市長部局と協議を重ねている。</p> <p>災害の規模にもよるが、今ご指摘いただいた内容についても、今後、計画（案）をより具体化する中で、協議していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
121	11.21(日)	修斉	発言者F	<p>適正規模・適正配置の取組の目的として、国基準での教員を確保することを挙げていたが、例えば市の保育所では職員数を国基準よりも少し多めに配置している。そういったお金の使い方ができないのか、と思うがどうか。</p>	<p>岸和田市では、小学校で段階的に35人学級編制にするという、国の基準に従い、対応している。</p> <p>市単費で教員加配をすればよいのでは、というご意見をいただいたが、例えば東京都のように財政的に余裕のある自治体は、国の基準を超えて、30人学級編制等が可能、一方で資金の乏しい自治体はそれができない、というアンバランスを生むことが、公教育のあるべき姿なのかということを考えると、それは好ましくないと考えている。</p> <p>より一層の少人数化が必要であれば、国の標準として、国が措置すべきであって、市町村により差異が生じることは、公教育の公平性を損なうものであると考えており、財政状況に関わらず、市町村単独での対応はすべきでないと考えている。</p> <p>一方、少人数学級の必要性は理解しているので、国や府に対し、これまでも機会あるごとに少人数学級の実現について求めてきた。今後も、国が、国の責任において対応すべきということ強く求めていく。</p>
122	11.21(日)	修斉	発言者F	<p>では、現在岸和田市から国に対して基準を見直すべき等、具体的に呼びかけ・問いかけをしているのか。</p>	<p>例えば、府内の教育長が集まった、都市教育長会議の中で、国・府に対して30人学級を実現すべきという具体的要望を実施しているところ。</p>
123	11.21(日)	修斉	発言者G	<p>幼児教育を含めた一貫教育について、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めていくとあるが、仮に学校が統廃合された場合、そこにある幼稚園はどうなるのか。</p>	<p>現在、今回の地域説明会とは別に、幼稚園と保育所の再編に係る説明会を順に実施しているところ。</p> <p>小学校が閉校となる予定の場所にある幼稚園について、幼稚園だけが残るということは考えていない。</p> <p>幼稚園と保育所の再編と、小・中学校の再編とで、連携を取りながら取組を進めていく。</p>
124	11.21(日)	修斉	発言者G	<p>小中一貫校の設置場所を、なぜ葛城中学校にしたのか。老朽化も進んでおり、廃校のような見方で魅力を感じない。安易に中学校があるから、とその場所を設定したのか、他に財政的な理由があって設定したのか。</p> <p>もし小中一貫校を設置するのであれば、子どもたちが通いたいと思える、もっと魅力のあるものにすべくお金を使ってほしい。</p>	<p>今回の実施計画（案）については、各学校の規模、配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案し、中学校区を基本的な適正化単位としてお示したところ。</p> <p>例えば、中学校同士を統合することになれば、かなり広範囲な統合になるため、小学校を閉校するよりも、さらに影響が大きくなる。</p> <p>葛城中学校の中には、確かに老朽化が進む校舎もある。今回の取組に際しては、そのような校舎の建替も含めて、小中一貫校として魅力のある学校施設に向けて検討していく。</p> <p>また、学校の閉校に際して生じる、ランニングコスト等の財政的効果については、教育の充実に再投資していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
125	11.21(日)	修斉	発言者H	<p>（仮称）葛城小中一貫校の魅力がない。隣接する和泉市では、すでに小中一貫校を1校新設しており、もう1校も建設が始まっている。さらにもう1校についても、設置に向けた地域との協議中である。設置済みの学校と、建設中の学校について、前者は実際に伺い、後者も図面を見たが、実態は不明も、見る限りでは非常に魅力的。これなら新しい学校がいいな、と思えるような学校。</p> <p>岸和田市はお金がないのかわからないが、新校に魅力がない。ただ、今年の岸和田市は黒字なのだが。</p> <p>先ほど質問に挙がっていた泉州山手線については、教育委員会の管轄ではなく、十分に答弁できなかったのだと思うが、市の市街地整備課のホームページにプランが掲載されており、修斉・天神山・太田校区に関する計画ができています。まだ実施はされておらず、山直北・光明校区だけが実施されている。</p> <p>太田・天神山は1項目だけだが、修斉校区に関しては3項目の記載がある。その中に「周辺の地区と連携出来るよう、地区の拠点としてふさわしいまちづくり」つまり、太田・天神山と合わせた3校区の中心になるのだとある。現在の岸和田港塔原線と泉州山手線の合流地点が拠点になるようだ。ため池を買収し、そこに綺麗で魅力ある学校を新設すれば別の意識も出てくると思うが。</p> <p>小学校はコミュニティの拠点である。例えば学校がつぶされても、新しい学校が地域コミュニティの拠点となるような学校にしてくれればよい。それが（仮称）葛城小中一貫校になるということだが、魅力あるものになっていないことが問題。</p> <p>自分は反対の立場だが、万が一進めることになれば、そこまで考えるべき。</p>	<p>岸和田市は令和2年度決算において単年度黒字であったが、市の財政状況をみると、経常収支比率、通常入ってくるお金と、通常出ていくお金がどれくらいかの割合か、というものが、100%ギリギリという状況。財政的に望ましいのは70～80%だとされているので、本市は非常に苦しい状況である。</p> <p>令和2年度決算は黒字化したものの、国からのコロナ対策交付金があり、多くの事業ができたということに加え、現在市が持っている土地・財産を売却しながら、なんとか収支を合わせている状況。これが令和8年度には、財産が売り尽くされ、再び厳しい状況となる見込みであるため、他の自治体はともかく、本市に十分財源があり、なんでもできる状況ということではないと、財務部から説明を受けている。</p> <p>一方、今回の改革によって、生まれる改革効果については、教育・保育の充実に優先的に再投資することを市長と約束できており、（仮称）葛城小中一貫校についても、老朽化した校舎について新たに建替えよう、設備のリニューアルが必要なところは改修しよう、ということで予算を投入することについても市長と合意できている。</p> <p>地域や保護者の皆様が、できて良かった、きれいな校舎になった、子どもたちが快適に過ごせる、と思えるような学校施設にしていきたい。その際には、地域、保護者、子どもたちといった様々な立場からのご意見をいただきながら、具体化を図っていく。</p>
126	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>市長との約束ということについて、市長が変われば状況も変わると思う。口頭の約束なのか。</p>	<p>首長がいつ変わる、教育長がいつ変わる、ということはわからないが、現市長及び現教育長においては、市議会で、同様の旨を答弁している。</p> <p>議会での表明については大変大きなことであり、議事録にも掲載される。単なる口約束とは異なる。</p>
127	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>改革効果の再投資ということについて、修斉小学校や天神山小学校が閉校となった場合、それらの学校経費がなくなるので、その分を新しい学校へ持ってくるのだと思うが、学校跡地について、例えば第三者に売却するということはないのか。</p>	<p>小学校は、地域コミュニティの核であり、避難場所や地域活動の拠点として活用されていることから、今後跡地活用については地域の皆様と十分に協議し、方向性を考えていきたい。</p> <p>他校区の説明会でも同様のお尋ねがあったが、その場においても、地域の意向を無視して、一方的に売却するという姿勢は持っていないという旨を明確に説明した。そういった姿勢で、皆様と協議していきたい。</p>
128	11.21(日)	修斉	発言者C	<p>学校跡地に関する姿勢についても、市議会の場で話をしてもらうことは可能か。</p>	<p>議員からの質問があれば、答弁する義務があるため、その旨を答弁することになる。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
129	11.21(日)	修斉	発言者F	<p>小学校では、通常学級と、支援学級を利用する児童がいると思う。支援学級を利用する児童の中には、環境の変化に敏感で、慣れるまでに時間がかかる子どもがいる。</p> <p>修斉小学校であれば、小規模であったり、保育所があったり、地元出身の保護者なら地域を熟知していたり、とおおよそ対応可能だと思うが、在学中に（仮称）葛城小中一貫校が設置された場合、環境の変化に敏感な子どもに関しては、大規模な学校への適応が難しいように思う。</p> <p>計画自体には賛成も反対もないが、そこについての配慮や、職員配置については資料に1行あるだけだったので、そこまで討論していないように感じる。そのあたり話し合いはあったか。</p>	<p>小中一貫校か否かに関わらず、支援を必要とする児童生徒への対応については、これまでも、これからも必要なものと認識している。</p> <p>小中一貫校では、環境変化の部分で、小・中が一緒になることで、よりスムーズになる可能性もある一方、別途問題が生じる可能性もあるため、支援を必要とする児童生徒に対しては、人材配置面も含めたより一層の対応を検討しており、討議に関しても、関係課を交えて実施してきている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
130	11.22(月)	山直南	発言者A	<p>包近町会として、計画（案）の内容を回覧するとともに、町民アンケートを実施し、100件を超える多くの回答を得た。</p> <p>この計画（案）どおり進むと、山直南小学校が事実上廃校となる。そのことをどう考えるか、という項目について、72%の方が、山直南小学校を残すべきであると回答した。計画（案）どおり実施すべき、という回答は13%弱であった。</p> <p>小中一貫教育についてどう考えるか、という項目について、小中一貫教育が良い、とした回答は20%弱であり、必要ないとした回答が42%強、内容がわからない、説明が聞きたいという回答は27%強であった。</p> <p>以上のように、現時点では教育委員会の提案に対し否定的な意見が大多数という結果。意見を含めた詳細なアンケート結果については、教育委員会へ提出の上、別途回答を求めていきたい。</p>	<p>町会においてアンケート調査を実施していただき、感謝する。その中のご意見についても参考にしながら、より良い計画（案）の策定に向けて取り組んでいく。</p>
131	11.22(月)	山直南	発言者A	<p>山直南小学校が廃校になる計画（案）ということで、小学校区を基本的単位とする山直南連合町会がなくなることになる。</p> <p>市ホームページにある、計画（案）に関するQandAでも、小学校区がなくなると、地域コミュニティ活動に影響があることは理解するが、学校は何よりも子どもたちの教育の場ということが最優先であり、今回の計画はその考えに従った不可欠な取組である旨、コミュニティ活動への影響については、可能な限り地域の意見も踏まえ、市長部局と連携して検討し、引き続き活動を支援する旨の記載がある。</p> <p>小学校がなくなり、連合町会がなくなる前提として、現時点で市長部局とどのような協議をしているのか。</p>	<p>市民協議会や連合町会については、自治振興課が所管しており、計画（案）策定前の段階から、協議を行ってきた。</p> <p>仮に小学校が閉校になったとして、地域コミュニティの組織を、それに合わせてなくす、ということは考えていない。市民協議会や連合町会のあり方については、地域の皆様が主体的に判断していくことであり、その中で、行政側もサポートに努めていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
132	11.22(月)	山直南	発言者A	<p>包近町、山直中町、稲葉町、積川町は、明治22年に合併し、山直上村として発足した。その時点ですでに小学校はあったと思うが、それ以降、戦後岸和田市と合併して以降も、山直南地区として130年にわたり一体感を保ちながら存続してきた。</p> <p>一体感を保つバックボーンとして、歴史や地域性もあるが、何よりも同じ小学校に通ってきた、人的なつながりが非常に大きい。</p> <p>これを小学校が分割され、義務教育9年間で別々に育ってきた人間が、同じ山直南連合として活動できるかといえば、極めて難しいと思われる。地域の判断に任せると言われても、現在のあり方を維持することは不可能である。</p> <p>包近町の児童は（仮称）山直小学校に通学するとなっているが、大半が市街化区域である山直地区とは地域性が異なる。</p> <p>泉州山手線が延伸される中、沿線の三田町、岡山町は市街化調整区域だが、都市計画見直しも並行して進めると聞いている。聞くところによれば、都市計画見直しにより、三田町、岡山町はほぼ全域が市街化区域に変更される。一方で、包近町は市街化区域への変更予定がないとも伝え聞く。</p> <p>そうなれば、ますます山直地区と山直南地区の地域性、土地柄は異なってくるように思う。小学校区というものは、ある程度同じ地域性の子どもたちが通うことが望ましいと考えている。</p> <p>資料によれば、令和8年度の（仮称）山直小学校は児童数908人の見込みだが、そのうち包近町と山直中町の児童は70人、割合にして僅か8%弱。土地柄の違う地域で育った子どもたちが大多数の小学校に、僅かな、いわば田舎育ちの子どもたちが遠い距離を通学することは不自然だと思わざるを得ず、現案は単なる数合わせに見える。</p>	<p>現在、包近町と山直中町の児童は、山直中学校に進学し、稲葉町と積川町、岸の丘町の児童は、山滝中学校に進学しており、小学校で一緒に過ごした児童が、中学校進学時に2校に分かれている。このことは、教育委員会としても課題として捉えている。</p> <p>今回の実施計画（案）については、そうした現状、各学校の規模、配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑みた結果、中学校区単位での再編が妥当ではないかと考え、策定したものである。</p>
133	11.22(月)	山直南	発言者A	<p>市長部局と連携して取り組んでいるとしているが、三田町、岡山町までが市街化、そこから南は市街化を抑制するという、都市計画部局のめざすまちづくりとは異なる考え方で、教育委員会が計画（案）を出している。どこを連携しているのか。</p>	<p>まちづくり関係部局との調整は、随時行っている。</p> <p>教育委員会としては、市街化区域及び市街化調整区域の範囲よりも、学校における一定の集団規模を確保するために、こういった形が望ましいのかということ、子どもたちの教育環境を最優先に考えながら、計画（案）を策定した。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
134	11.22(月)	山直南	発言者A	<p>計画（案）によれば、（仮称）山直小学校は令和8年度で23学級とあり、ゆくゆくは減少するとしているが、基本方針で示す小学校の適正規模を超えている。</p> <p>一方、（仮称）山滝小中一貫校の小学部については、令和8年度以降も6学級が続くとある。岸の丘町の住宅開発により、児童数の増加も見込まれるが、それがひと段落すれば、長期的な児童数は減少が見込まれていくということである。</p> <p>また、教育委員会は、1クラス10数人程度にまで小規模化が進むと、集団的な活動への影響や、対話的学び、大きな集団への適応性に関する課題が生じるとしている。</p> <p>それならば、包近町と山直中町を合わせて令和13年度で42人と見込まれる児童がいるのだから、それを（仮称）山滝小中一貫校に通学するというにすれば、長い期間にわたり、1クラスあたり一定の人数が確保された学校ができ、教育委員会の考える、適正規模により近い環境が末永く続くのではないかと思う。</p> <p>（仮称）山直小学校の大規模化抑制にもなる等、教育委員会の理想に近い形になると思うが、いかがか。</p>	<p>今回の実施計画（案）では、現在山直中学校へ進学している包近町と山直中町の児童については、小学校から（仮称）山直小学校へ通学するという内容を提示している。</p> <p>それに対して、例えば地域として、包近町と山直中町の児童が、小学校から（仮称）山滝小中一貫校へ通学する方が好ましいということであれば、地域・保護者の皆様と協議し、検討していきたい。</p>
135	11.22(月)	山直南	発言者B	<p>適正規模・適正配置という名目の計画となっているのに、この案でいけば、（仮称）山滝小中一貫校において小規模による課題が解消されない。資料にも、規模を確保できない旨記載している。課題の解消方法があいまいだと感じる。</p> <p>小学校統廃合の問題と、小中一貫校の問題は別として考えてほしい。単なる数合わせのために、一部地域だけ小中一貫校にしてしまおうという考えが見える。小中一貫校は、市として1校、モデル校を新たに建設し、成果を見極めた上で進めてほしい。和泉市もそのようにしている。</p> <p>小学校・中学校ともに適正規模・適正配置が達成できない、中学校では専任教員の配置もできないような計画（案）をどうして出すことになったのか、不思議でならない。</p>	<p>計画（案）における（仮称）山滝小中一貫校については、小学校部で6学級、中学校部で3学級と記載しているが、岸の丘町では開発が進み、約270世帯、1,000人規模のまちが完成すると伺っているため、今後は、現在記載している学級数から増加すると見込んでいる。</p> <p>一方、それでも12～18学級の適正規模に至ることは、難しいと見込んでいる。その対応の一つとして、現在東葛城小学校で取り組んでいる、特認校制度の導入を検討しており、市全域から小中一貫校を希望する児童生徒を募集することを考えている。</p> <p>なぜ、取組を実施しても適正規模に至らない計画（案）を示すのか、という点については、現状の各学校の規模、配置バランス、通学距離、地域コミュニティを総合的に鑑みの中で、中学校区を超える再編は好ましいものではないと判断したため、今回の計画（案）を策定したところ。</p>
136	11.22(月)	山直南	発言者B	<p>小中一貫校の問題は別として、小学校の統廃合を仮に実施するのであれば、この地域を中心に統廃合が望ましいと思う。</p> <p>山直南小学校をつぶすということに納得がいかない。山滝小学校や東葛城小学校の方が規模が小さいのだから、山直南小学校の場所に統合すればよい。</p> <p>説明の中にもあったように、今後さらに児童数が増える要素もある。何も小さい学校地域に行くことはない。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
137	11.22(月)	山直南	発言者C	<p>「適正化」と「小中一貫校」を並べた計画だと捉えている。まず、適正化とはいったい何なのか。また、小中一貫校と適正化を同じ計画の中で考えるべきかどうか、という点に疑問を感じる。</p> <p>取組のメリットは理解するが、デメリット、マイナス面も多いと思う。例えば150年の歴史を持つ小学校をなくしていいのかどうか。我々からずっと上の世代の方から、今子どもを通学させている保護者の方々、特に最近感じるのは、この学校を卒業した保護者が、我が子をこの学校へ通わせたいと、帰ってくるのが非常に多い。</p> <p>この学校の良さとして、ある校長先生は全児童の名前を覚えており、山滝中学校でも然り。確かに小さな学校ではあるが、他市で教員として働いていたときでも、山滝中学校は岸和田以南でトップクラスの学力だと聞いていた。現在岸和田市全体の学力は随分下の方だとあったが、地域性があるので、平均すればそうなるのだと思う。</p> <p>学校教育、家庭教育、社会教育だけでなく、行き帰りの見守り隊とのコミュニケーションもあり、非常に良い校区だと思う。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
138	11.22(月)	山直南	発言者C	<p>（仮称）山滝小中一貫校は、各学年1クラスの小中一貫校ということに加えて、認定こども園を併設ということだが、大きな学年差が生まれる。</p> <p>現在山滝中学校では、屋外の運動部が少ないが、放課後、中学生が部活動をしている中、小学生が遊ぶ場所はないと思う。時間帯の差はあると思うが、そこに認定こども園の園児の帰宅時間が重なれば、非常に危険だと思う。どのように考えているのか。</p>	<p>現在の計画（案）では、（仮称）山滝小中一貫校に認定こども園も併設するとしており、山滝中学校の敷地の中で、建物の高層化や、小・中学校間で運動場を使う時間、場所を区切るという対応を検討している。</p> <p>一方、現時点で計画（案）に記載していないが、山滝中学校の向かいに位置する山滝プールについて、夏の酷暑による利用率減少や、老朽化、授業実施が天候に左右されるといった課題がある中、社会体育施設のあり方についても検討しており、プールや、閉校となった場合の山滝小学校跡地についても、今後条件が整えば、活用を検討したい。</p>
139	11.22(月)	山直南	発言者C	<p>スクールバスの導入を検討しているようだが、最近関連の事故がよく起こっている。</p> <p>また、見守り隊の方々との交流もなくなってしまう。家庭や学校だけでなく、地域に住むおじいちゃんやおばあちゃんとの交流も大切。バス通学が本当に望ましいことなのか。</p>	<p>仮にこの計画（案）が進むと、現在山直南小学校に通学している児童が、さらに遠い距離を通学しなければならないことになる。教育委員会として、子どもたちの安心安全を確保できないまま取組を進めていくことは考えておらず、安心安全の確保を最優先に、各地域との均衡にも配慮しながら、スクールバスの導入を検討していく。</p> <p>国では、小学生で4km以内、中学生で6km以内の通学距離を目安として示しているが、現在の岸和田市内では、路線バスで通学している一部地域を除くと、およそその児童生徒が2km圏内から通学している。</p> <p>国の基準だけでなく、道路状況や交通事情を鑑みつつ、地域や保護者の皆様とスクールバス導入についての話し合いを重ねていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
140	11.22(月)	山直南	発言者D	<p>親子4代で、山直南小学校へ通ってきた。</p> <p>包近町・山直中町が山直北校区へ行き、稲葉町・積川町が山滝校区へ行くということではなしに、包近町・山直中町・稲葉町・積川町を山直南小学校区に置いたまま、山滝中学校や山滝小学校、山直南小学校という名前でもなく、ゆめみヶ丘小中一貫校という形で整備することは考えていないのか。</p> <p>本日来ている職員が、教育委員会に勤めて何年になるかはわからないが、150年の歴史がある山直南小学校をなくすということは、この地域の住民はまったく考えていない。教育委員会が何を言おうと、皆が反対。</p> <p>説明を聞いていても、数字で表していることが正確なのかどうか。「そうであろう」ということでないのか。</p> <p>ゆめみヶ丘の新興住宅が約270軒あり、1世帯あたり2人子どもがいると仮定すれば、約500人の子どもが増える。少子化の中、子どもが1人の家庭があっても、一方で3、4人という家庭もある。そのあたりのことを考えるべき。</p> <p>次回、11月28日にも説明会があるらしいが、いくら説明を受けても、この地域から学校をなくすことは到底考えていない。ここに統合校を設置すればよい。どうして多いところが少ないところへ行かなければいけないのか。</p> <p>過去、大沢町に山滝小学校分校があったが、その後、皆がバスで山滝小学校へ通うことになった。なぜかといえば、児童数が減ったから多いところへ行くと。それならば、やはりこの地域に小中一貫校を設置すべき。小中一貫校自体に反対しているわけではない。</p> <p>また、山直南小学校の付近には土地が多くある一方、山滝中学校は狭いということについてもよく考え、再検討願う。</p>	<p>ゆめみヶ丘において、約270世帯、1,000人規模のまちが完成するということは承知している。</p> <p>本日お示した、令和3年度作成の児童数推計は、令和2年度に生まれた赤ちゃんが小学校へ入学する令和9年度までは、地域に住む子どもの実数から算出しており、令和10年度以降は、地域における出生率を掛け合わせながら算出しているもの。</p> <p>現状では、ゆめみヶ丘における最終的な世帯数、おおよその人口のみ把握しているが、今後、より多くの子どもが生まれる可能性もある。一方、現時点でこちらから提示できる推計としては、今回お示したものとなる。</p> <p>なお、山直南小学校が、非常に歴史が深い学校だということは認識している。今回の計画（案）をお示しする中で、地域の皆様が反対することは理解するが、子どもたちの教育を考えたときに、市内の小学校を小規模のまま置いておくとすれば、今後ますます小規模化が進んでしまう。現段階から、適正規模・適正配置の取組に着手することが必要だと考えている。</p>
141	11.22(月)	山直南	発言者E	<p>資料の中に、牛滝の谷地域とあるが、どこからどこなのか。</p>	<p>岸和田市の最上位計画である総合計画や、都市計画マスタープランで、市域を6つの地域に分けており、その中にある牛滝の谷地域は、山直南校区を含む、山滝中学校区、山直中学校区をさす。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
142	11.22(月)	山直南	発言者E	<p>稲葉町は、稲葉城の城下町であった。山直地区は今木町のあたりまで広がり、非常に広がったため、山直上地区と山直下地区で分けられた。山直上地区は山直南小学校、山直下地区は山直北小学校となっている。包近町と山直中町は、当初は久米田中学校へ通学しており、山直中学校創立によって山直中学校へ通学する、という変遷であった。</p> <p>岸和田市は来年度で100周年と聞く。山直南小学校は150年の歴史があり、市より歴史が深い。それが、廃校になるという。山直南校区の稲葉・積川・岸の丘・山直中・包近町もバラバラになる。そんな場所に住もうと思うか。校区というものは、重要な人間形成の場である。学校だけではない。</p> <p>少子高齢化が課題だということはわかっている。しかし、市は何を努力してきたのか。人口も毎月減っている。子どもを増やすようなまちづくりが必要。浜中央校区は都市中核地域、八木地区は久米田地域、ここは牛滝の谷地域などと勝手に名付けていることにも不満。</p> <p>岸の丘町は1,000人規模のまちになり、最終的に子どもの数は500人になる。山直南校区は交通網も良く、人口が増える。そんなまちをつぶすのか。多くの工場も誘致できている。岸和田一番の商業都市である。行政として、もっと市を発展させなければならぬ。都市中核地域とされる地域もこれまで発展させられておらず、商店街周辺は南海岸和田駅の駅舎が変わっただけ。なのに、これから発展しようとする山直南地域をつぶすとは何事か。</p> <p>岸の丘町の通学区域を決めたのはたった3年前。これから住宅販売を進めていこうとする中、この計画（案）を出すことにより風評被害が発生している。無電柱化を推進し、全国にないまちづくりを進め、子どもや人口を増やすことを考えているのに。</p> <p>計画地の山直中学校は狭く、野球もサッカーもできない。</p> <p>地域の実態をよく勉強すべき。説明しましたので次に進みます、ということでは困る。</p> <p>行政は何十年も先を読んで取り組むことが求められるのに、先を読まずにこのような計画（案）を出すのはおかしい。</p>	<p>地域の皆様が、地域と、山直南小学校を大切に思うが故の、心からの声だと思う。ご意見感謝する。</p> <p>教育委員会として、将来展望や目的もなしに、ということではなく、本日説明したような考え方のもと、取組を進めようとしているところ。</p> <p>今回の説明会を開催したので終わりだ、ということではなく、本日いただいたものも含め、それぞれのご意見について受け止めた上で、これから協議を重ね、より良い方向性を見出していきたい。</p>
143	11.22(月)	山直南	発言者E	<p>今後話し合いをするのであれば、山直南小学校を基本として、小中一貫校を設置する案も出すべき。ここは土地がまだある。</p> <p>山直南中学校の周辺には土地がない。小中一貫校を設置するにあたり、それなりの面積も必要ではないか。児童数が少ない学校に、児童数がこれから増えてくる地域の子どものがなぜ行かなければならないのか。</p> <p>一つの町が新設されたのは行徳町以来、何十年以上ぶり。これからは、山手地域を開発し、岸和田市を繁栄させ、児童生徒数も増やしていかなければならない。現状維持では人口減少が止まらない。それを食い止めるためにどういう形で進めるのか、前向きに考えるべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
144	11.22(月)	山直南	発言者F	<p>以前、稲葉町から要望書及び署名を提出しているのだから、それに対して案を持っていくべきだった。もう10ヶ月経過する。</p>	<p>実施計画（案）を策定して以降、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、地域説明会の延期が続いていたが、その間に要望書をいただいている。要望書の内容についても、確認している。</p> <p>今回は、実施計画（案）の内容を、地域に説明できていなかったため、改めて関係校区に対して説明に回っているということでご理解いただきたい。その中で、本日のご意見も含め、いただいたご意見やご要望について、今後考えていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
145	11.22(月)	山直南	発言者G	<p>なぜ山滝中学校に行く案なのか。</p> <p>自分が通っていた、一番生徒数が多い時期でも、学年2クラス。全体で6クラス。山直南小学校では学年3クラスで、全体18クラスだった。</p> <p>中学校に進学するとクラス数が減ることもあり、運動場を含めて学校が狭い。そこに小学生も押し込むということに、子どもの視点からも納得がいかない。</p> <p>統廃合を推進することはわかるが、子どもにとって魅力のある近代的な設備の新しい学校をつくるような案や、包近町と山直中町も合わせて一緒に学校へ行く案など、少し考えただけでもいくつか出てくるのに、山滝中学校一択で説明会に臨むことが不思議。本来は、いくつかの案を持った状態で、地域からも様々な意見をもらいながら決めていくことが望ましいのではないか。</p>	<p>各学校の規模、配置バランス、通学区域等を総合的に勘案し、策定した計画（案）ではあるが、これに反対する意見もあることは、当然のことだと思う。</p> <p>本日ご提案いただいたような案も踏まえながら、意見交換していきたいと考えている。</p>
146	11.22(月)	山直南	発言者H	<p>岸の丘町の通学区域が山直南小学校及び山滝中学校ということに決まってから、この計画（案）が出てきたのだが、策定にあたって状況をどこに聞きに行ったのか。まちづくり協議会としては聞いていない。</p> <p>自分たちの都合で決めた案だろう。子どものことも、地域のことも考えていない。本来ならば、地域の町会等へ話をしてから案を策定するものではないのか。</p>	<p>経緯について説明すると、令和2年3月に岸和田市立小中学校の適正規模・適正配置基本方針を策定し、7月には市内8か所で説明会を実施した。そこでいただいたご意見等を踏まえつつ、総合的に判断した結果、今回の実施計画（案）を策定している。</p> <p>教育委員会として、市内の小・中学生が、一定の集団規模の中で公教育を受けるにあたり、こういった形が望ましいのか、ということ協議した上で策定した計画（案）であり、市民や保護者の意見が反映されていないものとは考えていないが、この計画（案）に対し、それぞれの地域から様々なご意見をいただくことも当然想定しているので、それらも参考にしながら、引き続き、協議を重ねていきたい。</p> <p>実施計画（案）を策定する前に、各地域を回るべきであったというご意見もあるが、各自治体でこうした取組を進めるにあたっては、その多くが、本市のように「計画の案」を策定してから地域との協議に臨んでいる。</p> <p>事前に各地域のご意見を伺うとすれば、地域ごとに考え方も異なる中、すべてを包含した計画（案）を策定することは非常に難しいことから、現状の進め方を選択している。</p>
147	11.22(月)	山直南	発言者H	<p>前段の市民説明会は、市民センターで開催したのだろうか、山直南校区では開催したか。</p>	<p>基本方針は特定の地域だけでなく、市域全体に関する内容であるため、福祉総合センター及び市民センター等、計6か所で開催した。</p> <p>さらに、対象となる規模の学校が複数存在する中学校区として、山滝中学校と葛城中学校でも開催した。</p>
148	11.22(月)	山直南	発言者I	<p>山滝中学校で開催して、山直南校区で開催しなかったことが理解しがたい。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
149	11.22(月)	山直南	発言者J	<p>文句を言われぬ校区で開催したのではないか。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
150	11.22(月)	山直南	発言者D	<p>これでは明日の朝まで話してもまとまらない。10回20回と重ねて話し合う必要があるのでは。2、3回ではどうしようもない。</p>	<p>本日と28日の説明会だけですべて決定するようなつもりはないので、ご理解願う。</p>
151	11.22(月)	山直南	発言者K	<p>中学校区を単位にするという前提も考え直すべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
152	11.22(月)	山直南	発言者L	<p>この計画の根拠を聞くと、子どもの数が減って学校規模が小さくなると、子どもの教育に良くないということと言われるが、それは真実なのか。</p> <p>元々市内の中でも子どもが少ない地域であるが、そこで育った子どもたちが、質が悪いとか、社会性がないとか、それは真実と異なる。ここがそもそもの間違い。</p> <p>全国的には小規模校や少人数学級で学力が向上した事例も挙げられる。取組の良い部分しか言わないのは、詐欺商法と一緒に、必ずデメリットもあるはず。</p> <p>仮にそうだとした場合、それならば魅力ある学校や魅力ある地域をつくっていくことが必要であって、子どもの数が減ったから学校を減らすというのは、要は予算がないからだろう。予算がないのであれば、その中でも、岸和田市の将来を担う子どもたちに予算をつけていくのが本来の考え方だと思う。これは意見。</p>	【ご意見として承る】
153	11.22(月)	山直南	発言者L	<p>丁寧な説明と話し合い、と記載があるが、住民の合意を得るといった文言がない。反対を受けても、最終的には予定どおり進めるという考えが見えている。</p> <p>地域のコミュニティと行政と一緒にまちづくりが進んできている中、普通は住民の合意、納得というものが重要だと思うが、それに関する記載がないのはなぜか。</p>	<p>丁寧な説明と話し合いを今後行っていくが、例えば地域や保護者の皆様が反対している中、それを無視して一方的に進めていく考えはまったくない。</p> <p>本日、非常に厳しい声を受ける中で、ショックもあるが、今回の計画（案）はあくまでもたたき台。それをもとに、皆様の考え方を聞かせていただいたこの機会は、本当に必要なものだと思う。</p> <p>最終的にどうしていくのか、という点について、まずは率直に意見交換を行い、教育委員会の考え方もより詳しくお伝えし、皆様のご意見もさらに伺いながら、最終的に合意に至れば、その方向で進めていく。</p> <p>全住民、全市民の合意であれば、市長や市議会も、その方向で考えていくことになる。逆に、一部の住民によるご意見であれば、大勢の住民のことを考えて判断されることになる。誰に合意を得て、ということは難しい問題だが、本日をきっかけに、十分な議論を重ねていきたい。</p>
154	11.22(月)	山直南	発言者H	<p>地域の意見を聞いた上で、回答がほしい。そのときには、教育長だけでなく、市のトップである市長も連れてきてほしい。</p>	<p>今回の説明会は、あくまでも計画（案）策定段階の内容を、まずは皆様に広く知っていただくためのものであるため、これを以て協議を終えることは当然考えていない。</p> <p>11月28日にも同じ説明会を開催するが、その際には、本日もいただいたご意見に対する回答をするのではなく、初めて内容を聞かれる方もいるため、本日と同様の説明を行う。</p> <p>市内で20回開催予定の説明会を終えた段階で、皆様と協議をさせていただきたいと考えている。その際には、疑問点への回答を行い、逆に新たにご指摘をいただく等、キャッチボールをしながら進めていきたい。</p>
155	11.22(月)	山直南	発言者H	<p>ではそのときに市長も連れてきてほしい。</p>	<p>まずは、教育委員会として伺わせていただく。最終判断の段階で、市長が必要ということであれば、検討する。</p>
156	11.22(月)	山直南	発言者H	<p>必要だと思うので、連れてきてほしい。</p>	<p>その旨伝達する。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
157	11.22(月)	山直南	発言者M	<p>山直南小学校は明治6年、稲葉町の神社から発足した。この学校を他所へ移すということに対して納得いかない。</p> <p>昭和44年、包近町から山手は市街化調整区域となり、20年で解除するとしていたのに、解除されていない。地元出身の長男次男が1軒の家しか建てられない。他町から来る人も、住宅を建てられず、人口が減っていくのは当然のこと。最近は少し緩和されたものの、この根本が変わらない限り、人口、子どもの数を増やすことはできない。</p> <p>城東小学校や天神山小学校は、以前の開発で人口が増えて開設された学校で、現在は廃校予定とあるが、住民は他地域から移ってきた人。山直南校区は異なる。</p> <p>山直南小学校の廃校には反対の意志を貫くつもり。現在の山直南小学校の場所に、新たに小中一貫校を新設願う。開発にかかる案件のため、教育委員会だけでなく、市の心臓部や、地元議員とも話し合う必要があるが。</p>	【ご意見として承る】
158	11.22(月)	山直南	発言者N	今日来ている教育委員会の方々は、教育者、所謂教員なのか。	教育総務部と学校教育部で出席しているが、前者は教員ではなく、後者は教員として現場での指導を経て、現在教育委員会に所属している。
159	11.22(月)	山直南	発言者N	計画（案）策定に際して、現場の教員の声も聞いているのか。	適正規模・適正配置の基本方針を定めるにあたり、どの程度の学校規模が望ましい規模か、という点について、教職員に対しても、事前にアンケート調査を実施している。その中では、現在も基本方針に示している、12～18学級が望ましいとする回答が大半であった。
160	11.22(月)	山直南	発言者N	児童数推計について、例えば令和4年度は今年度より2名減少ということで、恐らく実数から拾っているのだと思うが、上振れすることは想定していないのか。	今後、山直南校区に転入してくる児童生徒数によっては、上振れの可能性はある。なお、令和9年度までは、令和2年度時点で実在する子どもの実数から算出した推計値となる。
161	11.22(月)	山直南	発言者N	来年、子どもが小学1年生になるのだが、噂では学年あたり60人程度の人数が見込まれると聞く。その中で、2名減少ということは考えにくい。こういったことが6年続くとなれば、推計値を精査した上で、山直南小学校を現状で維持してもよいのでは。	推計値の精査について、今後も継続していく。なお、本日お示ししている推計値では、今後岸の丘町に転入する児童数は含まれていないものとなっている。
162	11.22(月)	山直南	発言者O	岸の丘町で今後生まれる赤ちゃんの人数は、従来の山直南校区で生まれる赤ちゃんの人数より数倍多いことが見込まれている。そういった中で、岸の丘町では現在も人口が増え続けている。そのあたり見込んでいくべき。	岸の丘町における今後の人口増加については、継続的に確認していく。現時点では、約270世帯、1,000人規模のまちが完成することで、小学生であれば100人強が増加する可能性を見込んでいるが、今後も随時把握に努めていく。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
163	11.22(月)	山直南	発言者O	<p>今日の説明を聞いて思うのは、少人数が悪だと言っているように聞こえるということ。我々は小規模な学校で育ってきたが、我々そのものを否定されているように感じる。</p>	<p>説明内容が、そのように捉えられたことはお詫びする。小規模校は小規模校としてのメリットも当然存在し、小規模校を卒業した児童生徒も社会で活躍されている。</p> <p>一方、国においては、適正規模・適正配置に関する手引きを策定するにあたっては審議会を設け、様々な議論を重ねてきている。その中では、12～18学級が望ましいという目安が示されている。</p> <p>国の手引きに従うだけでなく、岸和田市においても、学識経験者やPTA代表、民児協代表といったメンバーでの審議会を設置し、議論を行った。その審議会答申や、アンケート調査にて、12～18学級が望ましいという回答が多数であったことを踏まえ、適正規模の考え方をお示ししている。</p>
164	11.22(月)	山直南	発言者P	<p>山直中町会役員として、事前に説明を受け、その後自分でも勉強してきた。</p> <p>中1ギャップについての話があったが、国立教育政策研究所が発出した資料の中で、中1ギャップによる不登校とされる生徒のうち、75～80%は、小学3～6年生の時点で既に不登校であったという調査が出ている。</p> <p>小学3～6年生の間に、学校教育でしっかりと手当てすれば、そういった課題も解消されるとされているため、小中一貫で中1ギャップが解消されるということは、間違っているのではないかと思う。</p> <p>現に山直南小学校、山滝小学校、山直北小学校で、中1ギャップに当てはまる子どもはどれくらいいたのか、といった調査の中で、課題が解消されるという内容であれば理解するが、小規模校で育った子どもたちは細かな教育を受けている中、果たして山直南小学校で育った子どもたちに、中1ギャップがどれほど当てはまるのが疑問。</p> <p>メリットばかりを述べることは、情報操作だと感じる。小中一貫校となれば、休憩時間のグラウンドの取り合いといった課題もあり、現状の小学校では中学年、高学年となる中で、低学年への労り、年長者としての責任といったものが育まれるメリットもある。小中一貫によるメリットだけでなく、デメリットも説明すべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
165	11.22(月)	山直南	発言者P	<p>適正化に関しても、全国では48%の学校が、小規模校に当てはまるという調査も出ている。その中で、なぜ山直南小学校の適正化をしなければならぬのかと疑問に思う。</p> <p>山直南小学校がなくなれば、この地域は子育てができない地域と見なされる。そんな計画（案）を出されたことにより、ますます地域から子どもが減り、地域衰退、崩壊につながる。</p> <p>今は見守り隊の方々や、警察官も校門前で見守り活動を実施してくれている。それにより地域の治安も保たれているが、それがなくなることで、治安の悪化にもつながる。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
166	11.22(月)	山直南	発言者P	先日教育長と話をした際に、結局は財政難が原因だと話していたように記憶している。和泉市の新庁舎が65億円、貝塚市の新庁舎が51億円、一方で廃案になったものの、岸和田市の新庁舎は120～130億円かかると。そんなお金があるならば、教育に回せばよい。財政難だと言いながら、立派な庁舎でふんぞり返り、子どもたちは遠い距離を通学しなければならないというのは、やっていることがおかしいという話もした。それらについて市長に報告するという話であったが。	責任を持って回答するが、本件について、岸和田市が財政難だから改革をする、といったことを述べた事実はない。その場では、財政状況について尋ねられたので、市の財政状況を説明した。 庁舎についての話をいただいたのは事実で、ご指摘を受けたことについては、既に市長へ伝達している。
167	11.22(月)	山直南	発言者P	言った言わないの話はこれ以上しないが、山直中町会としても、それ以降議論をしてきた。その中で、承諾できる計画（案）ではないということ、役員全員が反対であるということなどで一致した。 以来、署名活動を行い、1,158名の署名をいただいたので、町会長から教育長へお渡しさせていただく。	【署名を受け取る】
168	11.22(月)	山直南	発言者Q	最初から、まとまる話とは思えなかったため、一旦持ち帰り、廃案にさせていただきたい。 この小学校は、色々な意味で地域で活用している中、なくなれると困る。なくしたくないという想いが強い。 今日の説明では、避難所としての学校がなくなった際の対応や、跡地活用に関する内容もなかった。 学校を適正化してまとめていくのではなく、市全体として、人を増やし、今あるものを活用していけるように考えてほしい。 山直南小学校になくなってほしくないが、だからといって、他の学校をこの場所に持ってきてくれればよいというだけの話でもないので、別の方向性で考えるべき。	【ご意見として承る】

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
169	11.24(水)	修斉	発言者A	<p>修斉校区は北阪町のように、大阪外環状線より山手にも校区が広がっている。学校までどれくらいの時間を歩けば通えるのか、実際に歩いて確認してみたところ、北阪町から修斉小学校までが約25分、北阪町から葛城中学校までは約50分であった。</p> <p>校区が拡大し、小学生も、現在の葛城中学校まで通わなければいけないということになれば、中学生や小学校高学年ならともかく、低学年の児童がランドセルを背負って50分も歩けば、学校に到着する頃にはへとへとになっていると思う。</p> <p>教育の基本は安心安全。土生滝交差点からの道路は、歩道がない部分も相当ある。そういった危ない箇所も残っている。どうやって安全安心を確保するのか。</p> <p>スクールバスを導入するのかもしれないが、スクールバスに乗り遅れた子どもをどのようにケアするのか。</p> <p>また、スクールバス導入地域は多数あるが、バスに長く乗っていることで、体力不足になる問題がみられる。そのため、多くのところでは、手前で降車し、学校まで歩くということが、現実に行われている。</p> <p>葛城中学校の近くには、降車場所がないなど、今回の計画（案）は、物理的に、安心安全の面で欠点がある内容である。</p>	<p>実地調査を行っていただき、感謝する。</p> <p>適正規模・適正配置の取組の目的は、より良い教育環境の整備と、学校教育の充実であり、通学路を含めた安心安全の確保についても、最優先事項だと考えている。</p> <p>危険箇所への対応といった課題解消の取組については、開校までの間、地域の皆様と協議しながら、しっかりと取り組んでいく。</p> <p>スクールバスについて、すべての児童生徒が乗車対象だとは考えていないが、通学に際して、子どもたちの安心安全が確保できない場合、他地域との均衡にも配慮しながら、導入していきたい。</p> <p>乗車時刻に間に合わなかった児童生徒への対応については、他市事例も参考にしつつ、保護者の皆様の不安を解消できるような方策を検討していく。</p> <p>なお、仮にスクールバスを導入したとして、導入による体力不足が見受けられる場合、体力の維持向上に努めていく。</p> <p>また、乗降時の事故を防ぐため、乗降場所及びバスの進入路については、地域の皆様のご意見をいただき、決定していきたい。</p>
170	11.24(水)	修斉	発言者A	<p>具体的な対策が何も決まっていないうだが、計画を推進できるのか。また、本日説明に来ている職員は、実際に校区を歩いたことがあるのか。</p>	<p>本日説明している実施計画（案）については、通学環境をはじめ、各学校の規模や配置バランス、地域コミュニティ等を総合的に鑑みて策定し、お示ししているもの。</p> <p>確定した計画ではない中、地域や保護者の皆様のご意見を聞く前から教育委員会が様々な事項を決めていくということは、好ましいことではないと考えており、計画（案）に対する様々なご意見をいただく中で、通学の安全確保の方策についても具体化を図っていく。</p> <p>なお、想定される、新たな学校までの通学路についても、教育委員会職員が実際に歩いて確認している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
171	11.24(水)	修斉	発言者B	<p>元小学校教員として、小学生と中学生が、同じ敷地内で学習することについては無理があるのではないかと懸念している。</p> <p>例えば運動場について、中学校では200mトラックが必要であり、小学校では1周100mそこそこのトラックを設ける。小学校では、体力づくりのため、低い鉄棒や、登り棒、ジャングルジムといった遊具が必要になってくる。小学生と中学生の体力レベルは異なるため、同じ運動場で同居することは無理だと思う。</p> <p>また、資料にあるイメージ図を見ると、グラウンドは1面だと思うが、取組を進めるならば、最低限2面が必要だと思う。</p> <p>葛城プールも、経費云々で長い間中止になっており、もったいない。今回の話も、経費の問題で出てきたのだと思うが、それでは、一人ひとりの子どもの教育を保障する立場に立っていない。</p> <p>体育館についても、中学校で求められる大きさは小学校のものより大きい。同じ体育館を共用するのは、どちらにも我慢が生じる。利用時間の関係でも、取り合いになってしまう。ゆったりと空き時間があってこそ、グラウンドや体育館を活用し、自由な活動ができる。学級数が増えると、自由に使えない。</p> <p>グラウンドを2面設ける、体育館を2か所設けるという覚悟で取り組むべきであり、安上がりには済ませようとするならば、絶対に反対。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組は、経費削減を目的とするものではない。子どもたちのより良い教育環境の整備と、学校教育の充実が最優先であり、子どもたちが将来にわたってたくましく生きていくために、小学校のうちから、一定の集団規模が確保された教育環境を整えていくことが目的である。</p> <p>資料でお示した図はイメージ図であり、この計画を進めるとなった場合には、設計段階において、校舎のレイアウトや、児童生徒の運動スペースの確保をしっかりと考えていく。先進事例では、小学生と中学生が十分に活動できるよう、使用時間を分けて対応しているという事例もある。</p> <p>また、現在市内各地の市民プールについては、酷暑の影響や、民間プールの増加等により利用率が減少しており、授業の実施を天候に左右されること、施設の老朽化が進んでいることといった課題がある中、今後のあり方を検討しているが、仮に葛城プールの敷地を活用できる状況になれば、学校の活動スペースとして検討したいと考えている。</p> <p>さらなる活動スペースが必要とされる場合、校舎屋上も活用するなど、可能な限りの確保に努めていきたい。</p>
172	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>小中一貫校にすることが目的なのか、校区の適正配置が目的なのか。市全体を視野に入れた計画なのか、今回示された校区についての計画なのか。</p>	<p>今回の取組は、岸和田市内の学校全体で、適正な学校規模をめざしていくことが目的であり、今ある学校をすべて小中一貫校にしていくことを目的にしているのではない。</p> <p>市内の学校が小規模化し、子どもたちの教育環境に課題が生じている中、多様な考えに触れる機会や、様々な学習形態を確保するためにも、一定の集団規模が確保された学校を整備していくことが必要であり、小・中学校ともに小規模化している地域では、小学校と中学校を同じ敷地に整備する方が、教員や子どもたちの交流・連携を図りやすく、より良い教育環境の整備に資すると考え、現在の計画（案）をお示ししている。</p> <p>一方、すべての小・中学校を同じ敷地に整備できるのかと言えば、物理的に困難な校区もある。そういった校区においては、施設分離型での小中一貫教育を実施する。施設が離れていても、小・中学校間の連携については、密に行っていく。</p> <p>これまで小中連携教育については各中学校区で実施しており、子どもたちが、小学校から中学校に進学する際の環境変化で躓くことのないよう、スムーズな移行に向けて取り組んでいる。これを発展させていくものが小中一貫教育であり、どのような取組が可能なのか、現在討議を重ねている。今回お示ししている小中一貫教育基本方針は、小中一貫校を整備する方針ではないので、ご理解願う。</p> <p>なお、適正化対象校には浜手の学校も存在するが、山手地域においては、小・中学校ともに小規模化しており、義務教育9年間にわたり小規模化の課題が生じていることから、優先的に取り組む必要があると考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
173	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>この計画を提示するにあたって、教育委員会だけでなく、行政部門とのすり合わせを行ったのか。行ったのであれば、行政部門のしかるべき職員が同席していてもよいと思う。本日のメンバー構成はどうか。</p>	<p>本日、市長部局の職員は同席していないが、実施計画（案）を策定するにあたり、地域コミュニティを所管する自治振興課、防災、避難所を所管する危機管理課といった部局等との協議を重ねてきている。</p> <p>市長部局とも同じ方向性で取組を進める必要があるため、市長をはじめ、特別職も参加する政策決定会議においても承認の上、現在に至っている。</p> <p>今後、地域の皆様と協議を重ねる中で、市長部局に関する内容の詳細について話し合う機会もあると想定している。その際には、関係部局の職員も同席する必要があると考えている。</p>
174	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>この地域は人口が減少しており、過疎化が進む危機感を地域住民として抱いている。その中で、学校の統廃合をすれば、校区が拡大し、人口減少に拍車をかけることになる。可能であるならば、現在の修斉小学校で小中一貫校を検討してほしい。</p> <p>この地域でも、一部住宅開発がなされてきた中、これまでは意外と簡単に通学区域が決められてきた。例えば土生滝町の飛び地であっても、光明小学校区になっている場所があり、それに対して説明に来るわけでもなく、文書での通知を以て返答を求めてくるという状況が続いていた。こういった積み重ねが、現状につながっている。</p> <p>修斉小学校を残したまま、土生滝町の飛び地や、葛城中学校の近くの土生町といった地域からも修斉小学校へ通学することにすれば、児童数200人を割り込むような事態にもならなかったのではないかと。</p>	<p>人口減少が全国的な課題となる中、岸和田市においても人口減少が続いており、その理由として、子育て世代の社会減が目立つということが挙げられる。</p> <p>子育て世代に岸和田市を選んでいただくため、子どもたちのためのより良い教育環境を整備していくことが必要だと考えており、今回の取組を推進しているところ。</p> <p>修斉小学校をはじめ、地域の皆様に支えられてきた小学校を、それぞれの地域に残すべきという考えは理解するが、そうすると、各校の小規模化がさらに進行するということになり、子どもたちの教育環境を考えた際には望ましくないと考えている。</p> <p>なお、今回の計画（案）については、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案した中で、中学校区を単位とした適正化が望ましいと判断した上で、たたき台としてお示ししている。</p>
175	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>統廃合問題に関心を持ち、これまで浜中央、修斉、天神山、旭太田、山直南校区の説明会に参加してきた。</p> <p>浜中央校区の説明会では、具体的にどう統廃合するかという説明がなく、当日も「具体案はないのか」という質問がなされていた。今後2年間かけ、地域との協議を経て、具体案をまとめていくということであったが、山手地域では勝手に具体案を作られている。この点がおかしい。</p> <p>暴論であり、そんな方法は望ましくないとと思うが、岸和田市役所が福祉センター隣接地に移転すれば、市役所跡地に設置するという具体案もすぐに思いつく。恐らく、教育委員会もこういった案を検討いただろうが、市長部局の反対も受けたのだろう。</p> <p>いずれにせよ、片や勝手に具体案を示し、片や地域住民とともに具体案を作っていくというやり方に疑問。</p>	<p>今回の第1期計画（案）においては、小・中学校ともに小規模化が進行し、義務教育9年間にわたり教育環境に課題が生じている山手地域を適正化対象とした。</p> <p>浜・中央小学校については、第1期計画の進行と並行して、第2期の実施計画（案）として、教育委員会の責任において提示する。なお、第1期計画と同じく、具体的な案としてお示しする。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
176	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>泉州山手線が開通すれば、人口が増加し、子どもの数が増えるのではないかと思うが、そのことは考えられていない。</p> <p>昨日開催の山直南校区説明会においても、現在開発中で、最終的に275世帯が居住する岸の丘町では、400～500名程度の子どもの数が増えると言われていた。15～20年程度の期間増加すると考えられ、仮に15年で割ると、学年あたり30人、小学校6学年で180人程度の児童が山直南小学校で増加するため、学年あたり2クラスで、適正規模とされる12学級の学校になることが明らかに想定される。適正規模になる学校を統廃合する根拠は何もないのに、そのことは考慮していないなどと述べる。</p> <p>岸の丘町に住む保護者が、パンフレットでは1kmの距離がある山直南小学校に通うとしているが、市は3kmの距離がある山滝地区の学校に行けとしているのではないかと、住宅メーカーに抗議したとも聞く。住宅メーカーは、市は山直南小学校に通えると言ったので、パンフレットに記載したとしており、市に騙されているような現状。</p>	<p>岸の丘町においては、今後約270世帯が居住し、約1,000人規模のまちが完成すると把握している。</p> <p>過去、市内外における新興住宅地で増加した子どもの割合を鑑みた上で、岸の丘町の現状をみると、小学生で100人強が増加すると見込んでいる。</p> <p>また、検討に係る児童数推計の考え方として、現在校区に住む0歳児から小学生までが、その校区で年齢を重ねると仮定した場合の実数を令和9年度までの推計値としており、令和10年度以降は校区の出生率を参酌し、校区ごとの推計値を算出している。</p> <p>岸の丘町における児童生徒数については、今後も随時、お示しできる限りの数値を提示していく。</p>
177	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>岸和田市は100周年事業として、泉州山手線に関連したまちづくりを進めようとしている。泉州山手線に関して、貝塚市では既に工事が始まっており、大きな物流センターを作っている。岸和田市でも、山直北地区と光明地区では工事が始まった。山直南校区説明会出席者の話では、三田町より浜側は市街化区域になり、包近町より山側は市街化調整区域のままということであったが、市のプランでは、修斉地区は産業誘致地域で、住宅もつくるとされている。</p> <p>修斉、天神山、太田地区の中心は修斉地区としており、岸和田塔原線との交差点に、大きなセンターを造るんだとも書いているのに、なぜそういったことを言わないのか。実際、修斉小学校区の児童は、病院跡地の開発等もある中で増えている。</p> <p>本当は市政100周年に合わせて泉州山手線の工事に着手したかったようだが、早ければ5年後、遅くとも10年後には工事が始まるだろう。修斉小学校は、35人学級編制においても各学年2クラスの適正規模校になる。</p> <p>山直南校区説明会での答弁で、児童生徒数が増加しても、ピークを超えると減っていくとしていた。これはそうだと思う。天神山小学校もそうだった。しかし、修斉小学校区においては10～20年にわたり増加傾向に進む。なぜそれを言わないのか。</p>	<p>泉州山手線を所管している市長部局の市街地整備課、都市計画課、また開発許可を担う建設指導課からも十分に話を伺い、現在の計画に人口増加の記述があるか確認した。</p> <p>泉州山手線が延伸することで、例えば市街化調整区域内を通る場合、近隣の市街化区域において住宅が増加する可能性はあるが、現状において、人口増加の記述はしていないということであった。</p>
178	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>22日、山直南校区説明会では地元町会から反対署名が手交されていたが、何筆だったのか。</p>	<p>山直中町会から、1,000筆を超える署名を受け取った。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
179	11.24(水)	修斉	発言者B	<p>学校へ行く年齢になっても、何とか学校へ行く子ども、学校になかなか慣れない子ども、そんな子どもたちが、小学生として1年1年を積み重ね、6年生になって、ようやく卒業していくもの。</p> <p>子どもを人数だけで扱ってほしくない。この計画が進めば、不登校の児童も出てくるのではないかと。1人でも不登校を出さないのだという決意で、進めるべき。学校が遠くなると、学校に行きにくい子どもも増えると思う。</p> <p>先ほどは運動場や体育館を2面確保すべき、という話もしたが、それは、遊び場を含めた様々なものをきちんと保障しなければ、子どもたちは育たないという考えからである。</p> <p>賛同さえ得られれば運動場も適当に作るということではいけない。簡単に統合と言わずに、再検討を願う。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組に関わらず、現在、岸和田市内の各学校における、不登校は相当数存在する。どの学校や幼稚園においても、子どもたちが元気で、安心安全のもとに通学・通園することが最も望ましいことである。</p> <p>子どもたちが、少しでも学校へ通うことができるよう、これまで市全体で取り組んできた。不登校のみならず、その他問題行動に対しても、しっかりと継続的に取り組んでいく。</p>
180	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>神須屋町が、4小学校区に分割されていて具合が悪いということについて、数十年にわたり町会から要望を重ねてきており、ようやく認識されたと感じている。ただ、飛び地等、混ざっている場所も多く、それら地域においては旭・太田校区の町会に入っておられるため、賛成を得られないだろうとも思う。錯綜している部分については、調整区域にしてほしいと要望してきたのであり、すべてを修斉校区にすべきとは考えていない。</p>	<p>これまで地域説明会を実施する中で、旭・太田校区の神須屋町にお住まいの方からも様々なご意見をいただいたところ。</p> <p>今回の計画（案）はあくまでもたたき台であるが、地域コミュニティを勘案する中で、同じ町に住む方は同じ学校に通うことが望ましいのではないかと考え、現案を策定した。ただ、これに対するご意見についてもしっかりと受け止め、今後協議を重ねていきたい。</p>
181	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>神須屋町においては、現在も新たに住宅を建設しているところであり、真上町でも30軒ほど住宅が増えていると思う。</p> <p>現在の資料にあるように、単に校区ごとの出生数から推計を算出すれば、当然児童数は減少すると思うが、校区内でも浜手側から順番に、また泉州山手線が延伸すればさらに、人口が移動してくると考えている。</p> <p>以前市長部局と協議をした際、人口動態として、神須屋町は現状維持もしくは増加だと示されていたと思う。</p> <p>修斉校区に来たい、という方を含めば、右肩下がりの児童数推計になるはずがない。修斉小学校は、現状でも200人を超える可能性が高い小学校である。現在示されている数字で判断を求められても、無理がある。</p>	<p>教育委員会として、各開発事業者が、どの区域をどの程度、いつまでに開発していく、ということは読み切れない部分もあるが、適正な学校規模と考える12～18学級に至るには、350人程度の児童数が必要だと考えており、200人程度の児童数では小規模化の課題が解消されず、子どもたちの教育環境を最優先に考える上では、好ましい規模ではないと考えている。</p>
182	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>以前、小規模な葛城中学校において、子ども同士のちょっとした諍いから背中を押して、大怪我を負わせるという事件が起きたことがあった。</p> <p>殴り合うような喧嘩をしているわけでもなく、後ろから押すだけで、中学生同士でも大きな怪我を負う。それを踏まえ、小中一貫校で、小学生と中学生を一緒にすることはいかがなものか。身体は大人並み、心は小学生から+aという成長段階の中学生と、小学校低学年の児童は分けなければならない。</p> <p>町会としても、事故が起きれば、学校へ申し入れしてほしいといった要望がどんどん出てくることになる。小中一貫校はすべきでなく、小学校は小学校、中学校は中学校で置いておくべき。</p>	<p>国が小中一貫教育の手引を策定するといった状況において、全国的に小中一貫校が増加傾向にある。</p> <p>先進事例における現場教員の話を見ると、例えば小学生と中学生と一緒に過ごすに当たり、中学生から小学生への問題行動があるのではないかと、という当初の懸念とは逆に、荒れていた中学生が、小さな子どもと一緒に活動し、サポートすることで、落ち着いて学校生活を送れるようになった、小学生の側からも、中学生と接する中で、目標とすることができたという好ましい結果も伺う。</p> <p>岸和田市においても、望ましい形をしっかりと検討・研究していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
183	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>現在、小学校には様々な大人が関わっている。学校行事をするにしても、地域の大人が応援に来る。例えば学校の福祉実習や、子ども教室もそう。交通指導員も地域の大人。大掃除や樹木剪定にも、大人が関わっている。</p> <p>小学校は、教員と児童だけで成り立っているわけではない。地域全体で成り立っている。</p> <p>修斉小学校がなくなれば、大人や高齢者とのつながりも切れてしまう。修斉小学校は、校区の中心に位置する。葛城中学校に学校が移ったとして、これまで小さな子どもたちを見守っていたのが、皆スクールバスで通学するとなれば、地域の一体感を維持することが非常に困難。</p> <p>神須屋町も、4小学校区に分割されるだけで、町会、子ども会の運営に大きな苦労があった。それをまとめて持っていく、そうなれば山手地域の過疎化も進んでしまう。じっくり考える必要がある。</p> <p>地域コミュニティのことを考えているとしているが、本当にそうなのか。神須屋町会は、教育委員会に対し、これまで様々なことを申し入れしており、状況をわかっているから説明会にも参加しなければと思ったが、地域にきちんと周知しているか。PTAにしか周知していないのでは。各地域にしっかり話をして、様々な意見を聞いてほしい。それが一番大切。</p>	<p>岸和田市の各学校では、それぞれの地域の皆様に見守っていただきながら、子どもたちが学校生活を送ってきたと認識している。</p> <p>一方、教育委員会としては、子どもたちの教育を最優先に考える中で今回の計画（案）を提示している。だからといって、教育委員会として地域コミュニティを無視することは考えていない。</p> <p>仮に学校が閉校となったとして、以降の当該地域におけるコミュニティのあり方は、地域の皆様が主体的に決定されるべきものだが、活動場所の確保や、運営方法の検討など、行政として可能な限りのサポートに努めていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
184	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>小中一貫校に関して、全国の事例を調べており、日本で最初に小中一貫校になった広島県呉市の呉中央学園にも行ってきた。実際には、呉中央小学校と、呉中央中学校に分かれている。</p> <p>グラウンドは3面あり、真ん中にあるものは教員駐車場になっていたが、浜側に大きなグラウンドがあり、山側に少し小さい小学生用のグラウンドがある。体育館もあり、校舎も、中学校校舎と小学校校舎があり、間に別の校舎がある。</p> <p>聞くと、かつては1～4年生と、5～7年生と、8～9年生とで別々の校舎だったものが、現在は小・中学校で分かれており、真ん中にあるのは特別教室が含まれる総合棟だという。</p> <p>20年経過した結果、現在の形になっている。単純に小・中学生を一緒にしてしまうという事は行っていない。別々の良さがあるということ。</p> <p>また、日本一小さい自治体、東京都青ヶ島村立小中学校も見てきた。9学年で10人、教員の子どもが大多数を占めるようだ。教員数は23人。</p> <p>小中一貫校に反対しているような民間教育団体とも話をしたことがあるが、100人以下の規模ならば小中一貫校でもよいだろう、としている。理由として、子どもたちは小さい頃から一緒に育っており、中学生のことも昔から知っている。そういう環境では、問題も起こらないという。</p> <p>その団体でも、200人までなら大丈夫かどうかで意見が分かれているが、200人を超えると、人間関係上、初めて知ることが多く、上手くいかないが増えるため、小中一貫校の規模は極めて重要である。</p> <p>（仮称）葛城小中一貫校は800人規模であり、さらに特認校制度も検討するとしている。東葛城小学校では、特認校制度を利用する児童が40%近い状況。（仮称）葛城小中一貫校で40%も増えるとは思わないが、それでも増加することは確か。そんな大規模校をつくってどうするのか。</p> <p>300人いれば12学級、と説明があったが、35人学級×6で210、おおよそ240人程度であれば、過半数が学年2クラスになり、統廃合が不要な規模になる。修斉小学校も、今後間もなく学校全体で9クラスを超える学校になる。文科省がめざす30人学級が実現すれば尚更である。</p>	<p>100人以下であれば小中一貫校として成立し、200人を超えると成立しないということ は、根拠として認識していない。</p> <p>この間、小中一貫教育の重要性については、国の中央教育審議会で十分に議論され、文科省では推進に向けた手引も策定している。</p> <p>小中一貫校としての究極形である、小学校と中学校の境目をなくす「義務教育学校」についても、国会での審議を経て制度化されており、義務教育学校を含めた小中一貫校の、教育上の有効性については、国において十分に評価されている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
185	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>山直南小学校出身。これまで人生を過ごしてこられたのは、この学校で学び、立派な先生方に指導を受け、積川町～包近町までの仲間と一緒に、楽しい学校生活を送ってきたことが基本にある。その山直南小学校を廃校にするという無茶な計画にどうしても賛成できない。岸和田市は来年100周年ということだが、山直南小学校は再来年で創立150周年を迎える。</p> <p>岸和田市における知育・徳育・体育の中で、知育に関して、文科省が実施するテストの結果が非常に悪いと聞く。手元に、ある会派が発出した資料があるが、堺市以南の9市の中で、岸和田市は国語・算数いずれも第9位とある。この結果をどう分析し、反省しているのか。児童生徒が悪いのか、あるいは教え方の問題なのか、また学校規模の問題なのか。例えば適正規模の学校はよくできるが、山直南小学校や山滝小学校のような、不適正な規模の学校が足を引っ張っているのか。データを教えていただきたい。</p> <p>また、単学級ではクラス替えができないので、いじめ等にも悪影響があるとしているが、本当か。子どもの数が少なければ、子ども間のコミュニケーションが取れ、徳育に効果的なのではないか。小規模校の悪い面が、具体的にどれほど出ているのか。</p> <p>里山や、久米田池に象徴される池、牛滝川といった、豊かな自然環境の中で、伸び伸びと教育を受けられる環境である山直南小学校を廃校にせずとも、教員の情熱・愛情によって子どもたちを育むことができるのではないか。</p>	<p>岸和田市小中一貫教育基本方針は、山直南小学校や山滝小学校、山直北小学校といった個別の学校ではなく、市全域で、小学校と中学校の連携を発展させた小中一貫教育を実施するというもの。</p> <p>岸和田市において、学力やいじめ等の問題行動についての、学校規模による相関関係はみられない。</p> <p>なお、全国学力テストについては、詳細な結果と分析をホームページに掲載しており、また、現在会議を重ねている、小中一貫教育推進会議の議事録も掲載しているので、ご覧いただければ幸い。個々の学校のデータは、様々な影響、課題があることから公表していない。</p> <p>学力向上や、問題行動の抑制についての重要性は理解しており、これまででも現場教員と協力しながら、様々な取組を行ってきたが、結果が見えにくい状況。今後も、市全体で取組を継続していくが、その中の一つが小中一貫教育である。</p> <p>自然豊かな環境を活かした授業展開については、適正規模・適正配置の取組や小中一貫教育に関わらず、続けていくべき取組だと認識している。</p> <p>また、教員が情熱・愛情を持って子どもたちに接することは、最も大切なことだと考えている。教育委員会としても、特に若手教員に対しての積極的な研修活動や話し合いを行い、地域の子どものために熱意を持って取り組めるように努めている。</p>
186	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>小規模校ではクラブ活動の多様性が確保できないというが、小学校ではどうなのか。集団競技はそれぞれに必要な人数が揃わなければならないことは事実だが、そもそも運動場が一つでは無理があるのでは。指導者も揃わない中、クラブ活動の面ですべてを充実させるのは難しいと思う。</p> <p>先日、堺市の美原西小学校が、合唱の全国大会に出場したと出ている。この学校は約180人の児童数で、合唱部は26人。4～6年生で混合編制されているという。小規模校においても、工夫によって充実したクラブ活動を実施している。岸和田市の適正規模校においてはどうか。</p> <p>岸和田市のスポーツ面では、岸城中学校がソフトボールで立派な成績を収めていると聞くが、小学校でそういった話を聞かない。</p>	<p>小規模校において、中学校の部活動や、小学校のクラブ活動に制限が生じることは事実。教員を含めた指導者不足の課題により、選択肢の拡大も簡単ではないと認識しているが、子どもたちに充実した部活動・クラブ活動を提供することをめざしていきたい。</p> <p>また、小規模校における部活動やクラブ活動の中にも、優れた成績を収めているものがあることは認識しており、好事例については参考にしていく。</p> <p>なお、スポーツ面で優れた成績を収めた小中学生については、スポーツ振興課が表彰を行ってきたところ。地域のクラブ活動においても、日々頑張っている子どもたちがいる。今後も各方面と連携しながら、さらなる発展に努めていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
187	11.28(日)	山直南	発言者A	<p>岸和田市は「たくましい子どもをつくる」としているが、これは新自由主義的な考えである。そういった方向性で教育を進めていくのは、遅れているのではないか。現代では、自然と共生できる人づくりが必要だと考える。</p> <p>過去、司馬遼太郎著の「21世紀に生きる君たちへ」という本を山直南小学校へ寄付してきた。その中では「たのもしい人」になるべきとしているが、岸和田市の言う「たくましい人」というものは、肉体的に頑丈で、精神的に勇猛で、戦いに勝つ強い人間になれとされているように思う。勉強ができない子どもの尻を叩き、泣いている子どもには強くなれとすることではいけない。優しく、自立し、人を助け、最終的には人から信頼される、たのもしい人になるべきと、司馬氏は言う。東大阪市教育委員会では、市内全校にこの本を配布したと聞く。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
188	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>山直南・山滝校区において人口が増えない要因は、市街化調整区域にあると思うが、これは解除されないのか。</p>	<p>主には市長部局のまちづくり推進部が、今後の土地利用について検討を重ねており、教育委員会としても、本日のご意見をお伝えするとともに、将来にとって望ましい形を検討していきたい。</p> <p>なお、国全体としては、市街化区域の拡大という方向性はあまりみられないが、岸和田市としての方向性については、十分に関係課と協議していきたい。</p>
189	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>山滝中学校を卒業した。中学校で野球をやりたいかったのだが、グラウンドが狭くてできなかった。現在の中学校グラウンドを拡大しようとしても、それは困難だと思う。なのでどうして、山滝中学校を移転先に設定しているのか。</p>	<p>現在の山滝中学校に（仮称）山滝小中一貫校を設置する場合、グラウンド面積も国基準をクリアしている。</p> <p>なお、それで十分とは言えないので、利用率の減少と老朽化が課題となっている山滝プールや、現案において閉校予定の山滝小学校について、今後の状況を見極め、地域の皆様のご意見も伺いながら、条件が整えば、活用も考えていく。</p>
190	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>これまで長きにわたり山直南校区で暮らし、納税してきた。山直南小学校を廃校にするということは、この校区から出ていけと言われてるように感じる。</p> <p>山直南小学校には、他校区と違い、未だにプールもない。その上で廃校ということは、地域の納税者として非常に残念であり、考え直していただきたい。</p>	<p>市民の皆様から取められた税金については、行政として市全体を見通しながら、より望ましい使途・方策について検討していく。</p> <p>現在の実施計画（案）を策定するにあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑みた上で、中学校区を適正化の単位としたものである。</p> <p>今回はたたき台としてお示ししているが、より良い方向性を見出すため、校区ごと2回開催の地域説明会だけではなく、今後も話し合いを重ねていきたい。</p>
191	11.28(日)	山直南	発言者B	<p>校区に隣接する和泉市では、新興住宅が立ち並び、商業施設にも恵まれ、ホテルも建設されている。</p> <p>岸和田市は、本来堺市に次いで泉州の主となる自治体だと思うが、実際は遅れている。和泉市は発展し、泉佐野市は閑空がある。泉大津市でも高層ビルが建っている。</p> <p>いっそのこと、山直南・山滝校区も和泉市に編入してほしいと思うくらいに、遺憾に思っている。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組を通じ、より良い教育環境の整備と学校教育の充実を図り、子育て世代にとっての魅力向上に努めていきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
192	11.28(日)	山直南	発言者C	包近町で2人の子どもを持つ保護者として、計画（案）が進むと3年後に通学先が変わるということに納得がいかない。	<p>計画（案）について、何年度までにどの学校を開校するといった具体的時期は定めていない。</p> <p>協議を重ね、地域の皆様から一定の合意が得られた段階で、（仮称）学校開校準備委員会を設置し、開校に向けた様々な事項を検討していく。開校までは、準備委員会設置後5年程度が必要だと考えている。</p> <p>なお、現在の計画（案）どおり進めば、包近町の児童は小学校のうちから（仮称）山直小学校へ通学することになるが、22日の説明会において、包近町や山直中町の児童も（仮称）山滝小中一貫校へ通学、といったご意見があり、それらも踏まえ、今後地域や保護者の皆様と協議を行い、より良い案を策定していきたい。</p>
193	11.28(日)	山直南	発言者C	<p>過去、少人数の学校が学力面で望ましいといったことを文科省が示していたように思うが、今回の取組はそれと矛盾するのではないか。学校を閉校にしたいがための後付けだと思うがどうか。</p> <p>子育て世代としては、伝統ある学校を守るということもそうだが、それ以上に、我が子がどのような学校へ行くことになるのかに関心を持っている。</p>	<p>1学級あたりの人数については、少人数が望ましく、現在も国において、順次35人学級編制を拡大しているところ。</p> <p>一方で、今回の取組で示す規模は、学校全体の児童生徒数を表す学校規模であり、学級あたりの人数である学級規模とは異なる。</p> <p>学校規模の大小と、学力テスト結果の高低における相関性は、岸和田市においてはみられないが、学校ごとの具体的な学力や、いじめ等問題行動の数については、公表が困難であり、ご理解願う。</p>
194	11.28(日)	山直南	発言者C	やはり学校を減らして小中一貫校にしていくための後付けではないか。	岸和田市小中一貫教育基本方針については、現在も各中学校区で実施している小中連携教育を発展させた小中一貫教育を、仮に施設一体型小中一貫校が設置された校区や、従来の分離型小・中学校の校区に関わらず、市全体で実施していくものである。
195	11.28(日)	山直南	発言者C	<p>現在岸の丘町ゆめみヶ丘では大規模な住宅開発が行われているが、住宅メーカーと話していないのか。最寄りの学校が開校されるとなれば、住宅の売れ行きに影響が生じる可能性が高い。</p> <p>また光明小学校は、過去学年2クラスの学校だったが、市街化区域であり、大規模な住宅開発を経て大規模校に至った。教育委員会だけで進めるのではなく、市長部局と横の連携を取る必要がある。ただ子どもの数が減ったから学校を減らすということではいけない。</p> <p>今後の人口減少を踏まえると、山直北小学校や山直中学校だって先々はわからない。さらに子どもの数が減るので、久米田中学校と統合するといった可能性もあるのでは。</p> <p>こういった計画にどれだけ反対しても、強行されるのではないかと危惧している。</p>	<p>適正な学校規模として示している12～18学級は、国の手引や岸和田市の審議会答申、アンケート調査等、様々なことを踏まえて設定した目安ではあるが、すべての学校を機械的に12～18学級の規模にするというわけではない。</p> <p>各学校の規模や配置バランス、通学環境、地域コミュニティに加え、これまでの学校のあり方も考慮する必要があるため、今回は中学校区単位での適正化を提示している。</p> <p>なお、適正化を実施した後の学校で数十年が経過し、再び適正化が必要な学校規模に至った場合は、その時点で再びこのような計画が持ち上がる可能性は否めない。</p> <p>その時点においても、子どもたちの教育環境が最優先であるということを念頭に置きながら、物事を総合的に鑑みたと提示することになると考えている。</p>
196	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>本来は、各校区における現状と課題、小規模校と大規模校の良さを対比する形で資料に明示することが望ましいと思う。</p> <p>また、こうした取組を一気に進めるのではなく、どこかでモデル的に実施することが望ましいのではないか。</p>	【ご意見として承る】

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
197	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>教育を最優先にした取組ということだが、学校がなくなれば、地域が分断され、崩壊してしまう。そこに住民のより良い生活は生まれない。地域の教育は、地域で支え合いながら伸びていく。学校教育だけが教育ではない。</p> <p>過去通っていた中学校は24学級あり、不良もいたが、教員も竹刀を持って指導をするような学校であった。一方で担任の教員はそうではなく、思いやりのある大人になるように、と度々仰っていた。</p> <p>両親が教員で忙しく、父は毎晩遅くに帰ってくる中、参観に来てもらうこともなかったが、その中でも自分の心の中には、勉強がすべてだということにはなかった。</p> <p>小中一貫校になれば学力が向上し、人間性も増していくというような言い方をするが、人間力をつけていくことが教育。</p> <p>過去には、岸和田市内での夜間暴走行為を、多くの青少年が見に行っていたが、岸和田市の教員は何をしていたのか。地域では青少年指導員の方々が市民の立場から子どもたちの健全育成に取り組んでいる。こうした市民レベルでの関わりが大切。</p> <p>豪華な校舎が必要だとは思わない。分校扱いにして、校長1人で掛け持ちしてもよいのではないか。経費削減にもなるだろう。</p> <p>市内の学力向上については、私学を呼び込むといった努力をしてもよいのでは。公がすべて担う必要はないと考える。</p>	<p>学力だけが、子どもたちに必要な力だとは考えていない。岸和田市では知・徳・体、調和のとれた人づくりを教育の基本理念としており、コミュニケーション能力や体力も重要だと考えている。</p> <p>学校・地域間の連携は大切だと考えており、暴走行為を例にしても、毎週土曜日の夜に、教員が地域の皆様とともに国道26号線沿いを見回ってきた経緯もある。それ以外にも様々なお力添えをいただきながら、教育を実践しており、それぞれの学校において、地域の皆様に支えられながら、子どもたちの生活が成り立ってきたことに感謝している。</p> <p>この計画（案）をたたき台として協議を重ねていく中で、仮に小学校が閉校となった場合に、これまで小学校区を単位としてきた市民協議会等、地域コミュニティのあり方については、地域の皆様が主体的に判断されることだと考えているが、行政としても、そのサポートに努めていく。</p>
198	11.28(日)	山直南	発言者D	<p>当事者である子どもの意見を聞かずに、大人が勝手に決めていくということではいけない。</p> <p>孫が山直南小学校に通っている。年中までは地域の保育所に通っていたが、早生まれということもあり、生活発表会のような同学年で行われる行事では端の方で先生と手をつないでいるような状態であったが、あるとき本人に意思を確認したところ、「皆と一緒に発表したり、ダンスをしたい」ということをハッキリと言われた。それを機に、山直南幼稚園に転園し、今は元気に小学校に通学している。</p> <p>子どもの成長は即席でできるものではない。小規模校なりの良さがあり、子どもがそれを選択できる権利があってもよいと考える。</p>	<p>今回の実施計画（案）は、市域全体を見渡し、子どもたちの教育環境にとって何が望ましいのかという協議を重ねた上で、責任を持ってお示ししているもの。一方、確定した計画ではないため、今後、地域や保護者の皆様との話し合いをしっかりと行っていく。</p> <p>また、小規模校にも良いところがあることは認識しているが、小規模が故に生じる課題の方が多くはないかと考え、取組に着手している。</p>
199	11.28(日)	山直南	発言者E	<p>この資料は教育委員会が策定したということだが、児童生徒数の話だけでなく、学校がなくなった場合に地域がどうなるか、学校がなくなったら人が減り、高齢化が進む中で農地も荒地になっていくというデメリットも考慮しているのか。</p> <p>この資料が市議会にもたたき台として示されていくのであれば、デメリットも踏まえての議論が必要だと思うが、今後校区ごとのデメリットも記載していくことを検討しているか。</p>	<p>実施計画（案）を取りまとめたのは教育委員会である一方、市長部局と常に情報交換を行いながら策定してきた経緯があり、市議会や、地域の皆様にお示しするにあたっては、市長と特別職も参加する「政策決定会議」での承認を経た、市と教育委員会からの案としてご理解願う。</p> <p>一方、22日の説明会においても、地域への非常に大きな影響が生じるとのご指摘を多数いただけてきたところ。</p> <p>今後、地域説明会でいただいたご意見を、取組の課題とされるものも含め、覆い隠さずに情報公開していく。</p> <p>また、それらに対する教育委員会の考え方も公開し、今後の協議内容も含め、総合的に判断いただく材料を提供していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
200	11.28(日)	山直南	発言者F	<p>この校区は、小学校ができる前から各地に寺子屋があり、教育熱心な地域であった。その後、小学校として山直南小学校と山直北小学校ができた。双方ともに岸和田市政より長い歴史を誇る。また過去には稲葉城が存在したように、城下町として発展してきた歴史がある。</p> <p>山直南校区の山直中町と包近町は、当初久米田中学校が通学先だったところ、山直中学校の創立により、通学先が変更され現在に至るが、山直南小学校の卒業式では、卒業証書を授与されて教室へ戻ると、皆泣いている。友達と別れる辛さがあるからであり、それは現在まで続いている。</p> <p>そんな中でも、地域では山直南小学校に通って良かったと思ってもらえるように努力している。学校だけが教育の場ではなく、子どもを育てるのは地域である。幼稚園や学校における行事にも、地域が協力している。そんな中、地域を分断する計画が進めば、小学校を中心としたまちづくりが崩れてしまう。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組が、地域に大きな影響を与えるということは承知しているが、教育委員会としては、教育の観点で物事を考えることが前提となる。</p> <p>仮に学校が閉校となった場合の、地域活動のあり方と、どのようにサポートに努めていけるのかという点については、今後もしっかりと考えていくが、そもそも学校がなくなることには反対だというご意見もあると思う。そういったご意見をいただいていることも、包み隠さずに議会や市民の皆様にも広く公開し、判断を仰いでいきたいと考えている。</p>
201	11.28(日)	山直南	発言者F	<p>この地域は住みよいまちであり、岸の丘町においても275軒の住宅完成が見込まれる中、現在は60軒で200人ほどが住んでおり。未就学児は63人いる。今後、まちが完成すれば、500人ほど子どもが増える見込みであり、教育委員会が示す数値とは大きく異なる。</p> <p>このように、この地域は岸和田市の中心になる地域である。浜手は発展しない。これからは山手が発展していく時代になる。</p> <p>実際、岸の丘町には多数の工場があり、雇用が生まれている。今後、約1500人の雇用が生まれ、住宅地には約1000人が住む。生活利便エリアにもスーパー等が誘致され、さらに雇用が生まれるとともに、お客さんも来る。また、今後はバスも通るなど、利便性が高まっていく。</p> <p>岸の丘町住宅エリアにおいては、小学校が山直南小学校、中学校は山滝中学校が通学区域だと教育委員会と契約したのに、突然山直南小学校を廃校するという。住宅会社は今後さらなる販売を行っていかねばならないのに、風評被害が生じている。</p> <p>これから人が増えていく地域なのだから、山直南校区に中学校を持ってくるべきである。子育て環境としても素晴らしい地域の学校を廃校にし、地域をつぶすとはどういうことか。市としても、人口を増やす方策を進めるべき。毎月人口が減る中、このままでは廃校だらけになる。岸和田市を発展させるためには、人を増やす必要がある。</p> <p>都市中核地域の学校も子どもが減って、統合の対象になるということは、市がそれだけ何もしていないということ。昔は賑わっていた商店街も寂れている。教育も大切だが、子どもを育てる地域の発展を本気で考えてもらわなければ困る。和泉市は山手地域でも発展している。</p> <p>教育委員会だけでなく、市全体として、市をどのように発展させていくのか考えなければいけない。意見があればまとめ、また話す機会を設けてもらえればと思うが、山直南小学校は廃校にさせない。</p> <p>岸の丘町の住宅を購入した住民から相談も来る。高いお金で住宅を購入した人に対して、どう説明していくのか。まちづくりを総合的に判断すれば、山直南小学校を廃校にはできないと思う。</p>	<p>地域の開発に関する厳しいご意見については、22日の地域説明会でいただいたところ。</p> <p>岸和田市が、市の発展や人口増加に関して何もしてこなかったわけではなく、今回の改革以外にも、例えばインバウンド拡大により経済を活性化しようというものや、まちづくりの魅力向上に向けたものなど、様々な取組を行ってきた。</p> <p>ただ、それが不十分で、効果が出ていないというご指摘については、しっかりと受け止め、市長部局とともに対応していく。</p> <p>なお、小規模校において、きめ細かな教育ができるということは事実だと考えているが、学力テストという僅かな尺度だけをみても、学校規模と学力の相関関係が明確でない。</p> <p>一方、きめ細かな教育や支援を必要とする児童生徒がいることも事実。これについては教育委員会の責務として、学校規模に関わらず、しっかりと対応していく。</p> <p>また、冒頭申し上げた「主体的・対話的で深い学び」の「対話的」とは何かということについてお話しすると、近年、日本社会は世界の潮流に翻弄される中、大きく変わってきた。以前は地域の中で経済活動が完結し、地域の中だけで生きていくことが可能であったが、現在は日本国内だけでなく、世界において、世界の人々とともに活躍していかなければならない時代となってきた。</p> <p>さらに、以前では、敷かれたレールに乗れば、一生暮らしていくことが可能であったが、現在は、レールに乗っていれば安定が確保されているという時代ではなくなった。</p> <p>文科省で示される「主体的・対話的で深い学び」では、様々な意見に触れ、様々な考え方を取り入れ、ともに良い答えを見出していくことで、将来にわたり生きる力をつけることに重きを置いており、それを踏まえ、一定の学校規模で様々な意見に触れる機会を創出することが、今回の取組の趣旨であることにご理解いただきたい。</p>
202	11.28(日)	山直南	発言者G	<p>仮にこの計画（案）が通ったとして、（仮称）山滝小中一貫校は現在の山直南小学校と同程度の規模になる。小規模校の課題については複数提示しているが、どう解決していくのか。解決できるのであれば、山直南小学校でも解決できるだろう。</p>	<p>（仮称）山滝小中一貫校では、市域全体から通学できる、特設校制度の導入を検討している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
203	11.28(日)	山直南	発言者G	教育委員会の職員に対して、個人的な考えで良いので、この計画（案）が通った場合に岸の丘町に来たいと思うか尋ねたい。	個人的な考えを表明することは、控えさせていただく。
204	11.28(日)	山直南	発言者G	特認校制度を導入したとして、何人程度が集まるのか。それで適正規模に至るのか。至らないのであれば、どの学校でも一緒ではないか。	<p>現在、東葛城小学校において特認校制度を導入しており、全校児童69人のうち23人が特認校制度を利用している児童である。</p> <p>（仮称）山滝小中一貫校で特認校制度を導入した場合に、校区外から入学する児童生徒数を見込むことは、現状では困難だと認識している。</p> <p>適正規模にまでは至らないものと考えているが、今回の計画（案）策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学環境、地域コミュニティを総合的に鑑みた上で、中学校区を単位に適正化を進めていくことが望ましいと考え、お示ししている。仮に中学校区を超えて適正化を実施するとすれば、より大きな影響が生じる可能性があると考えている。</p>
205	11.28(日)	山直南	発言者H	<p>そもそも、物事の順番が逆だと考えており、まずは山直南地区の人口をどう増やしていくか、という話ありきで進んでいく必要があると考えている。市の都市計画に基づき人口を増やしていく中で、教育委員会が教育のあり方を考えていく、いわば教育委員会が主ではなく、従の姿勢であるべきだと考える。一方で、今回は完全に主として、様々な影響を与えている。</p> <p>稲葉町と山直中町では、自身の身を切って新たに岸の丘町をつくり、市街化調整区域から外してもらった。要は地域を発展させるために活動してきた。これを教育委員会が邪魔しにきているのはいかがなものか。</p> <p>人口減少については以前から問題視している中で、岸の丘町立ち上げに協力してきた。我々は人を増やそうとしているのに、地域を衰退させようという教育委員会の案に対し、非常に遺憾。</p> <p>前回の説明会でも質問されていたが、計画（案）を出す前に、地域に対して話を聞きに来たのか、と。実際はそうせずに、何の相談もなく案を策定して、岸和田市全体に見せた。こんな阿呆なことはない。</p> <p>また、4月には稲葉町会で集めた反対署名を持って、教育長を訪ねた。ちなみに、稲葉町民は1200人程度いる。そのほぼ100%が反対だと言っている。我々の背中には稲葉町民の総意が乗っている。それを踏まえてきちんと考えるべき。地域の総意として反対している中、山直南小学校をつぶせるのか。</p>	<p>本日いただいたご意見も含め、これまでいただいたご意見についてはしっかりと受け止め、今後市長部局とともに対応していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
206	11.28(日)	山直南	発言者I	<p>天神山町から来た。山直南小学校は、数年後に適正化対象規模から外れるのではないかと考えている。</p> <p>天神山町を例に挙げると、40数年前に1270世帯のまちとして完成し、天神山小学校にはピーク時で730人の児童がおり、学校全体で21学級であった。この数字を岸の丘町に適用すると、ピーク時で140人程度の児童が山直南小学校に通うことになる。全国的にカップルの数が減り、合計特殊出生率が減っていることから、もう少し少なくなる可能性はあるが、岸の丘町に住む人の多くはカップル。カップルが生む子どもの数は2.1人とされるので、約500人の子どもが増える。ただ、一度に増えるわけではなく、恐らく小学校で市が言う100人程度から、120人程度の児童が通うことになる。</p> <p>教育委員会は、40人ないし35人学級を想定している中で山直南小学校は適正化対象規模で推移するとしているが、現在岸和田市は35人学級を下回る少人数学級を要求しており、文科省も30人学級を望んでいる。</p> <p>そうなれば、山直南小学校は全学年2クラスの適正規模校になる。そうした考えはないのか。</p>	<p>現状からは、今後岸の丘町において100人強の小学生が増加すると見込んでいる。一方、地域の皆様からは500人ほど子どもの数が増加するとご意見があったところ。今後の協議において、教育委員会の推計値と、地域の皆様が想定する数字を突き合わせながら、しっかりと見極めていく。</p> <p>なお、今回の取組においては学校全体の児童生徒数である学校規模の確保を主眼に置いており、学級あたりの人数である学級規模については、今後も引き続き少人数化の要望を行っていくが、学級編制基準の変更は市が決めるものではなく、国がすぐに判断を示すものでもない中、不確定な事実をもとに計画を策定することは好ましくないと考えている。現段階で確実な事実及び推計値を基に、計画を策定していくことが必要だと考えている。</p>
207	11.28(日)	山直南	発言者J	<p>中学生と未就学児の保護者としては、通学問題を最も懸念している。例えば稲葉町から山滝中学校までは2km弱、小学生にも同じ距離を歩かせることはいかがなものか。スクールバスを出すと言っているが、そういった制度を導入するにしても、小中一貫校ありきというのはどうか。山間部においては、より適正な配慮の仕方があるのではないかと思う。</p> <p>通学環境のことを考えると、今の山滝中学校に、山滝小学校と山直南小学校、東葛城小学校を統合した小学校を設置し、今の山直南小学校に中学校を設置することで、3校区の子どもたち全員が通えるという案なら、分断につながらないのではないかと思う。</p>	<p>安心安全な通学環境の確保は、教育委員会として最優先すべきことであるため、どのような形になっても、優先して取り組んでいく。</p> <p>いただいた具体的な案については、ご意見として承り、今後地域や保護者の皆様と協議を行っていく。</p>
208	11.28(日)	山直南	発言者J	<p>この計画（案）は、市長が替わればなくなるのか。</p>	<p>教育委員会会議における決定事項であるため、仮に教育長が替わったとしても、計画（案）は変わらないが、教育委員全員が交替した場合は、変わる可能性がある。</p> <p>市長や教育長を含む特別職が参加する、政策決定会議における決定事項でもあるため、市としての判断として、議会にも説明する。よって、市長が交替するだけで自動的に廃案になる、変更される、という性質のものではない。</p> <p>いずれにせよ、最終的な判断を行うのは、市民の皆様であり、その代表である市議会となる。</p>
209	11.28(日)	山直南	発言者K	<p>市長が替われば、この話はなくなると聞いたことがあるのだが。</p>	<p>大きなインパクトとはなり得るだろうが、自動的に廃案になるものではない。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
210	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>手続的に、この計画を最終決定するのは教育委員会なのか、それとも市長なのか。以前は議決事項ではなく、議会が最終的に決定するものではないと聞いたと思うが、最終的な責任者が誰になるのか教えてほしい。</p>	<p>手続きには三段階あると考えている。</p> <p>まず、皆様のご意見を伺う中で、この案を大きく修正する場合、教育委員会自らが修正し、市長を経た上で議会へ説明する、ということが1つ目。</p> <p>次に、教育委員会として、この案が教育環境上望ましく、変更できないと判断したが、市長部局の立場から、市民生活に対する課題が多いとされた場合、市全体の会議で見直す判断になる、ということが2つ目。</p> <p>最後に、教育委員会と市長部局が合意の上、議会に提案する場合、関連予算の議決権は議会にあるため、そこで否決を受けた場合、この計画は頓挫もしくは修正を余儀なくされることになる、ということが3つ目となる。</p>
211	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>包近町と山直中町は、現状の計画（案）でいけば、（仮称）山直小学校に通うことになる。</p> <p>先日、泉州山手線の延伸が予定され、都市計画が見直される中、三田町と岡山町は市街化区域に、包近町と山直中町は市街化調整区域のままになるだろうということで、そういった市の方向性と、教育委員会の校区再編が逆方向ではないか、と意見を述べた。</p> <p>資料の13ページで、将来の山直南小学校の推計値を記載しており、これによれば、今後も山直南小学校では全学年1クラスとある。岸の丘町の児童数の話も多々あるが、仮に、包近町と山直中町の児童が引き続き山直南小学校に通えば、210人を超える児童数が想定され、複数学級を確保できる学年もいくつかできてくると思う。</p> <p>これを踏まえると、山直南連合を真っ二つにし、包近町と山直中町の児童が地域性の異なる（仮称）山直小学校に通うのではなく、両町の児童も山直南小学校に通い、それに加えて岸の丘町の児童数増加を考えると、未永く200人を超える学校規模を維持でき、学年あたり2クラスということも夢ではないと思う。</p> <p>今回見直しを実施したとしても、さらに人口減少と児童数減少が続けば、また再編計画が持ち上がるかもしれないと言っているが、今のような通学区域にすれば、さらなる見直し時期も先に延びるなど、安定した学校教育を実施できるように思う。</p> <p>前回の最後に、教育長も説明会会場の雰囲気ショックを受けたと話していたが、説明会に参加した住民の厳しい意見については、声の大きい反対派だけの声ではなく、各町会を代表して反対意見を述べているのだと思っている。</p> <p>今後も説明会を開催するのだと思うが、本日の意見を含め、真摯に受け止めていただき、前向きな形で臨んでいただきたい。</p>	<p>地域の皆様のご意見を伺いながら、これまでの都市計画や土地利用が考えられてきたものだと思えている。</p> <p>本日はあくまでも「案」としてお示ししているものであり、この説明会が議論のきっかけ、スタートだと考えている。</p> <p>今いただいた具体的な通学区域案については、本日聞いて終わりということではなく、さらに突き合わせて、内容を吟味していく必要がある。今後もより良い計画の策定に向けて話し合いを重ねていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
212	11.28(日)	山直南	発言者L	<p>ホームページのQandAの中で、中学校の立地条件は概ね妥当なので、見直すつもりはないような回答があった。本日の答弁でも、中学校区まで見直すと、別の問題が生じて、今以上に困難な状況になってしまうという懸念を示していたが、11中学校が設置された時点と、現在とでは社会状況も異なる。</p> <p>山直北小学校区と城東小学校区を足した人口は、この60年間で約2.3倍に増加している。一方、山直南小学校区では13%程度増加、山滝小学校区では約30%減少している。このような人口増減がある中、なぜ中学校の立地条件を見直すつもりがないのかわからない。そういった紋切り型の見直し、頑なな姿勢を取り下げた上で、小・中学校区を含めて、どういった適正化が望ましいのかを検討いただきたい。</p>	<p>中学校区を超えて適正化を実施するとすれば、さらに大きな影響が生じるということは、事実として捉えている。</p> <p>現状の計画（案）から変更の余地がないというわけではないが、現時点においては、中学校区を単位とした適正化が望ましいと考えている。</p>
213	11.28(日)	山直南	発言者M	<p>山直南校区では、子育て世代の方々が、自分が育った山直南小学校に子どもを通わせたいがために、親と同居したり、実家近くに家を建てたり、また岸の丘町に家を建てたりして、この地域に住んでいる。そのことを知っているか。</p> <p>学校は子どもたちが主役だが、地域の皆の学校でもある。だからこそ、大切に思い、このように集まっている。校歌にもあるように、子どもたちには大きな未来が待っている。</p> <p>親と同居したり、実家近くに家を建てるということは、市が推奨していることだと思う。それを実証しているのが、山直南校区だと自負している。</p> <p>皆が、この素晴らしい小学校を好きで通わせているという気持ちを汲んでいただきたい。岸の丘町での新たなまちの息吹を感じ、これからどんどん大きくなっていくまちを見守っていただきたい。</p>	<p>地域の皆様が、子どもたちを支えてきていただいていることは承知している。ご意見として受け止めていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
214	11.28(日)	城東	発言者A	<p>スライド資料の12ページに城東小学校の児童数推移が示されており、今後3年間は増加し、その後減っていくとある。また35人学級導入による学級数への影響も示されている。</p> <p>答申によれば、8学級以下の小学校が適正化対象とされており、このままいくと、城東小学校では、令和9年度までは適正化を急ぐ必要がなく、令和10年度以降は適正化対象になるので、適正化を検討することになる。</p> <p>これまで適正化案を白紙にせよ、棚上げにせよと運動してきた。答申も出ている中、撤回せよ、ということではない。各地を回る中で、城東校区をみると、摩湯古墳から下ったあたりで、新しい住宅が毎年のように少しずつ増えてきている。</p> <p>その中で、当然子どもたちが増えてくるが、教育委員会は民間デベロッパーの開発については予測できないので、校区内に住む、令和3年度の0歳からの子どもの数を中心に推計を考えており、今後の転出入は考慮していないとしている。</p> <p>今後城東校区においても児童数が増えるのではないかと思われるが、それは今回の資料には含まれていないということでしょうか。</p>	<p>今回の資料では、教育委員会として直近で推計できる数値をお示ししており、これは妥当なものだと考えている。</p> <p>今後の住宅開発については、市長部局の担当課を通じて継続的に確認しているが、城東校区における大規模開発については伺っていない。今後も、担当課を通じ、情報の把握に努めていく。</p> <p>城東小学校が、一時的に適正化対象規模から外れるという指摘について、先ほどスケジュールの説明で申し上げたが、（仮称）学校開校準備委員会を設置してから開校まで5年程度かかると考えている。そうなると、早くても令和10年度開校となり、その時点では城東小学校も適正化対象規模に戻っていると見込んでいるため、現時点から適正化の取組を進めるべきと考えている。</p>
215	11.28(日)	城東	発言者B	<p>適正規模というものは、本当に適正なのかということをもとから考え直すべきではないか。この計画（案）どおり実施されれば、小・中学校、幼稚園も含め、数が減少するため、人口減少に拍車がかかり、負のスパイラルになることを恐れている。</p> <p>人口減少が全国的に進んでいることは理解している。その中で、どのような方策を以て増勢に転じるかを考えることが、市政の考え方として大原則ではないか。</p> <p>この計画は、よりコスト高につながるのではないかと懸念している。文科省の「小中高等学校の統廃合の現状と課題」という資料によれば、小中学校が統廃合され、遠隔地から通学させるために必要とされる費用は、2校統合した場合、統合前の366万円が、919万円にコスト高になる。スクールバスの導入、運行、維持管理を含むのかはわからないが、2～3倍のコストがかかる。また3校統合では、581万円が1919万円に、4校統合では、496万円が3375万円になると記載されている。</p> <p>この計画（案）を進めた場合、コストがどれくらいになるのかを尋ねたい。</p> <p>なお、紹介したコストは通学手段を確保するためのもののみであり、校舎の解体費等は含んでいないため、さらにコスト高になるのではないかと考えるが、そうした試算を示した上で、市民が検討する、こういった説明会を望む。</p>	<p>岸和田市の人口は、平成14年の住民基本台帳ベース、平成17年の国勢調査においてピークを迎え、約201,500人であった。その後人口減少に転じ、現在では10,000人以上の人口減少に至っている。</p> <p>人口減少の理由を市長部局の企画課が分析したところ、30代前後の子育て世代の社会転出が大きな要因であった。教育・子育ての充実を図ることが、今後の人口を維持・反転させていく大きなポイントになるとしており、市及び教育委員会も、そこに向けて取り組んでいるところ。</p> <p>これまでの日本社会では、ある程度地域の中で経済が回り、地域の中だけで生活できていたが、現在は、日本国内だけでなく、世界とともに、時には競争しながら経済を回していくことが必要な、難しい時代となってきた。</p> <p>職業選択においても、以前は一定のルールに乗れば一生暮らしていける時代であったが、現在は一定のルールに乗れば安心という時代ではなく、それぞれの社会ステージにおいてしっかりと考えていかなければならない時代となっている。</p> <p>その中で、文科省はこれまでの知識偏重の詰め込み教育から「主体的・対話的で深い学び」という新たな学習指導要領のもとに重点を移した。</p> <p>様々な人の多様な意見に多く触れる中で、意見を交換し、時には戦わせながら、方向性を見出していくことが必要であり、そのためには一定の学校規模が必要で、国も12～18学級を適正な学校規模として示している。</p> <p>教育に対する考え方も様々で、小さくても身近にある学校の方が望ましいとされるご意見もあるが、教育委員会としては、適正な学校規模を確保し、教育内容を「主体的・対話的で深い学び」に適したものにし、一人ひとりの子どもたちが、将来にわたりより良く生きていく力をつけていかなければならないと考えている。</p> <p>そうした意見の相違も含めて、今後地域や保護者の皆様と十分に協議し、より良い結論を見出していきたい。</p> <p>決して財政支出を削るために行う取組ではなく、今述べたような、より良い教育環境を整備するための取組であることにご理解願う。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
216	11.28(日)	城東	発言者B	<p>資料13ページにおいて、35人学級編制による城東小学校の学級数見込が示されているが、30人学級や20人学級にした場合、どのような数値になるのか。</p> <p>現在はコロナ禍であり、今後第6波が来る可能性もある等、どうなっていくか予測できない。人口減少が続いている状況下では、学校を統廃合して、コミュニティや学校の場所を少なくすることは問題があり、市独自での少人数学級こそが、持続性のある計画だと考えている。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組は、1学級あたりの人数である学級規模ではなく、1校あたりの人数である学校規模について、一定の規模を確保する取組である。</p> <p>少人数学級については、文科省において、令和7年度まで順に小学校の35人学級を導入することが決定しているが、学級編制基準については市独自の判断ではなく、国が一律に判断すべきものだと考えており、これまでも、都市教育長会議等において、国や府へ少人数学級に係る要望を実施している。今後も継続していく。</p> <p>なお、財政的に裕福な市町村は独自の少人数学級を導入でき、そうでない市町村は35人ないし40人学級のままであるということが、国の義務教育の中であってよいのだろうか、ということ考えたときに、公教育である以上、学級編制基準は国で一律に決定されるべきと考えており、市単独で少人数学級を導入する考えはない。</p>
217	11.28(日)	城東	発言者B	<p>資料21ページ、適正化に際する必要な対応について、学校がなくなると地域コミュニティがなくなり、人口減少に拍車をかける、負のスパイラルに入ってしまうと申し上げたが、学校跡地の利活用について、なぜ「検討」としか書いていないのか。地域コミュニティのために残すとはっきり記載すべきでは。</p>	<p>跡地活用策を、教育委員会が先に決定するという事は好ましいことではないと考えており、跡地活用については、地域の皆様からのご意見を踏まえ決定していく。</p> <p>ご意見をいただく中で、地域の皆様が活動する場所として考えることも含めて「検討」としている。</p> <p>なお、土地や建物を含む学校施設は、地域の皆様にとって大切な財産であると同時に、市民全体の財産でもある。その両方をみながら方針を決定していく必要があるということも含んでいる。</p>
218	11.28(日)	城東	発言者B	<p>このような計画が実施される場合、予算を伴うため、議決を得る必要がある。本日出席している職員は教育委員会の職員だけなのか、市長部局の職員もいるのかはわからないが、このような重要な問題は、市長が出席し、市長から話をすることが必要ではないか。説明会は20回開催のようだが、これまで市長が出席した回数は何回か。回数だけをお答え願う。</p>	<p>教育委員会がまずは説明を行うということで市長と合意しているため、現時点で市長は出席しておらず、今後も説明会の開催回数を残しているが、出席の予定はない。</p>
219	11.28(日)	城東	発言者C	<p>城東小学校の児童数が少ない理由として、ミニストップの裏（磯之上山直線より城東小学校側）の住宅地がなぜか山直北小学校を選べるようになっていたことが挙げられる。その区域を調整すれば城東小学校のクラス数も増える。</p> <p>自身の子どもや孫が磯之上山直線を渡ることの危険性を認識すべき。結局市はお金のことしか考えていない。市長がこの説明会に参加していないのも、市民から色々言われるのが怖いからではないのか。行政の責任者として参加するのが当たり前では。</p>	<p>仰る地域は、恐らく田治米町の区域のことだと思うが、通学区域については、基本的に地域コミュニティ、市の成り立ち等を考えた上で設定されるもの。</p> <p>田治米町には、田治米町会と、田治米団地のコミュニティが存在するため、様々な経過により、現在の通学区域が形成されている。</p> <p>なお、現在も、山直北小学校側から磯之上山直線を渡り、城東小学校へ通学している児童や、逆に城東小学校側から磯之上山直線を渡り、山直北小学校に通学している児童がいる。現状でも、地域の皆様に支えていただき、安全を見守っていただいているが、適正化を検討する中でも、通学の安心安全を確保することは最優先に考えなければならないことだと認識している。通学区域についても、今後地域の皆様と十分に協議していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
220	11.28(日)	城東	発言者B	<p>先ほどの質問について、真正面から答えていただけていない。コストの試算について尋ねたが、コストのために実施しているわけではないという答えであった。</p> <p>コロナ禍における少人数学級についても、意見を申し上げたが、そこについては教育委員会の意見もあるだろう。それはいいと思うが、統廃合を実施すれば、スクールバスを要する子どもたちも出てくる。そうなれば通学に時間がかかり、友達と遊ぶ時間も限られてしまう。これで豊かな友達関係を築けるのか懸念しており、教育を受ける権利、教育の機会均等の面からいかになものかと考える。</p> <p>一つの通学路を取っても大問題であり、懸念する点がたくさんあるような計画を、コロナウイルスの影響が今後不透明な中、性急に進めることはあってはいけない。</p> <p>市民的な議論を含め、もっと多くの時間をかけて議論していくべきであり、市の教育における根本的な変更になり得る計画であるため、コロナ禍においては一旦立ち返って検討し直すべきだと考える。</p>	<p>コロナウイルスに関して、市民の皆様の地道な対策により、現在は一定鎮静化している。アフリカ大陸から新たな変異株が入ってくるということで、引き続き注意が必要な状況にあるが、市民の皆様におけるこの間のご努力に、御礼申し上げる。</p> <p>感染症により、学校を一斉休校するということは、少なくともこの60年の間で初めてのことで。これが5年、10年先も継続していくとは考えにくく、感染症についてはエビデンスに基づき、正しく恐れることが重要。</p> <p>感染症を見越して、必要以上に対策をしていくということには疑問があり、冷静に対応すべきと考えている。コロナ禍が今後も続くことを踏まえて、25人、20人学級を導入すべきかということについても、疑問に考えている。</p>
221	11.28(日)	城東	発言者D	<p>資料の13ページにおいて、令和10年度以降は適正化対象規模になるということを示しており、先ほどの説明では、計画をスタートしてから5年程度かかるということであった。</p> <p>この計画は「案」であり、今後十分に意見を聞いて、案に反映させるともあった。山直南地域や、葛城の谷地域においては本当に大変な計画（案）になっている。</p> <p>スタートの時期について、例えば説明会は終わったので来年度から、ということなのか、ずっと話を聞くと言ってくれるのか、お聞きしたい。コロナ禍で説明会の延期が続く中、来年の4月と言われると「えっ!？」と思うし、地域ではまだ6割程度は知らないという方がいる中で、こんな大事なことが決められていいのか、と不安を抱いている。</p>	<p>今回お示している計画は「案」であり、今回の地域説明会をはじめ、様々な場面で地域や保護者の皆様のご意見を伺いながら、より良い計画をつくり上げていきたい。</p> <p>極端に言えば、19万人市民の意見が完全に一致することは現実的ではない。十分な議論を重ねる中で「機が熟した」と教育委員会、市長が判断した段階で、市議会へ提示することになる。</p> <p>市議会において「まだ機が熟していない」と判断されれば、差し戻しをされるだろうし、「機は熟しているが、市民意見を反映されていない、市民の代表である市議会として認められない」ということであれば、否決されるだろう。</p> <p>このように、十分に議論を尽くしていく。そのために、開校予定時期についても「n+5年度」としており、特定の時期を明示していない。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
222	11.28(日)	城東	発言者D	<p>小中一貫教育基本方針の中に、中1ギャップの解消とあるが、これは本当に存在するのかと疑問を持っている。中学校に進学する際に、卒業式・入学式があり、新しい制服を着て、新しい学校に通い、部活動を考えたり等、ギャップという負のイメージよりも、成長のバネになっているのではないか。</p>	<p>国立教育政策研究所から、中1ギャップに関する生徒指導リーフというものが発出されており、「中1ギャップに限らず、便利な用語を安易に用いることで思考を停止し、根拠を確認しないままの議論を進めたり広めたりしてはならない」と記載されており、教育委員会としても丁寧に対応する必要があると認識している。</p> <p>なお、小中一貫教育基本方針は小中一貫校を設置していく方針ではなく、市内全体11中学校区で、これまで実施してきた小中連携教育を発展させた小中一貫教育の取組を進めていくというもの。</p> <p>これまでの小中連携教育としては、小・中教員が夏休みに合同研修を行う、小学生の中学校訪問、中学生が職業体験として小学校を訪問等、様々なことに取り組んできた。</p> <p>ここからさらに中学校区で1つのめざす子ども像を定めることで、小中一貫教育に発展させていく方針である。</p> <p>また、確かに子どもたちは、中学校に進学する際に、新しい気持ちで頑張ろう、という気持ちを持っている。一方で、小学校における人間関係のトラブル等を引きずったまま、中学校に進学してしまう子どもがいる。また、中学校進学時の環境変化に適応できず、4月から不登校になってしまう子どももいる。小・中教員相互の連携により、そういった課題を解決できるのではないかと考えている。</p> <p>小中一貫教育だけが諸課題解決の手段とは考えていないが、解決に向けた方策の一つであると捉えている。</p>
223	11.28(日)	城東	発言者D	<p>文科省は適正規模と言っているが、子どもたちにとって本当に適正なのか、ということが疑問。</p> <p>適正規模でないから廃校にする、ということと、中1ギャップがあるから小中一貫教育を行う、というあるようでないようなことを以て、このような大事なことを推し進められると困る。</p>	<p>文科省が適正な学校規模を示すにあたっては、学識経験者を含む中央教育審議会において、十分な議論を経ている。</p> <p>また岸和田市においても、国の手引を参照するだけでなく、学識経験者やPTA・地域の代表者で構成された審議会において議論いただき、12～18学級が望ましいという答申を受けた。また、児童生徒とその保護者、教員を対象としたアンケート調査においても、12～18学級が望ましいとする回答が多数を占めた。</p> <p>これらを適正規模の考え方の根拠としている。</p>
224	11.28(日)	城東	発言者D	<p>通学路の安全確保について、ハード面の対策の他に、見守り隊のことも記載している。地域では、見守り隊の方が登校時も、下校時も立ってくださり、本当に頭が下がる思いだが、これは小学校区単位での市民協議会や、福祉部会といった地域コミュニティがしっかりしているからこそ。</p> <p>市も地域コミュニティに助けられている部分が多々あると思う。例えば民生委員児童委員の方の赤ちゃん訪問など、地域が子どもを育て、見守っていくということが地域の中で培われていることが、岸和田市の特徴であり、素晴らしいことだと思う。これをよくわからない理由で破壊されると、岸和田市が崩壊してしまうのではないかと危機感を持っている。</p> <p>統廃合が絶対ダメだ、ということではないが、十分な議論と丁寧な進め方をさせていただきたいと願う。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組においては、子どもたちの教育を第一に考えて進めていくが、地域コミュニティに関することを無視するのではなく、市長部局とともに、地域における活動場所確保等のサポートに努めていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
225	11.28(日)	城東	発言者D	<p>小中一貫教育基本方針の資料における「具体的な取組②」について、小・中学校の教員が連携して指導に行ったりするなど、としているが、小学校教員の中には、免許の関係で中学校へ行ける人と行けない人が出てくると思うが、中学校免許を持つ教員にばかり負担がかかるのではないかと。</p>	<p>現段階でも、中学校教員が小学校の授業を行うことを実施している。</p> <p>その中で、教員に負担がかからないよう、十分に配慮している。現在も、例えばA中学校からB小学校へ行く際の行き帰りの時間も含め、教員の授業時数を調整するなどしており、乗り入れによる負担増はないとご理解願う。小中一貫校が仮に設置されることになれば、移動に係る負担はさらに軽減されるとも考えている。</p> <p>なお、小学校教員が中学校の授業をするには、免許が必要。中学校教員が小学校の授業をする場合は、専科指導ということで、英語や体育といった、各教員が免許を保有する教科の指導が可能。</p>
226	11.28(日)	城東	発言者D	<p>すでに小中一貫教育を実施している学校に行ったことがあるのだが、小・中教員の相互乗り入れを実施するための会議をしなくてはならず、会議が非常に増えたと聞く。</p> <p>授業準備のための会議ではなく、乗り入れのための、不要な会議が増えることに懸念。机上では相互乗り入れは魅力的だと思うが、現場の負担は増していき、その分子どもに目が届かなくなるのでは。</p>	<p>教員は非常に多忙な中、教育委員会としても過剰な負担をかけないよう、通知や届出の簡略化等、働き方改革を進めていく必要があると認識している。</p> <p>一方、教員の仕事は子どもと向き合うことであり、子どもの教育を推進することが、いわば本分となる。その教育を充実するための会議は決して無駄なことではなく、むしろ、時間をかけてでもしっかり実施すべきことだと認識している。</p> <p>負担が増加した分については、他の部分で軽減できるように努めていく。</p> <p>なお、小中一貫教育に係る先進事例を視察した際、小学校教員に「中学校で教えることは大変でしょう」と尋ねたところ、「むしろ、小学校でこれだけの力をつける必要があるということがよくわかり、教員として非常にプラスになる」とお答えいただき、大変参考になった。</p> <p>小・中学校間をつなぐための会議を怠ると、授業がうまくいかず、さらに負担が増加する恐れもあるため、やはりそのような会議は必要なものだとして認識している。</p>
227	11.28(日)	城東	発言者D	<p>「幼児教育を含めた一貫教育」とあり、幼小中一貫での教育を実施するとあるが、片や幼稚園をつぶしながら、よくこんなことを言えるなどと思う。矛盾を感じる。</p> <p>やりたいことは良い理由をつけて進めるが、一方でどんどん切り捨てていく、本当に市民中心で考えていることなのか本当に疑問。</p>	<p>幼稚園と保育所を再編する計画を別に進めているが、この主眼は、待機児童・未入所児童の解消である。</p> <p>年間300人を超える待機児童・未入所児童が存在する現状は、男女共同参画の観点からも、子育て世代に来ていただく観点からも大きな課題であると捉えており、解消は急務だと考えている。</p> <p>一方、幼稚園はこの5年間で定数を半減させても、なお定数の7割しかご利用いただけていないという状況であり、このアンバランスを解消するために、認定こども園化を計画している。</p> <p>計画が進めば、幼稚園という器はなくなるが、幼児教育自体はむしろ進展すると考えている。その幼児教育を小中一貫教育にも取り入れ、幼小中一貫教育を実施していくという考えである。</p>
228	11.28(日)	城東	発言者B	<p>幼保再編に関しては、公立をつぶし、民営化を進めるという市の取組を問題視しているということを申し上げておく。</p> <p>「機は熟した」という時期はいつと考えているのか。少なくとも、説明会に市長が一度も出席していない中、機は熟したとは言い難いと思うが、その点市長にお伝え願う。</p>	<p>説明会の各回におけるご意見等は、すべて市長に伝達する。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
229	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>現在の山直北小学校に（仮称）山直小学校を設置するにあたり、教室は本当に足りるのか。</p> <p>現在19クラスで、支援学級も10以上あったと思う。現状でも教室数はおおよそ一杯だと思うが。</p> <p>改築を検討しているということだが、4階建てにするのか。4階建てにすると、4階に教室がある児童は移動の負担と時間が増すので、休み時間に出たがらない。</p> <p>学校規模が大きくなると、給食を受け取る時の行列もすごい。また、グラウンドが狭くなると思う。</p>	<p>建築部局とも協議しながら行っているシミュレーションでは、現在の敷地内でも、支援学級分を含め、教室の確保が可能と見込んでいる。</p> <p>階数について、建築基準法上の規制を踏まえながら、地域の皆様のご意見を伺い、可能であれば4階建てでも検討していく。</p> <p>グラウンドについて、現状の敷地における整備でも、放課後を含めて問題なく利用できると見込んでいる。なお、隣接する山直北幼稚園及び山直北プールについても、今後、再編の方向性を踏まえ、条件が整えば、地域の皆様と協議の上で活用を検討するが、市全体の貴重な財産でもあるため、総合的な検討を行った上で判断すべきことだと認識している。</p> <p>給食について、児童人数が増えるほど、動線の確保が重要ということは認識している。現段階における校舎レイアウトは未定だが、子どもの安心安全を主眼に置きながら、そうした動線も含めて今後検討していく。</p>
230	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>今でも一杯なのに、教室が足りるということが理解できない。支援学級の教室は、1つの教室を半分に分けて使用しているとも聞いている。可能であれば、マット等身体活動も必要なので、支援学級用の教室も1つの教室分確保されるべき。</p> <p>その上で城東小学校や山直南小学校の児童がやってくる。どうやって教室数を確保するのか。たった10分の休み時間のうち、昇降に時間がかかる4階建ての校舎は望ましくない。</p>	<p>本日資料に記載しているイメージ図は、あくまでも現状で建替が必要な校舎をお示しているもの。増築が必要であれば、配置も含めて検討する。</p> <p>4階建て校舎については、今後の検討事項だが、例えば校舎の屋上を活用するといったことを含め、敷地全体としての活用方法をしっかりと考えていく。</p>
231	11.28(日)	山直北	発言者B	<p>山直北小学校の保護者なのだが、今5年生の子どもが3年生のときに「教室の数が足りないので、3クラスになるしかない」といった話を子どもから聞いたことがある。実際、1クラス40人を超える中で進んでいるが、本当に教室数が足りるのかが疑問。チビッコホームについても、城東小学校では定員を超える申し込みがある中、確保する必要があることも含めて、教室数の確保をお願いしたい。</p>	<p>先ほどの回答と重なるが、校舎の増改築を行うとともに、必要であれば、隣接する敷地を活用するなどして、必要な教室数を確保していく。</p> <p>必要教室数を確保できないまま、この取組を進めていくことは考えていないので、しっかりと対応していく。</p> <p>なお、基本的に学級は、40人ないし35人で1クラスという国の基準において編制されるものの、支援学級の児童が通常学級とともに学ぶ際に、1クラスあたりの人数が40人を超えることがある。このことについては課題であると捉えており、現在内部で検討し、市とも相談しているところ。</p>
232	11.28(日)	山直北	発言者B	<p>スクールバスについて、行きは皆同じ時間なので大丈夫だと思うが、帰りは学年によって時間が異なると思われる。それぞれの時間に配車してもらえるのか。</p> <p>また、放課後に遊びたい子どももいると思うが、遊んだ後の最終下校時間にバスがあるのかどうかも気になっている。学校で遊べないとなれば、これまでの校区より遠くに遊びに行くことになると思う。</p>	<p>スクールバスの導入については、他地域との均衡にも十分配慮しつつ、地域や保護者の皆様のご意見を伺いながら、具体的な検討を進めていく。</p> <p>仮にスクールバスが導入された場合の、便数及び運行時間についても、（仮称）学校開校準備委員会において協議し、決定していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
233	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>昨年開催された説明会と、本日も触れられていたが、中学校では教科担任の教員を確保することが難しいということであった。一方、（仮称）山滝小中一貫校においても学年あたり1クラスだということで、結局教員数は増えない。教室に詰め込む子どもの数だけが増えることになる。小規模な中学校としての教員確保の課題解決になっていない。</p>	<p>教員は学級数に応じて配置されるため、小規模校においては、正規の教員が配置されないといった課題がある。教科の授業をしないわけにはいかないため、非常勤講師を充てることになるが、現在講師不足の状況にあり、人材確保も難しい。</p> <p>可能な限り、子どもたちの集団活動を保障していく必要がある中、確かに（仮称）山滝小中一貫校においては適正規模が確保されない。一方、適正規模を確保しようとするれば、現在より広範囲に学校を統合することになるが、その場合、より大きな影響が生じるため、現在の計画（案）を策定している。</p> <p>適正規模に至らないことを補うため、特認校制度導入により、他校区からの児童生徒の受け入れを図るとともに、小中一貫校として、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶことにより、多様な考えに触れる機会を創出していくという計画（案）となっている。</p>
234	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>現在の山滝中学校の敷地に、認定こども園も設置するということが、0～15歳の子どもが同じ敷地に入るのは無理があるのでは。敷地拡大の予定はあるのか。外で遊べなくなることが心配。</p> <p>中学生が本気で部活動にいそめれば、スピードやパワーはすごいものがある。その中で小さい子どもが遊ぶことは考えられない。小さい子どもに「放課後は遊ぶな」と言うのか。</p> <p>山滝中学校の部活動に関して聞いたことがあるのは、野球部が練習しているときには陸上部は端っこの方で練習せざるをえないということ。中学生同士ならまだしも、敷地拡大なしには実現不可能だと思う。</p>	<p>小中一貫校の先進事例からは、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶ中で、中学生に責任感が芽生え、小さな子どもを優しく見守る姿勢が出てきたという効果も伺っている。</p> <p>一方、小さな子どもと中学生が、同じ場所でボール遊びをするということは考えにくく、グラウンドや体育館の使用場所及び使用時間について区切りを設ける等、交錯することのないよう、安全確保に努めていく。</p> <p>なお、山滝中学校の近隣に、老朽化が著しく、酷暑の中で利用者数も減少している山滝プールがあり、今後、このプール敷地の活用も含めて検討していく。</p> <p>また、野球部と陸上部が同時に練習する際の課題については、高校のグラウンドでも起こることであり、その中で工夫・協力しながら練習している。そうした工夫・協力は小中一貫校においても必要だと考えている。</p>
235	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>山直南小学校区の説明会を見に行った際、岸の丘町に新たに住む人の数については、現状では読めないからだと思うが、まったく数に含まれていない。山直南小学校では今後児童数が増える可能性が高いのに、そのことは考慮されていないという声があった。</p>	<p>岸の丘町で増加する児童数は不確定であるが、現在教育委員会においては約120人と推計しており、今後協議を進める中で、教育委員会の推計値と、地域の皆様の見込みを突き合わせ、意見交換をしながら、より正確な数値を見出していく。</p>
236	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>時間を分けてグラウンドを使うのは無理だろう。</p>	<p>先ほど説明したように、まずは使用場所と使用時間を区切り、小さな子どもと中学生が交錯することのないように工夫する。それでも困難な場合は、近隣にあるプールの跡地活用についても検討する。さらには屋上を活用する等含め、より良い方策を考えていく。</p> <p>教育委員会として、子どもの安心安全を確保することが第一であり、そこを中心に考えていく。いただいたご意見については、しっかり記録し、市民や市議会に対して広く周知していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
237	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>小さい子どもを屋上で遊ばせるということはいかかなものか。幼児は砂や土にまみれ、虫や草と触れながら遊ぶもの。小学生もそう。中学生になれば屋上で部活動をするということにも制限があると思う。体操や卓球ならできるかもしれないが。</p> <p>一番言いたいことは、現状の敷地では無理があるので、プールの跡地を含め、敷地の拡大を願うということ。園児と小学生、中学生がともに学ぶのであれば、本当にきっちり整備しないと、怪我人が出てしまうと心配している。</p>	【ご意見として承る】
238	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>小学生に関しては、放課後は教員の管轄から離れて、自由に遊ぶ。遊ぶ場所を区切るにしても、そう上手くいくとは思えない。子どもたちに「あっちへ行くな」「こっちへ行くな」というようなことをするのであれば、統合はやめてほしい。子どもが嫌な思いをすることは避けるべきで、そこまでして統合する必要があるのか疑問。無理する必要はない。</p>	【ご意見として承る】
239	11.28(日)	山直北	発言者B	<p>敷地拡大に際して、プールを活用するとしているが、今後プールの授業はなくなっていくのか。</p>	<p>プール授業については、小・中学校ともに、教育課程の中で必修である。</p> <p>市内各地のプールは老朽化が著しい状況にある中、今後は民間のプールを借りて体育の授業を展開していくことを考えている。熱中症の課題もあるため、室内プールの方が好ましいということも含んでいる。</p>
240	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>中1ギャップ解消のために小中一貫教育を実施するとしているが、文科省は中1ギャップについてほとんど触れていない。中1ギャップがあるから学力に悪影響があるとか、不登校が増えるというのは違うと思う。</p> <p>確かに中学校に進学する際に戸惑うことも多いと思うが、希望に燃えて進学することも事実。中1ギャップ解消を主な理由に置くのはいかかなものか。</p>	【ご意見として承る】
241	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>自分が教員を辞めてから随分経つが、以前から小・中学校間の連携は行っていた。例えば中学校の教員が小学校で授業をしたり、小・中学校の教員が合同で会議や研究会を実施したりしていた。小中一貫校にせずとも、現状でもそのような取組は可能。</p> <p>それよりも小中一貫校にはデメリットが多数ある。校舎が一体化すれば、チャイムを鳴らす時間が45分授業と50分授業で2種類鳴ることになる。また、定期テスト期間は小学生が静かにしておかなければならない、といったことを、小中一貫校に勤めていた知人が言っていた。</p> <p>さらに、中学生の問題行動を小学生が見てしまうことも考えられる。中学生の男の子が、小学校低学年の女の子を体育館裏に連れていくといったこともあったとも聞く。そのときは、すぐに教員が気づいたから大事に至らなかったが。</p> <p>加えて、小学校6年生は最高学年として、学校の中心として活動しながらリーダーシップを育むが、小中一貫校になると、そういった役割を担うことが難しくなる。小学校高学年の成長期に、自覚を育てていくことはとても重要であり、それがなくなることは子どもの成長にとって残念なこと。</p>	<p>小中一貫教育については、中央教育審議会において十分に議論された結果、文科省も、非常に有効であるという方針を打ち立て、推進のための手引も策定している。</p> <p>また、国においては、小学校と中学校の枠組みもなくした「義務教育学校」を整備するための法改正も行っている。国全体が小中一貫校、あるいは小中一貫教育の重要性について積極的に認知している状況。</p> <p>令和2年度時点で、小中一貫教育を行っている小学校が745校、中学校で430校、義務教育学校が126校と、かなりの実績を積んできている。</p> <p>チャイムや定期テストにおける課題については、学校内の運用で解決できているという事例も聞いており、そうした先進事例にならない、問題のないように運用していきたい。</p> <p>また、問題事案が発生しないように学校を管理することが教育委員会としての責務であるため、しっかりと取り組んでいく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
242	11.28(日)	山直北	発言者A	<p>日本全国で全国学力テストの結果が良い都道府県には、小規模校が多い。岸和田市内の詳しい状況はわからないが、教員だった頃の肌感覚としては、小規模校の方が成績が良いと思っている。それは、教員が子どもたちに手厚く指導できるから。</p> <p>小中一貫校にするよりも、学級あたりの人数を少人数化するほうが、ずっと効果的だと思う。</p>	<p>岸和田市における学力テスト結果によれば、学校規模と成績の相関関係はみられず、小規模校よりも成績が良かった大規模校も存在する。</p> <p>一方、学級あたりの人数である学級規模に関しては、できるだけ少ない方が個別学習に近づき、成績向上に効果的ということは一定理解している。あまりにも少ない人数では、集団学習への影響も生じると思われるが、教育委員会としても、国が進める35人学級よりもさらに少ない30人学級について、国や府に対し、都市教育長会議等を通じて積極的に要望しているところ。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
243	11.30(火)	浜中央	発言者A	スライド資料9ページ、適正化を検討する学校の、牛滝の谷地域に山直北小学校が入っていないが、実際は入っているのでは。	適正化を検討する学校を記載しているページになるので、適正化対象校ではない山直北小学校の記載はしていないということでご理解願う。
244	11.30(火)	浜中央	発言者A	チビッコホームがどうなっていくのが心配。特に（仮称）山直小学校ではチビッコホームの大規模化が危惧される。例えば子どもたちが遊ぶスペースが確保されるのか、という点を心配している。資料の中にはチビッコホームに関する記載がなかったため、どういった形になるのか教えてほしい。	チビッコホームに関しては、市長部局で所管しているが、実施計画（案）策定にあたり、担当部局とも十分に協議を重ねてきたところ。 子どもたちの活動場所については、例えば（仮称）山直小学校で一時的に学級数が増加する時期においても、教育委員会と市長部局が協議しながら、確保していく。 また、（仮称）山直小学校であれば、現在再編の方向性を示している山直北幼稚園や、老朽化や利用率の低下が課題である山直北プールの敷地についても、今後の再編と整合性をとりながら、条件が整えば、活用を視野に入れていきたい。
245	11.30(火)	浜中央	発言者A	ちょうど子どもが今年度で中学1年生になった。小学校のときには勉強もスポーツもできる方ということで、胸を膨らませて進学したものの、やりたかった部活動がコロナウイルスの影響によりできず、とてもへこんでいた。最初は学校にも行きたくないという状態で、勉強も全然、という状況だった。 小学校と中学校の違いとして感じたところが、担任の教員と話をする機会が少ないのでは、ということ。 実際に小中一貫教育基本方針の説明を受けたが、小中一貫教育が実施されることで、そのあたりが改善されるかといえば難しいのではないかという印象を受けており、小中一貫校になれば、教員の時間がさらになくなるのではないかと心配している。 保護者としては、子どもには大人と関わる時間を増やしてほしいと考えており、この方針はそれにつながらないのでは、と思う。	小中一貫教育基本方針は、小中一貫校に限った方針ではなく、岸和田市にある11中学校区すべてで小中一貫教育を行うという方針であり、これまで実施してきた小中連携教育から小中一貫教育に発展させていくイメージである。 仮に小中一貫校が設置された場合、それに合った小中一貫教育を検討する必要があることから、現在小中一貫教育推進会議において、議論を重ねているところ。 また、教員の負担が増加するのではないかと懸念について、現状でも教員の業務量は非常に多く、子どもたちと触れ合う時間が十分に取りにくい現状であり、働き方改革が必要だと認識している。 小中一貫教育の取組に際しては、初めての取組となることから、当初は戸惑う可能性もあるが、可能な限り教員の負担増にならないよう、教育委員会もしっかりとサポートしていく。
246	11.30(火)	浜中央	発言者A	現在も小中連携はしているという説明であったが、具体的にどういった取組をしているのか教えてほしい。 一般の保護者としては、小学校教員が中学校に行き行って授業することも知らなかったもので、こういった説明会では、そのようなことも詳しく教えてほしい。	これまで実施してきた小中連携としては、同じ中学校区の小・中学校教員が集まり実施する合同研修や、小・中学校教員間の情報共有、中学生による小学校での職業体験、また部活動の一環で、小学生や幼稚園児と一緒に遊ぶといったことが挙げられる。
247	11.30(火)	浜中央	発言者B	以前から、適正規模・適正配置の取組は知っていたが、小中一貫教育基本方針の中身は本日初めて伺った。市全域での取組だということだが、今後、市全体で、小・中学校を一体的な施設にしていくという理解でよいのか。	適正規模・適正配置の取組と並行して、市全域での小中一貫教育の取組を実施していく。 小中一貫教育を進める上で、小・中学校が同一の敷地にある、もしくは隣接している方が、子どもたちや教員相互の交流が、より容易になるメリットがあると認識しているが、現在の小・中学校をすべて施設一体型小中一貫校にすることは物理的に困難だと考えている。その場合、施設分離型での小中一貫教育を実施していく。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
248	11.30(火)	浜中央	発言者B	必ずしも施設一体型、もしくは分離型というわけではなく、隣接型もあると理解したが、隣接型とはどのような形態を想定しているのか。	同じ敷地内で、小・中学校の校舎が一体的に設置されている形態を「施設一体型」とし、同じ敷地、もしくは隣接した敷地において、小・中学校の校舎が分離している形態を「隣接型」としている。「分離型」は、小・中学校が完全に分かれている形態を表している。
249	11.30(火)	浜中央	発言者B	では、岸和田市としては、施設一体型もしくは隣接型の小中一貫校の設置をめざしていくと捉えればよいか。	小中一貫教育を実施する上で、施設一体型もしくは隣接型の方が望ましいと考えているが、そうすることが物理的に難しい校区もある。そういった校区においては、従来の分離型での小中一貫教育をしっかりと実施していく。
250	11.30(火)	浜中央	発言者C	<p>学校の小規模化についての課題を示されているが、浜小学校や中央小学校のような小規模な学校に魅力を感じている。</p> <p>やはり、1人の教員が35人や40人といった大勢の児童生徒をみるよりも、少ない人数の方が丁寧に指導できる。ヨーロッパでは15人程度が普通であり、日本は異常な状況。</p>	<p>きめ細かな指導といった小規模校の良さは認識している。</p> <p>一方、適正規模・適正配置の取組については、学校全体の児童生徒数である「学校規模」を確保しようというものであり、1クラスあたりの児童生徒数である「学級規模」の議論とは異なる。</p> <p>現在、国において、小学校の35人学級化を順次進めているところだが、さらなる少人数学級が必要だと考えており、都市教育長会議を通じて、国や府に対して30人学級の実現に向けた要望活動を行っている。</p> <p>学校規模について、多様な意見・考え方に触れ、突き合わせながら、協議の上で新しいものを見出していくという力が一層必要となる社会において、小規模校ではどうしても同じ仲間の限られた意見になってしまう課題があると捉えている。</p> <p>例えばグループ学習において、グループ間で討議をし、互いの意見で良いところを取り入れ、指摘もしながら、学習効果を高めていくといった、主体的・対話的で深い学びが求められている。そのためには、やはり一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。</p>
251	11.30(火)	浜中央	発言者C	小学校が統合された場合、これまでの地域コミュニティにおける取組を継続できるのか疑問。だんじり祭が盛んな地域だが、今後継続して実施できるのか心配している。	【ご意見として承る】
252	11.30(火)	浜中央	発言者C	<p>小規模校を統合するのではなく、良いところを伸ばしてほしい。大規模校では登校拒否等の問題があるが、小規模校では丁寧にケアできる。</p> <p>少子化が全国的な課題となる中、子育てするなら岸和田へ、とアピールできるような施策を進めてほしい。最近の若い保護者は自治体の評判をネットで調べて転居先を決めたりするので、岸和田城や、本町のまちなみといった岸和田の良さを残す方向でまちづくりを進めてほしい。</p>	岸和田市において、学校規模の大小と、学力や、不登校の数との相関関係はみられない。学校規模に関わらず、どの学校においても、しっかりと対応していく必要があると認識している。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
253	11.30(火)	浜中央	発言者D	<p>学習塾を経営しており、対面教育が難しい現在、オンライン教育におけるご苦労、また教育委員会や現場の教員が抱えるご苦労も理解するが、子どもたちの声をまず聴いてほしい。</p> <p>子どもたちが教員に何か相談をしようとしても、忙しいとして相談に乗ってくれないということや、家庭での自主学習においても、タブレットを活用できていないケースも多くなる。オンライン教育をしっかりと実施できている家庭もある中、学習格差が拡大している。</p> <p>学校の適正規模を確保し、多くの子どもたちとコミュニケーションを図ることは、心にゆとりを持った子どもたちであれば良いことだと思うが、大規模な中学校において心が乱れ、学校が荒れている事例も把握している。問題行動を起こした生徒が補導された際の経緯から、保護者と教員間にも亀裂が生じたことや、定期テストで0点を取る子どももいると伺っている。そのような生徒は受け入れられないと、近隣の学習塾に断られたという話も聞く。</p> <p>教育相談に関して、天神山町の教育センターで行っているが、遠く、利用しにくい。身近なスクールカウンセラー、教員についても、心の調子を崩していると聞く。近所で評判が立つといけなないので、遠方の心療内科に通う子どもと保護者がいるとも伺っている。</p> <p>きちんと規律正しく生活できれば、大規模校であっても問題なく学習できる。実際、大規模な私立一貫校では十分に学力が醸成されている。小規模校でも、大規模校でも、まずは心が育っていなければ、教育はできない。</p> <p>教員が悩んでいるのであれば、地域の方々や、身近な元教員などを頼ってほしい。岸和田市は高齢者が多いと言われているが、経験豊かな方がいるということ。人は、誰かに話を聞いてもらうだけで安定する。</p> <p>もっと保護者や子どもたちの声を聞いてほしい。その中で、明石市のような子育て支援策を展開してほしい。また、教員の心が疲弊しているのであれば、相談できる場所を用意するべき。子どもたちも、例え学校に行けていなくても、学習塾で相談してくれる場合がある。子どもや教員の心の叫びを受け止められる場が必要だと考える。</p>	<p>特定の学校名は申し上げられないが、大規模校の中にも、いじめや不登校の報告件数が少ない学校がある一方で、比較的多い学校もある。</p> <p>また、家庭学習の格差問題についても認識している。学校と家庭が連携し、子どもの声を聴きながら丁寧に指導しているところ。その中で、教員の業務量はどの学校においても非常に多く、疲弊しているという状況があるため、働き方改革の方策について、意見交換を行いながら検討している。</p> <p>子どもたちの心を育てることが学校の役割であり、教員の仕事である。今後も、情熱と愛情を持って子どもたちに接するように発信していく。</p> <p>なお、教育委員会の中だけで各種方策を進めていくわけではなく、指導主事が学校現場に足を運び、話を伺っているが、何か問題が生じた学校があれば、継続して学校訪問を行っているところ。課題は一朝一夕で解決されるものではないが、引き続き対応に努めていく。</p> <p>地域にもっと頼るべきというご意見は非常にありがたく、実際に学校現場で指導していた時期にも、地域の皆様には様々な形で多大なお力添えをいただいていた。学校だけで対応できない部分について、地域の皆様に助けていただくことはどの学校においてもあると認識しているので、今後とも連携していただければ幸い。</p>
254	11.30(火)	浜中央	発言者E	<p>説明の中で、中央小学校と浜小学校の単純合併ではいけないといった話があったかと思うが、なかなか具体的にイメージしにくいので教えてほしい。</p>	<p>中央小学校と浜小学校の学校規模を踏まえると、仮に両校を統合したとしても、令和10年度で約230人の学校規模となり、適正な学校規模には至らない。</p> <p>よって、両校だけではなく、例えば近隣にある小学校の通学区域を見直すといった方策も含め、今後地域や保護者の皆様と協議を進めながら、具体的な案をお示ししていきたい。</p>
255	11.30(火)	浜中央	発言者E	<p>少子化を含め、地域にとって非常に大きな問題だと思うが、説明会の出席者が少ない。どのくらいの人を対象にしていたのか。また、今後の進め方におけるイメージも教えてほしい。中央小学校と浜小学校に関する計画は決まっているのか、何も決まっていないのかも含めて説明願う。</p>	<p>今回の地域説明会は、校区に住む、地域や保護者の皆様を対象としている。</p> <p>現時点で、中央小学校と浜小学校は、小規模校として適正化を検討する対象となっているが、山手地域では小学校だけではなく、中学校の小規模化も進んでいることから、第1期計画として優先的に取り組む必要がある。中央小学校と浜小学校の適正化についても、第1期計画の進行と並行しながら、第2期計画（案）の策定に向けて取り組んでいきたい。</p>
256	11.30(火)	浜中央	発言者E	<p>では、具体的には何も決まっていなくてよいのか。</p>	<p>お尋ねのとおりである。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
257	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>天神山小学校がなくなるという計画を示されたときは驚いた。そのときに真っ先に思ったことは、このように素晴らしい学校をなぜなくすのか、あり得ない、ということ。</p> <p>天神山小学校は地下道があり、通学面で安全。こういった環境は岸和田市内で他にないと思う。保護者にとっても安心だろう。</p>	<p>天神山小学校をこれまで支えていただいた地域の皆様が、学校が閉校となる案について疑問を持たれることは理解する。</p> <p>児童生徒の通学上の安全確保については、最重要事項として認識しており、通学路の点検及び安全確保のための取組については、しっかりと行っていく。</p>
258	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>小規模化の課題について挙げているが、むしろ良さが勝っていると考え。きめ細かな指導、一人ひとりの子どもを全校の教員が把握しているといったメリットがある。そういう学校をなくすことについて、何度説明を受けても疑問は変わらない。</p>	<p>児童生徒数の減少が進み、学校が小規模化している中、小規模校には良い面も多くあるが、子どもたちのより良い教育環境を考える上での課題も多いと認識しており、今回の実施計画（案）をお示ししているところ。</p> <p>なお、小規模校については、よりきめ細かな教育が可能であることが重要なメリットだというご意見も当然あると思う。</p> <p>一方、現在はこれまでの社会から大きく変化している。以前は右肩上がりの経済成長が続く中、地域の中で経済が回り、地域の中で生計を立て、一生を過ごすことができた。現在は終身雇用制度も崩れ、先行きが不透明であり、また、世界と伍していかなければならないグローバル化の進展が著しい社会となっている。その中で、これまでのような知識偏重の教育ではなく、多くの意見をともに交換し、新たな答えを見出していくことが必要であり、そのためには小規模校よりも、一定の集団規模が確保された学校の方が、集団での教育活動がしやすいという利点がある。よって、教育委員会としては、適正な学校規模を確保していくことが、より重要だと考えている。</p> <p>ただ、考え方は様々あり、それらのご意見は尊重されるべきものであるため、一致できるところについては一致し、そうでないところについては、意見がどう異なるのか、地域、保護者、教育委員会の考え方をつぶさに市民や市議会にお示しし、判断を仰いでいくべきだと考えている。</p>
259	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>この地域にやってきたときのことを思い返すと、近くに小学校があるから転居先を決めたということがある。周りにも、そういった人が多い。天神山町の中にある天神山小学校を、別の場所へ、しかも中学校と一体化させるということは、非常に問題がある。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
260	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>天神山町内のアンケート結果によれば、87%の方が「天神山小学校を残してほしい」と回答している。前回の説明会での発言を聞いていても、ほとんどは天神山小学校を残してほしい旨の内容だったと記憶している。このことをどのように捉えているのか。</p>	<p>アンケート調査結果については、今年4月に「小中学校を考える会 天神山」からお示しいただき、全世帯の約15%、おおよそ200件の回答があり、そのうち87%が、今回の計画（案）に反対の意向を示されたと同った。その他、記載されている様々な具体的なご意見についても拝見した。皆様の率直なご意見だと理解している。</p> <p>一方、地域説明会等で、教育委員会の考え方をお聞きいただく前のアンケート結果であるため、今後十分に説明を尽くし、多くの賛同が得られるよう努力していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
261	12.2(木)	天神山	発言者A	<p>地域コミュニティ活動が非常に盛んであり、その拠点となっているのが小学校である。花火大会や体育大会といった地域行事を開催するにあたり、代替地はあるのかといった質問もあったが、教育委員会は「市長部局とともに検討する」といった回答だったと思う。学校跡地の売却についての質問に対しては、売却しない旨明言がなかったため、不安に思っている。再度お尋ねしたい。</p>	<p>市民協議会や町会の皆様をはじめ、通学の見守り隊といった地域の皆様が子どもたちを見守り、育んできていただいたことに、感謝申し上げます。</p> <p>天神山小学校が仮に閉校となった場合、地域コミュニティも新たな校区に一本化されるということは想定しておらず、以降のあり方については、地域の皆様が主体的に判断されることだと考えている。その中で、行政としても、活動場所の確保等、可能な限りサポートに努めていく。</p> <p>跡地活用について、前回の地域説明会において、仮に学校が閉校となった場合の跡地について「売却しない旨を明言せよ」という趣旨のご意見があった。跡地活用については、地域の皆様と十分協議し、ご意見を踏まえながら望ましい方向性を見出したいということが基本的な考え方である。</p> <p>一方、天神山小学校の校地・校舎は、地域の皆様にとっての貴重な財産であると同時に、市民全体にとっての貴重な財産でもある。</p> <p>また、天神山地域の今後を考えた際に、例えば高齢化が進む中、新しい住民を増やすために住宅地として活用した方が良いのではないかと、というご意見の方もおられるかもしれない。そういったことも含め、跡地活用については、地域の皆様と十分に協議を行う必要があることから、現段階で売却しないとは明言しかねる。</p> <p>ただし、地域の皆様のご意見を聞かず、「一方的に」売却することはしない旨は、前回の説明会でも回答したところ。</p>
262	12.2(木)	天神山	発言者B	<p>幼児教育を含めた一貫教育、子どものために、といった説明があったが、この場に若いお母さんがほとんどいない。自分もたくさん声をかけたが、小さな子どもがいる家庭からすれば、18：30という時間帯は参加が難しい。またこの地域ではひとり親世帯も増えている。日曜日は東岸和田市民センターで開催されたが、なぜ学校の体育館ではなかったのか。</p> <p>グローバル化する社会を生きる子どもたちのため、と言うが、大事な説明会の開催にあたり、そういった配慮がないのはいかがなものか。</p>	<p>子どもたちのために、という点については、子どもたちにとってのより良い教育環境の整備と学校教育の充実を実現するために、小規模校の課題を解消し、適正な学校規模を確保する取組を進める必要があるという考えからである。</p> <p>説明会の日程については、様々な方からご意見を伺う必要があることから、平日夜と、土日の2回ずつ開催することとした。また、ホームページを通じて、都度ご意見をいただけるよう、問合せフォームを設けている。今回の地域説明会を2回開催して終わりということではなく、今後、より良い案の策定に向けた話し合いを引き続き実施していく。</p>
263	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>4月実施の天神山町アンケート結果について、先ほど発言された方も仰っていたように、87%が天神山小学校を残してほしいという結果であったが、教育委員会からは「これから説明会を実施していき、丁寧に説明し理解を求めていく」といった回答であった。</p> <p>では、この後住民意見をどのように集約していくのか。例えば教育委員会がアンケート調査を実施してくれるのか。</p>	<p>今後の住民意見の集約及び取組の進め方については、地域説明会終了後、校区によってどういった立場の方になるのかは変わってくると思うが、地域の代表者と相談しながら、決定していく。</p> <p>アンケート調査の実施についても、今後の協議の中で必要性も含め、検討していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
264	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>愛知県で、中学3年生が同級生を刺殺するという事件があった。いじめが原因かどうかはよくわかっていないが、岸和田市ではどうなのか。ということで、岸和田市教育委員会の評価委員会の傍聴へ行った。</p> <p>その中で、いじめの件数が令和元年度から令和2年度にかけて2倍に増加し、中学校での暴力事件も3倍に増加しているとあった。</p> <p>このような状態で、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶとなれば、中学生の様子を見て、小学生がそういった行動に憧れないか心配している。</p>	<p>評価委員会で、いじめ及び暴力行為の件数が増加しているといった話があったことはご紹介のとおり。</p> <p>市全体として、いじめや暴力行為だけでなく、不登校といった様々な課題を抱えている状況。その中で、気づきにくい小さなトラブルを含め、いじめ事案を見逃さないように取り組んでいるところ。それにより、いじめの「認知件数」が増加しているが、今後も学校と連携しながら、一つひとつの事案に対し、解決に向けて取り組んでいく。</p> <p>暴力行為についても、子ども同士の事案、教員に対する事案、器物破損等、様々なものがある。岸和田市では件数が多く、中学校だけではなく、小学校を含めて問題になっている。</p> <p>そのような中、中学生が小学生に悪い影響を与えないように取り組んでいくことは、現在でも、また今後においても大切なことだと認識している。</p> <p>中学生が小学生の良い見本になれるように、小・中学校の連携についてもしっかりと取り組んでいく。</p>
265	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>以前、教育委員会に学校のトイレに関する質問状を提出した。各小学校におけるトイレの数と児童数、また小中一貫校になった場合のトイレの数を教えてほしいという内容であった。</p> <p>回答には、現在のトイレの数と児童数は記載があったが、小中一貫校になった際のトイレの数については一切記載がなかった。文章で「今後、本計画案が確定した段階で、地域、保護者の皆様のご意見等も踏まえつつ、具体的な設計業務に着手してまいります」と記載があった。</p> <p>統合された場合の児童生徒数は一定把握しているのだから、それに応じたトイレの数も、全国の事例から一定の基準があるはず。なぜ回答いただけないのか。数字での回答をはっきりと求めたのに、答えていただけないようでは、今後丁寧な説明を行うとしているが、地域の理解を得られないのではないか。</p>	<p>現段階で、（仮称）葛城小中一貫校におけるトイレの数は確定していない。今後、校舎のレイアウトを検討する中で、児童生徒数や、地域・保護者の皆様のご意見を踏まえながら、設置数及び場所について決定していく。</p>
266	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>今の天神山小学校は児童数が少ないので、トイレの数についてはさほど心配がいらぬ。しかし、3つの小学校が統合されれば、トイレの順番待ちが必要になる可能性もある。粗相をすれば大ごとになり、子どもたちがかわいそうだという観点からの質問であった。</p> <p>改めてでもいいので、具体的な数値をいただきたい。</p>	<p>トイレについて、学校の規模により、児童生徒1人あたりの個数は異なるが、どの学校においても、児童生徒が不自由することのないように計画していく。</p> <p>ただし、校舎のレイアウト、それぞれの教室からの距離といった様々な要素がある中、ベストな形が定まっていない以上、現段階では具体的な箇所や便器の数についてはお示しできないという見解であり、再度お尋ねいただいても、同様の回答となる。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
267	12.2(木)	天神山	発言者C	<p>評価委員会で、委員からいじめ解消率の質問があった。それに対する回答は、90%とのことであった。これが高いか、低いかは評価があると思うが、10%はまだいじめが解決していないということ。そういう現実があるから、小学生と中学生が一緒になることに大きな心配がある。以前のアンケート調査でもそういった意見があったことから、それを代弁している。具体的な返答を願う。</p>	<p>いじめについて、全体の10%が未解決という現状についてはお詫び申し上げます。ただ、教員は必死になって家庭や地域と連携しながら解消に努めており、今後も取り組んでいく。</p> <p>なお、他市の小中一貫校を視察した上では、中学生が小学生の模範になろうと、大きく成長したという事例や、小さな子どもも中学生と触れ合う中で活動的になり、明るくなったという事例を伺っている。それは、視察した学校だけでなく、文科省が示している小中一貫教育の成果というデータにおいても、上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まったという項目について、全体の70%以上がそうした評価をしている。</p> <p>このように、小学生と中学生が同じ敷地で学ぶことの成果については、評価すべきことだと考えている。</p>
268	12.2(木)	天神山	発言者D	<p>児童数が減少しているから、学校を統合し、小中一貫校にするということだが、その前に、天神山地区の府営団地及び住宅供給公社団地にかなりの空き家がある状況を改善し、若い世代の方々に来てもらえるような魅力ある方策を考えていただけないか。教育委員会の所管ではないかもしれないが、行政は一本だと思って意見させてもらう。</p> <p>他の校区はだんじり祭があり、子どもから高齢者までのつながりがある。天神山地区にはないため、学校がなくなればつながりがなくなってしまう。自身も毎朝のあいさつ運動に参加しているが、低学年の児童が、目をこすりながら遅れて登校してくることも多い。ぜひ、子どもの立場にたって考えていただきたい。</p>	<p>大規模な団地開発がされた地域はいずれも、年月が経ち、高齢化が進むとともに、入居者が減少していくという課題を抱えている。それを受け、大阪府住宅供給公社では、若い世代を新たに呼び込むため、団地の2戸を1戸にリノベーションし、魅力を高める「ニコイチ」の取組や、入居者に自由なリフォームを認め、現状回復を求めないという取組を行っている。</p> <p>ただ、天神山地区において、そのような取組が実際に行われているかは把握していない。追って確認させていただく。→【追記】</p> <p>いずれにせよ、少子高齢化が進む中、地域の活性化を図る方策は非常に重要となっているため、ご意見については市長部局へしっかりと伝達する。</p> <p>【追記】</p> <p>確認したところ、天神山A団地及び天神山B団地において、入居者によるリフォーム（DIY）を認め、現状回復を求めない取組を行っているが、「ニコイチ」については行っており、現時点では、今後実施の予定はないということであった。</p>
269	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>以前、修斉校区の地域説明会に参加し、天神山校区、修斉校区、また門前町を含めた合同説明会を実施してほしい旨を意見したが、どうか。</p>	<p>地域説明会の終了後も、地域の皆様とより具体的な協議を重ねていく予定であり、今後の協議方法については、校区によっても変わってくる可能性はあるが、それぞれの地域や保護者の皆様のご意見を踏まえ、決定していく。合同説明会についてのご意見も、参考にさせていただく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
270	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>資料27ページに、通学環境の変化に関する記載がある。仮に天神山小学校がなくなった場合、現在の葛城中学校へ通学することになるが、水道みちを通るパターンと、八田町内を通るパターンがある。実際には、畑を縦断して通学している生徒がいる。これは40年前から続いており、自身も歩いたことがある。正面に学校が見えている中、まっすぐ進んで畑を縦断することは、禁止されていると聞くものの、ある種当然だとは思う。</p> <p>八田町内を歩くのは、特に小学校低学年の児童からすれば、少し怖いと思う。水道みちからも、神須屋町南交差点付近は歩道が途切れており、怖くて子どもを歩かせられない。過去にはトラックが突っ込んでみいる。</p> <p>子どものため、現在の葛城中学校まで直進できる、歩道付き通学路を新設していただきたい。</p>	<p>教育委員会でも、天神山小学校から葛城中学校までの道路や、近辺を歩いて実地確認を行ってきたところ。</p> <p>地域の皆様からいただく「こちらの通学路の方が安全だ」というご意見については、児童生徒の通学環境を考える上で、教育委員会と地域の双方から見て、より望ましいと判断できれば、採用を検討していく。</p> <p>新たに道路を敷くことについては、地権者との調整といったハードルが考えられるため、現時点で方向性を明言できないが、通学路の安心安全を確保することは、最重要事項と認識しているので、（仮称）学校開校準備委員会においてもしっかりと協議していく。</p>
271	12.2(木)	天神山	発言者E	<p>仮に天神山小学校がなくなったとして、跡地について、第三者に販売し、住宅地にする可能性もあるといった回答があったと思うが、前回の説明会ではそのような回答ではなかった。</p> <p>小学校は地域の防災拠点であり、ここがなくなれば、避難する場所がなくなる。東日本大震災でも、車で公園や小学校の運動場に集まって過ごしているという状況であった。近隣の修斉小学校も今後どうなるかわからない中、仮に学校がなくなった場合でも、跡地を防災広場・スポーツ公園にして、避難場所として確保することを確約した上で話を進めてほしい。</p>	<p>前回の説明会でも、今回の説明会でも、跡地活用については、地域の皆様のご意見を伺いながら決定し、一方的な売却はしない旨を回答しており、考え方も同様である。</p>
272	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>市民に大きな痛みを強いる施策の説明会に、市長が出席しておらず、幼保再編や、市長公約でもあった中核市推進に関する説明会にも、これまで一度も出席してこなかったことに、怒りと不安を感じている。</p>	<p>今回の実施計画（案）は、市長を含む特別職が参加した「政策決定会議」における承認、方向性の一致を経た上で、皆様にお示ししている。</p> <p>いただいたご意見については、市長へ伝達する。</p>
273	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>先ほど、団地における人口増加施策についての質問があったが、教育長が答弁するよりも、住宅供給会社の前理事長である副市長が出席していた方が、より具体的な話が聞けたのではないかと思う。</p> <p>また、市長部局の職員が出席していないことについて、避難所に関する質問に対しても、危機管理課の職員がいれば具体的に話ができたと思われるので、以降の機会においては、様々な担当課の職員が出席し、市民が安心できるよう、広範な質問に適切に回答できる体制で臨んでいただくようお願い。</p>	<p>これまで、市長部局の避難所担当課、地域コミュニティ担当課、都市計画担当課といった関係部局と協議を重ねた上で、実施計画（案）の策定に至っている。</p> <p>今回の地域説明会では、教育委員会が責任を持って実施計画（案）の内容を説明しているが、今後の協議にあたっては、関係部局から職員が参加することも検討する。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
274	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>岸和田市の人口動態を確認すると、年間約2000人ずつ減少しており、歯止めがかかっていない。人口増加施策を怠っているのではないかと疑問を持っており、その中で児童生徒数が減少したからといって学校をなくす、ということでは、学校がなくなることで子育て世代がさらに離れていく。さらなる人口減少を招き、岸和田市をゴースタウンにするつもりなのかと尋ねざるを得ない。</p> <p>明石市の施策がすべて正しいこととは思わないが、あのような人口増加施策をまったく取っていない岸和田市が、現状に合わせて施設を減らしていくという矛盾についてお答え願う。</p>	<p>人口増加施策については、しっかりと取り組んでいく必要があると考えており、これまでも、子育て施策の拡充や企業誘致によって、人口増加をめざしてきたところだが、人口減少が続いていることは事実。皆様からのご意見やご指摘についても、関係部局と共有し、今後も市全体で取り組んでいく。</p>
275	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>児童生徒数見込みについては説明があったが、人口減少が続く中では、現状の見込みから、さらに加速度的に減少していく恐れもある。その場合、現在の計画（案）よりも学校を減らしていき、最終的には1校にするまでいくのか。どこを歯止めと考えているのか。</p> <p>近隣市に、ここまで極端な学校統廃合を行った自治体はあるか。仮にないのであれば、なぜ岸和田市において、他に例のない規模での統廃合を進めようとしているのか。</p>	<p>実施計画（案）の策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案しており、中学校区を単位としてお示ししている。</p> <p>仮に、この取組により、新たな学校を開校して以降、急激に児童生徒数が減少するなどして、例えば複式学級が見えてくるといった状況になれば、中学校区を超えた適正化を検討する可能性もあるが、基本的には、中学校区を単位とした適正化を実施していきたいと考えている。</p>
276	12.2(木)	天神山	発言者F	<p>グローバルな社会といった説明があった中、アクティブラーニング、互いに議論をする教育は望ましいことだと思う。</p> <p>一方、主権者教育の中でアクティブラーニングを取り入れた際に、市議会から「偏向教育ではないか」という声が飛んでくる。そこに対抗することは難しいのではないかと。理想は良いのだが、現状で理想に即してどこまでやっているのか。現状の説明と、抱える課題、改善策を示した上で、市民にお願いをすることが望ましいのではないかと。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
277	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>以前の説明会で、校舎の老朽化が課題となっており、建て直すならば集約した方がいいという説明があったように思う。</p> <p>こんな立派な体育館が、老朽化しているといえるのか。老朽化しているというのであれば、あと何年で改築しなければいけないという具体的な話を示すべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
278	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>小規模校の何が悪いのか。教育にお金や手間がかかるのは当たり前。</p> <p>岸和田市の学力が低いという説明もあったが、葛城校区の小規模校3校、どの学校の学力が低いのか。学校名は言わなくてもいいので、具体的な説明を願う。それがなければ、今回の説明は間違いである。</p> <p>この3校はいずれも学力が高いはずであるのに、学力が低いから統合するという説明はおかしい。夜間の特別手当をもらいながら間違った説明をするのは、公務員としての恥である。真面目にやってほしい。</p>	<p>小規模校が悪いとは申し上げておらず、良い面もあるが、課題が多いと認識している。</p> <p>将来にわたり、より良い教育環境を子どもたちに提供していく上では、適正な学校規模を確保する必要があるという教育上の観点からの説明であることにご理解願う。</p> <p>学力が低いから学校を統合するとも申し上げておらず、これからの社会において、子どもたちは多くの意見に触れ、ときには意見を戦わせ合いながら、新しい考えを見出していくこと、集団の中で生きていく力をつけていくことが重要であり、そのために適正な学校規模を確保することが、今回の取組における主眼である。</p> <p>一方、小規模校のきめ細かな指導に重きを置くご意見もあり、それぞれのお立場や考え方からのご意見は正しいことだと思う。</p> <p>教育委員会は、先ほど申し上げた理由から、適正規模・適正配置の取組が必要だと考えており、意見が一致するところ、意見が異なるところ、それぞれを市民や市議会の皆様に提示し、最終的な判断を仰いでいく。</p> <p>なお、学力に関する説明は、小中一貫教育基本方針における説明の中で触れたものだが、現在も小・中学校間の連携を行っている中、さらなる充実をめざすために市全域で小中一貫教育に発展させていくという旨を説明したのであって、小規模校の学力が低いといった説明内容ではない。現場の経験から、小規模校の良さについても認識している。</p> <p>学力向上のため、小・中学校の連携及び小中一貫教育を含め、様々な方策を講じていく必要があると認識している。</p>
279	12.2(木)	天神山	発言者G	<p>小学校が廃校になるかどうかという説明会の冒頭あいさつの中に、「ラグビーなら15人が必要」ということがあった。小学生がラグビーをするのか。元教員として疑問に思う。例に挙げるにしても、中学校や高校と混同せず、小学校向けの説明をすべき。</p>	<p>本日は天神山小学校と、（仮称）葛城小中一貫校に関する説明を行っている。冒頭のあいさつでも、中学校の部活動を例に申し上げているため、小学校で野球やラグビーをしている旨を申し上げているわけではない。</p>
280	12.2(木)	天神山	発言者H	<p>中学3年生と小学1年生が共存できるのかと不安に思っている。カモ知識も異なり、性に対する知識も異なる。</p> <p>自身が中学生の頃を思い返すと、授業中に廊下を歩いているような生徒もいた。そのような生徒を小学校低学年の児童が見るとなれば、教員が収められるとも思えない。</p> <p>共存できるというのであれば、説明してほしい。</p>	<p>小中一貫校の先進事例からは、これまで落ち着いたなかった中学生の様子が、小さな子ども模範となるような姿勢に変わってきたという事例も伺った。</p> <p>また、小中一貫教育を行う学校の数について、令和2年度時点での小学校で745校、中学校で430校、小・中学校が一体となった義務教育学校で126校が存在しているように、十分な実績が積み重ねられており、成果についても肯定的なものが多いと占める。</p> <p>なお、今後も、小中一貫校及び義務教育学校は増加していく見込みとなっている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
281	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>まちづくりについて総合的なプロデュースを望む。天神山町が今後どうなっていくかはわからないが、希望もある。その中で学校だけがなくなってしまう計画になっており、他の校区を見ても気になる点がある。</p> <p>山直南地区ではゆめみヶ丘の住宅開発が進み、これから大きくなっていくのではないかと。その半分が山直北小学校に行き、（仮称）山直小学校になると、1000人規模の大規模校になるのではないかと。1000人を超えて増加していく可能性もあると危惧しているが、そのあたりの説明がされていない。</p> <p>例えば、光明小学校は20年前は学年あたり1クラスの学校だったため、今であれば廃校になっていたかもしれない。しかし、現在は児童数が増加し、過密な学校になり、子どもたちの生活に不自由が生じている。そういったことを見通しながら、人口増加施策と一緒に考えて考えるべきだと思う。</p>	<p>これまで、市長部局のまちづくり担当課とも協議を重ねながら、実施計画（案）の策定・公表に至っている。</p> <p>教育委員会として、中学校区を単位とした適正化を提示しているが、この考え方が、これまでのまちづくりを逸脱したものとは捉えていない。</p> <p>山直南地区のゆめみヶ丘においては、今後住宅開発が進み、最終的には1000人規模のまちが完成すると想定しており、児童生徒数についても、現時点で可能な推計を行っている。</p> <p>ゆめみヶ丘のまちづくりが完成した暁には、山直南小学校の児童数が最大で250人程度に増加することを見込んでいるが、教育委員会が示す適正な学校規模である12～18学級には届かないものと考えている。</p> <p>今後は、地域の皆様が想定している児童生徒数と、教育委員会が推計している児童生徒数を突き合わせて協議していきたい。</p> <p>光明小学校の例を挙げていただいたが、今後の住宅開発については、まちづくり担当課から情報を収集し、適宜意見交換を行いながら、把握に努めていく。</p>
282	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>天神山小学校では、幼稚園教育と連携した教育をスタートし、メディアにも取り上げられ、実績を積んできた。また、幼稚園給食を市内で初めて取り入れたが、岸和田市では拡大せず、隣接する貝塚市から見学があり、現在では貝塚市において幼稚園給食が実施されている状況。貝塚市ではアフタースクールも導入するなど、待機児童解消に向けて取り組んでいる。</p> <p>天神山小学校・幼稚園も、そうした方向性で進んでいたのに、急に方向転換が為された。</p> <p>方針に科学的な根拠がない上に、計画性もないと申し上げておく。</p>	<p>取組の根拠について、国の中央教育審議会では、適正な学校規模についての議論を重ね、文科省が適正規模・適正配置等に関する手引を策定しており、その中で適正な学校規模を12～18学級と示している。</p> <p>また、岸和田市においても、適正規模及び適正配置基本方針の策定に先立ち、学識経験者や、PTA、民生委員児童委員、町会連合会といった各ご代表の皆様で構成する審議会を設置し、適正な学校規模に係る議論を行っていただいた結果、12～18学級が望ましいという答申を受けた。</p> <p>さらに、各学校の児童生徒、保護者、教職員を対象としたアンケート調査も実施した結果、同じく12～18学級が望ましいという回答が多数を占めた。</p> <p>これらを踏まえた上で、教育委員会としての基本的な方針を定めている。</p>
283	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>幼稚園や保育所から進学してきたばかりの小学1年生から小学6年生までが集まって、小学校として構成されている。小学校低学年への指導を経験したことのない教員が、小学1年生を指導しても、話が通じない。小学1年生にとって、大人の話は理解しにくく、じっと座って授業を受けにくい。小学1年生には、それに適した指導が必要な中、中学3年生まで一緒にするというが、教員の免許も異なる。</p> <p>小中一貫校には全国的な実績があるというが、教育学を勉強している中で、その教育内容が素晴らしいものだという結果や科学的な資料は見受けられない。</p> <p>思春期を迎え、なかなか落ち着かない中学生と、小学校低学年の児童と一緒に教育を受けることが素晴らしいとはとても断言できない。科学的な根拠がどこにもないのだから。</p>	<p>小学校の教員は、どの学年も担任することになるため、高学年には高学年なりに、目標に沿って指導をしていき、入学間もない1年生は、言葉で説明してもなかなかかわからないため、場面や物を使いながら丁寧に指導すること意識している。</p> <p>教員免許に関して、中学校の教員は自分の教科について、小学生に授業を行うことが可能。例えば中学校の英語教員は、小学校で英語を教えることが可能だが、免許制度上、他の教科は教えられないため、ルールの中で乗り入れ指導を行っていくことになる。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
284	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>なぜこのコロナ禍において、わざわざ密をつくるような計画を進めようとしているのか。</p> <p>天神山小学校では、コロナ禍においても学校行事をうまく実施できてきたし、感染症の影響で休む児童はいたかもしれないが、校内が一斉休校になるようなことはなかった。子どもたちはコロナウイルスの影響による悲しいこと、辛いことを、比較的経験せずに過ごしてこられている。</p> <p>正しく恐れるというが、現在オミクロン株の影響が懸念される中、今後もウィズコロナの時代は続き、密を避ける、手指を消毒する、マスクを着用するといった3つの対策が継続して必要になると、どの科学者も述べている。</p> <p>そのような中で、岸和田市長と教育委員会は密をつくる方向へ舵をきろうとしている。こんな酷いことはない。</p> <p>仮にこの計画の内容が素晴らしいことであったとしても、コロナ禍においては一旦立ち止まるべきではないか。今後、不登校や自傷行為といったコロナの災いが子どもたちに降りかかってくる。状況を見極める必要がある。</p>	<p>感染症の専門家が、ウィズコロナの時代が未来永劫続いていくと述べているという事実は確認できていない。</p> <p>正しく恐れるということは、噂に振り回されず、科学的なエビデンスに基づき、冷静に行動することだと理解している。</p> <p>文科省においては、専門家の意見を聞きながら、学校の中で適切な感染対策をとるようになり、と通知し、岸和田市においても、市民の皆様のご協力を得ながら感染対策を行ってきたところ。</p> <p>そのような中、文科省から「学校規模が大きく、ウィズコロナの時代に合わないため、学校を小規模化せよ」といった通知は一切出していない。今後も、文科省の基準に沿って、適正規模・適正配置の取組を進めていく。</p>
285	12.2(木)	天神山	発言者I	<p>教育方針に暖かみがなく、科学的に真実だと思わせられる内容でもない。</p> <p>また、本日の市出席者は男性ばかり。女性なら、自分の子どもや孫のことを考えると、とてもじゃないがこのような方針は出せないと思う。男性の考えが強く表出しているように思われる。</p>	<p>改革には痛みが伴い、時には市民の皆様にとって耳の痛いことも申し上げなければならず、またご負担をかけることを申し上げる場面もある。</p> <p>これを「暖かみがない」とされることは、致し方ないことだが、子どもたちの将来の教育に必要なことであれば、冷たいと思われることや、耳の痛いことも、教育環境の改善及び、良好な教育環境を維持していく観点から、お伝えすることが我々の仕事だと認識している。</p>
286	12.2(木)	天神山	発言者J	<p>小規模化の問題を解決するのに、大切な小学校を7校もなくさなければならぬのか。現在は計画（案）ということで、別の方法はないのか、と思う。</p> <p>昨年まで小学校でフルタイム勤務をしており、コロナ禍で大変な状況だったが、クラス毎に半分の人数で、担任教員が指導をする「分散登校」については、授業のやり取りを含め、落ち着いてでき、本当に良かった。以前から少人数学級を望んでいたが、利点が証明されたように感じた。</p> <p>今回適正化対象になっている小規模校は、クラスを半分に割らずとも、少人数になっていた。むしろこの環境を活かすチャンスなのではないか。</p> <p>また、学校が一度なくなってしまうと、もう戻らない。それぞれの学校が持つ特性や良さは、地域に根付いており、東葛城小学校の特認校制度も、その良さが出ている。</p> <p>それらを同じ学校敷地に集め、適正規模が確保された学校にするとということが、本当に良い方法なのか疑問に思う。</p>	<p>今回の計画（案）は、教育委員会と市長部局が協議を重ね、最終的には教育委員会の責任において提示しているもの。策定にあたっては、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案している。別の方法はないのか、という点に関しては、今後、子どもたちのより良い教育環境に資するご意見をいただき、それが教育委員会としても望ましい案だと判断できれば、計画（案）に反映することを検討する。</p> <p>また、適正規模・適正配置の取組は、1校あたりの人数である「学校規模」について適正化を図るものである。</p> <p>1クラスあたりの人数である「学級規模」については、教育委員会としても少人数であることが望ましいと考えており、都市教育長会議等を通じ、国や府へ少人数化の要望を行ってきた。今後も継続していく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
287	12.2(木)	天神山	発言者J	<p>中1ギャップについて、中学校への進学が良いきっかけになることも事実。学校行事は子どもたちにとって大切であり、現在、不登校の子どもたちと関わっているが、修学旅行を機に学校へ行けた子どもがいた。</p> <p>これと同じように「中学校に行ったら頑張る」という変わり目、リスタートの機会は重要。中学校入学式に向けて頑張り、そこが新たに登校できるきっかけになることもある。</p> <p>「小学校最後の年は大切にしよう」ということも大切で、小学校最後の音楽会は頑張ろうといった気持ちにつながる。これが、7年生、8年生、9年生となり、同じメンバーと過ごすということが、どうなのか。現在は、複数の小学校から、それぞれの特色を持った子どもたちが新たに顔を合わせ、新鮮な気持ちでスタートできる。</p> <p>現状は計画（案）ということだが、突然7校の学校をなくすということが、本当にどうなのか、という疑問を持っている。</p>	<p>中学校への進学という変わり目をきっかけに、頑張ろうという気持ちで臨んでいる子どもは確かにいる。</p> <p>一方、その環境変化に対応できず、苦しんでいる子どもがいることも事実。</p> <p>その中で、小学校と中学校の連携が大切だということは先ほど説明したとおりだが、これを今後発展させていくというのが、小中一貫教育基本方針の内容となっている。</p> <p>現在、小中一貫教育推進会議において、具体的な取組について討議を重ねているところだが、適正規模・適正配置の取組が行われていない、現在の24小学校、11中学校という状況においても、小中連携の取組と、それを発展させた小中一貫教育は必要だという考えである。</p> <p>市全体で小中一貫教育を進める中で、可能な校区については施設一体型もしくは隣接型の小中一貫校を整備する方向性だが、従来の分離型でも小中一貫教育は行っていく。</p> <p>また、7年生、8年生、9年生という形態は、小・中学校の枠組みをなくした「義務教育学校」におけるもの。現在お示ししている案では、小学校は小学校、中学校は中学校で、それぞれ卒業・進学することを考えているが、義務教育学校の方が教育効果が高いということであれば、そちらも検討する。</p> <p>なお、義務教育学校の先進事例からは、1～4年生、5～7年生、8～9年生の3段階に分け、それぞれの区分ごとに、最高学年としての取組を行っているとも伺っている。岸和田市においても、今後十分に議論し、あり方を決定していきたい。</p>
288	12.2(木)	天神山	発言者K	<p>10年後の人口予測は、社会的条件や地域条件に大きく左右されるため、ほぼ当たらないもの。</p> <p>天神山小学校がなくなれば、この地域での人口減少、特に若い世代における減少は、大きく加速するだろう。自身も家探しをした際には、保育所や小学校が近くにあるかどうかを重視したため、それらがなくなれば、将来にわたり、若い世代が天神山地域に住むことはなくなると考える。</p> <p>まちづくりに関しては市長部局と話し合っており、考えているといった説明があったが、詭弁だと思う。</p> <p>以前から、都市計画マスタープラン等で、葛城の谷をどうするかといった計画が示されており、最近でも様々な開発計画があると思うが、それに基づいてどう、といった説明はまったくない。天神山地域を今後どうしていかうと考えているのかをしっかりと示した上で、学校を廃校にするといったことを提示しなければ、地域住民は納得できない。</p>	<p>教育委員会が示す児童生徒数の推計については、令和9年までは、実際に校区に住む子どもたちが、転出入なく年齢を重ねた場合の推計値を示しており、令和10年以降は、校区ごとの出生率を参酌した上で推計している。</p> <p>市長部局が示す人口推計を含め、現時点で判断できる資料を基にしながら、取組を進めている。</p> <p>小学校が閉校となった地域がどうなっていくのか、と心配されることは当然のことだと思うが、教育委員会としては、より良い教育環境の整備を実現することにより、人口減少に歯止めをかけていきたいと考えている。</p> <p>なお、市長部局のまちづくり関係課より、現状、岸の丘町以外での急激な人口増加はないと伺っている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
289	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>教育委員会は、以前より学校施設の老朽化についても課題に挙げており、動画配信された教育長メッセージでも触れられているが、最近の説明会では老朽化に関する言及がない。児童生徒数の減少と学校の小規模化についての言及だけ。</p> <p>別校区の説明会で、これに関する質問があった際、教育委員会は「経費の問題ではない」といった答弁を行った。学校の老朽化は課題として捉えなくなったのか、それとも重要度が下がったのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組における最大の目的は、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実である。</p> <p>一方、今後仮に現在の計画（案）が進んだ場合、校舎の建替えや、通学路の安全確保に係る予算が必要となるが、教育委員会に予算編成権はなく、市長部局に予算要求を行い、議会に提案し、議決を受ける必要がある等、今後は経費に係る話も生じてくる。</p>
290	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>岸和田市では幼小連携教育を謳っているが、今回のスライド資料には施設一体型で唯一取り組んでいる天神山幼稚園に関する記載がまったくない。他園は施設隣接型で取り組んでいる。</p> <p>市内で唯一幼稚園給食も実施していることから、2年前には貝塚市の教育長が視察に訪れ、現在の貝塚市では、ほぼ全園、週3日の幼稚園給食を取り入れた。</p> <p>岸和田市でも、今年度から、修斉幼稚園から子どもたちが天神山幼稚園に週3日やってきて、一緒に給食を食べている。素晴らしい取組だと思うが、この素晴らしい取組をやめるということについて、検証はなされていないとのことであった。</p> <p>これらについては教育委員会だけでなく、市長部局のこども園推進課からも計画が出されており、一度目の幼保再編計画は議会で否決され、すべての施設を民営化する方針から、6園の公立園を設置する方針に変更されているが、葛城の谷においては太田校区で公立園を設置する一方、天神山地区近辺は民間園が設置されるということであった。太田幼稚園と旭幼稚園と旭保育所の子どもたちは、新たな太田こども園に入れるということだが、天神山幼稚園、修斉幼稚園や修斉保育所の子どもたちは入れられないということであり、説明会で怒られている。その結果、現案が議会を通らない可能性もある。幼保再編の取組が頓挫し、小中適正化の取組が進む場合、天神山幼稚園だけが残ると思うが、どうするのか。</p>	<p>今回の適正規模・適正配置の取組と、幼保再編の取組と密接に関わっていることは、仰るとおり。</p> <p>そのため、天神山幼稚園を含めた、葛城の谷にあるいくつかの幼稚園については、幼保再編における前期計画ではなく、中期・後期計画において、小・中学校適正化の状況を見極めながら、具体的な案をお示ししている。</p> <p>今後も、幼保再編の取組と整合性を取りながら、適正規模・適正配置の取組を進めていく。</p>
291	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>今後も小・中学生の人数は減っていくという資料を示しているが、それでいけば、今後、野村中学校が適正化対象校になると思われる。20年後には、北中学校も適正化対象校になると思われる。そうなれば、第3次案や、第4次案が必要になってくる。全体計画がないではないか。</p>	<p>言及いただいた学校については、現在適正化対象規模ではないため、今回の計画（案）における適正化対象校として示していない。</p> <p>今後、基本方針で示す、適正化を検討する規模の学校が生じてくれば、今回のように実施計画（案）を策定し、地域や保護者の皆様と協議を行いながら、取組を進めていくことになる想定している。</p>
292	12.2(木)	天神山	発言者L	<p>今回示された計画（案）の説明と一緒に、小中一貫教育の説明も行われている。小中一貫教育基本方針は市全体に関わる話なのだが、なぜ適正化に関係する校区だけで説明し、他の校区では説明しないのか。</p> <p>小中一貫教育基本方針は、小規模校をつぶすために策定されたようにしか思えない。</p>	<p>今回は適正規模・適正配置実施計画（案）の説明会ということで、その中で小中一貫教育ということに触られることから、内容の説明が必要だと判断し、合わせて説明を行っているところ。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
293	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>中学校の校舎周辺には、たばこの吸い殻やお菓子の包み紙が捨てられている。今は少なくなっていると聞いているが、小中一貫校にすれば、そのような光景を小学生が見ることになる。他にも、帰りの買い食い、教師への暴言などもある。</p> <p>そのような問題行動に対し、教育委員会は、現場教員に見回りを強いるが、現場教員の負担は大きい。</p>	<p>中学生による問題行動は存在するが、教員は子どもたちに向き合いながら改善に取り組んでいる。</p> <p>これらの問題は、学校の規模に関わらず、市全域で改善に向けて取り組んでいく必要があると考えている。</p>
294	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>以前の説明会で、小中一貫校における小・中学生の運動場の使い方について、「時間で区切ることを考えている」といった回答があった。運動場を使えない子どもはどうするのか。教室内で遊ぶのか。</p> <p>仮に図書室へ行くにしても、中学生が集まっているだろう。校舎の裏のような場所へ小学1年生の女の子が行ってしまい、怖いことになる可能性もあると聞く。</p> <p>そうならないように、教員が見回るとなれば、また負担になる。教育委員会は現場に負担をかけてばかり。毎日、雨の日も風の日も学校へ見学に来て現場を知るべき。</p>	<p>（仮称）葛城小中一貫校の整備にあたっては、現在の葛城中学校の敷地で、国の基準を満たした整備が可能だと考えている。</p> <p>その中で、児童生徒にとって、より活動しやすいスペースの確保について、地域や保護者の皆様とも意見交換を行いながら、検討していく。</p> <p>なお、教員負担については、現場での経験から十分に理解している。働き方改革の必要性も認識しており、負担軽減に努めていく。</p>
295	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>通学路が遠くなることへの対策にスクールバスを挙げるが、スクールバスに乗り遅れた子どもへの対応はどうするのか。保護者が送迎するのか。これも教員や保護者に丸投げするのか。</p> <p>誰も小中一貫校を望んでいない。教育長がしたいだけではないのか。こんなデメリットだらけの学校に、自分たちの子どもや孫を通わせたいと思えるのか。小中一貫教育は大切だというのが、一貫した教育の取組は今も行っているではないか。わざわざ小中一貫校にする理由が、教員の行き来がしやすいといったことだが、子どもの立場に立っていないではないか。</p>	<p>スクールバスの具体的な運用については、今後（仮称）学校開校準備委員会において、地域や保護者の皆様のご意見も踏まえながら決定していく。</p> <p>なお、スクールバスの運行時間について、先進事例を視察した際に尋ねたところ、乗り遅れる可能性があるから便数を増やしてほしい、といった保護者からの声は出ていないと伺っている。</p> <p>また、小中連携教育はすでに行われているところ、これをさらに発展させた形で、市全域での小中一貫教育に取り組んでいく。</p>
296	12.2(木)	天神山	発言者M	<p>この計画を白紙に戻すにはどうすればよいか。</p>	<p>現時点から取組を進めなければ、さらに児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進むため、仮に反対意見が多いからといって、すぐに白紙に戻すということではなく、何が子どもたちにとって望ましい環境なのか、という視点に立ち、地域や保護者の皆様との協議を重ねていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
297	12.3(金)	山滝	発言者A	住民や保護者からの反対意見を受け、この計画（案）が廃案になる可能性はないのか。	<p>実施計画（案）については、子どもたちの教育環境にとって、何が望ましいのかという立場にたち、教育委員会としての責任をもってお示ししている。</p> <p>仮に反対意見が多数あったからといって、簡単に取り下げるといったことは考えていない。</p> <p>今後、計画（案）を成案化するために説明を尽くしていき、最終的には市長と教育長の責任において進めることになるが、校舎の建替・改修や、通学環境整備等の予算が必要になってくるため、その際には市議会の判断を仰ぐことになる。</p> <p>仮に、市議会において否決されたとしても、さらなる小規模化が進む学校をそのままにしておいてよいのか、という点については、引き続き議論が必要になると認識している。</p>
298	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>市民に多大な負担をかける施策であるため、市長が説明会に出席し、市民の声を直接受けけるべきだ、と以前の説明会で申し上げたところ、「ご意見を伝える」といった回答であった。</p> <p>施策の最終決定権を持つのは教育長ではなく市長。これまで、本件に限らず、様々なタウンミーティングが開催されてきたが、市長は出席していない。やはり、市民の生の声を聴き、それに対して覚悟をもって回答する姿勢が求められているのではないのか。</p>	<p>実施計画（案）の策定にあたっては、市長や副市長といった特別職も参加する「政策決定会議」における承認を受けており、市長と教育委員会との方針を一致させた上で、説明会に臨んでいる。</p> <p>市長が出席すべきというご意見については、伝達する。</p>
299	12.3(金)	山滝	発言者B	以前の説明会でも、避難所に関する質問が出ていたが、それに対して、教育委員会が回答できていないことを踏まえ、関係部局の職員が出席し、市民からの広範な質問に回答する態勢で説明会を開催すべきではないか。	<p>これまで、避難所や地域コミュニティの担当課とも協議を重ね、実施計画（案）の策定に至っている。</p> <p>今回の地域説明会では、教育委員会がとりまとめた計画（案）について、教育委員会の責任において説明させていただいているが、今後の協議に際しては、必要に応じ、市長部局の関係職員の出席も検討している。</p>
300	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>学校を統合し、新たな学校を山滝中学校に設置するということが、校地が狭いように感じる。統合校の要件は定まっているのか。</p> <p>また、他の地域では、隣接する田畑を購入し、敷地を拡大することも可能ではないか、といった意見を聞いた。</p> <p>要件がしっかりしていない中では、不当な政治介入を受ける恐れもあることから、統合要件を明確に示すべきと考える。</p>	<p>現在の山滝中学校に（仮称）山滝小中一貫校を設置する場合のグラウンド面積は国基準をクリアしている。</p> <p>さらに、利用率の減少と老朽化が課題となっている山滝プールについて、今後の状況を見極め、地域の皆様のご意見も伺いながら、条件が整えば、活用も考えていく。</p> <p>その他、校舎の高層化、屋上の活用等により、児童生徒の活動スペースを確保している先進事例もあり、そのような対応を含め、地域や保護者の皆様と十分に意見交換を行っていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
301	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>人口減少が進む中、岸和田市において人口増加施策が取られているとは考え難い。このまま人口減少が進めば、さらなる統廃合があり得るという教育委員会の回答もあった。</p> <p>例えば浜手地域の学校においても、今後統廃合の可能性があるとすることを、当該地域だけでなく、全市的に周知すべき。そうでなければ、山手地域の学校統廃合を浜手地域では知らない、といった分断を生む恐れがある。</p>	<p>浜手地域の適正化対象校については、第2期計画において、具体的な適正化の手法をお示しする予定。</p> <p>山手地域から優先的に着手する理由については、小・中学校ともに小規模化が進んでおり、義務教育9年間にわたり課題が生じているからである。</p> <p>浜手地域をこのまま放置するわけではなく、第1期計画における取組と並行しながら対応していく。</p> <p>また、取組の周知については、地域説明会でいただいたものや、メール等でいただいたもの、当日のご意見用紙に記入いただいたものを含めたご意見・ご質問と、それらに対する教育委員会の考え方について、ホームページを通じて公開する。</p>
302	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>近隣市において、このように極端な統廃合を行った事例はあるのか。一般的に行政は、他の行政が行った施策をモデルにするものだが、どこがモデルなのか。</p>	<p>学校再編に係る取組について、他市に比べ、岸和田市では取組の着手が遅れているものと認識しているが、この要因は様々だと考えている。</p> <p>この取組は、小規模化が進む学校をこのまま放置することは、子どもたちの教育環境にとって望ましくないのではないかと、という問題意識から実施するものであり、具体的にどこかの事例をモデルにしたものではない。</p> <p>今、この取組を進めなければ、学校のさらなる小規模化が進んでいくことから、本市でも取組に着手したところ。</p>
303	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>幼保再編においては、34園ある公立保育所・幼稚園を、当初はすべて民営化するという方針であった。その中で、議会・民間園・市民らの怒りを受け、現状は6園の公立園を残す案になっている。</p> <p>今回も、まずは大きな統廃合案を示し、後から緩和していけば、市民の反対意見も減るという目論見だとも思われかねない。この計画（案）どおり進める覚悟があるのか。</p>	<p>この取組の最大の目的は、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実である。</p> <p>この計画（案）はあくまでもたたき台であるが、地域の皆様が心配される課題を解消しつつ、皆様方から一定の合意を得られた段階で、（仮称）学校開校準備委員会を設置する予定である。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
304	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>以前の説明会で、小中一貫校について、制度開始からの時間があまり経っていないこともあり、中1ギャップ解消に係る科学的な成果、定説となる根拠がないという意見を述べる方もいたが、それに対する明確な回答はなかった。</p> <p>現在でも、小・中学校間の教員相互乗り入れといった取組を行っているということだが、その現状で何が問題なのか。</p> <p>説明の中で「0～15歳までの施設一体型一貫教育は全国的に稀」ともあったが、小中一貫校ですら成果が定かでない中、全国的に稀な取組を行おうとすることは、学力が非常に低い岸和田市において、「これ以上悪くなりようがない」ということで、人体実験的に施策を進めようとしているとの疑念を持たれるため、何か明確な根拠があるのであれば、それを示すべき。</p>	<p>国立教育政策研究所から、中1ギャップに関する生徒指導リーフが発出されており、その中では、便利な用語を容易に用いることで、思考を停止し、根拠を確認しないまま議論を進めてはならない、といった旨の記載がある。今回の小中一貫教育基本方針において、中1ギャップという用語を記載しているが、現在行っている小中一貫教育推進会議の中でも、安易な使い方はしないように、ということも議論している。</p> <p>なお、中学校進学時の環境変化に不適応を起こす子どもがいることは事実。その部分は丁寧に指導していく必要がある。</p> <p>また、中1ギャップに係るデータとして、小学6年生から中学1年生のいじめ認知件数が48%増加、同じく、小学6年生から中学1年生の不登校数が180%増加、さらに、暴力行為の加害児童生徒数も、232%増加している。</p> <p>国立教育政策研究所は中1ギャップという用語を慎重に使う必要があるとしているが、これは、中学校に進学したから突然問題事象が発生するのではなく、小学校の時点でその芽があるため、原因を見極める必要がある、という趣旨で理解している。</p> <p>なお、文科省は、現在も中1ギャップという用語を使用しており、小中連携の重要性についても主張している。</p>
305	12.3(金)	山滝	発言者B	<p>1学級あたりの人数は少ない方が望ましいとされ、文科省においても35人学級を順次導入している。子どもの貧困が課題となる中、そうした立場の子どもにも効果的だとされているが、この35人という数字が本当に望ましいという根拠があるのか疑問。</p> <p>OECDにおける1学級あたりの平均人数は21人であり、EUに限れば19.9人。こうした数字に向け、世界では1学級あたりの人数を減らしてきている。</p> <p>小学校教員は非正規雇用が多い中、学級の数を減らし、仕事の数を減らすことで、優秀な教員だけを確保しようという文科省の考えもあるかもしれない。</p> <p>その他海外の事例でいえば、オランダにおいてはイエナプラン教育校が約200校あり、エビデンスが蓄積されている。広島県福山市では、公立校で初めてイエナプラン教育を導入している。このように、抜本的な教育改革を行っていただきたいところだが、単に学校を統合し、数を減らしてお金がかからないようにするという安易な考えではないかと疑念を抱く。市民を安心させる回答を望む。</p>	<p>子どもたちの教育環境を考える上では、学校全体の児童生徒数である「学校規模」と、1クラスあたりの児童生徒数である「学級規模」があるが、今回の適正規模・適正配置の取組で示す規模は、前者の学校規模のことである。</p> <p>学級規模については、国において、令和7年度まで順に、小学校での35人学級編制を拡大していくこととなっている。</p> <p>学級規模の少人数化については、好ましいことだと考えており、現在も都市教育長会議等を通じ、国や府へ30人学級実現に向けた要望を行っているところ。学級編制基準については、国において一律に判断されるべきことだと認識しているため、今後も少人数化の要望を継続していく。</p>
306	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>岸和田市内でもっとも小規模な学校は、山滝小学校と東葛城小学校だが、この2校における全国学力テストの結果が、全国平均より高いか低いか、また全国トップといわれる秋田県と比較してどうかを教えてください。</p>	<p>全国学力テストの結果について、個々の学校における結果は公表していない。</p> <p>なお、岸和田市全体の結果については、ホームページに公開している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
307	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>小中一貫校で期待される効果として、「確かな学力の定着と向上」とある。そのエビデンスはあるのか。</p> <p>また、不登校・いじめ・問題行動についても減るといふエビデンスはあるのか。</p> <p>加えて、中1ギャップが解消されるエビデンスもあるのか。</p>	<p>文科省の調査において、小中一貫教育の成果として、64%の市区町村が、全国学力テストの結果が向上したと回答している。</p> <p>一方、確かな学力の定着と向上に関しては、あくまでも「期待できる」ということであり、小・中学校の教員が連携しながら指導していくことが大切になる。</p> <p>不登校・いじめ・問題行動についても同じく、解消が「期待できる」としており、小・中学校の教員連携が大切になる。</p> <p>中1ギャップに関しては、平成29年3月時点での文科省の調査において、小中一貫校で中1ギャップが緩和されたという回答が93%を占めている。</p>
308	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>7校の小学校を廃止し、小中一貫校をつくるという大きな改革を行うのに、現場の教員の意見を聞いた上で示しているのか。</p>	<p>令和2年3月に、適正規模・適正配置の基本方針を策定しており、この策定に際しては、国の手引や審議会答申を踏まえているが、合わせて、教員・保護者・児童生徒を対象にしたアンケート調査において、12～18学級が望ましいという意見が大多数だったことも踏まえている。</p>
309	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>国会では、小中一貫校と、一般的な小・中学校との学力調査について、同条件で行った事例は存在しないという答弁がなされている。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
310	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>現場の教員の意見は聞いたといった回答であったが、7つの小学校を廃止し、小中一貫校をつくるという内容についての意見を聞いたのかを聞いたかった。</p> <p>教員に聞く限りは、随分前に、適正規模について、文書ではなく口頭で聞かれたことはあるが、今回のような計画を示されていれば、賛成する人はいないだろう、ということである。</p>	<p>適正な学校規模についての意見聴取は行ったが、7校の小学校を閉校とし、小中一貫校をつくるという内容については、現場教員の意見を聴取していない。今回の計画（案）は、教育委員会の責任において、お示ししているものである。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
311	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>各学校における学力テストの結果は回答できないということについては理解するが、実際は各学校において、結果は把握されている。その上で聞くところによれば、山滝小学校と東葛城小学校は岸和田市内でトップクラスということである。</p> <p>全国トップクラスの秋田県では、他都道府県に先駆け、独自の少人数学級を導入している。</p> <p>山滝小学校と東葛城小学校では、児童数が少ないからこそ、きめ細かな教育ができ、高い学力を維持できている。統廃合により児童数が増えると、その保証はない。</p> <p>今回の計画は、確かな学力の定着と向上に逆行するものと指摘しておく。</p>	<p>岸和田市における全国学力テストの結果について、個々の学校ごとの結果を公表できないことは先ほど申し上げたとおりだが、全体の結果からは、学校規模の大小と、テスト結果の高低との相関性はみられない。</p> <p>学力については、経済性、地域性といった、学校教育外の様々な要素が複雑に絡み合い、結果に影響を及ぼすといわれており、学校規模だけで判断されるものではないと考えている。</p> <p>少人数での教育という点については、先ほども説明したように、現在、国や府に対して30人学級実現に向けた要望を行っているところ。</p> <p>なお、学力テストで成績を出すための学習だけで十分なのか、という点についても、教育委員会は重要視している。</p> <p>これまでのように、一定のルールに乗れば一生が安泰だという時代は過ぎ去り、地域の経済圏だけで生計を立てていくことも困難となってきた。現在は、日本だけではなく、世界において、世界の様々な人々と調整を図っていくことが必要。</p> <p>その中では、様々な考え方に触れ、互いの意見を交わし合いながら結論を見出し、自らを高めていくことが重要であり、そうした教育を実践するためにも、一定の集団規模を確保することが必要であると考えている。</p> <p>文科省が示す「主体的・対話的で深い学び」も、そのような趣旨であると認識している。</p>
312	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>小中一貫校は不登校の解消等に役立つという回答が多かったとのことだが、事実と異なる。</p> <p>これまでの、国立教育政策研究所等における研究結果からは、小規模校の方が不登校が少ないと明確にされている。</p> <p>東葛城小学校の特認校制度を利用している児童の保護者に聞くと、「元の学校には通えていなかったが、東葛城小学校に転校してからはいきいきと通えているのに、なぜこの学校をつぶすのか」と話していた。</p> <p>いじめや不登校、問題行動については、小規模校だからなくせる。今回の計画は、そういった点でも逆行するものである。</p>	<p>岸和田市内においては、小規模であっても、学力テストの成績が低い学校があり、また大規模であっても、高い成績の学校もある。</p> <p>同じく、いじめや不登校の数についても、小規模であっても件数が多い学校がある一方、大規模であっても件数が少ない学校もある等、相関性はみられない。</p> <p>どのような規模の学校においても、子どもたちがしっかりと学校生活を送ることができるように取り組んでいく必要があると認識している。</p> <p>なお、小中一貫教育だけが、学力向上や、諸課題解消のための方策だとは考えていない。教員の授業改善等を含め、様々な方策を講じていく必要がある。</p>
313	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>小規模校には課題があるということだが、その立場においては、際限なく統廃合が繰り返されてしまう。</p> <p>例えば（仮称）山滝小中一貫校においては、統合後も小規模であり、先々には浜手の学校と統廃合をされてしまう。</p> <p>東葛城小学校区の保護者は、「学校がなくなったら引っ越しも考える」と話していた。実際、若い世代は、住む場所を決めるときに、良い教育を受けられるかの情報収集を行う。そのような中、学校の統廃合を繰り返していれば、若い世代は入ってこないし、出ていってしまう。さらなる人口減少が進み、魅力のないまちになるといった悪循環に陥る。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
314	12.3(金)	山滝	発言者C	学力に定評がある北欧地域では、学校規模は小さい。学年1クラスの学校も多いが、その中でも高い学力を維持しているなど、やり方次第では小規模でも良い教育が可能。	国によって、人口密度、地理的環境、経済のあり方が異なる。北欧諸国においては、非常に高い税負担を負っているからこそ、高福祉が実現している。 それぞれの国において、教育、学校のあり方について考えていくべきであり、他国の事例を示していただいても、前提条件が異なるため、議論を行っていくところがある。
315	12.3(金)	山滝	発言者C	やはり、この取組目的は財政面での支出削減が目的ではないのか。	この取組の目的は、子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実である。
316	12.3(金)	山滝	発言者C	幼稚園から中学校までを一緒にの学校にすることだが、小さな子どもたちにとっては、危なくて外で遊べないという問題が生じる。特に中学校では部活動があるため、放課後に遊びにくい。 体育館も一つなので、雨の日における体育の授業が小・中学校で重なる場合、どちらかは中止になりかねない。 特別教室における、椅子や机の高さも異なる。文科省からは、調節して使うような指示もあるようだが、小さな子どもは足がつかず、落ち着いて勉強できない。 階段の段差や、トイレや手洗い場についても問題が出てくる。これらを解決できる見通しを示した上で提案すべき。	新たな学校における活動スペースについては、今後、地域や保護者の皆様と意見交換を行いながら検討していく。校舎のレイアウトや、トイレの位置といった詳細についても、皆様のご意見を伺いながら、今後決定していく事項である。 なお、階段の仕様については、小学生向けに統一している先進事例もある。そのような事例も参考にしていく。
317	12.3(金)	山滝	発言者C	通学に際してはバスが必要になると思われるが、1台あたり700～800万円という費用の問題がある中、便数は限られてくる。そうなれば、児童生徒の行動にも制限が生じる。	子どもたちの安心安全を確保することは、教育委員会の責務だと認識しており、他の地域との均衡にも配慮しながら、必要な地域においてはスクールバスを導入し、必要な便数を確保していく。
318	12.3(金)	山滝	発言者C	これまでは、小学校を中心に、地域コミュニティが醸成されてきた。小学校がなくなってしまうと、地域コミュニティは崩壊し、住民相互のつながりも希薄になってしまう。 様々な災害を経験する中で、地域のつながりが大切だとされている中で、これに逆行する施策である。また、学校は災害時の避難所にもなっているため、学校が廃校になった場合は避難所がなくなってしまう。	教育委員会としては、学校は、何よりもまず子どもたちの教育の場だということに重きを置いて、より良い教育環境の整備に向けて取り組んでいく必要があると認識している。 一方、地域の皆様の活動場所となっていることや、避難所に指定されていることも十分に理解しているので、仮に学校が閉校となった場合の活動場所の確保等についても、市長部局とともにサポートしていく。
319	12.3(金)	山滝	発言者D	隣の地域である山直南小学校区の地域説明会に出席したところ、60人ほどの住民が参加しており、すごい熱気であった。 地域から学校がなくなってしまう地域と、山滝小学校と山滝中学校はなくなるが、山滝中学校跡地に新たな学校が設置される案になっている地域という差があると思う。 教育委員会も、学校が地域にとって大切な存在であること、また地域住民の不安と、危機感を肌で感じたと思うが、どうか。	地域から学校がなくなることについて、地域の皆様が抱く危機感は、どの地域の説明会においても、肌で感じているところ。 一方、児童生徒数の減少が進む中、今後の教育環境を考えると、教育委員会としては、小規模化の課題を置いておくよりも、一定の集団規模を確保し、子どもたちにとってより良い教育環境を整備することが必要だと認識している。 なお、山直南校区においては、中学校に進学する際に、山滝中学校と山直中学校に分かれる課題があり、そういった課題の解消についても、今回の取組を通じて解消していきたい。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
320	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>学力テストの結果だけで、子どもを測るものではないということについては同意見。個人的には、学力テスト自体が不要と考えている。</p> <p>小規模校・大規模校双方にいじめや不登校は存在し、どちらが良い、悪いといった状況にはないということであったが、資料の中で、期待される効果として掲げていたから質問した。小規模校が悪いというような書き方をすることがおかしいということは申し上げておく。</p>	<p>小規模校が悪いとは申し上げておらず、小規模校においても、いじめや不登校、問題行動が多い学校もあるという説明をさせていただいたところ。</p>
321	12.3(金)	山滝	発言者C	<p>すべてを挙げることはできなかったが、小中一貫校の弊害は多数あり、現場教員に小中一貫校化についてどう思うか尋ねると、小中一貫校に賛成する人はほとんどいないと思う。</p> <p>それよりも、少人数学級を求める教員が多く、教育新聞の記事によれば、97%の教員が少人数学級を求めているというアンケート結果がある。</p> <p>小規模校を減らすということは、現場の声から逆行していると指摘しておく。</p>	<p>小中一貫校において考えられる課題についても、認識している。それらの課題解消についても考えながら、小中一貫教育に取り組んでいく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
322	12.4(土)	常盤	発言者A	<p>小中一貫校のメリットを示しているが、リスクやデメリットについても伺いたい。</p>	<p>仮に適正化の取組が進むと、小学校が閉校となるため、児童の通学距離が延びる等、通学環境に変化が生じる。</p> <p>子どもたちの安心安全な通学環境を確保することは、教育委員会の責務だと考えているため、今後しっかりと対応していく。</p> <p>また、小学校区単位で活動してこられた地域コミュニティに影響が生じることも課題の一つである。</p> <p>仮に学校が閉校となった場合の、地域コミュニティの活動場所の確保等については、市長部局と一体でサポートしていく。</p> <p>また、小中一貫校が設置された場合、小学生と中学生の活動場所の確保や、チャイムを鳴らす時間が小・中で異なるといった課題が考えられる。また、教員の相互乗り入れ指導に際しても、免許による制約が生じることも挙げられる。それらの課題への対策についても、先進事例を参考にしつつ考えていく。</p>
323	12.4(土)	常盤	発言者A	<p>小学1年生から中学3年生までが同じ敷地で学習することについて、経験上、中学生の中には、授業中に廊下を立ち歩いたり、教員に怒られて追い掛け回されていたり、という生徒がいると思う。また、卒業生がバイクで侵入してくることもあった。</p> <p>小・中学生の間には体格差もある。小学校に入ってすぐの子どもが、学校を怖がってしまう可能性もある。中1ギャップよりもこのことの方が心配。</p> <p>また、小・中学生が近い距離で学習するため、悪い影響を受けやすくなると思う。そうなると、取組の目的である学力向上に反してしまうのではないかと。</p> <p>聞くところによると、常盤小学校と桜台中学校は評判が良いこともあり、保護者としては新しい小中一貫校に子どもを行かせたくない。</p> <p>こうした中学生の問題行動を抑えることは、教員のマンパワーでは難しいのではないかと。可能なのであれば、自分が中学生のときにも対応できていたと思うので。</p> <p>このような、学校生活面での配慮は何か検討しているか。</p>	<p>学校での問題行動等の課題については、小中一貫校に限らず、どの小学校・中学校においても、課題解決を図る必要があるということが前提になる。</p> <p>懸念されることは理解するが、教員がしっかりと指導していくべきことでもある。マンパワーでは無理があるのではないかと、というご指摘もあったが、取り組まなければいけない事項である。</p> <p>中学生による悪い影響を心配されている件について、先進事例からは、中学生が小さな子どもの面倒を見ながら成長し、模範となる意識が醸成される中で、中学生の問題行動も少なくなってきたと伺っている。逆に、小学校低学年の児童からも、中学生を良き目標とする好循環が生まれたということも伺っている。</p> <p>設備面においても、国の基準で示す、必要なグラウンドの面積は確保できる見込みである。校舎のレイアウトについては、地域や保護者の皆様と協議の上、今後決定していくが、例えば小・中学生それぞれの活動場所を確保していくことも検討する。</p> <p>その他、先進事例では、階段の仕様を小学生用に統一するといった工夫がなされており、それらも参考にしていく。</p>
324	12.4(土)	常盤	発言者B	<p>現場教員としては、中学生が小学生の模範となる態度を求められる中で、息を抜く暇がないということも伺っている。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
325	12.4(土)	常盤	発言者B	<p>小規模校の課題について挙げているが、これらは1クラスあたりの人数が少なければ解決できるものだと考えている。</p> <p>なぜ、岸和田市では少人数学級を推進しないのか。</p>	<p>国において、今後段階的な35人学級を導入していくところだが、それでは不十分と認識しており、都市教育長会議等を通じ、国や府に対して30人学級実現の要望を行っているところ。</p> <p>学力は、各家庭の事情や、地域との関係性、学校生活等、様々な要素の影響を受けるものだが、例えば、財政的に余裕のある自治体が、独自に30、25人学級を導入する一方、財政的に苦しい自治体は40、35人学級のまま、ということが、公教育としてあってよいのかどうか疑問に思っている。</p> <p>公教育である以上、国で等しく教育条件を整えることが大原則であり、財政的な余裕の有無で学級編制基準が異なることは望ましくないと考えている。よって、岸和田市独自の少人数学級導入については、すべきでないことだと認識しており、国に対してしっかりと少人数化を要求していくべきものだと考えている。</p>
326	12.4(土)	常盤	発言者B	<p>1966年には、学校規模が小さい方が教育効果が上がるとする、コールマン報告が示された。また、WHOも、100人を上回らない学校規模が望ましいとしている。</p> <p>適正な学校規模を12～18学級としているが、なぜ世界的な流れに逆行して進めているのか。</p>	<p>海外の事例から、小規模校が必然であるということだが、国において議論を重ねた結果、適正な学校規模は12～18学級という手引が策定されているように、国の制度のもとに公教育を運営している以上、岸和田市としても、その基準に基づき、適正規模を考える必要があると認識している。</p>
327	12.4(土)	常盤	発言者B	<p>小規模な中学校では、専科教員が配置されないという課題を挙げているが、小規模な山滝中学校では専科教員が配置されていないのか。</p> <p>学級数に応じて教員配置がされるという現状は、大阪府が教員採用を抑制しているからではないかと考えている。</p>	<p>小規模な中学校では、専科教員が配置されないという点について、これは「正規の」専科教員が配置されないということであるため、現在は非常勤講師による対応となっている。</p> <p>山滝中学校は、数年前までは学年あたり2クラスであったが、現在は全学年単学級となっている。体育の授業を、1人の教員が男女同時に指導するといったことや、支援学級の教員が特例的に教科指導を行うといった対応で、何とか学習を保障している状況。</p> <p>また、教員の産休、育休、病休等で長期にわたり欠員が生じる場合、代替の講師が入るまでは、なかなか授業を進められないという課題もある。</p>
328	12.4(土)	常盤	発言者C	<p>先ほど、公教育は平等であるべき、といった説明があったが、岸和田市で小中一貫校を設置する場合、他の学校と差が出てしまうのではないかと。</p> <p>他の校区も小中一貫校にしていくのか。</p>	<p>現在も、11中学校区すべてで、小中連携の取組は行っている中、校区ごとに「めざす子ども像」を設定し、小中一貫教育に発展・充実させていくという方針である。</p> <p>小中一貫教育を実施する上で、同じ敷地内に小・中学校がある方が好ましいと考えているが、市内には、施設一体での整備が困難な校区もある。その場合、施設分離型での小中一貫教育を行っていく。</p> <p>市全域で小中一貫教育の取組を行う中で、例えば施設一体型に比べ、分離型が劣ることのないように、小中一貫教育推進会議等を通じて、先進事例の研究及び工夫を重ねていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
329	12.4(土)	常盤	発言者C	現状の小・中学校においても、現在も小中連携の取組を行い、今後も小中一貫教育を行っていくということだが、要は、人数あわせのために小中一貫校にするということなのか。	小中一貫教育については、全中学校区において取り組んでいくが、施設一体型あるいは隣接型の方が、小中一貫教育をより展開しやすいというメリットがある。教員の相互乗り入れについても、物理的距離が近いことが有効に作用する。 よって、可能な校区においては施設一体型・隣接型の小中一貫校をめざしていくという考えである。
330	12.4(土)	常盤	発言者D	以前、門前町会員全員を対象としたアンケート調査を行い、結果を10月21日に教育委員会にお示した状況。 アンケート調査結果によれば、現在の校区のままでよいという意見が多数を占め、子どもがいる家庭では、8割近くがそのような意向であった。 このことについて、どのように捉え、検討されたのか回答願う。	門前町会としてアンケート調査を実施していただき、感謝申し上げます。 地域説明会を開催する中で、各校区から様々なご意見を伺っているところ。説明会の会場でのご意見・ご質問や、当日配布のご意見用紙に記載されているもの、各地域からの要望等に対する教育委員会の考え方については、改めてお示しする予定である。 なお、今回お示している計画（案）は、あくまでもたたき台であり、引き続き、門前町会をはじめ、常盤校区の皆様と協議を重ね、今後の展開について考えていく。 現時点で、すぐに通学区域見直しの内容を変更するといったことは申し上げられないが、アンケート調査結果も、今後の参考にさせていただきたいと考えている。
331	12.4(土)	常盤	発言者D	実施計画（案）の「案」が取れる状況というものは、どのような状況だと想定しているのか。	最も望ましいのは、協議を進める中で課題を解決し、教育委員会と地域・保護者の両者が合意した上で成案化を図ることである。 仮に、今後の協議の中で、教育委員会の考え方と、地域の皆様の考え方が平行線になった場合、市長と教育長が責任をもって判断するが、今後予算を伴う事項もあるため、最終的には市議会の判断を仰ぐことになる。 仮に予算を承認いただけた場合、そのタイミングが成案化のタイミングになると想定している。
332	12.4(土)	常盤	発言者E	資料に示す（仮称）葛城小中一貫校の施設イメージ図において、校舎の建替・改修について記載しているが、インターネットで現在の葛城中学校の校舎について調べると、70年くらい経過している建物もある。 ここで示す校舎改修というものは、耐震改修のことなのか。個人的には、建替えたほうがよいと思う。	市内すべての学校では、校舎の耐震改修を終えている。 一方、老朽化が激しい校舎もあるため、校舎の建替を含めたレイアウト等については、（仮称）学校開校準備委員会における協議を踏まえながら、設計段階で決定していく。
333	12.4(土)	常盤	発言者E	通学区域の見直しにより、学校までの通学距離が短くなることは望ましいことだと思う。 これに伴う通学路として、水道みちには信号機が1機あるが、そこを通過して通学することを想定しているのか。水道みちは交通量も多いため、別に信号機を新設することも検討願いたい。	（仮称）学校開校準備委員会において、信号機の新設を含め、通学路の安全確保に係る方策についての詳細な検討を行う。準備委員会には地域の代表者にも参加していただく想定ではあるが、詳細なメンバー構成は、各地域におけるご意見を踏まえ、決定する。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
334	12.4(土)	常盤	発言者F	<p>市民に多大な痛みを強いる施策であるため、行政のトップである市長が説明会に出席し、市民の声をダイレクトに受けるべきだと申し上げる。</p> <p>また、他市の議員にも尋ねたところ、どの議員も「市長は出席すべきだ」と異口同音に仰っていた。</p> <p>隣接する和泉市では、庁舎建替に係る住民投票の説明会において、市長が出席し、直接的に市民とやり取りを行っていた。岸和田市において、市長がいかにも市民を軽視しているかが見て取れる。</p> <p>これまで教育委員会は、「市長に伝達する」と回答してきた。岸和田市では、他市とは異なり、議会において市民が直接アピールする制度がない等、旧態依然とした状況において、「由らしむべし 知らしむべからず」の姿勢を貫くままでよしということにはならない。</p> <p>貝塚市の議会答弁では、まず市長が答弁を行い、それ以降で部局長が答弁する。岸和田市では、市長が答弁することは稀である。答弁しないのであれば、議会への出席も不要ではないかとすら思う。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
335	12.4(土)	常盤	発言者F	<p>小中一貫校にするエビデンスについて尋ねたい。以前の説明会において、不登校やいじめの解消に効果的だという説明があった。現在、いじめの解消率は90%という発言もあったが、10%は未解決ということである。いじめや不登校という事象は、あっていいものではなく、ゼロが当たり前であるため、メリットとはなり得ない。</p> <p>「豊かな」とか「社会性が」といった説明はあるが、物差しになり得ず、一般的には偏差値や、学力テストの結果が物差しになり得るものだと考えられるが、ここに言及いただけなければ、小中一貫校化を進める合理的理由とは認められない。</p>	<p>全国学力テストの結果において、小中一貫校とそうでない学校とを比較した数値はなく、現段階で示されているのは、文科省が平成29年度に行った調査による、小中一貫教育を導入した学校で全国学力テストの結果が向上した、という回答が64%、中1ギャップが緩和した、という回答が93%というアンケート結果の数値である。</p> <p>現在、小中一貫教育推進会議において、課題を含めて意見を出し合い、討議を行っているところ。本日いただいた意見も踏まえながら、さらなる検討を進めていく。</p> <p>なお、小中一貫校において、教員の相互乗り入れや、児童生徒の交流を行う上で、より高い効果が期待できるということは、物理的なことを踏まえると、事実だと捉えている。</p> <p>その他、市内の支援学級に在籍している子どもたちが一堂に会し、運動会や学習発表会を行っている。2月頃の学習発表会の中で、中学3年生の生徒が、将来頑張りたいこと、したい仕事といった決意表明をするシーンがあり、小学生の子どもたちは、先輩が喋る姿を食い入るように見つめている。</p> <p>支援が必要な子どもにとって、良いモデルがいることは、非常に大切なことであり、そうした子どもたちが、将来の先輩像を身近に見ることができることは、小中一貫校の良い効果の一つだと考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
336	12.4(土)	常盤	発言者F	<p>今後、人口及び児童生徒数の減少が進めば、さらなる統廃合もあり得るといった説明が以前の説明会でなされた。</p> <p>全小学校の1/4の小学校を統廃合するような、このような乱暴な計画は近隣市にあるのか、モデルはどこか、と尋ねたところ、そのようなものはないという回答であった。</p> <p>また学級規模についても、OECD及びEUにおける状況を踏まえると、世界的にはさらなる少人数化が進むと予測されるが、教育委員会は文科省の指針に従うということであった。</p> <p>日本政府は、高齢者偏重の予算付けを行っており、教育に関する予算は非常に少ない割合しか割いていない状況であり、その方向性に従うということであれば、それはそれで問題である。</p> <p>その他、大きな規模の学校を小さな規模の学校に統廃合する、といったことや、教員に対するアンケート調査結果で12～18学級が望ましいとされた、としながら、実際は統廃合に関するアンケートではない中、教育委員会が読み替えているといった問題がある。</p> <p>合理的な理由なく行政事務の執行を行っていることは非常に不適切ではないか。</p> <p>また、この取組は経費の問題ではないといったような、建前のような答弁を繰り返していても、市民の信用は得られない。市民に対し、真摯に、腹を割って、市民の想いを理解した上での回答を願う。</p>	【ご意見として承る】
337	12.4(土)	常盤	発言者G	<p>多数の小中学校を3つに集約する今回の計画は、非常に乱暴なものだと感じており、言いたいことはたくさんある。</p> <p>先ほど、自治体独自で少人数学級を導入することは良くないことであり、国が定めるべきことだ、という説明があった。それはそうだが、実際は少人数学級には良い効果があるということで、市民の暮らし、教育を考える中で、自治体によってはお金を使って取り組んでいる。</p> <p>岸和田市においても、やはり少人数学級に取り組んでいただきたいと願う。</p>	【ご意見として承る】
338	12.4(土)	常盤	発言者G	<p>小中一貫教育に関して、文科省が、学力テストの結果向上や、中1ギャップの緩和に効果的だったということを提示した後に、各大学でも調査が行われており、その調査によれば逆の結果が出ている。</p> <p>例えばつくば市の教育長に、筑波大学名誉教授の門脇氏が就任した際に検証を行ったところ、小中一貫校では、小学6年生の時点でしんどくなるという結果が出た。これを受け、門脇氏がつくば市教育長を退任する際には、今後小中一貫校はつくらないといったことを仰っていた。</p> <p>そういったことも参考にすべきだと考えている。</p>	【ご意見として承る】

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
339	12.4(土)	常盤	発言者G	<p>幼保再編に係る説明会にも参加したが、子どもの数が少なくなる中で、幼保一元化や小・中学校の統廃合といった取組を進めていくと、岸和田市で子どもを育てたいと思う人が減ってしまう。市のめざすべき方向性と逆行しているように感じている。</p> <p>資料の説明の中で「丁寧な説明を行いながら、適正化を進める」といった発言があった一方、冒頭の教育長あいさつでは「これは案であり、意見を伺いより良いものにしていく」といった発言があった。実際のところ、この計画（案）を変更する可能性は考えているのか。</p>	<p>常盤校区では11月18日にも地域説明会を開催しており、様々なご意見を伺ったところ。教育委員会としては、小規模化による課題を解消する必要があるという認識のもと、子どもたちにとってより良い教育環境を保障するため、今回の地域説明会をスタートとして、私どもと一緒に考えていただきたいという趣旨で説明会を開催し、説明を行っている。</p> <p>意見をいただく中で、すぐに計画を変えていくというつもりはないが、教育委員会の考え方を十分に説明し、地域や保護者の皆様のご意見も十分に伺う中で、子どもたちの教育環境にとって、より良い計画をつくっていきたいと考えている。</p>
340	12.4(土)	常盤	発言者H	<p>取組のデメリットについて、小学校が統合されることで、通学距離が遠くなるということが非常に印象深かったのだが、デメリットとしてはこのことが一番大きなものなのか。それ以外はあまり感じられなかった。</p>	<p>課題としては、通学距離が長くなることに加え、地域コミュニティへの影響が生じることが挙げられる。</p> <p>通学に関しては安心安全を確保する取組を行い、地域コミュニティについては、行政からのサポート体制の構築を行っていく。</p>
341	12.4(土)	常盤	発言者H	<p>特認校制度について触れられていたが、（仮称）葛城小中一貫校と（仮称）山滝小中一貫校を特認校にするという理解でよいか。</p> <p>そうであれば、小中一貫校の良い評判を聞いた人が多く集まった場合、收拾がつくのか、どこで線引きをするのかを教えてください。</p>	<p>仰るとおり、（仮称）葛城小中一貫校と（仮称）山滝小中一貫校において、特認校制度の導入を検討している。</p> <p>仮に入学希望者が多かった場合、その時点での児童生徒数を見極め、特認校として受け入れる児童生徒数の定員をどのように設定するのか、という点についても考えていく。</p>
342	12.4(土)	常盤	発言者H	<p>この計画（案）どおり進んだとして、今までの学校に通いたい、という強い希望が出てきたときに、受け入れられるのかどうか。</p>	<p>今回の計画（案）はたたき台としてお示ししているため、今後の協議の中で、仰るようなご意見もあるかと思う。</p> <p>最終的には地域の皆様との協議を踏まえながら、決定していく。</p>
343	12.4(土)	常盤	発言者H	<p>変更の余地はある、という捉え方でよいか。</p>	<p>計画（案）に示す、通学区域の見直し案を、一切変更しないという姿勢ではない。</p>
344	12.4(土)	常盤	発言者H	<p>現時点で、校区の児童生徒はその校区に必ず通学しなければいけないという認識だが、例外はあるのか。</p>	<p>地域によっては調整区域を設けていることもある。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
345	12.7(火)	東葛城	発言者A	<p>適正化の取組や、小中一貫教育を行う上で、対応が必要なことが多数あるということであった。こうした課題について、今後（仮称）学校開校準備委員会で詳細検討をすると理解した。</p> <p>準備委員会でつくり上げた最終案について説明を願うとともに、地域住民の賛否を問うていただきたい。</p>	<p>今後の進め方については、地域説明会終了後、各校区ごとにいただいたご意見・ご質問のとりまとめを行い、それらに対する教育委員会の考え方をホームページで公開する予定である。</p> <p>また、各校区ごとで最終案の策定に向けて協議を重ね、適正化に係る課題の解決を図っていく。その中で、教育委員会と地域の皆様との間で一定の合意に至れば、（仮称）学校開校準備委員会を設置し、新たな学校の校歌・校章や、通学手段についての詳細な検討を行う。</p> <p>また、準備委員会を設置するにあたっては予算を伴うため、市議会の議決を得る必要があり、関連予算について議決を得られれば、新たな学校の開校に向けて具体的な準備に着手していくこととなる。</p>
346	12.7(火)	東葛城	発言者A	<p>現状の課題解消を目的としているが、適正化がなされた後、5年ないし10年後、効果の検証を行っていただきたい。</p>	<p>新たに開校された学校において、子どもたちにとってのより良い教育環境が実現しているのか、また通学環境の安心安全が確保されているのか、といった検証は、継続的にしっかりと行っていく。</p>
347	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>東葛城小学校における特認校制度は失敗したような説明であったように感じられたが、教育委員会の認識として、失敗と捉えているのか。</p>	<p>東葛城小学校における特認校制度については、地域の皆様から制度導入の意思が示され、教育委員会としても、目前に迫る複式学級を回避するため、制度導入を決定し、現在に至っている。</p> <p>地域の皆様に支えていただきながら、東葛城小学校区の児童が、他校区から来た児童とともに学ぶことで、多様な考えに触れながら、特色ある教育活動を受けてきたことや、特認校制度を利用する児童も増えてきている等の状況を鑑みると、一定の成果はあったものと認識している。</p> <p>一方、当初より学校全体の児童数は増えているものの、教育委員会がめざす、一定の集団規模に至ることは難しいと考えている。</p>
348	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>（仮称）山滝小中一貫校と（仮称）葛城小中一貫校において、特認校制度を導入するメリットはあるのか。</p>	<p>両校においても、地域の皆様に支えていただきながら、特色ある教育活動を実施していきたいと考えており、東葛城小学校で実践してきたノウハウも取り入れ、活かしていきたいと考えている。</p>
349	12.7(火)	東葛城	発言者B	<p>メリットを掲げていることはわかるが、デメリットについても詳しく説明を願う。</p>	<p>適正化の取組が進んだ場合、学校が開校となった地域の児童にとって、通学距離が長くなるという課題や、これまで小学校区単位で活動してこられた地域コミュニティへの影響が生じる課題が挙げられる。</p> <p>なお、学校の閉校に伴い、地域コミュニティの活動単位を、小・中学校の再編に合わせて変更を強いる考えはなく、行政としても活動のサポートに努めていく。</p> <p>また、小中一貫校における課題については、小・中学校のチャイムが45分授業と50分授業で異なる点、小学6年生の最上級生という意識が薄れるという懸念が挙げられる。現在も小中一貫教育推進会議において、先進事例の研究を含め、討議を重ねており、今後も課題解消に向けて取り組んでいく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
350	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>児童生徒の数ありきだと思いが、現時点でもできることは多いのではないかと。小・中間のギャップや多様性について言及しているが、小規模な環境で育ってきた東葛城地域の人々に多様性が欠けているのか、と尋ねられればどう答えるのか。</p> <p>少人数で、自然豊かで、地域コミュニティがあり、おじいちゃんやおばあちゃんの声掛けもあり、田植えの手伝い等もしてくれる、このような環境で育ってきたことを否定していることに気付いているのか。児童生徒の数を集めれば、多様性が確保されるのか。</p> <p>仮に、市長や議会が「小規模校を残せ」という方針を示していた場合、職員は学校を残すため、真逆の資料を作らざるを得ない。</p> <p>企業でも何でも、違う文化の人間を集めると、必ず軋轢が生じる。教員にしても、小・中学校の教員を集めれば、文化の違いで摩擦が起き、上手くいかない。そこで試行錯誤し、誰かがリーダーシップをとらないといけない。</p> <p>東葛城小学校がなくなった場合、地域コミュニティがなくなるが、そこに対する手当てについての言及はなく、今の東葛城小学校の良さも記載されていない。</p> <p>方向性ありきではなく、地域のこと、学校のことをもっと掘り下げていただきたい。</p>	<p>地域の皆様から一生懸命に支えていただいたことにより、東葛城小学校は、特認校制度をはじめ、小規模校としての良さを十分に発揮してこられたものと認識している。</p> <p>これまでの教育内容を否定するのではなく、きめ細かな教育によって、一人ひとりがしっかりと学べていることは、小規模校の素晴らしいところだと思う。</p> <p>一方、近年、社会・経済が大きく変化しており、これまでであれば特定の地域で経済が回り、地域の中で自分たちの未来を築いていくことができたものの、現在は一度就職しても、一生働けるかはわからず、グローバル化のもと、世界とともに競い合うような社会に変化してきた。</p> <p>そうした社会においては、多様な文化や考え方の中で、自分を高めていく教育が必要であり、子どもの頃から多様な考えに触れて学んでいくスキルが必要となる。このため、文科省においても「主体的・対話的で深い学び」を提唱している。そうした学びを展開する上で、どうしても小規模校では制約が生じるため、適正規模・適正配置の取組を進めようとしている。</p>
351	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>分離型の小中一貫教育を行っている学校は、全国でたくさんあると思う。中1ギャップをなくすための、現在における取組を聞きたい。</p> <p>児童生徒数が多くなった場合、いじめや学力の状況は変わるのか。現在は人数が少ない中で、きめ細かくみていけると思うが、人数が増えれば教員がみられるのか。</p> <p>また、中学校より小学校、小学校より幼稚園と、年齢が下の校種であれば、教員もよりきめ細かくみているように思うが、教員を変えることはできるのか。大人を変えることは非常に難しい。</p> <p>「新たな科」「系統性をもった教育」等は学校が分離していても可能だし、中1ギャップは何十年も前から課題とされる中、解決できていないこと。教職員の意識も変えようと思えば変えられるはずなのに、変えられていない状況を、施設が一つになれば変えられるのか。</p>	<p>小中一貫教育については、小・中学校が分離していても進めなければならないと認識しており、岸和田市においても、市内全域で小中一貫教育を推進していく必要があると考えている。</p> <p>一方、小・中学校が同じ敷地あるいは隣接して設置されていれば、教員の相互乗り入れにおいても、物理的・時間的なメリットが多い。同じ小中一貫教育を行う上でも、施設分離型より、施設一体型あるいは隣接型の方が、より望ましいものと認識している。</p>
352	12.7(火)	東葛城	発言者C	<p>東葛城小学校では、教員負担についても、普通の丸付け等の負担は少ないだろう。</p>	<p>教員負担について、東葛城小学校では1学級あたりの人数も少人数化しているため、確かに丸付けといった業務負担は比較的軽いかもしれない。一方、PTA活動、教育委員会との連絡調整、学校行事の企画等、様々な校務があり、それらは学校規模に関わらず存在するため、小規模校では校務負担が重くなり、子どもたちと十分に触れ合う時間が取りにくいといった課題もある。</p> <p>また、教員数が少ないことにより、教員が何らかの理由で長期間休む場合、代替が利きにくい。非常勤講師の確保も難しくなっており、その間の教育がストップしてしまう危惧がある。</p>
353	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>市民に大きな痛みを伴う施策であり、市長が出席した上で、直接市民の声を聞くべきだと考える。教育委員会から「伝えおく」ではなく、直接聞いてもらう場を設けていただくよう要望する。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
354	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>来年1月には市長選挙があり、再来年4月には市議会議員選挙がある。ここで反対が多数ということになれば、教育委員会はどのように説得するのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組については、前市長の時代、平成29年度の総合教育会議において議論が始まっている。現市長においても、政策決定会議において、実施計画（案）を承認しており、意見の一致を以て取組に着手しているところ。</p> <p>仮に、今後市長が替わった際に、計画（案）を取り下げる可能性はゼロではないものの、学校の小規模化が課題となる中、今後もさらに小規模化が進行していくことは事実であり、教育委員会としては、時代の要請として、課題解消に取り組んでいくべきものと捉えている。</p> <p>市議会については、実施計画（案）の承認を受けているわけではないが、説明会を行うことには了承を得ている。今後、いただいたご意見・ご質問と、それらに対する教育委員会の考え方について、随時説明をしていく中で、今後、市議会がどのような判断をされるのかである。</p>
355	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>校区によっては、地域説明会で怒号が飛び、開催時間も1時間以上延長するようなこともあった。</p> <p>地域の理解を得た上で、（仮称）学校開校準備委員会を設置するとしているが、それが可能なところまで進められるのか疑問。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
356	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>専科教員の配置に関する課題を挙げていたが、例えば貝塚市では、プールの授業に際して、各学校で集まって、移動した先の温水プールで行っている。そうした工夫で可能なことがあるのではないかと。</p>	<p>ご紹介いただいた事例については、教員負担の軽減といった面を含め、参考とさせていただきます。</p>
357	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>OECDやEUにおいては、20人以下の学級が普通であり、今後さらなる少人数化が見込まれるということ、これまで伝えてきたところ。</p> <p>その中で、小規模校の課題として「クラス替えができず、人間関係が固定化し、多くの友だちをつくりにくい」といった説明があったが、皆さんは社会人として、100人や1000人の友だちがいるのか。子どもたちにだけ、そのような大勢の友だちをつくるように強いことは無理があるのではないかと。</p>	<p>海外における学級あたりの人数についてのご意見をいただいたが、子どもたちの教育環境を考える上では、学校全体の児童生徒数である「学校規模」と、1クラスあたりの児童生徒数である「学級規模」があると捉えており、今回の適正規模・適正配置の取組で示す規模は、前者の学校規模のことである。学校規模について、一定の集団規模を確保することで、より良い教育環境を整備することが目的である。</p>
358	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>無着成恭氏が行っていた生活綴方教育「山びこ学校」は非常に有名だが、小規模校でも可能な取組はないのかと考える。</p> <p>学校がなくなれば、子育て世代が住まなくなってしまう危惧から、小規模特認校という形で、浜手の子どもたちに、山手の学校へ来てもらうことが必要ではないかと以前より提唱しており、結果的には東葛城小学校でも小規模特認校制度が導入された。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
359	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>近年では、成績優秀な優等生であっても、学校にいられない「浮きこぼれ」が問題視されている。</p> <p>成績が悪いから不登校になるのではなく、成績が良すぎて不登校になるという子どもがいる中で、以前の説明会でも申し上げたように、「イェナプラン教育」を広島県福山市で導入されている。また、好きな場所で、好きな科目について自分のペースで取り組むマイプラン学習について導入している学校もある。</p> <p>小中一貫校になれば、荒れている中学生も、年少者の見本となる態度が生まれ、課題も解決するのではないかと、といった説明があったが、現時点でも学校の中で教えあえる教育ができるのではないかと。</p> <p>日本各地の公教育で行われている事例について、研究し、試行したのか。その上でどうしようもないために小中一貫校を設置するというのであれば、一定理解は得られやすいと思うが。</p>	<p>小中一貫教育基本方針では、現時点で行っている小中連携の取組を、可能なことから発展させ、小中一貫教育の取組につなげていくことを目的としている。</p> <p>現在の分離型小・中学校の形態においても、教えあう教育が可能ではないか、という点については仰るとおり。小中連携、小中一貫教育の中でも、取り組んでいく。</p> <p>また、国内外における様々な先進事例については把握している。なお、日本では学習指導要領に則った教育が大前提となり、その中で、どのような特色を持った教育が可能なのか検討していく必要があると認識している。</p>
360	12.7(火)	東葛城	発言者D	<p>仮にこの取組を進めるにしても、激変緩和措置として、一気に複数の学校を廃校にするのではなく、通学区域の見直しを以て、1校ずつ廃校にしていくといった方策はとれないか。</p>	<p>仰るような手法は、適正化を行う方法の一つとして考えられる。</p> <p>一方、これまで地域説明会を行う中では、通学区域を見直すことについても、地域において活動してきたこと、子どもたちを支えてきたことが壊されてしまう、地域コミュニティの存続にも関わる、と強く反対されることもあった。</p> <p>どの方策においても、簡単には進められず、地域や保護者の皆様からの賛否があることを実感している。</p>
361	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>小規模校の児童生徒、また卒業生において、社会性や協調性、コミュニケーション能力が劣るといった学術的知見があるのか。</p>	<p>小規模校には小規模校としてのメリットがあると認識しており、小規模校で学校生活を過ごしてきた児童生徒、卒業生が、社会性や協調性、コミュニケーション能力に劣るということは考えていない。</p> <p>一方で小規模校に課題があると判断した根拠については、国が学識経験者を交えた中央教育審議会で議論を重ねた結果、策定した手引において、12～18学級が望ましい学校規模だと示していることが挙げられる。</p> <p>岸和田市においても、学識経験者、PTA代表、町会連合会代表、民生委員児童委員代表等に参画いただき、審議会を設置した。その審議会答申においても、国が示すものと同様、12～18学級が望ましいということであった。</p> <p>加えて、教員、児童生徒、保護者を対象に行ったアンケート調査においても、12～18学級が望ましいとする回答が多数を占めた。</p> <p>これらを総合的に鑑みて基本方針を策定し、その基本方針をもとに策定したものが、今回お示ししている実施計画（案）である。</p>
362	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>東葛城小学校では、頻りに学級通信が発行されている。大規模校の保護者と話をしても、「うちの学校ではそんなに頻りに出ないよ」といったことを聞く。保護者とのコミュニケーションが十分に取られていると認識している。</p>	<p>学級通信については、大規模な学校においても、担任教員によっては頻りに発行されていることもある。一概に学校規模によって違いがあるものとは捉えていない。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
363	12.7(火)	東葛城	発言者E	<p>授業参観で感じたことだが、タブレット端末を使った授業がとてもスムーズに進んでいる。大規模な学校では、なかなか上手いかわからないということも聞き及んでいる。ICT教育を行う上でも、小規模の方が良いのではないかと。</p>	<p>東葛城小学校において、ICT教育がスムーズに進んでいることは、教育委員会としても報告を受けている。ただし、大規模な学校においても、タブレット端末を上手く活用し、ICT教育をスムーズに進めている学校もある。</p> <p>ICT教育については、学校規模に関わらず、取り組んでいく必要があると認識している。</p>
364	12.7(火)	東葛城	発言者F	<p>特認校は子どもの受け口になっていると考えている。保護者としても、小学校に上がって躓いて、この学校があったから、今は楽しく通学できているということがある。</p> <p>授業を見学した際も、前の学校との違いに驚き「なんて落ち着いた環境で、みんなが意欲的に勉強しているんだ」と感じ、東葛城小学校に転入することを決めた。</p> <p>子どもたちも、この地域に引越したいと話すくらい気に入っており、そういった子どもたちの気持ちを大切にしてほしい。</p> <p>葛城中学校に統合され、規模が大きくなることで、畑作業の体験や、地域のおじいちゃんおばあちゃんとの触れ合いといった素敵な経験が減ってしまうことがとても残念。意見として。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
365	12.7(火)	東葛城	発言者G	<p>東葛城小学校を卒業してから、中学校、高校と進むにつれて、学校規模は大きくなっていくが、人数が増えていくと、学校行事にも参加しない人が出てくる。</p> <p>勉強の面でも、人数が少ないが故に、教員が細かくみてくれて、声掛けもしてくれていたが、進学して人数が増えていく中で、そうした声掛けも少なくなり、質問をするといったコミュニケーションが少なくなっていくので、どうかと思う。</p>	<p>学校規模に関わらず、声掛けを含め、子どもたちにしっかり接していくことは、小学校、中学校、高校いずれにおいても大切なことだと認識している。教員にとって重要な心構えとして、今後も発信に努めていく。</p>
366	12.7(火)	東葛城	発言者F	<p>子どもが特認校に通っていることで、周囲の保護者から「どこに行っているの?」と尋ねられることがある。東葛城小学校での特認校制度を知らない人が多すぎる。周知に努めていただければ、来たいと思う人も増えると思う。実際、周囲の保護者と話をする中では、「いいなあ」という意見や、「行きたいけど、送迎が難しいから…」といった意見もある。そういったところをやりやすくすれば、人数も増えると思うのだが、工夫や考えはあるか。</p>	<p>特認校制度を利用されて数年経っておられるのであれば、当時は地域交流イベントといった行事があったと思う。コロナ禍においては、そのような行事を開催できておらず、制度の周知がしにくい状況にある。</p> <p>現在は、各小学校にパンフレットを配置し、制度の周知に努めているところ。今後、新型コロナウイルスの状況が落ち着いてくれば、また様々な形で周知を図っていきたいと考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
367	12.8(水)	旭太田	発言者A	市民に大きな痛みを与えるような激変については、市長が説明会に出席し、市民の声を直接受け取り、市長の声として返答をすべきということを申し上げておく。	【ご意見として承る】
368	12.8(水)	旭太田	発言者A	<p>以前の説明会において、今後市長や市議会議員が選挙で替わる可能性があることを尋ねたところ、行政の継続性があるから、反対の公約を掲げる市長や議員が当選したとしても、理解を得られるのではないかと、といった回答を得た。前市長時代から総合教育会議等で練った上での取組であり、市長が替わったとしても、ということであったと受け取っている。</p> <p>実際に総合教育会議の議事録等を確認し、行政が捻じ曲げられていることを認識した。このプランを受け、前教育長が退任するときに述べた言葉は「やってられない」であり、同様の言葉を述べて辞めていった過去の副市長、部長がいる。これが現在の岸和田市の姿であるが、出席している行政マンとしては、想いとは別に、粛々とやらざるを得ないのだろうと認識している。</p>	過去における副市長等の辞職経緯については、事実として把握できていないが、少なくとも、今回の地域説明会に臨んでいる、教育長をはじめとする教育委員会職員については、改革が必要であるという明確な意思を持ち、決して誰かの意思に従うといった想いではないことはお伝えしておく。
369	12.8(水)	旭太田	発言者A	<p>2017年第2回総合教育会議において、「学校は地域コミュニティの核であり、地域から学校がなくなることは地域の衰退につながるという危機感を持って、地域が学校を全力で支えていることが確認できた」という総務課長の発言や、「小規模特認校を考える上では、まちづくりについても合わせて考えるべきで、学校を置き去りにしてはならない」ということで、葛城踊りや里山トラストについて触れている委員の発言が確認できた。</p> <p>適正化の議論の進め方については「前例を強いる右へ倣えの姿勢では市民は納得しない」「児童数や学級数等の数字だけで考えない」「学校の歴史や特色ある教育活動、地域実態、地域や家庭との関わり等、多様な視点を持ち総合的な検討が必要」といった発言も確認できた。</p> <p>また、例として八尾市の事例を示しているが、そこでは「学校の統廃合に関しては、様々な方策を講じて改善が見られない場合の方策とすべき」とされている。文科省の手引においても簡単ではないことを示唆されている、ということも触れられている。</p> <p>前教育長は「学校は地域とともにあり、コミュニティの核ということが本市では特に強く意識されている」と発言しており、防災や地域活動の拠点であることにも触れ、多方面でお聞きしながら進めていかなければならないと述べている。</p> <p>一方、現市長が就任して以降初の総合教育会議では、「市長と教育委員会は対等関係にあり、総合教育会議は対等な執行機関どうしの協議・調整の場」という声が委員からあった。同じ会議で、市長は「小中一貫教育、また新たな教育のあり方を岸和田でやっていきたい」と決意表明している。→【続】</p>	<p>物事を議論する際のスタートにおいては、様々な意見が出て当然だと認識しており、それぞれの意見が必ずしも一致しないことも当然だと考えている。総合教育会議で様々な議論を行い、互いの意見を戦いあわせ、また審議会でも議論を重ねた結果、教育委員会としての方針を決定するに至ったとご理解願う。</p> <p>前教育長が述べたように、教育は地域に支えていただいております。地域コミュニティとの関係も大切だということは同意見である。一方、学校は何よりもまず子どもたちの教育の場であるということを最優先に考えていきたい。</p> <p>地域コミュニティの核として学校が重要な役割を果たしてきたことは十分に理解しているため、仮に学校が閉校となった場合、地域が受ける影響については極力少なくできるよう、十分に話し合いを重ねていきたい。</p> <p>また、枠組みとしての学校がなくなった場合でも、校地校舎は残るため、地域からのご要望があれば、意見交換をしながら跡地活用のより良い方策を考えていきたい。跡地の一方的な売却は考えておらず、この点についても、前教育長との間で大きな意思の齟齬はないものと捉えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
370	12.8(水)	旭太田	発言者A	<p>→【続】</p> <p>2018年10月の第3回総合教育会議では、教育大綱において、小中一貫教育と適正化について、「検討」から「推進」に変更するということが言われている。その中で、教育委員会が市にコントロールされ、主体性を持っていないことは不合理だと述べる委員もいた。</p> <p>11月の第4回総合教育会議では、教育長及び教育長職務代理者を含む4名の委員が、適正規模の「推進」について、「取り組みます」という風な表現が望ましく、慎重にすべきと意見表明している。</p> <p>そして、適正規模・適正配置の審議会に入っていくが、ここでも、市長の考えとは異なる意見が出ている。2019年1月、第2回の審議会において、会長が「ここで共通認識しておきたいことは、仮に適正規模が2～3学級となっても、そうでない学校は統廃合ということではないということ」「保護者や地域住民との話し合いや合意が必要であるということとは言うまでもない」ということを発言している。第3回審議会においては、総務省が掲げる公共施設の縮減方針が反映されているかどうか尋ねた会長に対し、総務課長は「面積の縮減は第一命題ではないと考えているが、財政事情等を考えると無視することはできない」と回答している。</p> <p>これまで、経費は度外視した取組だと説明を繰り返してきているが、そうではないことがここで示されている。</p> <p>また、審議会会長からは「答申において、適正規模の考え方については標準的な目安を示したものであり、適正配置については現時点で考えられる方策を示したものである」とも念押し発言がある。</p>	
371	12.8(水)	旭太田	発言者A	<p>2020年2月の第3回総合教育会議では、市長が「小中一貫教育について、義務教育期間の9年間の一貫教育については、まずはその目的や効果・影響等を十分に調査・研究をしていただいた上で、今後判断していきたい」と述べている。</p> <p>そうであれば、どれほどの調査・研究がなされたかを明らかにすべきだが、教育大綱（案）を決定するまでの起案過程はまったく不明であり、議事録も出てこない状況。</p> <p>こういうことによって行政が捻じ曲げられ、市民に対する強要のスタートラインになっているのではないか。この根源的な点について説明を行った後に、枝葉的な地域ごとの話をすべきではないか。</p>	<p>小中一貫教育については、1年間かけて、国の手引等を踏まえながら十分な議論を行ってきた。国の動きだけでなく、全国的な事例や成果をみながら、成案化に至っているとご理解願う。</p>
372	12.8(水)	旭太田	発言者B	<p>説明会の参加人数が少ないことに驚いた。前回の旭太田校区の説明会は日曜日の日中に市民センターで開催されたが、学校で同じ時間に開催していれば、もっと集まったと思う。</p> <p>平日の夜は保護者が出席しにくい。出席しやすい会場であっても、出席しにくい時間帯の開催では参加者も集まらない。集めたくない意図があるのではないかと勘繰ってしまう。</p>	<p>地域説明会については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、二度の延期を経て現在開催しているところだが、延期中にも、同様の説明内容を動画配信してきた。なお、旭太田校区においては、説明動画を比較的多数視聴していただいている。</p> <p>また、できるだけ多くの方に参加していただきたいという考えから、平日夜と土日に分けて、校区ごと2回ずつ、同内容での説明会を開催しており、校区によっては平日夜の方が、多数ご参加いただいているところもある。</p> <p>いただいたご意見については、今後地域との協議を進める上での参考にさせていただきます。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
373	12.8(水)	旭太田	発言者B	旭太田校区の児童生徒を無理やり新しい小中一貫校に通学させるべきなのか疑問に思う。	今回の実施計画（案）は、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑みたくて策定しており、その中で、当校区においては通学区域の見直しについて、たたき台としてお示ししているところ。
374	12.8(水)	旭太田	発言者B	<p>何年もかけて小中一貫校を設置するよりも、少人数学級を実現すべき。少人数学級であれば、来年度初頭から導入できる。</p> <p>自分の孫は2人いるが、年下の孫の学年は、81人で、ぎりぎり3クラス。学級あたりの人数が少なく、教員も一人ひとりの子どもをしっかりと考えていて、満足しているが、転出があった場合、40人の2クラスになるのではないかと心配している。</p> <p>年上の孫の学年は90人を超えており、普通なら3クラスだが、支援学級の児童を抜くと、2クラスになる。支援学級の児童はほとんどの時間を教室で過ごすので、実質45人の子どもが集まる。その状況を解消するために学校に頑張ってください、何とか3クラス編制にしたい。</p> <p>以前、教育委員会はダブルカウントについても考えているとしていたので、一瞬喜んだが、予算が云々と言われた。高いお金をかけて小中一貫校をつくるのに、ダブルカウントや少人数学級にかけるとは予算はないのか。</p> <p>実際、岸和田市内で定数を上回る学級は59ある。クラスを増やすにあたって、教室が足りない学校もあるが、旭小学校は問題ないはず。</p> <p>教育委員会はいつも「国が、国が」と言うが、国の35人学級については、今の2年生は対象から外れる。子どものためにと謳うのであれば、まずは少人数学級に取り組むべき。近隣市においても、独自の少人数学級を導入しているところがある。財政が厳しいのはどこも同じなのに、なぜ岸和田市ではできないのか。</p> <p>また、高学年になればなるほど身体も大きくなり、教室も狭くなる。学力の課題も挙げていたが、少人数学級によって改善が見込めるのではないかと。</p>	<p>教育委員会としても、少人数学級の有効性については十分に理解している。現在も、国によって順次35人学級が導入されているが、さらなる少人数学級が必要だということで、都市教育長会議等を通じ、国や府に対して30人学級実現に向けた要望を行っている。</p> <p>なお、通常の学級編制と、支援を必要とする児童生徒が、通常学級でともに学ぶ際の学級人数については分ける必要がある。</p> <p>前者については、教育の根幹に関わることであり、財政的な余裕の有無によって学級編制基準が異なることは、教育の機会均等の面で大きな問題をはらんでいると考えている。</p> <p>子どもたちは、その能力に応じて、等しく教育を受ける権利があるため、住んでいる自治体の財政力によって教育の根幹たる学級編制基準が異なることは好ましくないものと捉えている。</p> <p>よって、岸和田市では国基準に沿って学級を編制していき、その国基準については少人数化を強く要求していく。</p> <p>一方、支援を必要とする児童生徒が通常学級でともに学ぶ際に、40人を超える規模になることについては課題と捉えている。そこについては、教育の機会均等を逆の意味で崩すものだと捉えており、今年の予算要求において、解消に向けた要求を行っているところ。</p> <p>定数を上回る学校がある状況についても把握しており、それを踏まえて、常々教育委員会と校長とが、学年ごとの学級編制に係る話し合いを行っている。</p> <p>なお、支援学級の児童生徒が通常学級でともに学ぶ機会は重要なものだと捉えている。支援学級の児童生徒が安心して生活できるよう、特別支援教育の支援員を配置しており、平成20年代は市内で4名だったものが、以降増員を続け、現在は51名の配置となっている。今後も、子どもたちが少しでも安心できる環境を実現するため、さらなる増員を図っていく。</p>
375	12.8(水)	旭太田	発言者B	机上で計画を考えるのではなく、学校現場を見に行くべき。小規模な学校、大規模な学校、雨の日や晴れの日も含め、何度も足を運んで、それから考えるべき。	<p>教育委員会事務局には、学校現場を長く経験した教員が指導主事及び部課長として所属しており、雨の日も晴れの日も、実際に教鞭を執り、現場を見た経験を有している。そうした職員からも、学校現場の状況についても常時報告を受けているところ。</p> <p>指導主事の教員が、現状においても、土日夜間含めて学校訪問を行っていることについてはご理解願う。</p>
376	12.8(水)	旭太田	発言者B	自分の子どもや孫を小学校へ入学させるときに、何も考えずに入学させたのか。そうではないと思うので、そのときの気持ちを忘れずに持って、本当に子どもたちのためになることを考えてほしい。	自分の子どもや孫が、というご質問については、個人的な内容にもなるため、回答を差し控える。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
377	12.8(水)	旭太田	発言者C	小中一貫教育について、これまで教育委員会は、子どもたちと教員両方にとっての利点を述べていたと思うが、昨日の説明会では教員にとっての利点のみを述べていた。教員にとっての利点を強調するようになってきたのはなぜか。	決して子どもたちに関する言及を省く意図はなく、今後も子どもたちのことを考えて取り組んでいく。
378	12.8(水)	旭太田	発言者C	昨日の説明会において、適正化のデメリットは何か、という質問に対し、通学距離が長くなることと、地域コミュニティに影響が及ぶことを挙げていた。山直南校区と修斉校区の説明会で同じような質問を受けた際には、学校がなくなることと言及していたと思うが、その点言及がなかったのはなぜか。	仰るような回答を行ったことは事実。質問者からは、実施計画（案）の内容が進むことで、どのようなデメリットがあるかについて尋ねられたと認識し、2点の課題について回答したところ。質問者の意図は汲んで回答したと認識している。
379	12.8(水)	旭太田	発言者C	先ほど、国や府に対して30人学級実現の要望を行っているといった説明があったが、国はともかく、府は地方自治体であり、府に対して30人学級を要求していながら、同じ地方自治体である岸和田市は少人数学級を実施するつもりがないのはなぜか。 あるいは、府に対しては府独自の30人学級を要求しているのではなく、府からも国に対して30人学級を働きかけるように要望しているということなのか。	国に対しては30人学級の実現を直接的に要望しており、府に対しては「国に働きかけられたい」と要望している。市町村が困っているのだから、府から国へ働きかけるように、という趣旨である。
380	12.8(水)	旭太田	発言者A	先ほど、適正化の検討に際しては様々な意見があることは当然といった回答があったが、2018年第4回の総合教育会議において、教育大綱の文言について「推進」ではなく「検討または取り組みます」という風に変えるように述べた委員は、市長ともう一人の委員を除く4/6の委員である。多数決で決めるべきとは思っていないが、適正化案についての策定過程がまったく明らかになっていないことは問題。 岸和田市は、議会で市民が発言する時間を取っているだけでなく、数年前までは議案に対する賛否すらも公式には取っていないかったという、秘密主義的な姿勢がある。 計画（案）を市民に示すのであれば、難色を示す意見も多数あったということを含め、策定過程を明らかにすべき。秘密のやり方でできた案を提示していることに問題があると考えている。	基本的に、意思形成過程の情報を不用意に公開することは、あたかもそういう方向で決まったものという誤解を与えてはいけないということで、会議を非公開としたり、情報公開をお断りしたりしている。 ただ、内部の意志が固まった段階においては、公開された教育委員会会議の場で意思決定をしており、政策決定会議においても同様に公開されているように、要所ごとに市議会での説明を含め、公開の場で議論を行ってきたものだと認識している。 もっと前の段階の、議論の最中から情報公開をすべきだというご意見があることは承知しており、情報公開制度の検討課題の一つだと捉えている。
381	12.8(水)	旭太田	発言者B	先ほど、40人を超える学級は問題であるといった説明があったと思うが、認識違いか。	支援学級の児童生徒がともに学ぶ際に、学級人数が40人を超えることについては課題と捉えており、是正に向けた予算要求を行っているところである。
382	12.8(水)	旭太田	発言者C	今の話は、35人学級編制を前提とした話という認識でよいか。	まず国においてやるべきことは、学級編制基準の設定であり、現在順次35人学級化を進めており、これについては岸和田市もそのような方針で臨んでいる。これが通常学級編制の話である。 分けて考えるべきとしたのは、支援学級の児童生徒が通常学級でともに学ぶ際に、40人を超えている実態は課題があると認識しており、是正に向けて取り組んでいる、ということである。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
383	12.9(木)	城東	発言者A	単学級の学年が増加しているということだが、それぞれを2クラスに割ればよいのではないか。特に低学年では、教員の目が行き届いていない。	現在の国における学級編制基準は、小学2年生までが35人学級編制であり、今後順次拡充する中で、令和7年度には小学校全学年が35人学級編制となる。今後、岸和田市においても国の基準に基づき、学級を編制していく。 なお、今回の適正規模・適正配置の取組は、学級あたりの児童生徒数である「学級規模」ではなく、学校全体の児童生徒数である「学校規模」について、一定の規模を確保しようというものである。
384	12.9(木)	城東	発言者B	この計画は、いつから検討されていたものなのか。	学校の適正規模・適正配置については、平成29年度の総合教育会議において議題に挙がり、その後議論を重ねてきたところ。また、審議会における、適正な学校規模についての議論及び答申や、教員、児童生徒、保護者を対象としたアンケート調査も踏まえ、令和2年3月に「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」を策定した。 その基本方針を基に、市民の皆様からいただいたご意見も踏まえて策定したものが、今回お示ししている実施計画（案）である。
385	12.9(木)	城東	発言者B	この計画は、決定事項なのか。	今回お示ししている実施計画（案）は、あくまでもたたき台である。この地域説明会も、決定事項を報告するための説明会ではなく、計画（案）を周知するために開催しているものである。
386	12.9(木)	城東	発言者B	統合がない可能性もあるということか。	教育委員会としては、学校の小規模化による課題を放置するのではなく、現時点から取組を進め、子どもたちにとってより良い教育環境の整備と学校教育の充実を図る必要があると認識している。 説明会終了後、皆様からいただいたご意見を取りまとめ、それらに対する教育委員会の考え方を含めて市ホームページで公開していく。 それ以降も、地域や保護者の皆様と協議を重ねていくが、ご意見やご要望は様々あることから、課題を一つずつ解消していきたいと考えている。いただいたご意見の中で、より子どもたちの教育に資するものがあれば、教育委員会でも検討の上、計画（案）に取り入れることも検討している。 目標は、地域や保護者の皆様と合意に至ることだが、仮に平行線となった場合には、市長と教育長が判断した上で、市議会へ教育委員会の考え方、地域や保護者の皆様のご意見の双方を示し、判断を仰ぐことになる。
387	12.9(木)	城東	発言者A	小中一貫教育は誰が望んでいるのか。	これまでも小・中学校の連携教育に取り組んでおり、例えば小・中学校の教員間での情報共有、合同勉強会や、小学生が中学校に、中学生が小学校へ訪問するといったことを実施している。誰が望んでいるというよりは、既に行われている小中連携の取組から、各中学校区で「めざす子ども像」を定め、一つの目標に進んでいく形で小中一貫教育に発展させていく方針である。

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
388	12.9(木)	城東	発言者A	<p>小・中学校を同じ校舎にする必要はないのではないか。 グラウンドが狭くなるし、小学校低学年と中学生の身体の大きさが違うことや、チャイムを鳴らす時間が異なるといった問題が出てくる。</p>	<p>小中一貫教育については、すべての中学校区で導入するものであり、現状のように、小・中学校が分離している状況においても取り組んでいく。</p> <p>仮に、施設一体型や隣接型の小中一貫校が設置された場合は、その形態に合った小中一貫教育を行っていく。</p> <p>なお、小中一貫教育に取り組む上では、小・中学校が分かれているよりも、施設一体型、もしくは隣接型の方が、教員や児童生徒の交流を図る上で望ましいものだと認識している。例えば、現在も教員の相互乗り入れ指導を行っているが、移動の時間が短くなれば、より効率的に実施できるということが挙げられる。</p> <p>一方、市内の小・中学校の状況を見ると、施設一体型での整備が物理的に困難な校区も存在するが、その場合においても、小中一貫教育は実施していく。</p> <p>なお、（仮称）山直小学校が設置された場合、隣接する山直中学校と、施設隣接型の小中一貫教育を行うこととなる。</p>
389	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでの議論を踏まえ、教育長は性善説で物事を見ているように感じている。例えば、青少年指導員協議会の会報に、教育長が「成人式でも、祭礼でも、深夜でも早朝でも、いつも献身的に活動しておられる青指協の皆様から感謝申し上げます」というメッセージを寄せているが、青指協に何をするという定義はない一方で報酬が出ている。幽霊部員問題も懸念されることも理解しているはず。もっとニュートラルな目で見ていく必要があると感じている。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
390	12.9(木)	城東	発言者C	<p>先ほど、適正規模・適正配置の取組に係る議論は2017年から行っているという回答があった。これは事実であるが、事実の一端でしかない。</p> <p>現市長就任後の総合教育会議において、適正化の取組については、市長の強い意志によって進めるといふようなことが言われるようになる。2018年11月に行われた第4回総合教育会議では、教育大綱（案）について、学校統廃合については「推進」ではなく「取り組みます」という文言が望ましいという意見を4/6の委員が出していたのに、実際に策定された教育大綱においては、「推進」という文言になっている。この間の議論はまったく不透明である。</p> <p>今回の実施計画（案）についても、案を策定するまでの議論については不透明である。このことは、議会で質疑もなされていたところ。</p> <p>この点については、行政の意思形成過程を明らかにすることが不適当なこともある旨を回答され、一般的にはそうであろうと思われるが、市長の諮問機関である審議会においても、会長が「適正規模の考え方については標準的な目安を示したものであり、適正配置については現時点で考えられる方策を示したもの」「保護者、地域住民、ならびに町会等地域関係組織に丁寧な説明を行い、理解を得たうえで、地域と学校が両輪となって進めていくべきということと言うまでもない」「児童生徒の意見を十分に聞く機会を設けることも重要」と発言している。</p> <p>今回の計画（案）では、このような点で大きな部分が変化している。ここについて、行政が捻じ曲げられる部分がどこかにあったのではないかと、と疑念を抱かれても仕方がないところ。</p> <p>このような計画（案）の策定過程については、一般的なものだといった説明であったと記憶するが、仮にそうであるならば、例示を求める。入札のようなものであっても、結果が出れば、その過程は一定の公開がなされるもの。</p> <p>全国でもトップクラスに情報公開が進んでいる大阪府から来た教育長に、その知恵を発揮してもらうことが、着任の意味の一つだと考える。</p>	<p>当時の総合教育会議において、委員6名のうち4名が反対していたということは事実だと捉えているが、その後、議論を進める中で、総合教育会議においても意見を一致させ、今回の実施計画（案）をお示しするに至っている。</p> <p>計画（案）の形成過程について、まず審議会の答申やアンケート調査の結果等を踏まえて基本方針を策定・公表し、ベースとなる考え方を固めた上で、校区ごとに落とし込み、今回の計画（案）をまとめている。</p> <p>計画（案）については、教育委員会が責任を持って市民の皆様にお示しすべきと考えていることから、その旨を議会に説明し、理解を得てきたところ。</p>
391	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでの説明会において、裕福な自治体と、そうでない自治体間での教育機会均等がなされるべきであり、少人数学級については国に要望しているといった説明があった。</p> <p>そうであるならば、岸和田市も他の自治体と足並みをそろえているのかといえば、実際は天神山小学校における幼小連携のように、他市から視察を受けるような先進的な取組も行っている。</p> <p>ICT教育においても、学校間で進行具合が異なるという、学校格差がある。機会均等についての説明と矛盾しているのではないかと。</p>	<p>憲法でも、教育基本法でも、子どもたちはその能力に応じて等しく教育を受ける権利を有しているとされており、教育委員会はその機会均等を保障する義務がある。</p> <p>財政的に余裕があるので独自の少人数学級が可能、余裕がないので不可能といったことは、市町村レベルで負の連鎖をもたらすものではないかということで、基本的には望ましいことではないという見解を述べてきた。</p> <p>なお、市内の学校においては、課題のある学校には教員加配を行っているが、これは教育の根幹に関わる学級編制とは異なる次元にあると認識している。</p>
392	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまで述べられてきた、行政の「裁量権」について、その判断基準について尋ねる。</p>	<p>行政は、様々な情報や市民意見を基に、公平中立の立場から判断を行う義務と権利があるため、これを総称して「裁量権」と申し上げた。</p> <p>例えば、あまりにも市民意見と逸脱していたり、公権力の横暴な行使がなされている場合には、権利濫用ということで無効になるが、基本的には裁量権が認められていると認識している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
393	12.9(木)	城東	発言者C	<p>これまでに開催された説明会において、優等生であっても不登校になり得る、所謂「浮きこぼれ」について紹介してきた。</p> <p>不登校については、不登校経験者の中に、国内外において社会的に成功した方もいる中、多様な教育について、アメリカにおいてはホームスクールを制度化している。オランダにおけるイエナプラン教育、マイプラン学習についても、日本の公立校で取り入れられている。また、OECDやEUにおいては学級規模の少人数化が進んでいる。</p> <p>このような国内外の先進事例について、どのような調査研究を行ってきたのか。</p>	<p>現在、国内外の様々なステージで活躍されている方が、不登校経験者だったという話についてはニュース等で拝見している。</p> <p>また、諸外国の中には、家庭での教育を制度化し、学習を保障している事例があることも認識している。</p> <p>日本や岸和田市の教育が、それらの先進事例に追いついていない状況にあると言われればそうかもしれないが、岸和田市においては、不安を持つ子どもたちが通うことのできる適応指導教室を設けており、学習保障に取り組んできたところ。</p> <p>不登校の子どもが、ICT機器を活用した学習や対話を通じ、学校へ通学できるようになったという事例もある。提示いただいた事例も踏まえながら、岸和田市の子どもたちが楽しく学校へ通えるような施策を検討していきたい。</p>
394	12.9(木)	城東	発言者B	<p>小中一貫教育や教育の充実といったことを述べられているが、城東小学校のように学年1クラスしかない場合はできないのか。学校が統合しないとできないものかどうかという点に疑問がある。</p>	<p>学年1クラスといった小規模校においても、小規模が故の良さがあることは認識している。</p> <p>一方、クラス替えができないことや、学校行事に制約が生じること等の課題があることも事実。</p> <p>子どもたちにとってより良い教育環境の整備と、学校教育の充実を図る上では、現時点から、適正規模・適正配置の取組に着手する必要があると認識している。</p>
395	12.9(木)	城東	発言者B	<p>現在の在校生や保護者に意見を聞いて、そこからのたたき台であるべきではないか。</p>	<p>実施計画（案）の策定に先立ち、令和2年3月に基本方針を策定している。基本方針の策定にあたっては審議会を設置し、PTAの代表や町会の代表にも参画いただき、議論を重ねてきた。また、児童生徒や保護者、教員を対象にしたアンケート調査においても、12～18学級が望ましいという意見が多数であった。</p> <p>さらに、基本方針策定後も説明会を開催し、そこでいただいたご意見も踏まえ、実施計画（案）の策定に至っている。</p>
396	12.9(木)	城東	発言者D	<p>幼保再編を含め、非常に急な話であり、また、5年後に学校がなくなるということ聞き、コロナ禍においてとてもタイトな期限だと感じている。</p> <p>以前にパブリックコメントも実施されていたが、当時は学校が休校となっており、情報が回っていない中で実施されたもの。意見を適切に吸い上げた上で、たたき台としての計画（案）が策定されたのか疑問に思う。</p>	<p>（仮称）学校開校準備委員会を設置してから5年程度で新たな学校を開校する想定だが、準備委員会設置までは、それぞれの校区において協議を重ね、適正化に係る課題や、地域・保護者の皆様が抱えている不安を解決していきたい。</p> <p>その後、一定の合意に至ることができれば、（仮称）学校開校準備委員会を設置することになるため、5年後に必ず学校がなくなるといった期限を設けているわけではない。</p> <p>ただし、学校の小規模化が進行する現状を踏まえると、できるだけ早期に適正化を進め、子どもたちの教育環境を整えていきたいと考えている。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
397	12.9(木)	城東	発言者D	<p>城東小学校と山直北小学校はさほど離れていないかもしれないが、3校区が統合されれば校区は非常に拡大する。通学に際しても、大きな道路を横断しなければならない。</p> <p>我が家は和泉市との境目付近に位置するため、現状でも通学に30分ほどかかっている。天候の悪い日もあるので、小学校低学年の足ではそれ以上かかる。この取組が、本当に子どもにとって適正なものなのか、もっと議論すべきことだと思う。</p> <p>スクールバスの導入を示唆しているが、子どもが体調を崩すこともあり、泣いて帰ってくることもある。帰り道での寄り道で学ぶこともある。それらを踏まえ、スクールバスの導入が子どもにとって本当に正しいことなのかという点にも疑問がある。</p>	【ご意見として承る】
398	12.9(木)	城東	発言者D	<p>確かに子どもの数がピーク時から半減している中で、新たな枠組みが必要なことは理解するが、適正規模を上回るような大規模校をつくるということが理解しがたい。</p> <p>以前と違い、インクルーシブ教育が謳われる中、学校には様々な課題を抱えた子どもが多くいる。教員も苦労していると思う。学校の規模を拡大しても、きめ細かな指導が可能なか不安。</p>	【ご意見として承る】
399	12.9(木)	城東	発言者D	<p>小中一貫校において、小中一貫教育を行う上での利便性が高く、教育が進むといった説明があったが、それは誰の視点なのか。発達面でステージの違う子どもたちが同じ敷地に集まることで、思春期を迎えた中学生の問題行動を見て、心理的なダメージを受ける可能性もあるだろうし、引きずられてしまう懸念もある。</p> <p>小中一貫教育には、系統性や連続性に配慮した指導等、良いこともあると思う。一方、私立校であれば上手くいく部分もあるだろうが、岸和田市の公立校では難しい部分もたくさんあるのではないかと思う。</p>	<p>小学生が、中学生の問題行動に影響を受ける懸念については、現時点でも課題だと捉えており、今回の取組に関わらず、対応していく必要がある事象だと考えている。中学生が、年少者の良き見本となれるように取り組んでいく。</p> <p>なお、小中一貫校の先進事例を視察した際に、仰られたような心配ごとについても尋ねたところ、当初の心配よりもむしろ、中学生が小学校低学年に対して面倒見良く接していることや、中学生が良き手本となるなど、好ましい環境が構築されていると伺っている。</p>
400	12.9(木)	城東	発言者D	<p>準備委員会の構成後に5年を目処に適正化を実施、とあったが、メンバー等、どのような基準で構成することを考えているのか教えてほしい。</p>	<p>準備委員会のメンバー構成は現時点で決定していない。地域や保護者の皆様のご意見を伺いながら、メンバー構成について決定していきたい。</p> <p>なお、現状の想定では、PTA代表、町会代表といった方に参画いただくことを考えている。</p>
401	12.9(木)	城東	発言者E	<p>小中一貫校においては、小・中学校の授業時間が異なるため、チャイムを鳴らすときに課題があることや、中学生の定期テスト中に、小学生は静かにしておかなければならないこと、外で遊べないこと等の課題があると聞く。</p> <p>現時点でも小中連携の取組を行っているのであれば、それでいいのではないか。教員相互の乗り入れは現在も行っているし、「新たな科」の導入はしなくとも、各校で取り組んでいることもあると思う。</p>	<p>小中一貫校において、仰るような課題があることは認識しているが、先事例では課題解消に向けた取組もなされているため、それらを研究しながら、子どもたちに負担のないように取り組んでいきたい。</p> <p>なお、小中一貫教育については、施設一体型小中一貫校だけでなく、市全域で導入する取組である。小・中学校間での連携については以前から取り組んできており、教育上重要なことだと認識している。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
402	12.9(木)	城東	発言者E	<p>城東小学校は各学年1クラスだが、運動会や音楽会といった学校行事も工夫しながら上手く開催されている。山直北小学校では、人数が多いので、コロナ禍においては制約が生じていることも聞く。小規模だが、今の時代に合った学校ではないか。</p> <p>ただ、学年1クラスであれば、教員は大変だと思う。そこについては市独自での加配もされているようなので、そのような手当てを進めてほしい。</p>	【ご意見として承る】
403	12.9(木)	城東	発言者F	<p>資料には、小規模校の問題点ばかりが列挙されている。質問への回答には、小規模校にも良いところがあると述べていたが、そのことも資料に記載すべきではないか。</p> <p>逆に、小規模校にはない、大規模校特有の問題点もあると思う。それらをすべて列挙した上で、説明会を開催してほしい。</p>	<p>計画（案）をお示しする前段階で策定した基本方針においては、小規模校・大規模校それぞれの利点と課題について記載している。ホームページにも掲載しているので、ご覧いただければ幸い。</p>
404	12.9(木)	城東	発言者F	<p>小中一貫校のイメージがつきにくい。視察へ行った際に良いところを聞いてきたということだが、具体的にどこの自治体の、どの学校を視察したのか教えてほしい。</p> <p>具体的な小中一貫校のイメージを示してもらえれば、説明を聞く側としてもイメージしやすくなる。</p>	<p>具体的には、和泉市の南松尾はつが野学園、羽曳野市のはびきの殖生学園、兵庫県姫路市の白鷺小中学校を視察した。</p> <p>視察先では、先ほど申し上げたようなメリットの他、同じ環境のもと、小学1年生から中学3年生まで、9年間を通して学校全体の教員がみていけるというメリットも伺ったところ。また、ハード面でも、階段の仕様を小学校低学年向けに統一するといった工夫について伺った。</p>
405	12.9(木)	城東	発言者F	<p>小学校は教育の場というだけではなく、地域の交流の場でもある。これは教育委員会だけで考えることではないと思うが、仮に小学校がなくなると、普段活用している老人クラブやスポーツクラブの活動の場を奪ってしまう可能性がある。こうした地域交流の面についても、子どもたちの教育に関わる話だと思うので、尋ねたい。</p>	<p>仮に学校が閉校となった場合の跡地活用については、地域の皆様と議論を重ね、活動場所の確保に際してのサポートを含め、より良い方策を検討していく。</p>
406	12.9(木)	城東	発言者F	<p>今回の説明会は、「こういう風に進めます」といった一方通行の説明会のように感じられるので、今後の協議にあたっては、様々な可能性、住民が考える材料のようなものを提示していただければと思う。</p>	<p>今後の協議に際しては、地域や保護者の皆様が必要とする情報について、適宜提示していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
407	12.10(金)	山直北	発言者A	<p>スライド資料の19ページに、適正化に際しての必要な対応を列挙し、その中に「教員配置や部活動への対応」とあるが、小学校の教員が部活動の指導をするということか。</p> <p>現時点でも、教員負担が問題になっているが、小学校教員は放課後にも、学習面、生活指導両面での対応を行っている。</p> <p>小中一貫校の事例の中には、実際に小学校教員が部活動の指導に駆り出されているものがある。こうなれば、放課後、子どもたちに対応する時間がなくなってしまう。</p>	<p>基本的には現状と同様、中学校の教員が部活動を指導することを想定している。</p> <p>なお、先進事例においては、小学校教員の中で希望があれば、中学校の部活動を指導するケースも存在する。</p>
408	12.10(金)	山直北	発言者A	<p>部活動指導を希望しない小学校教員には、部活動の指導にあたらせないことを確約すべき。</p> <p>また、基本的には中学校の教員が指導するということが、（仮称）山滝小中一貫校においては小規模であり、教員数も増えない。よって、部活動の選択肢も増えないと思う。</p>	<p>現在お示しているのは、未確定の計画（案）であり、現時点では部活動指導に関する確約もできない。</p> <p>なお、現場での経験から、教員負担が非常に大きくなっていることは十分に理解している。計画（案）にある「部活動への対応」については、教員による対応が大きな負担となる場合、部活動指導員等、外部のお力添えもいただくことも含んでいる。</p>
409	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>これまで、現市長は様々な住民説明会に一度も出席していない。市民に大きな負担を強いる施策の説明会には、市長が出席し、市民の声をダイレクトに受けるべきであり、次回以降の説明会では出席するよう願う。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
410	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>2017年5月の総合教育会議から、適正規模・適正配置についての議論が開始されている。その後、2018年2月に現市長が当選し、同年5月の総合教育会議から、統廃合の方向へ急展開を見せている。また、同年11月の総合教育会議では、教育大綱（案）の文言について、取組の「推進」ではなく、「検討」または「取り組みます」とすべきという意見が、委員6名のうち4名から出されている。しかし、実際に策定された教育大綱では「推進」という文言になっている。</p> <p>どのような審議を経てこの決定に至ったのかが不明であるため、説明願う。</p>	<p>小・中学校の適正規模及び適正配置に関して、当初は教育委員会の中においても、委員間の意見が分かれており、ご紹介いただいたような経過を辿ってきた。</p> <p>しかし、以降も議論を重ねる中で、当時反対意見を述べていた委員を含め、教育委員会内で思いを一つにし、現在はこの取組が必要であると認識している。</p>
411	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>審議会の最終回において、会長が「適正規模の考え方については標準的な目安を示したものであり、適正配置については現時点で考えられる方策を示したもの」「保護者、地域住民、ならびに町会等地域関係組織に丁寧な説明を行い、理解を得たうえで、地域と学校が両輪となって進めていくべきということは言うまでもない」「児童生徒の意見を十分に聞く機会を設けることも重要」と発言している。</p> <p>今回の適正化実施計画（案）に、これらがどのように反映されたのか。審議が不透明であり、議事録についても不透明となっている。既成事実として説明会を開催しているように、強引に計画が進められようとしている。</p> <p>このように、会議参加者の過半数から、結論と異なる意見が出た会議や、事後においても審議内容を明らかにしない会議の具体的な類似例をお示し願う。</p>	<p>審議会のような公に開催する会議については、基本的にすべて公開してきたところだが、例えば教育長室での打合せといったものは、内部での意思形成過程における会議である。これについては、未確定な情報の拡大によって、市民の皆様によらぬ混乱を招きかねないため、基本的には非公開で行ってきたところ。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
412	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>幼保再編に関する話にはなるが、行政が捻じ曲げられている事例を紹介する。</p> <p>2020年2月の総合教育会議において、教育長職務代理者が、民間園を運営する社会福祉法人の不祥事について言及している。それに対して市長は、岸和田市においてそのような不祥事があったかどうか聞き返している。教育長職務代理者は「聞いたことはありません」と回答している。</p> <p>しかし、この回答は事実と異なる。新聞報道等によれば、特定の社会福祉法人に関して、複数の不祥事があったとされている。中には、平成14年度の市議会において市民生活部長及び当時の市長が謝罪答弁を行っているものもある。これ以外にも、大阪府からの指導書が複数発出されていることを含めて多数存在する。</p> <p>メディアで何度も報道されているようなことを含め、知らないとは回答せざるを得ないということは、現市長の強権が庁内に吹き荒れているのではないかと。このように、行政が捻じ曲げられているのか否か、お示し願う。</p> <p>行政が捻じ曲げられているからこそ、市の要職にあった職員が「やってられない」という言葉を残して辞職していったものと考えている。行政不信を払しょくする回答を求める。</p>	<p>ご紹介された様々な処分案件については、承知しておらず、特定の事業者に対する言及についても、控えさせていただく。</p> <p>市長が強権的ではないか、というご指摘に関しては、昨日の市議会でも市長が答弁したように、総合教育会議は、教育長をはじめとする教育委員会と、市長とが対等な立場で互いに意見交換を行い、考え方を披露しあうものである。</p> <p>教育長及び教育委員会の考えは、市長から対等なものとして尊重されていると理解している。現在、教育委員会から市長に対して何か意見をされた際に、捻じ曲げられるようなことは一切存在しない。今後も対等な関係に立ち、議論していく。</p>
413	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>2020年2月の総合教育会議において、市長は「義務教育期間の9年間の一貫教育については、まずはその目的や効果・影響等を十分に調査・研究をしていただいた上で、今後判断していきたい」と発言している。</p> <p>これまで何度も紹介してきたが、イエナプラン教育やマイプラン学習といった取組について、日本の公立校で行われてきている。また、OECDやEUにおいては学級あたりの人数が20人以下であり、さらなる少人数化に進んでいること、成績優秀だが学校に通学できない「浮きこぼれ」問題、聞こえていないのに意味が把握できない「APD（聴覚情報処理障害）」、黒板は見えるが教科書が見えない近見視力の問題等、多様な子どもたちに対するケアを含む各種調査・研究をどのように行ってきたのかお答え願う。</p>	<p>ご紹介いただいた事例や、子どもたちが抱える様々な課題については、今後の研究課題とさせていただきます。</p>
414	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>全小学校の1/4という、急激な統廃合を行っている他市の事例をお示し願う。</p> <p>また、幼小連携を謳いながら、いずれも大幅に廃止をする中で、具体的にどこでどこで幼小連携を行うのか、また、それは現在と同じであるのかをお答え願う。</p>	<p>現在、隣接している幼稚園と小学校との連携をはじめ、保育所や私立園についても、小学校との連携を図っている。</p> <p>今後、施設のあり方が変わったとしても、小学校と、それらの就学前施設との間で連携していくこととなる。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
415	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>保護者や児童生徒、教員からも、12～18学級が望ましいというアンケート結果を得ているという説明があったが、ここには学校統廃合に関する言及はない。実態は理想論を尋ねたアンケートにも関わらず、教育委員会が勝手に読み替えた根拠をお答え願う。</p> <p>様々と述べてきたが、これらに対する回答がされないようでは、市民にとっては騙し打ちを受けたという印象を、教育委員会だけでなく、市政全体に抱かざるを得ない。</p>	<p>平成30年9月、「岸和田市立小中学校の適正な規模や配置を検討するにあたり、法令等による基準だけでなく、本市の特色や実情を踏まえるための参考として、学校現場に最も関わる教職員、保護者、児童生徒の意見を集約する」という目的で、アンケート調査を実施した。</p> <p>その時点では、学校の統合を含む具体的な適正化に関して記載していないが、どういった学校規模が望ましいのかを純粋に伺うことが、このアンケートの趣旨であったと認識している。</p> <p>アンケート結果だけでなく、審議会答申、国の手引等を総合的に鑑みたくて基本方針を策定し、その基本方針を基にたたき台としてお示ししているものが、今回の実施計画（案）である。</p>
416	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>山直北小学校は適正な学校規模だと思うが、そこからわざわざ大きくしていく意味が理解できない。</p>	<p>仰るとおり、山直北小学校は適正化対象校ではない。ただし、今後の推計をみると、児童数は減少していくと想定している。</p> <p>隣接する城東小学校及び山直南小学校が小規模化している状況を踏まえ、どのような適正化案が望ましいのかを総合的に鑑みた結果、今回の計画（案）をお示ししている。</p> <p>各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を踏まえ、中学校区を適正化の単位としており、仮に中学校区を超えて学校を再編するとなれば、さらに大きな影響が及ぶと考えている。</p>
417	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>中1ギャップの解消策の中で、教科担任制を挙げていると思うが、それは施設分離型で取り入れればいいのか。小・中学校が一体化しなければいけないのか。</p> <p>校舎も耐震化されているし、教室への空調も入っている。学校を統合して取り壊すよりも、今の形を維持する方がよいのでは。</p>	<p>小中一貫教育基本方針に基づき、すべての中学校区で小中一貫教育を行っていくが、現在も一部教科担任制は取り入れている。</p> <p>今回の計画（案）が仮に進んだ場合、例えば（仮称）山直小学校は山直中学校と物理的な距離が非常に近いため、小中一貫教育を行う上で一層の利点がある。</p> <p>小中一貫校だけで小中一貫教育に取り組むのではなく、分離型の小・中学校でも取り組んでいく。</p>
418	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>地域においては、現在も見守り隊の方々や通学路の安全確保に取り組んでおり、また、学童のボランティアと一緒に遊んでくれる等、様々な関わりがある。学校が遠くなれば、こまめに取り組める人が減ってしまう。</p> <p>子どもたちにとっても、通学距離が延びてしまう。こうした課題に対する具体的な解決策が示されないまま説明を受けても、信用しにくい。</p>	<p>地域の皆様のご協力により、子どもたちの安心安全が確保されていることに感謝申し上げます。</p> <p>今後、見守り隊の方々を含め、地域の皆様と継続的に協議を重ねていくが、その際には、学校が仮に閉校となった場合のあり方についても、十分にご意見を伺いながら検討していきたい。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
419	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>適正な学校規模の学校は学力が高く、そうでない規模の学校は学力が劣るのか。そんなことはないように思う。</p> <p>学校の規模だけで学力が上がるとは思えないが、もしそのような事例があるなら教えてほしい。</p>	<p>個々の学校における学力テストの結果については公表を差し控えるが、岸和田市全体をみると、学校規模の大小と、学力テストの結果の高低における相関性はみられない。</p> <p>小中一貫教育は、市全体の学力向上に向けた取組の一つであるご理解願う。</p> <p>なお、適正規模・適正配置の取組は、学力向上だけを主眼としたものではない。協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけることができる場所が学校だと捉えており、小規模校においては、そうした「生きる力」を育む機会が限られてしまうと危惧していることから、一定の集団規模を確保すべきと考えている。</p>
420	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>小学校に近い幼稚園への転園を考えており、資料を取り寄せたところ、適正化の取組について知ったのだが、ほぼ決まっているように感じられた。</p> <p>不安に思いながら説明会に参加したが、肅々と進みつつあるようにも感じられた。</p>	<p>本来であれば、今年の1月から実施計画（案）を周知する地域説明会を開催するつもりであったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、11～12月の開催に至っている。この間、地域や保護者の皆様に周知する機会をなかなか得にくかったが、例えば動画配信及び問い合わせフォームの設置によりご意見を伺う等、可能な範囲で周知に取り組んできたところ。</p> <p>この計画（案）については確定事項ではなく、あくまでもたたき台である。地域や保護者の皆様から様々なご意見をいただき、それらに対する教育委員会の考え方も十分に説明し、課題や心配されることの解消を図っていく。</p>
421	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>一定の集団規模が大切ということは理解でき、自分も小規模な小学校で育ったので、中学校進学時には衝撃を受けた。</p> <p>ただし、コロナ禍において、感染拡大が起こったときには大きな学校の方が大きなダメージを受けるのではないかと懸念している。感染対策については考えていただきたい。</p>	<p>現在でこそ少し落ち着いているが、新型コロナウイルス感染症の第5波においては、市内の学校においても臨時休校に見舞われてきた。誰か一人でも感染者が出た場合、臨時休校という取扱いをしてきたが、感染経路の多くは不明であった。</p> <p>市内で臨時休校となった学校をみると、大規模でも臨時休校となっていない学校、小規模でも臨時休校となった学校があるなど、学校規模との相関性は一概にみられなかった。</p> <p>現在も保健所の指示や、国や府のガイドラインに基づき感染症対策を継続しているところだが、人数を減らすべきといった指示は出ていない。また、小学校の35人学級編制については順次進めていく。</p> <p>なお、適正規模・適正配置の取組は、マンモス校をつくるものではなく、適正な学校規模をめざすものということにご理解願う。</p>
422	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>支援が必要な児童生徒、保護者、そして教員の負担が増大するのではないかと心配している。</p> <p>以前に比べると、発達障害等、きめ細かくみてくれると聞いているので、学校規模が大きくなることで見過ごされることのないよう、教員や支援員を増やしていただきたい。</p>	<p>支援が必要な児童生徒については、学校規模に関わらず、どの子どもに対しても丁寧に対応していく必要があると認識している。定数に合わせて必要な学級を設置し、教員を配置していく。</p> <p>また、サポートをしていただく特別支援教育指導員についても、可能な限り配置を進めていく。</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
423	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>少子高齢化が進む中、いつかは学校の統廃合があるということは現実として理解しているが、学校がなくなり、校区が拡大することによる安全面のリスクや、地域のあり方が変わってしまい、人口流出のリスクもある。その校区から学校がなくなってしまうのでは、何のために家を建てたのか、といった声も聞く。</p> <p>子どもたちにとっての教育や、地域づくりを考えたときに、身近な地域に学校がないことは不幸なことだと思う。</p> <p>地域愛を育むような「新たな科」を考えているとのことだが、子どもたちは地域をどうという目線で見ていくのが気になる。自分たちにとっての中学校校区が小学校区になるということで、非常に広いという感覚がある。</p> <p>スクールバスの見送りだけが見守りではなく、現在見守り隊として活動している高齢者の方々にとって、子どもを目にする機会が少なくなってしまうことは寂しいことだと思う。</p>	【ご意見として承る】
424	12.10(金)	山直北	発言者E	<p>個人的には小中一貫校に魅力を感じていない。</p> <p>（仮称）山滝小中一貫校では、認定こども園を併設するという一方で、0～15歳の子どもたちがともに学ぶということだが、以前の説明会では山滝中学校はグラウンドが狭く、思う存分スポーツができなかったという意見もあった。なぜその場所に設置するのかかわからない。</p> <p>地域への配慮について言及しているが、岸和田市の地域性は独特。だんじり祭りがあり、各町の意地がある。小学校同士においても、校区対抗のスポーツカーニバルといった特色がある。</p> <p>他の自治体や国が進めることに右へ倣えの姿勢ではなく、岸和田の独自性を持ってほしいと思う。学力がすべてではないと思うし、小・中学校それぞれに良さがあるのに、統合することには反対。幼稚園と保育所も同じように、それぞれに良さがあると思う。</p> <p>校区が分断される辛さについての意見もあったが、個人的にも隣の校区と一緒にすることには抵抗感がある。</p> <p>小規模な学校で兄弟のように育てていることや、地域住民と近い関係でいることも良いことだと思う。ここまでは意見。</p> <p>質問だが、仮に学校が統合された場合、これまで各校のPTAで貯めてきた会費はどうなるのか。</p>	<p>PTA会費については、各校において、様々な名目で積み立ててきたものだと認識している。</p> <p>仮に学校が統合した場合の取扱いについては、まずは各校のPTAの皆様で主体的に議論すべきだと考えている。教育委員会から一方的に方向性を決めるべきものではないと認識している。</p>
425	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>PTA会費については、全国の事例をみると、記念誌を発行する等して費消し、新たな学校には引き継がないケースが多い。また、新たなPTAの運営資金として、各校PTAから同程度の金額を残すこともある。</p>	【ご意見として承る】

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
426	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>アンケートをもう一度取ってほしい。</p> <p>（仮称）山直小学校では、長きにわたり適正な学校規模を上回る規模で推移する。文科省がめざす30人学級が導入された場合、学級数はさらに増加する。このような大規模校を設置することについて聞いてほしい。</p> <p>小規模校においては、学校がなくなることについても聞いてほしい。対象者は前回のアンケート調査と同程度でいいので、改めての実施を要望する。</p> <p>12～18学級という学校規模は、学級数だけをみれば適正と言えるが、小規模校には小規模校の良さがある。</p> <p>前教育長が、審議会の会長として呼んだ大学教授は、小規模校の研究者。以前は和歌山大学に在籍していたが、和歌山大学の附属小学校では、複式学級を取り入れている。そうした研究をしていた方。</p> <p>そのような研究をしている教授を呼んだ理由としては、小規模校であっても良い学校になるという意見を出してほしいからだと推測している。それが現在のよう形になったのは市長の影響ではないかと思う。</p>	<p>アンケートの実施についてはご意見として受け止め、今後の検討の中で必要性を判断する。</p>
427	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>これまで、岸和田市単独での少人数学級を導入するつもりはない旨の説明を受けてきた。その理由は一定理解するが、その中で、小学校よりも、課題のある中学校への教員加配を望む。これについては大阪府も行っていることから、岸和田市で行うことも問題ないと思う。</p>	<p>生徒指導加配等を積極的に活用し、中学校において、しっかりと学習できる環境を整えていきたい。</p>
428	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>ある市議会議員が市長に対して、なぜ説明会に出席しないのか尋ねていた。市長は、教育長をはじめ教育委員会の幹部が出席しており、教育委員会から話を聞くので出席の必要はないといった答弁をしていたように思うが、説明会に参加した住民や保護者の発言を聞くと、ほぼ全てが反対意見である。その声、住民が納得していないことを市長に伝えてほしい。</p>	<p>市長が説明会に出席すべき、といったものを含め、いただいたご意見については毎日のように市長へ伝達している。</p> <p>また、これまでいただいたすべてのご意見については、要約を公表する予定であり、市長にも読んでもらう。</p>
429	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>質問ではなく、要望として。</p> <p>岸和田市を住みたいまちにする工夫をしてほしい。多様な子どもがいることはわかっているし、東葛城小学校の特認校、天神山小学校・幼稚園の連携と幼稚園給食の導入等、良い取組も行われている。保育所では皆でだんじりを観に行き、地域の方々と触れ合うようなことも行ってきた。また、学校と隣接した幼稚園がこれだけ多く存在する自治体はなかなかない。そういったことを大切にしてほしい。</p> <p>空き家の問題も言われているが、岸和田市は海から山の自然に恵まれ、また都会的な部分もあるなど、本当に魅力的なまちだと思う。若い世代の人に移住してもらえよう、例えば明石市の子育て施策のような工夫を試みた上で、それでも児童生徒数が減ってしまうのであれば、学校の枠組みを考え直すといった姿勢でお願いしたい。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

通番	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
430	12.10(金)	山直北	発言者G	<p>子どもの未来に投資するものなので、金額は決められないと思うが、この取組にはどれくらいのお金がかかるのか。</p>	<p>この計画（案）が仮に進んだ場合、学校が閉校となることから、年間約1億円のランニングコストが縮減されると見込んでいる。また、学校が残っていた場合にかかる見込みであった維持修繕費用も不要となる。</p> <p>校舎の建替及び改修に際しては費用がかかるが、校舎のレイアウト等は今後決定する事項であり、協議の中で、教育のさらなる充実のために必要な設備が出てくる可能性もあるため、現時点で具体的な費用の算出は困難である。</p>